

茨城県教育財団文化財調査報告第360集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅧ

下 卷

平成 24 年 3 月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第360集

しま な くま やま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

下 卷

平成 24 年 3 月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団

目 次

－ 下 卷 －

4 中世・近世の遺構と遺物	263
(1) 竪穴遺構	263
(2) 掘立柱建物跡	264
(3) 井戸跡	280
(4) 地下式坑	295
(5) 火葬土坑	300
(6) 墓坑	302
(7) 土坑	305
(8) 道路跡	319
(9) 溝跡	321
(10) 杭列跡	360
5 その他の遺構と遺物	370
(1) 竪穴住居跡	370
(2) 掘立柱建物跡	372
(3) 土坑	380
(4) 溝跡	394
(5) ピット群	398
6 遺構外出土遺物	420
第5節 まとめ	429
付 章 1 島名熊の山遺跡第 160 号井戸跡出土木製品の樹種同定	441
付 章 2 島名熊の山遺跡第 3008 号住居跡出土炭化材の樹種同定	443
付 章 3 島名熊の山遺跡出土の動物遺存体について	445
写真図版	PL 1～PL86
抄 録	
付 図 1 島名熊の山遺跡 12・15 区遺構全体図	
付 図 2 島名熊の山遺跡 15 区その他の土坑全体図	
付 図 3 島名熊の山遺跡遺構全体図	

第4節 15区の遺構と遺物

4 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴遺構1基、掘立柱建物跡13棟、井戸跡31基、地下式坑5基、火葬土坑2基、墓坑7基、土坑31基、道路跡2条、溝跡24条、杭列跡22列を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴遺構

第6号竪穴遺構（第234・235図）

位置 調査区南西部のL3a4区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第511号掘立柱建物跡、第405号溝跡を掘り込んでいる。

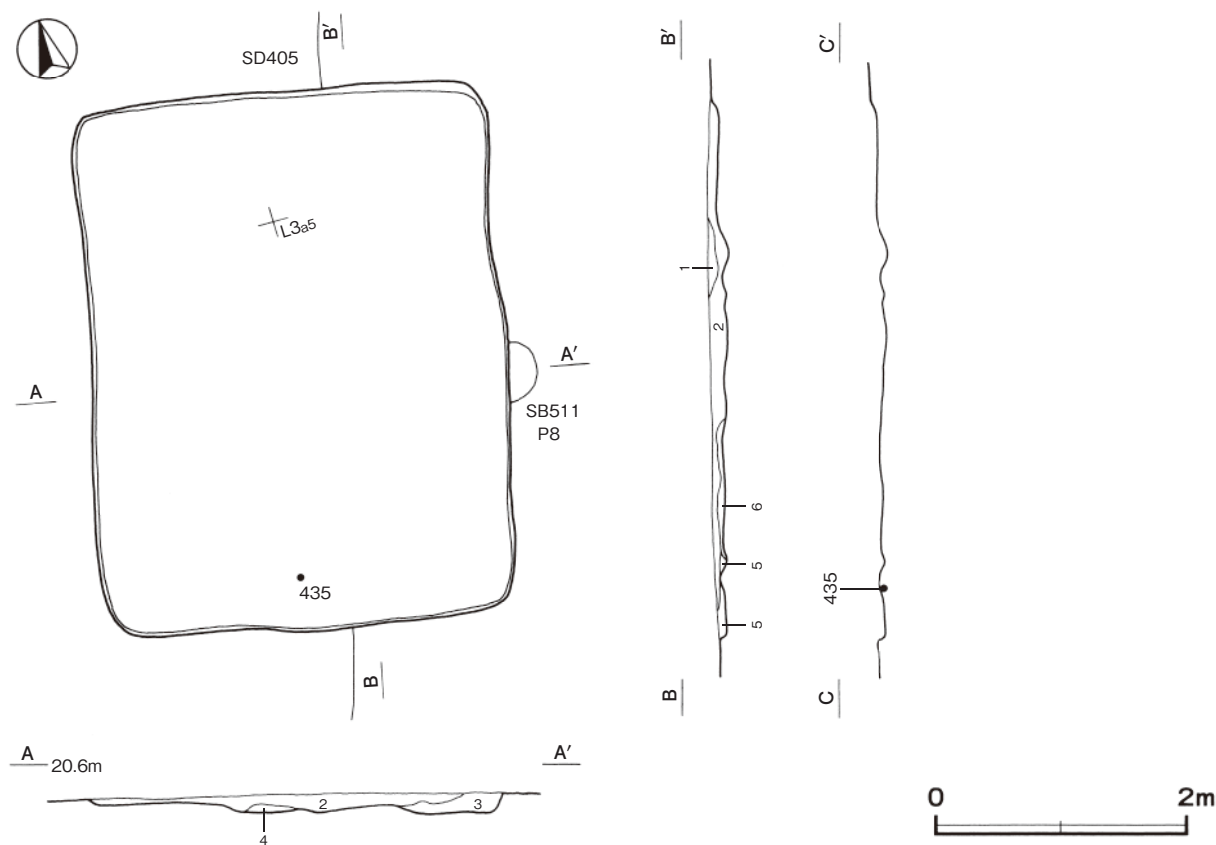
規模と形状 長軸4.30m、短軸3.32mの長方形で、長軸方向はN-13°-Eである。壁高は4~14cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 凹凸があり、硬化面は確認できなかった。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

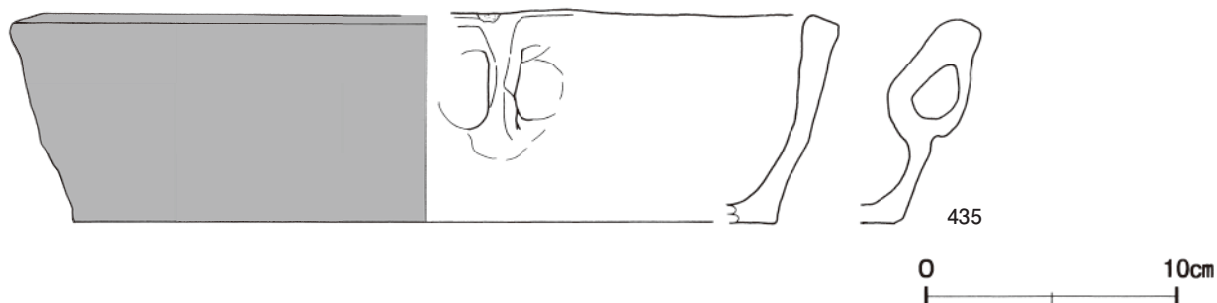
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |



第234図 第6号竪穴遺構実測図

遺物出土状況 土師器片3点(小皿1, 甕2), 須恵器片1点(甕), 土師質土器片24点(小皿2, 内耳鍋20, 播鉢2), 陶器片1点(碗), 磁器片3点(碗2, 瓶1)が出土している。435は南部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から17世紀代と考えられる。性格については不明である。



第235図 第6号竪穴遺構出土遺物実測図

第6号竪穴遺構出土遺物観察表(第235図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
435	土師質土器	内耳鍋	[30.5]	8.3	[28.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り	底面	10% 外面煤付着

(2) 掘立柱建物跡

第510号掘立柱建物跡(第236・237図)

位置 調査区南西部のL3c5～L3d6区, 標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第404号溝跡を掘り込んでいる。第513号掘立柱建物跡, 第5637・5661・5666・5667号土坑, 第60・61号杭列跡, 第52・53号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-11°-Eの南北棟である。規模は, 桁行5.4m, 梁行3.9mで, 面積は21.06㎡である。柱間寸法は, 桁行が1.8m, 梁行が西平から1.8m・2.2mである。柱筋はほぼ揃っている。

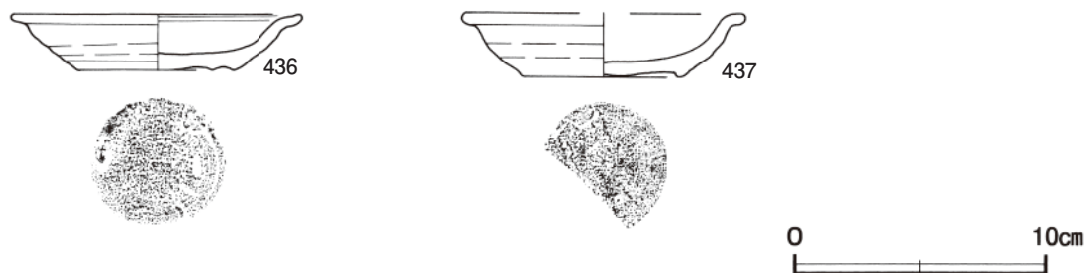
柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で, 長径22～63cm, 短径19～41cmである。深さは18～55cmである。柱のあたりが, P1・P4・P8の底面で確認できる。

土層解説(各柱穴共通)

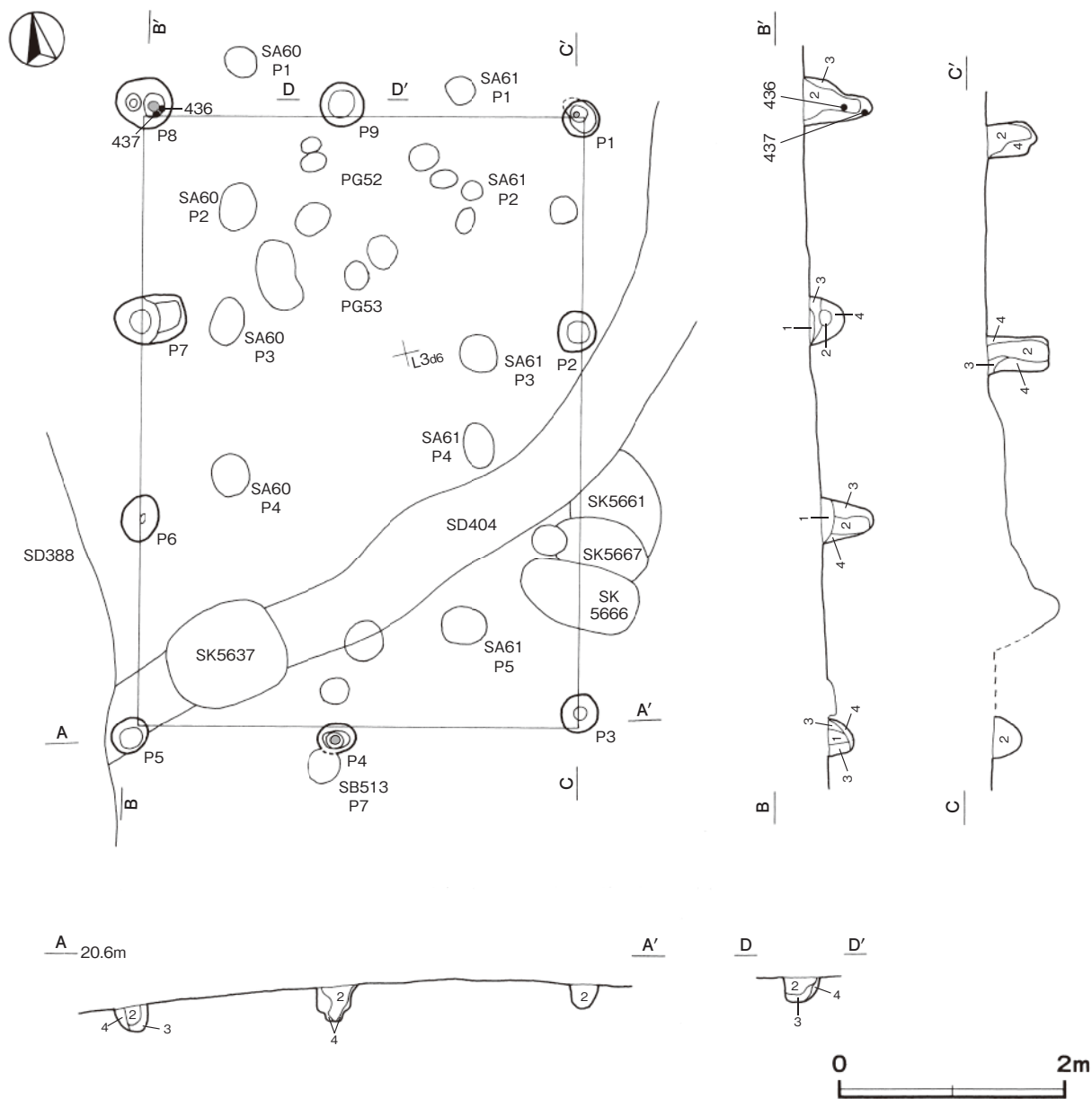
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片2点(皿)が出土している。437はP8の底面から, 436はP8の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から17世紀前半と考えられる。



第236図 第510号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第 237 図 第 510 号掘立柱建物跡実測図

第 510 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 236 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
436	陶器	皿	11.5	2.2	6.4	精良 灰釉	淡黄	良好	ロクロ成形 底部外・内面トチン痕	P 8 中層	70% 瀬戸・美濃系
437	陶器	皿	[11.2]	2.5	6.2	精良 灰釉	灰白	良好	ロクロ成形	P 8 底面	40% 瀬戸・美濃系

第 511 号掘立柱建物跡 (第 238 図)

位置 調査区南西部の L 3 a5 ~ L 3 b6 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 6 号竪穴遺構, 第 5630 号土坑に掘り込まれている。第 512 号掘立柱建物跡, 第 404 号溝跡, 第 52 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行は西平で 3 間, 東平で 2 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 26° - W の南北棟である。規模は, 桁行 6.3 m, 梁行 4.2 m で, 面積は 26.46m² である。柱間寸法は, 桁行が 1.8 ~ 3.6 m, 梁行が 1.5

～2.4mでばらつきがある。P2～P4を除き柱筋はほぼ揃っている。

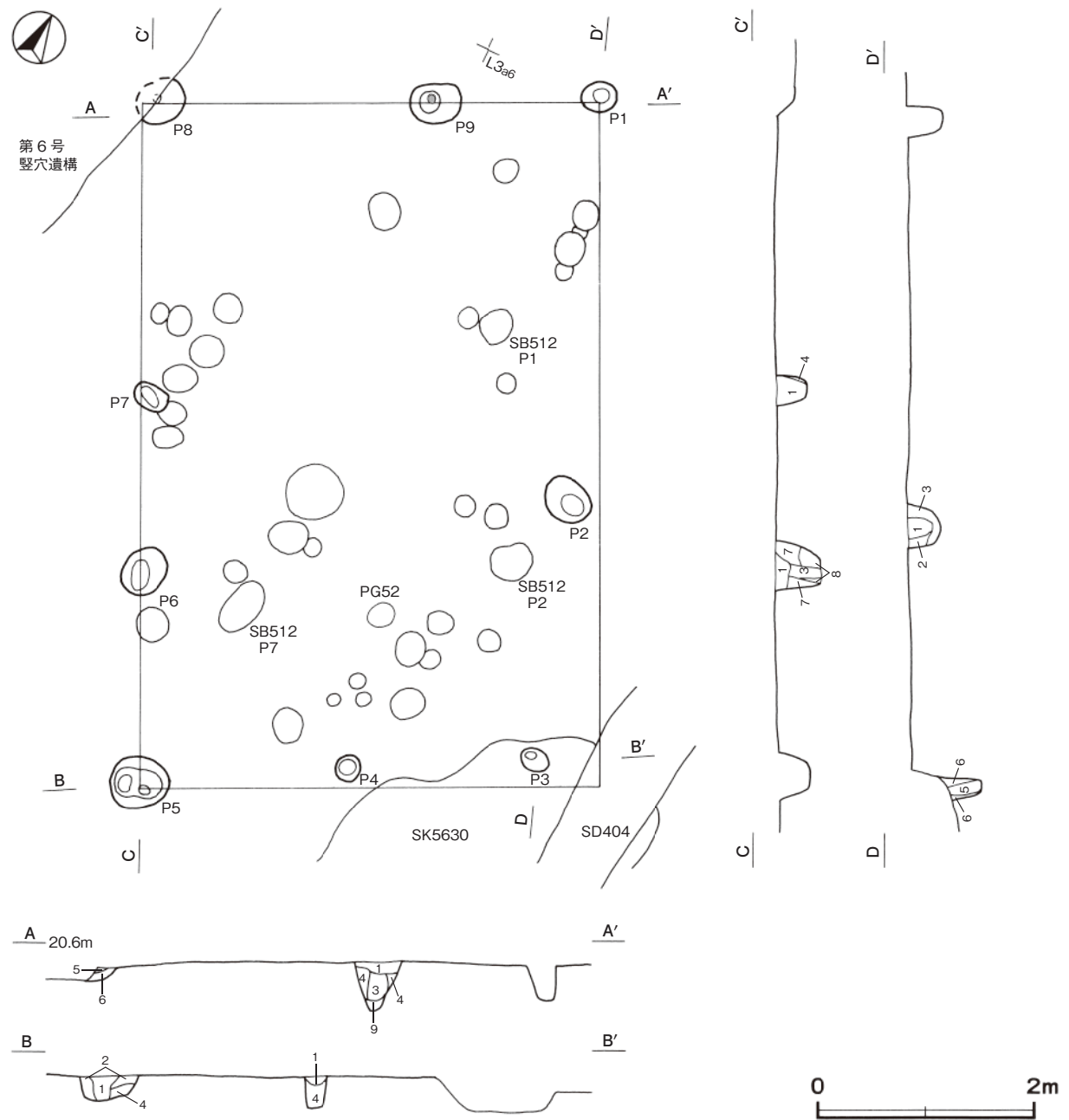
柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で、長径25～54cm、短径22～44cmである。深さは14～46cmで、掘方の断面形はU字状である。柱のあたりが、P9の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|--------------------|---------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点（甕）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から17世紀以前と考えられる。



第238図 第511号掘立柱建物跡実測図

第 513 号掘立柱建物跡 (第 239 図)

位置 調査区南西部の L 3 d5 ~ L 3 f6 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

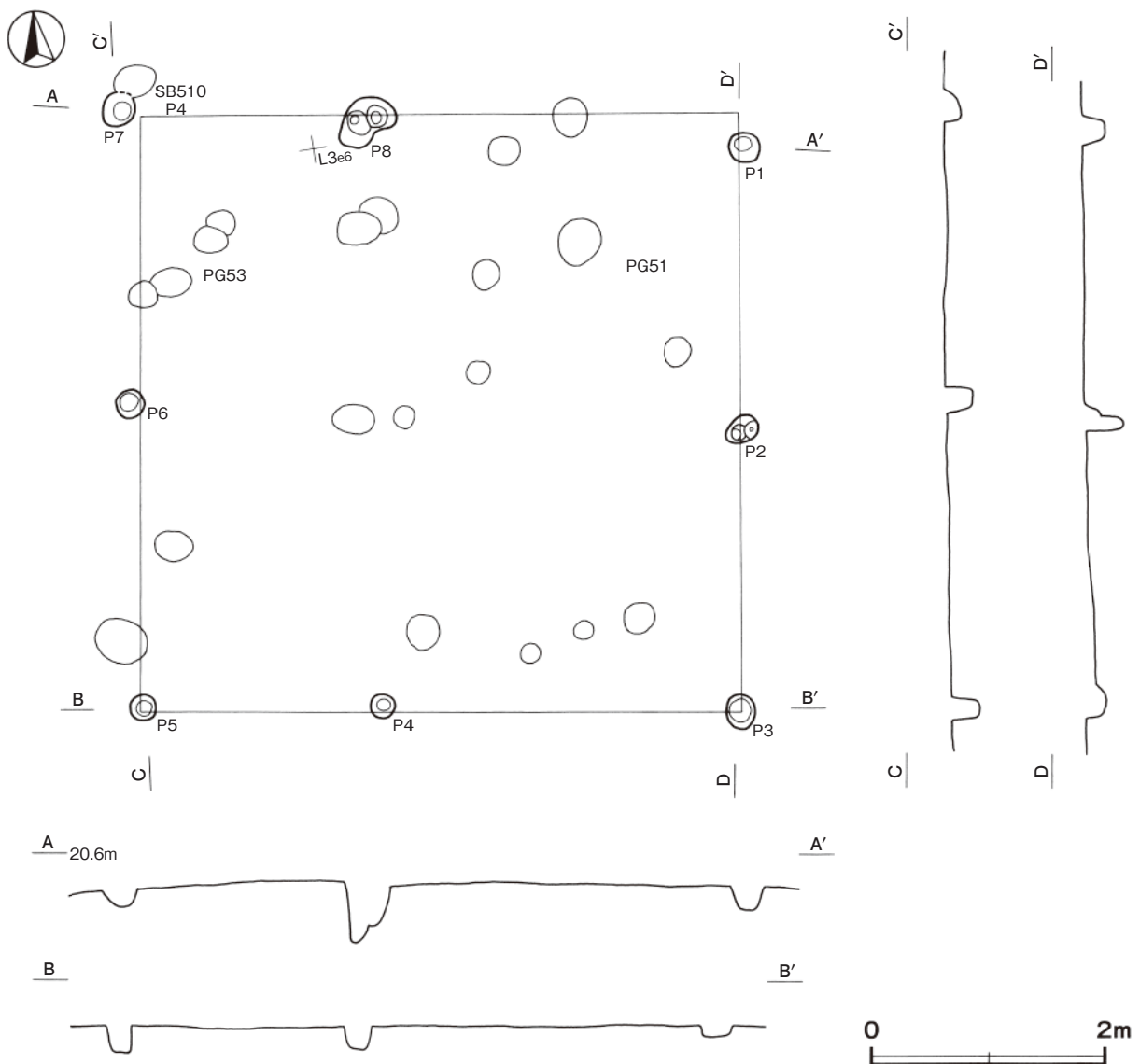
重複関係 第 510 号掘立柱建物跡, 第 51・53 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 10° - E の東西棟である。規模は, 桁行・梁行ともに 5.1 m で, 面積は 26.01 m² である。柱間寸法は, 桁行が西妻から 1.8 m・3.3 m, 梁行が北平から 2.4 m・2.7 m でばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形または不整楕円形で, 長径 22 ~ 30 cm, 短径 21 ~ 27 cm である。深さは 8 ~ 52 cm である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (内耳鍋) が出土しているが, 細片のため図示できない。

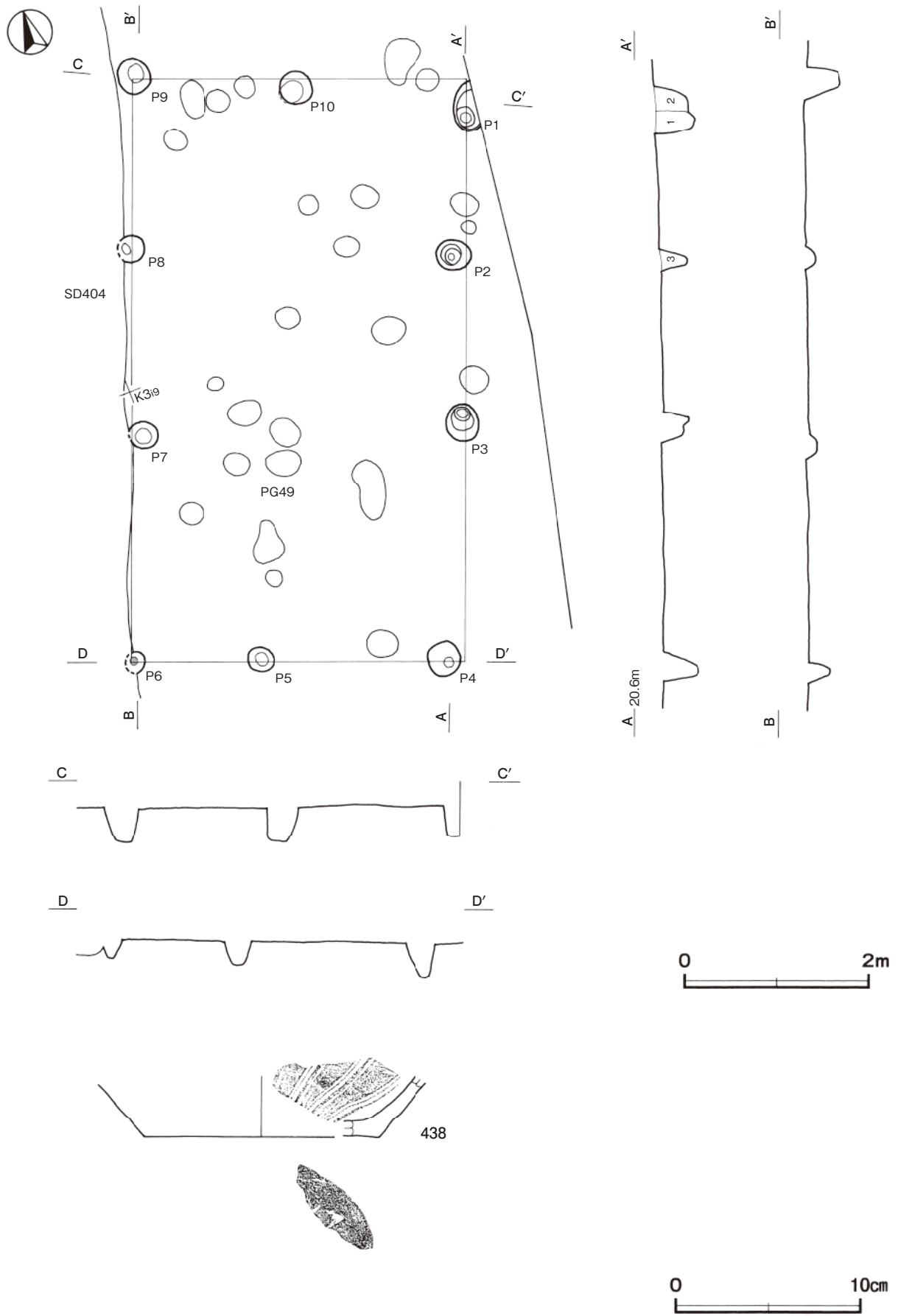
所見 時期は, 重複関係から 16 世紀代から 17 世紀前半には機能を終えたと考えられる。



第 239 図 第 513 号掘立柱建物跡実測図

第 516 号掘立柱建物跡 (第 240 図)

位置 調査区南西部の K 3 h9 ~ K 3 i9 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 240 图 第 516 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第404号溝跡，第49号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-23°-Eの南北棟である。規模は，桁行6.3m，梁行3.6mで，面積は22.68㎡である。柱間寸法は，桁行が1.5～2.6m，梁行は北妻が1.8mで，南妻が西平から1.4m・2.1mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で，長径22～53cm，短径21～35cmである。深さは11～37cmである。柱のあたりが，P6の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片1点（搦鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器と重複関係から中世後半と考えられる。

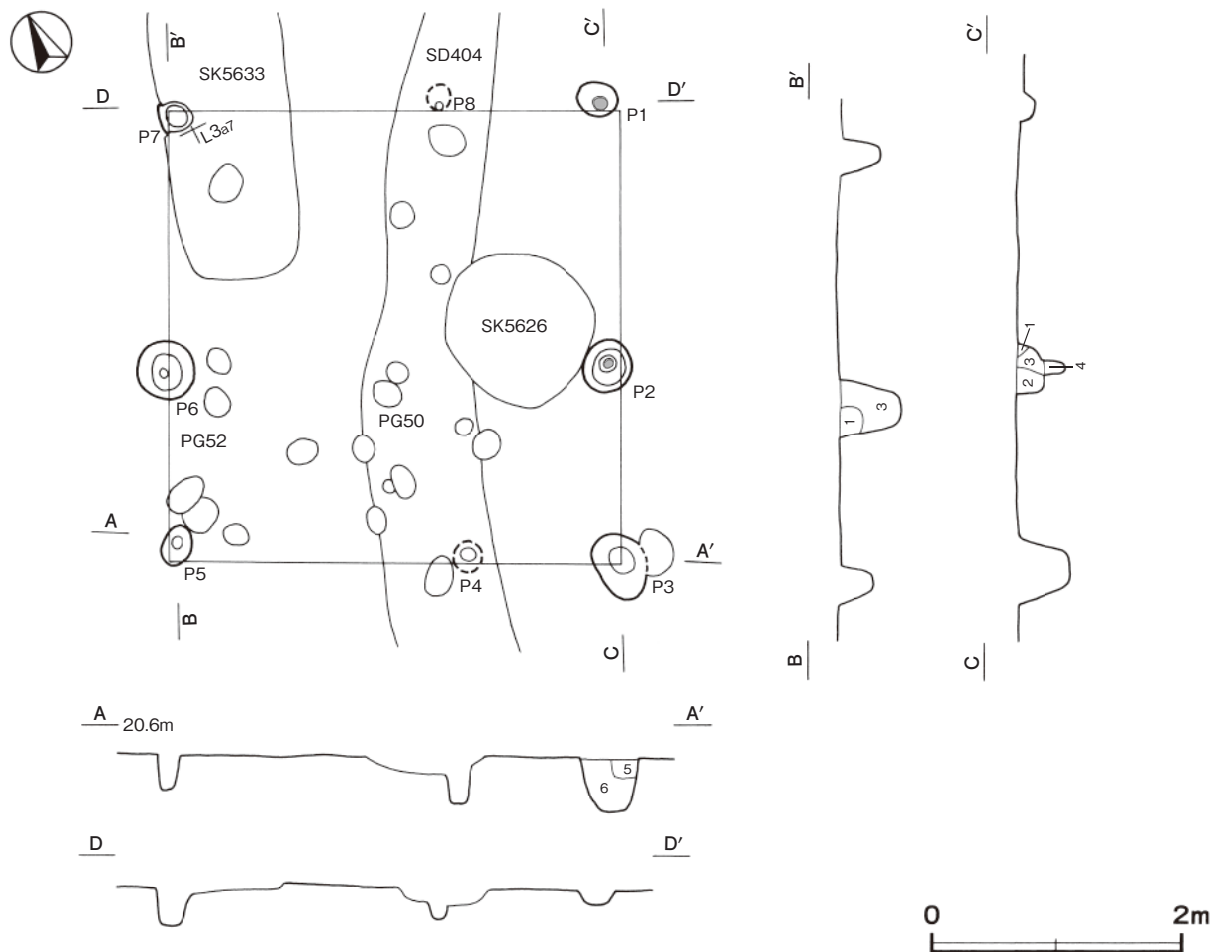
第516号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
438	土師質土器	搦鉢	-	(3.3)	[12.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ 内面4条1単位の摺り目 底部へら削り	覆土中	5%

第517号掘立柱建物跡（第241図）

位置 調査区南西部のK3j6～L3b7区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5633号土坑に掘り込まれている。第5626号土坑，第404号溝跡，第50・52号ピット群と重複



第241図 第517号掘立柱建物跡実測図

しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-61°-Wの東西棟である。規模は、桁行・梁行ともに3.6mで、面積は12.96㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から2.1m・1.3m、梁行が北平から2.1m・1.3mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径24～55cm、短径21～40cmである。深さは13～52cmである。柱のあたりが、P1・P2の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 灰色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係と柱穴の規模や形状から、中世後半と考えられる。

第518号掘立柱建物跡（第242図）

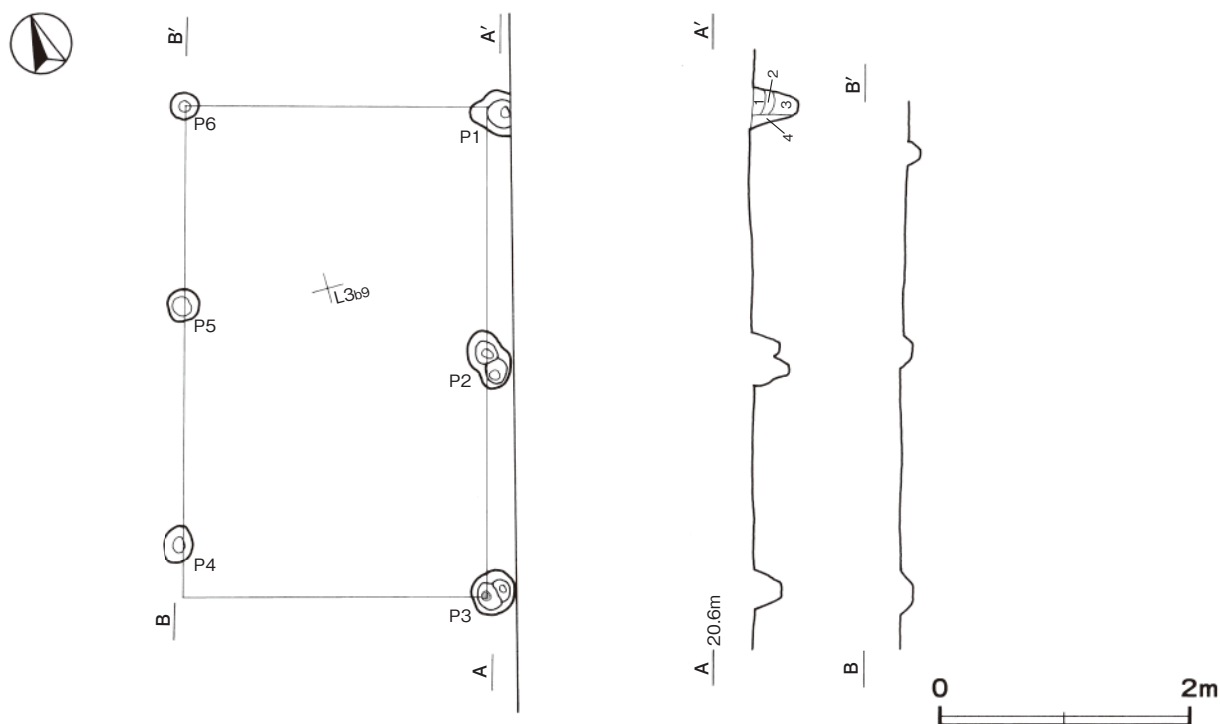
位置 調査区南西部のL3a8～L3b9区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-18°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.8m、梁行2.5mで、面積は9.50㎡である。柱間寸法は、桁行の西平が北妻から1.6m・1.9mで、東平が1.9mである。梁行は2.5mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または不整楕円形で、長径21～46cm、短径18～31cmである。深さは9～37cmである。柱のあたりが、P3の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |



第242図 第518号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、第510号掘立柱建物跡と桁行方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。

第527号掘立柱建物跡（第243図）

位置 調査区南西部のJ 4 f0～J 5 g1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第281号溝に掘り込まれている。第48号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

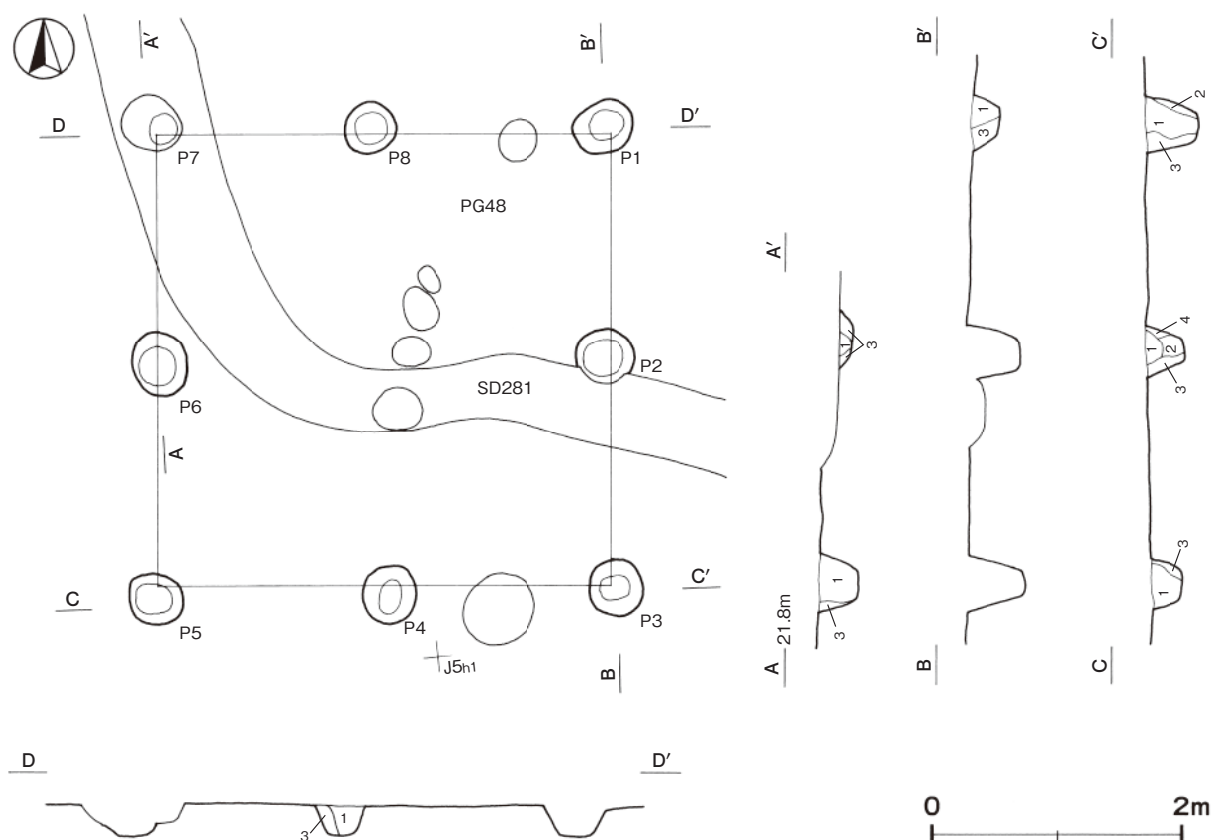
規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Eの南北棟である。規模は、桁行・梁行ともに3.6mで、面積は12.96㎡である。柱間寸法は、1.8mで等間に配置されており、柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径40～50cm、短径38～44cmである。深さは14～46cmである。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子中量 |

所見 時期は、第510号掘立柱建物跡と桁行方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。



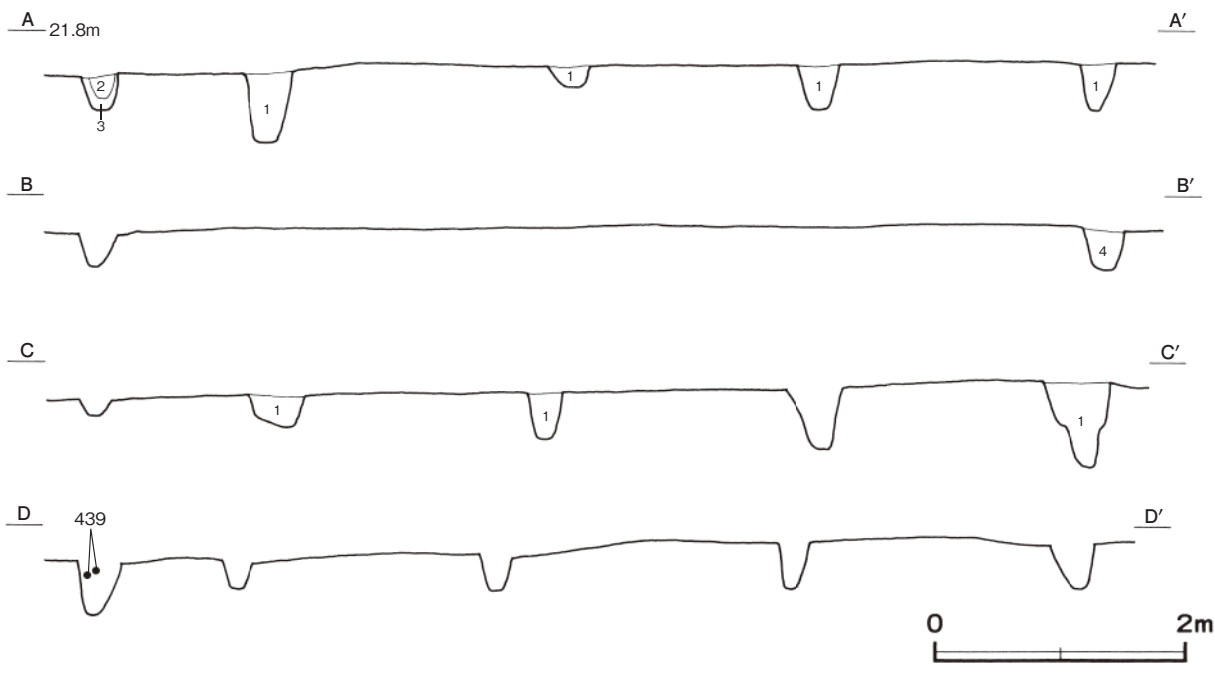
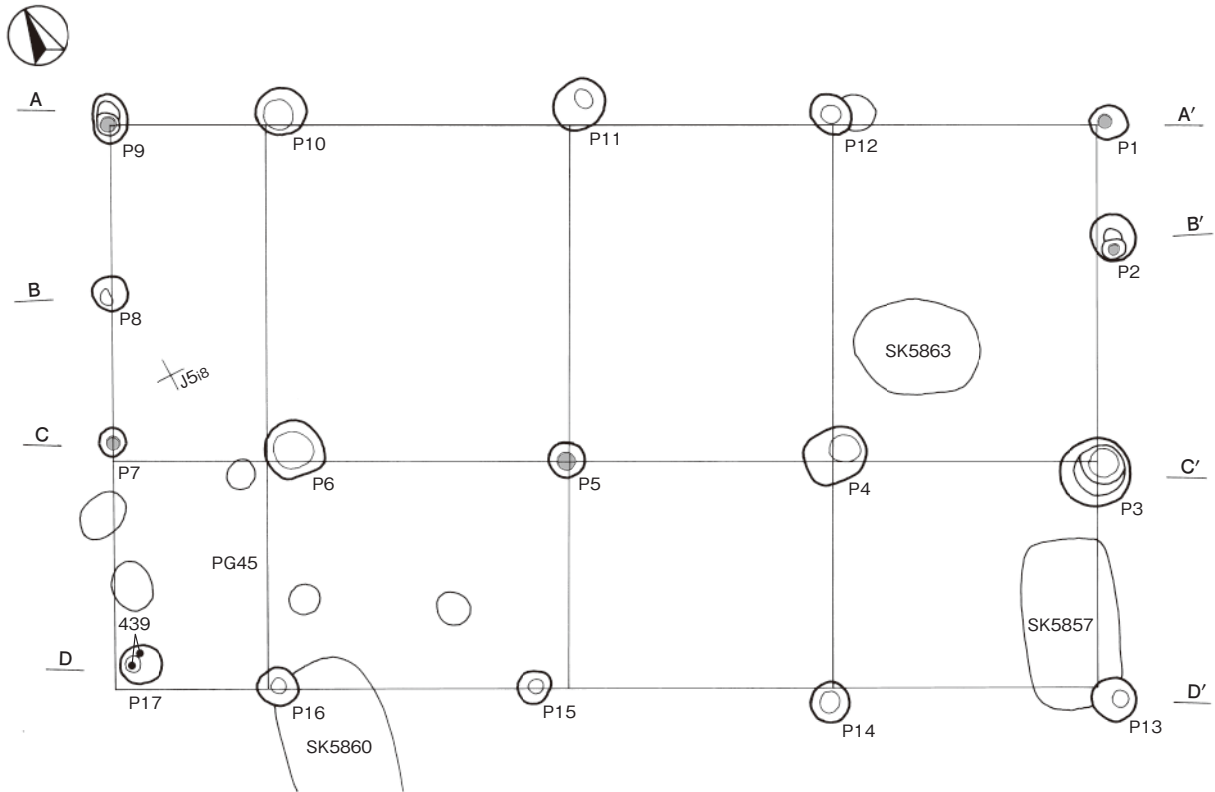
第243図 第527号掘立柱建物跡実測図

第531号掘立柱建物跡（第244・245図）

位置 調査区南西部のJ 5 h7～J 5 j9区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第45号ピット群に掘り込まれている。第5857・5860・5863号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間，梁行2間の身舎に，南面に庇が付く側柱建物跡で，桁行方向がN - 60° - Wの東西棟である。規模は，身舎が桁行7.8 m，梁行2.7 mで，面積は21.06㎡である。庇の出は1.8 mで，庇を含めた桁行は7.8 m，梁行は4.5 mで，面積は35.10㎡である。身舎の柱間寸法は，桁行が1.2～2.4 m，梁行が0.9～1.8 mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。庇の柱間寸法は，1.1～2.3 mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。



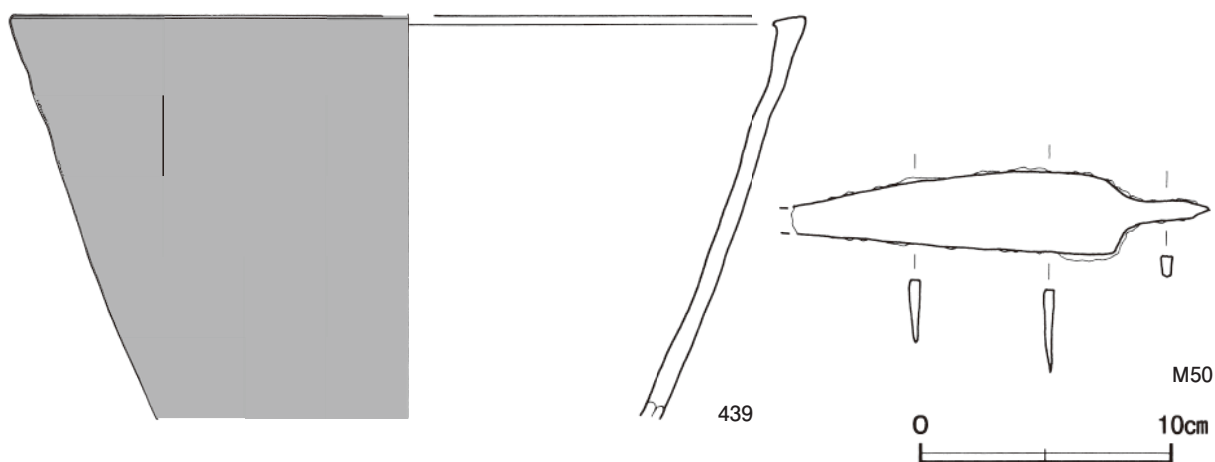
第 244 図 第 531 号掘立柱建物跡実測図

柱穴 17か所。P 1～P 12は身舎の柱穴である。平面形は円形または楕円形で、長径23～55cm、短径20～53cmである。深さは13～68cmである。柱のあたりが、P 1・P 2・P 5・P 7・P 9の底面で確認できる。P 13～P 17は庇の柱穴である。平面形は円形または楕円形で、長径27～34cm、短径22～32cmである。深さは13～68cmである。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|----------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片5点（坏1、甕4）、土師質土器片1点（内耳鍋）、鉄製品1点（刀子）が出土している。439はP 17の覆土上層から出土した破片が接合したものである。M 50はP 6の覆土中から出土している。
所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀代と考えられる。



第 245 図 第 531 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 531 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 245 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
439	土師質土器	鍋	[31.6]	(16.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	P 17 上層	20%外面煤付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M 50	刀子	(16.6)	3.4	0.1～0.4	(45.5)	鉄	切先部欠損 断面三角形		P 6 覆土中	PL79	

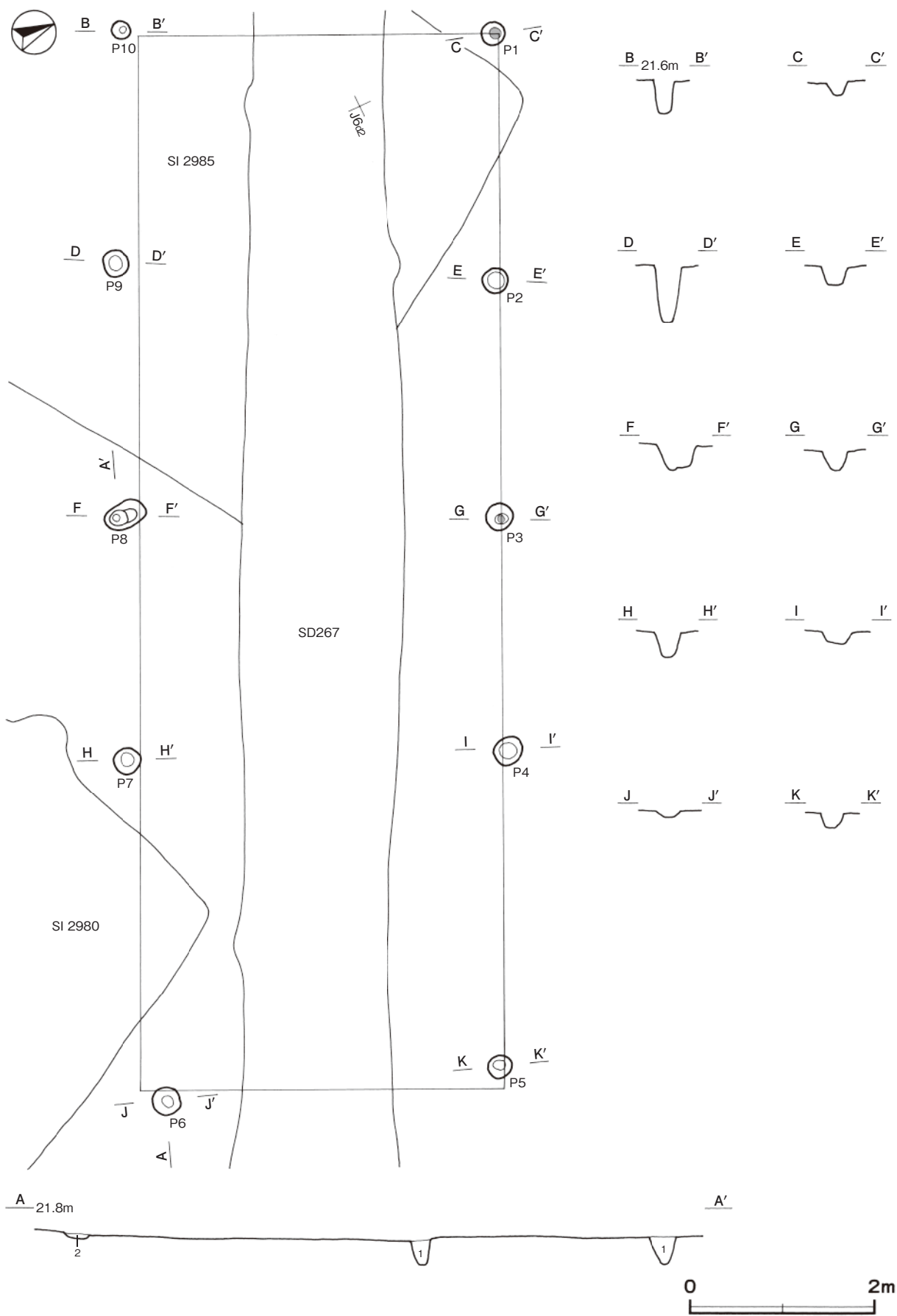
第 533 号掘立柱建物跡（第 246 図）

位置 調査区南部の J 6c1～J 6e4 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2985 号住居跡を掘り込んでいる。第 267 号溝跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。第 2980 号住居跡は平面上で重複関係にあるが、古墳時代後期に比定されており、本跡が新しい。

規模と構造 桁行 4 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 67° - W の東西棟である。規模は、桁行 11.4 m、梁行 3.9 m で、面積は 44.46 m² である。柱間寸法は、桁行が 2.4～3.6 m、梁行が 3.9 m で等間に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 18～42cm、短径 15～27cm である。深さは 6～56cm である。柱のあたりが、P 1・P 3 の底面で確認できる。



第 246 图 第 533 号掘立柱建物迹实测图

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

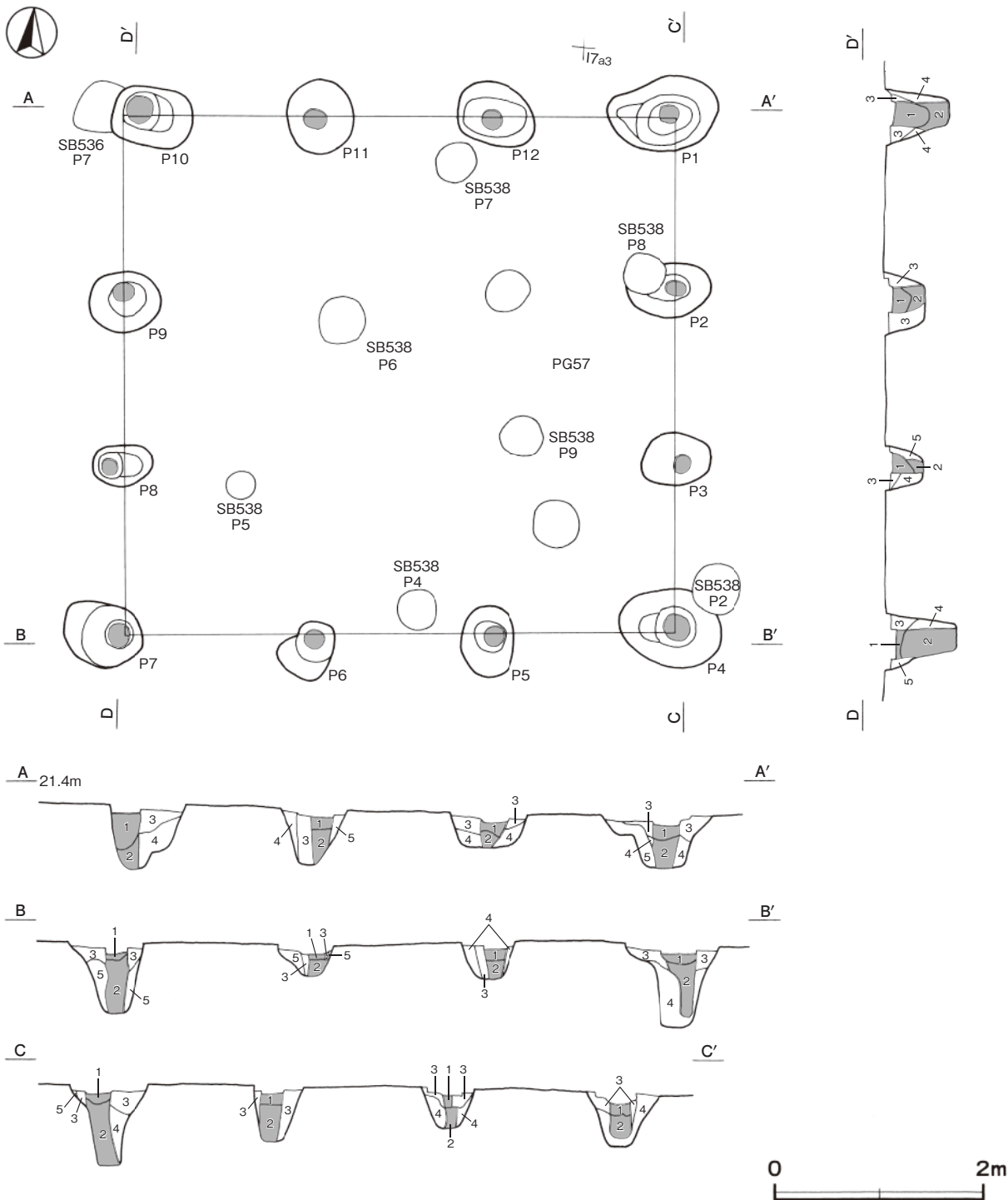
2 黒 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 3点 (坏, 高台付坏, 甕) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 第 531 号掘立柱建物跡と桁行方向が類似していることから, 15 世紀代と考えられる。

第 535 号掘立柱建物跡 (第 247 図)

位置 調査区北部の I 7 a1 ~ I 7 b3 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 247 図 第 535 号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第536号掘立柱建物跡を掘り込み、第538号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第57号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-84°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.3m、梁行5.0mで、面積は26.50㎡である。柱間寸法は、桁行が1.80m、梁行が1.65mを基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形または不整楕円形で、長径56～103cm、短径38～74cmである。深さは27～76cmである。土層は、第1・2層が柱痕跡で、柱の痕跡が残っている。第3～5層が埋土である。柱のあたりが、各柱穴の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片46点（坏1、甕類45）、須恵器片4点（坏）がP2～P12から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片のため詳細は不明であるが、柱穴の規模や形状から中世以降と考えられる。

第536号掘立柱建物跡（第248図）

位置 調査区北部のH6i0～I7a1区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2368・3028号住居跡を掘り込んでおり、第535・537号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第56号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行6間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Eの南北棟である。規模は、桁行8.9m、梁行4.4mで、面積は39.16㎡である。柱間寸法は、桁行が0.7～1.7m、梁行が2.1～2.3mで、間尺は異なっている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 16か所。平面形は円形または楕円形で、長径31～106cm、短径21～64cmである。深さは18～61cmである。第1～3層が柱痕跡で、第4・5層が埋土であり、突き固められている。柱のあたりが、P1・P4・P5・P9～P13・P15の底面で確認できる。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

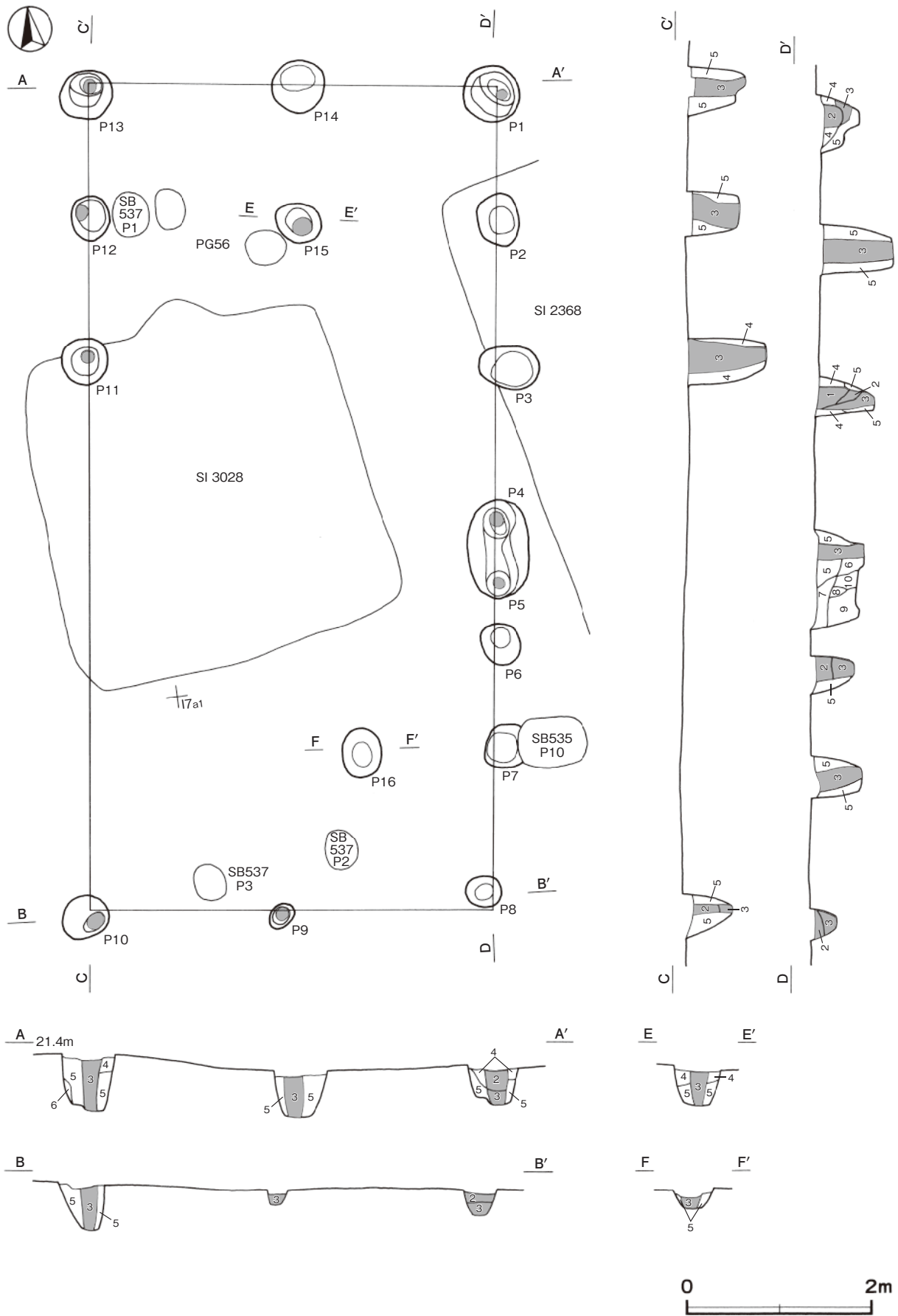
遺物出土状況 土師器片38点（坏8、甕30）がP1・P2・P4・P6・P12～P16から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係と柱穴の規模や形状から中世前半と考えられる。

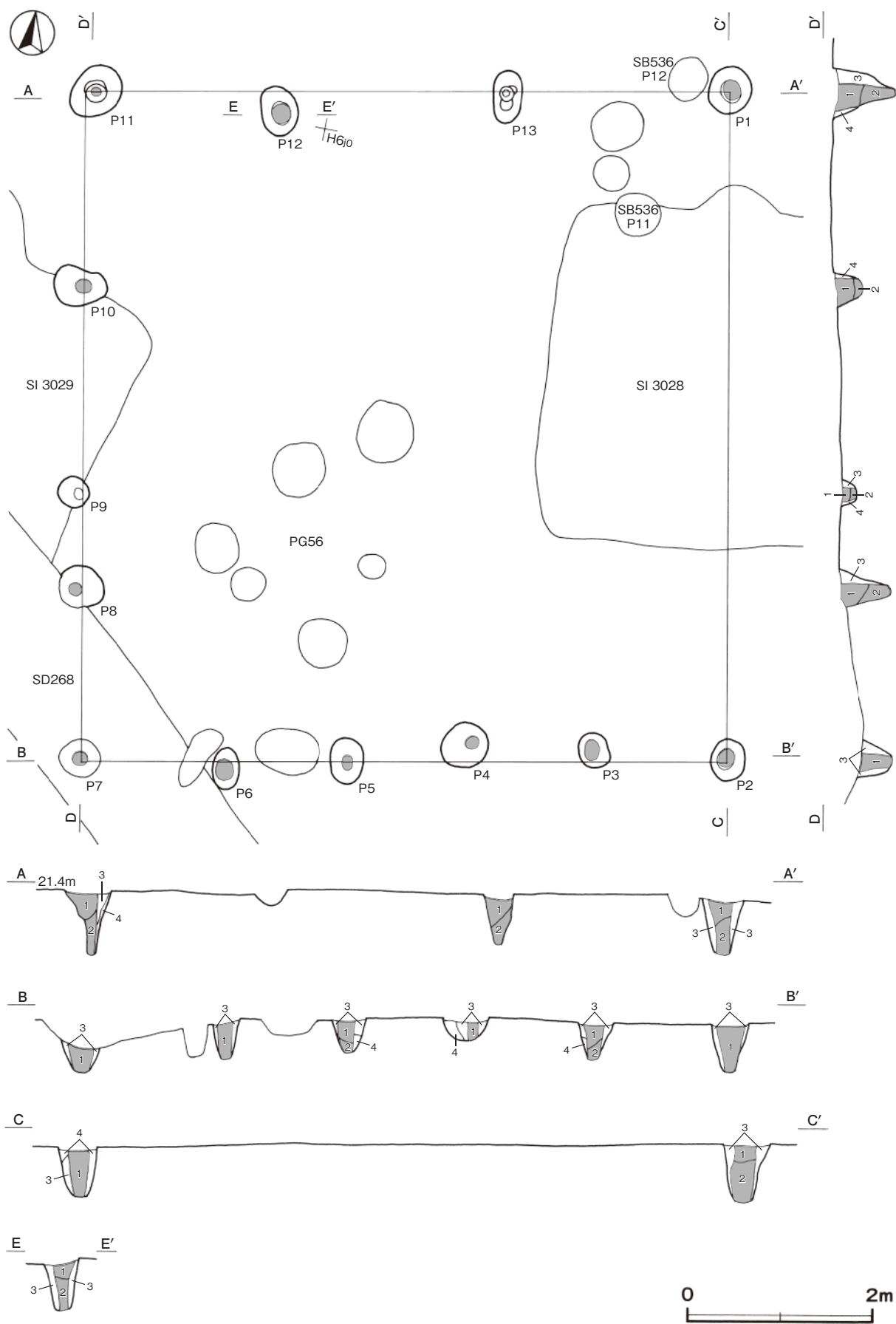
第537号掘立柱建物跡（第249図）

位置 調査区北部のH6i9～I7a1区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3028・3029号住居跡、第536号掘立柱建物跡を掘り込み、第268号溝に掘り込まれている。また、第56号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。



第 248 图 第 536 号掘立柱建物跡実測図



第 249 图 第 537 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行4間、梁行5間の側柱建物跡で、桁行方向がN-80°-Eの東西棟である。規模は、桁行6.9m、梁行7.2mで、面積は49.68㎡である。柱間寸法は、桁行は北平が2.1~2.4mで、南平が1.3~1.4m、梁行は西妻が1.0~2.3mで、間尺は異なっている。柱筋はほぼ揃っている。東妻の柱穴は確認できなかった。

柱穴 13か所。平面形は円形または楕円形で、長径35~62cm、短径28~48cmである。深さは14~69cmである。第1・2層が柱痕跡、第3・4層は埋土であり、突き固められている。柱のあたりが、P1~P8・P10~P12の底面で確認できる。

土層解説 (各柱穴共通)

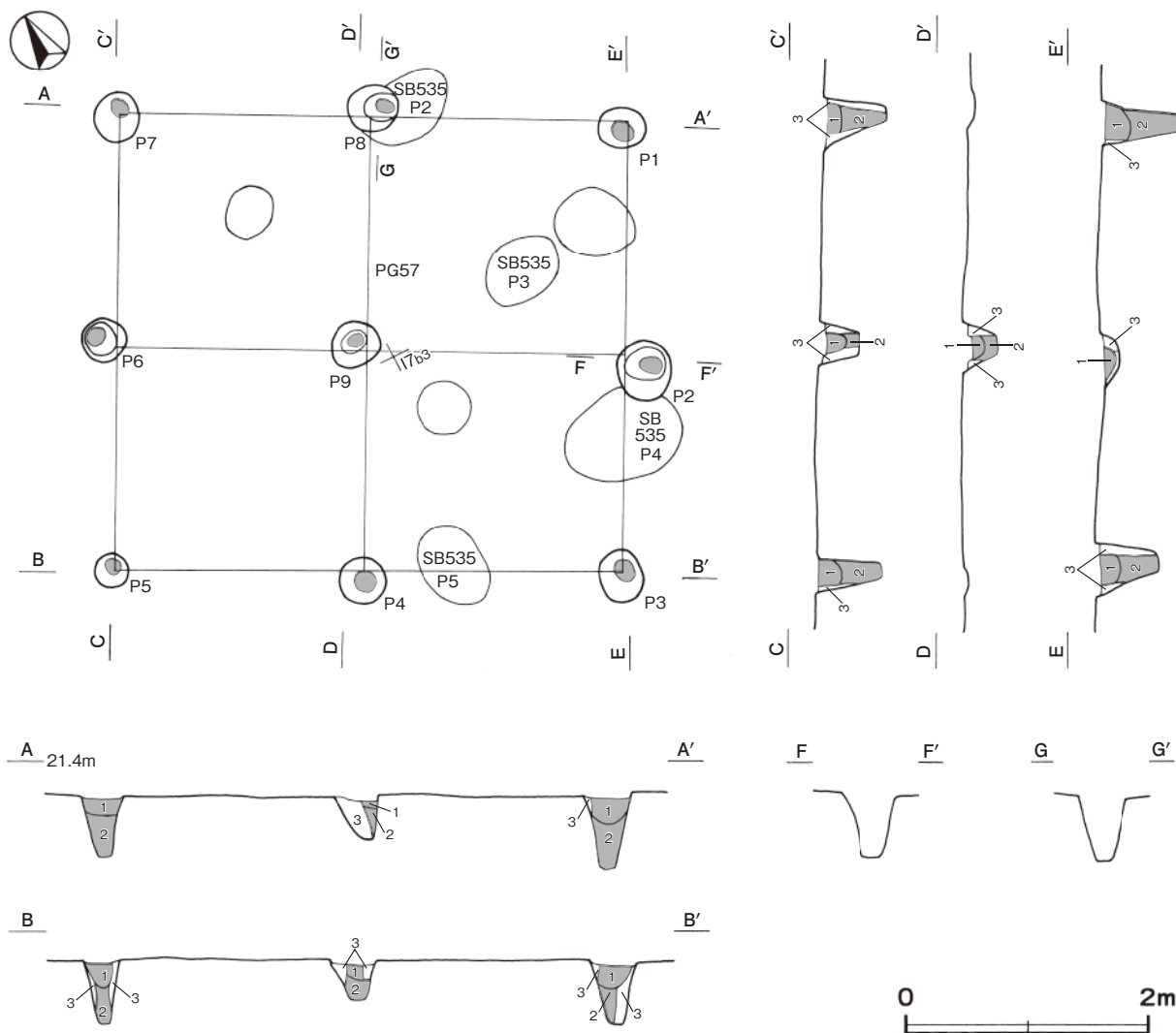
- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片3点(坏, 小形甕, 甑)がP1・P3・P7から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係から第536号掘立柱建物廃絶後の中世後半以降と考えられる。

第538号掘立柱建物跡 (第250図)

位置 調査区北部のI7a2~I7b3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第250図 第538号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第 535 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、第 57 号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物跡で、桁行方向が N - 60° - W の東西棟である。規模は、桁行 4.2 m、梁行 3.7 m で、面積は 15.54㎡である。柱間寸法は、桁行が 2.1 m、梁行が 1.9 m で、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 9 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 28 ~ 48cm、短径 27 ~ 46cm で、深さは 18 ~ 64cm である。第 1・2 層が柱痕跡、第 3 層は埋土であり、突き固められている。柱のあたりが、それぞれのピットの底面で確認できる。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏, 小形甕, 甑) が P 1・P 3・P 7 から出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片のため詳細は不明であるが、重複関係から第 535 号掘立柱建物廃絶後の中世後半以降と考えられる。

表 16 中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
510	L3c5~ L3d6	N-11°-E	3×2	5.4×3.9	21.06	1.8	1.8・2.2	側柱	9	円形 楕円形	18~55	陶器片	17世紀 前半	SD404→本跡 SB513.SK 5637-5661-5666-5667.SA 60-61.PG52-53 新旧不明
511	L3a5~ L3b6	N-26°-W	2~3×2	6.3×4.2	26.46	1.8~3.6	1.5~2.4	側柱	9	円形 楕円形	14~46	土師器片	17世紀 以前	本跡→第6号整穴遺構.SK5630 SB512SD404.PG52 新旧不明
513	L3d5~ L3f6	N-10°-E	2×2	5.1×5.1	26.01	1.8・3.3	2.4・2.7	側柱	8	円形 不整楕円形	8~52	土師質土器片	16~17 世紀前半	SB510.PG51・53 新旧不明
516	K3h9~ K3i9	N-23°-E	3×2	6.3×3.6	22.68	1.5~2.6	1.4~2.1	側柱	10	円形 楕円形	11~37	土師質土器片	中世後半	SD404.PG49 新旧不明
517	K3j6~ L3b7	N-61°-W	2×2	3.6×3.6	12.96	2.1・1.3	2.1・1.3	側柱	8	円形 楕円形	13~52	土師質土器片	中世後半	本跡→SK5633 SK5626 SD404. PG50-52 新旧不明
518	L3a8~ L3b9	N-18°-E	2×1	3.8×2.5	9.50	1.6・1.9	2.5	側柱	6	円形 不整楕円形	9~37		中世後半 ~近世	
527	J4f0~ J5g1	N-6°-E	2×2	3.6×3.6	12.96	1.8	1.8	側柱	8	円形 楕円形	14~46		中世後半 ~近世	本跡→SD281 PG48 新旧不明
531	J5h7~ J5j9	N-60°-W	4×2	7.8×4.5	35.10	1.2~2.4	0.9~1.8	側柱	17	円形 楕円形	13~68	土師器片、土師質 土器片、鉄製品	15世紀代	本跡→PG45.SK5857・ 5860・5863 新旧不明
533	J6c1~ J6e4	N-67°-W	4×1	11.4×3.9	44.46	2.4~3.6	3.9	側柱	10	円形 楕円形	6~56	土師器片	15世紀代	SI2980・2985→本跡 SD267 新旧不明
535	I7a1~ I7b3	N-84°-E	3×3	5.3×5.0	26.50	1.8	1.65	側柱	12	円形 不整楕円形	27~76	土師器片、須恵器片	中世以降	SB536→本跡→SB538 PG57 新旧不明
536	H6i0~ I7a1	N-6°-E	6×2	8.9×4.4	39.16	0.7~1.7	2.1~2.3	側柱	16	円形 楕円形	18~61	土師器片	中世前半	SI2308・3028→本跡→ SB530-537 PG56 新旧不明
537	H6i9~ I7a1	N-80°-E	4×5	6.9×7.2	49.68	2.1~2.4 1.3~1.4	1.0~2.3	側柱	13	円形 楕円形	14~69	土師器片	中世後半 以降	SI3028・3029.SB536→本跡 →SD268 PG56 新旧不明
538	I7a2~ I7b3	N-60°-W	2×2	4.2×3.7	15.54	2.1	1.9	総柱	9	円形 楕円形	18~64	土師器片	中世後半 以降	SB535→本跡 PG57 新旧不明

(3) 井戸跡

今回の調査で、中世以降と考えられる井戸跡を 31 基確認した。そのうち遺物の出土している 6 基については文章で記述する。その他の 25 基については、掘方の形状から 2 種類に分類でき、形状別に実測図と土層解説で紹介する。

第 153 号井戸跡 (第 251 図)

位置 調査区南西部の K 3 e9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第404号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径1.74m、短径1.52mの楕円形で、長径方向はN-7°-Wである。北部及び西部は確認面から1.15～1.46mまで漏斗状に掘り込み、下部は径0.9mのほぼ円筒状に掘り下げている。1.92mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

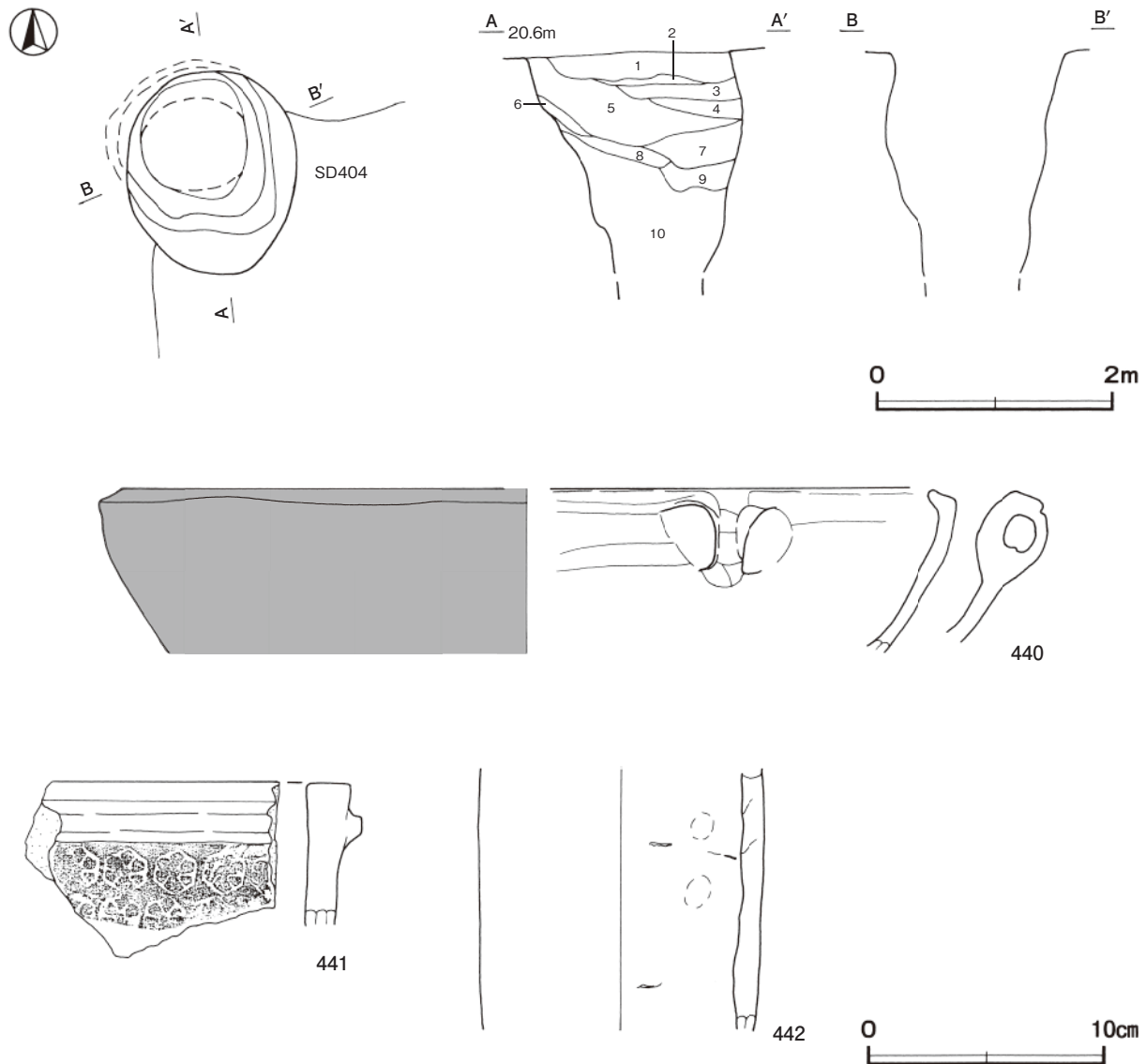
覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 6 黄灰色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 暗灰黄色 粘土粒子少量 |
| 3 黄灰色 ローム粒子少量 | 8 黄灰色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 粘土粒子少量 | 9 黄灰色 粘土ブロック中量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 10 黒褐色 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片5点（坏1，皿1，甕3），土師質土器片22点（内耳鍋13，播鉢3，火鉢1，甕5），陶器片1点（花瓶カ）のほか、混入した石器1点（磨石）が出土している。440～442はいずれも覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や重複関係から中世後半と考えられる。



第251図 第153号井戸跡・出土遺物実測図

第 153 号井戸跡出土遺物観察表 (第 251 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
440	土師質土器	内耳鍋	[34.5]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5% 外面煤付着
441	土師質土器	火鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面ナデ 外面突帯貼付 花文押捺	覆土中	5%
442	陶器	花瓶カ	-	(11.2)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	ロクロナデ 外面施釉	覆土中	10%

第 157 号井戸跡 (第 252 図)

位置 調査区南西部の K3h6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.45 m, 短径 1.40 m の円形である。確認面から 0.18 ~ 0.37 m まで漏斗状に掘り込み, 下部は径 1.0 m の円筒状に掘り下げている。1.20 m まで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

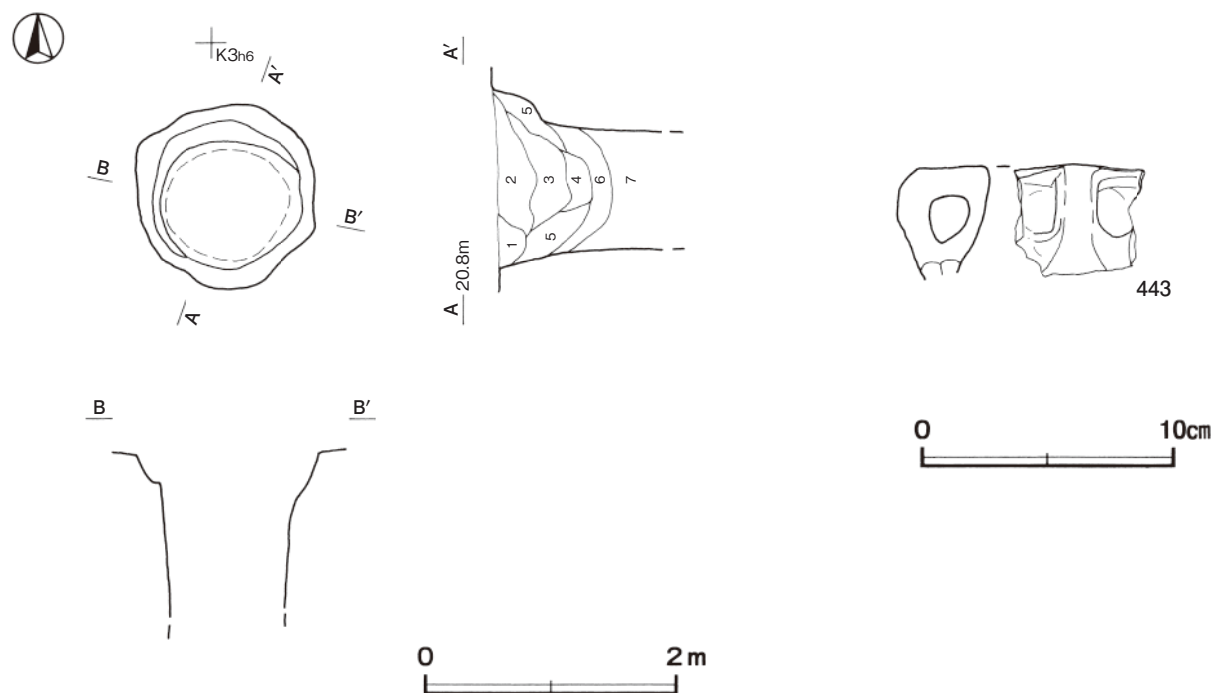
覆土 7 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック中量, 粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片 12 点 (小皿 1, 内耳鍋 11) が出土している。443 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第 252 図 第 157 号井戸跡・出土遺物実測図

第 157 号井戸跡出土遺物観察表 (第 252 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
443	土師質土器	内耳鍋	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5%

第 160 号井戸跡 (第 253 図)

位置 調査区南西部の K 3 f5 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.05 m, 短径 0.97 m の円形で, ほぼ円筒状に掘り下げている。1.05 m まで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

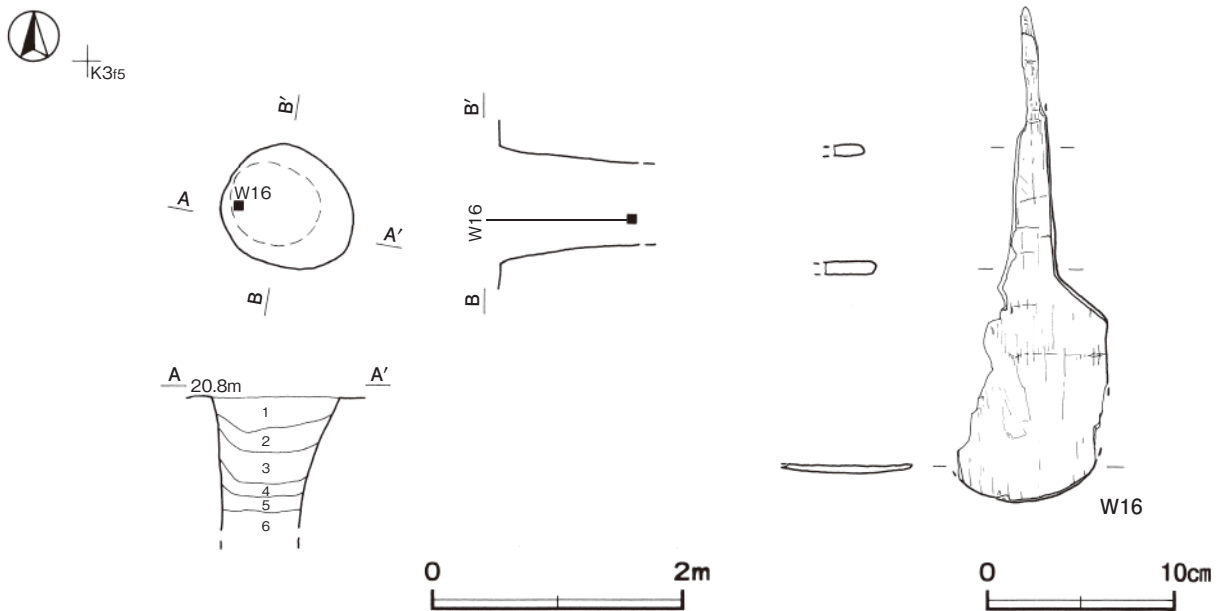
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|--------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 13 点 (坏 2, 甕 11), 木製品 1 点 (杓子) が出土している。W 16 は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 出土遺物から中世と考えられる。



第 253 図 第 160 号井戸跡・出土遺物実測図

第 160 号井戸跡出土遺物観察表 (第 253 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 16	木製品	杓子	(26.4)	(7.9)	0.7	ブナ科コナラ	扁平な板状で, 柄部は細く成形 一部欠損	下層	PL83

第 161 号井戸跡 (第 254 図)

位置 調査区南西部の L 3 f7 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 2.08 m, 短径 2.00 m の円形である。確認面から 0.60 ~ 0.63 m まで漏斗状に掘り込み, 下部は径 1.1 m の円筒状に掘り下げている。1.68 m まで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

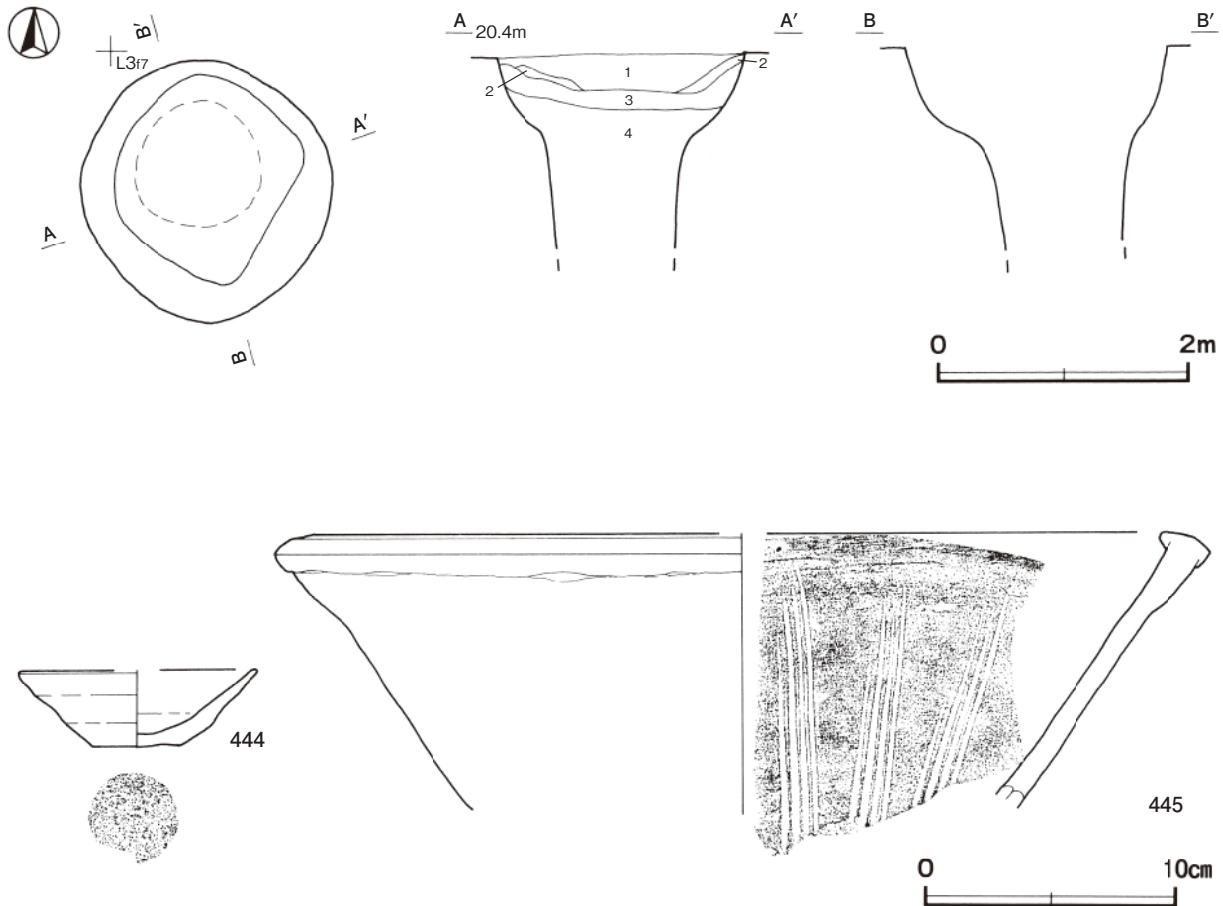
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 9 点 (甕), 須恵器片 2 点 (甕), 土師質土器片 36 点 (小皿 4, 内耳鍋 15, 播鉢 17), 礫 2 点が出土している。444・445 はいずれも覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 出土土器から 15 世紀代と考えられる。



第 254 図 第 161 号井戸跡・出土遺物実測図

第 161 号井戸跡出土遺物観察表 (第 254 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
444	土師質土器	小皿	[9.4]	3.1	3.5	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%
445	土師質土器	播鉢	[34.0]	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ 内面 4 条 1 単位の播り目	覆土中	20%

第 170 号井戸跡 (第 255 図)

位置 調査区南西部の J 4g9 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 274 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径 2.98 m, 短径 2.82 m の円形である。確認面から 1.10 ~ 1.30 m まで漏斗状に掘り込み, 下部は径 1.2 m の円筒状に掘り下げている。2.43 m まで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

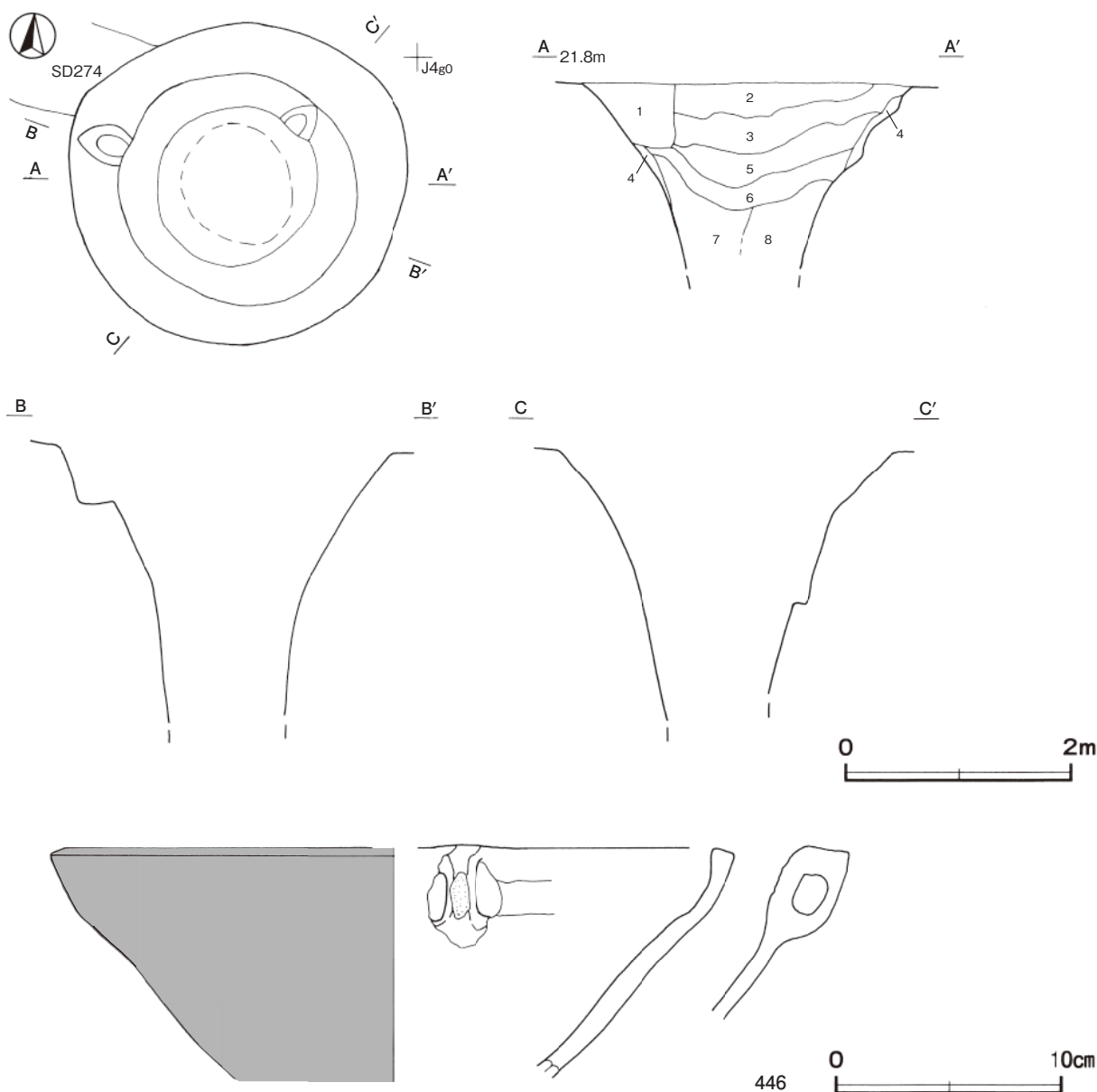
覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・砂粒少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 砂粒微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 26 点 (坏 3, 甕 23), 須恵器片 5 点 (甕), 土師質土器片 15 点 (小皿 2, 内耳鍋 12, 播鉢 1) が出土している。446 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 出土土器から 15 世紀代と考えられる。



第 255 図 第 170 号井戸跡・出土遺物実測図

第 170 号井戸跡出土遺物観察表 (第 255 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
446	土師質土器	内耳鍋	[28.5]	(10.4)	-	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10% 外面煤付着

第 171 号井戸跡 (第 256 図)

位置 調査区南西部の J 5 i2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面は長径 2.35 m, 短径 2.22 m の円形である。確認面から 0.87 ~ 0.93 m まで漏斗状に掘り込み, 下部は径 1.3 m の円筒状に掘り下げている。2.10 m まで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

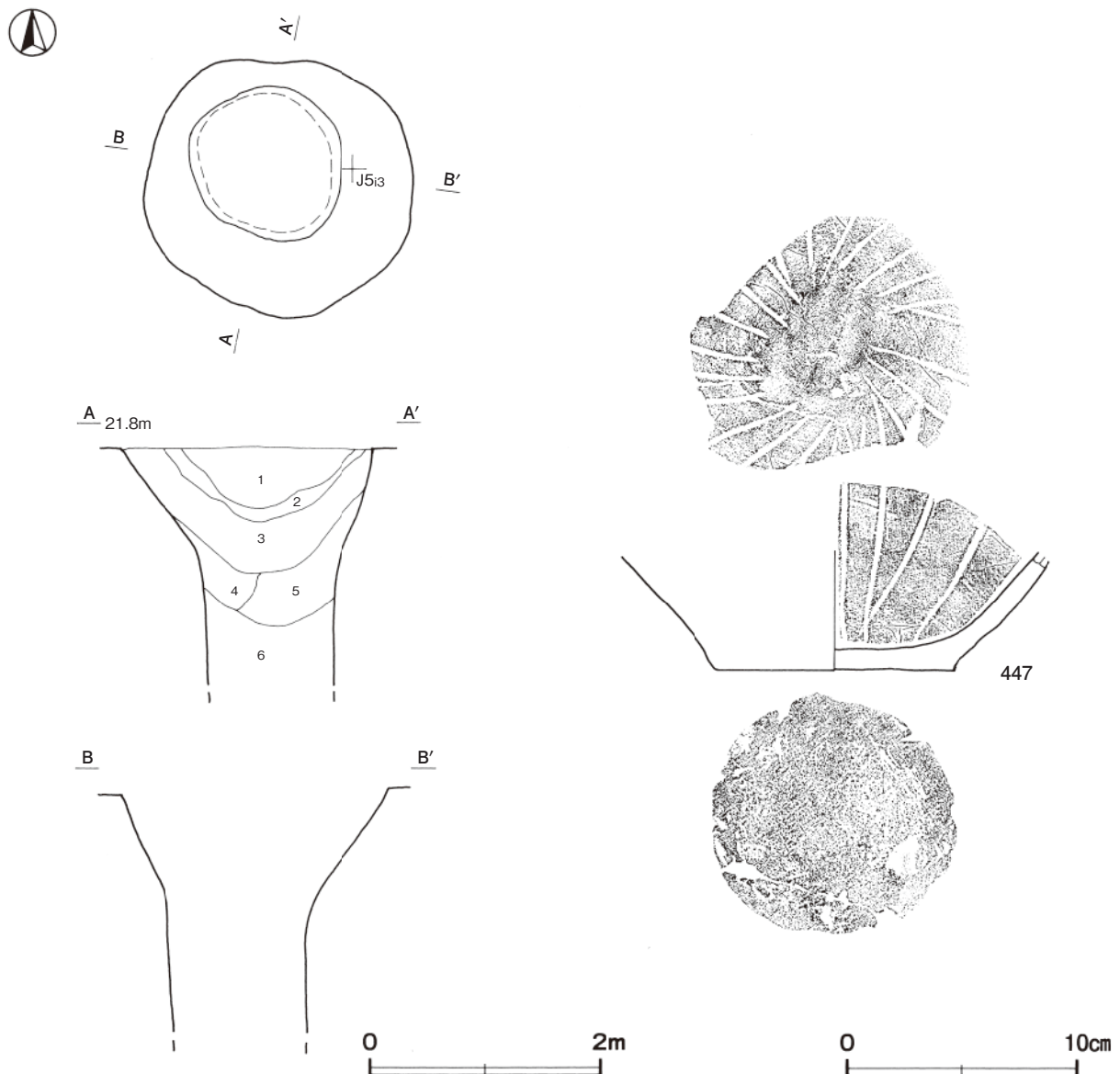
覆土 6 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 23 点 (坏 1, 甕 22), 須恵器片 5 点 (蓋 2, 甕 3), 土師質土器片 37 点 (内耳鍋 36, 播鉢 1) が出土している。447 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



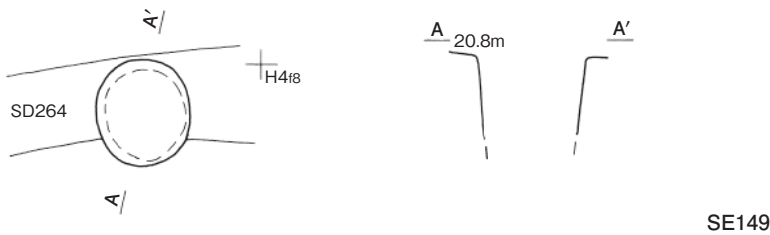
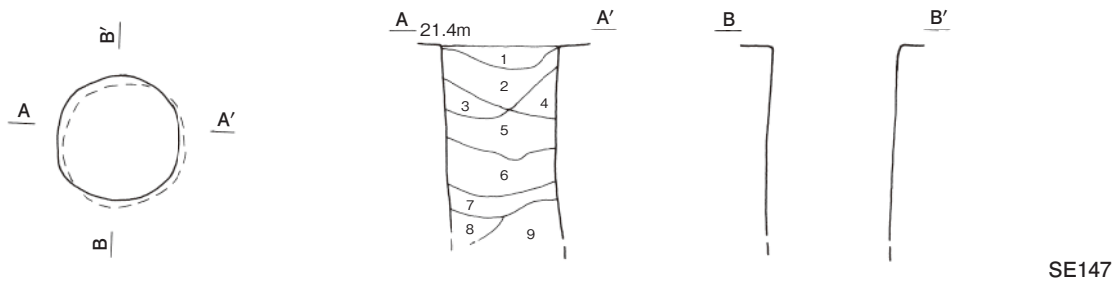
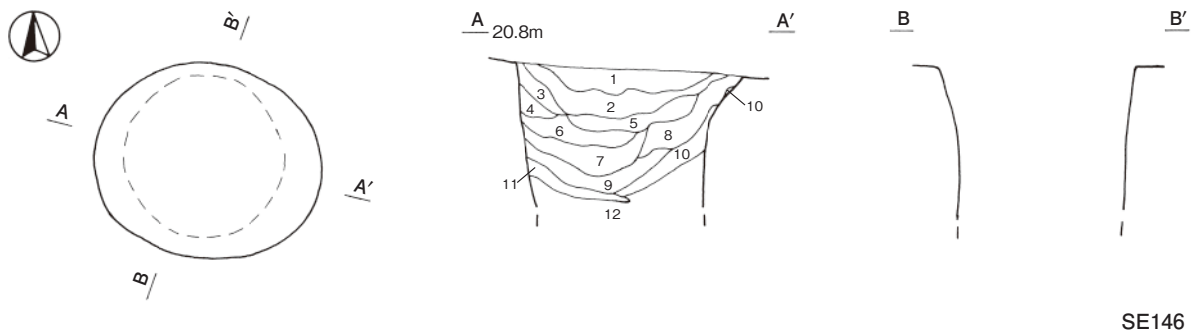
第 256 図 第 171 号井戸跡・出土遺物実測図

第 171 号井戸跡出土遺物観察表 (第 256 図)

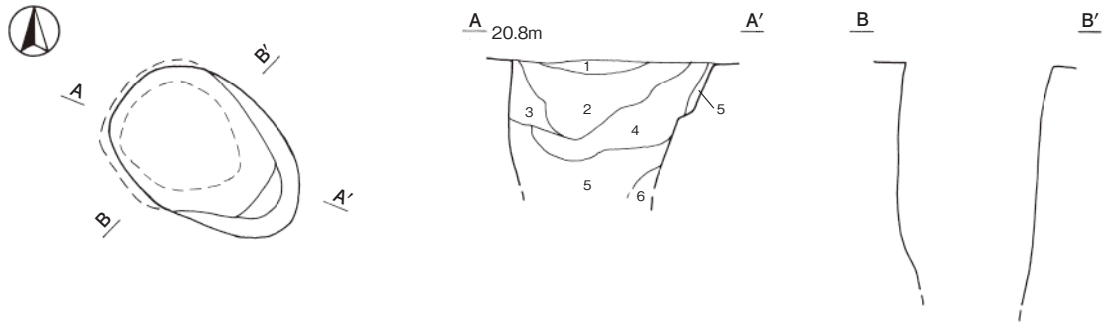
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
447	土師質土器	播鉢	-	(5.2)	10.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ナデ 内面1条1単位の播り目 底部ヘラ削り	覆土中	10%

ア 円筒状の井戸跡 (第 257 ~ 259 図)

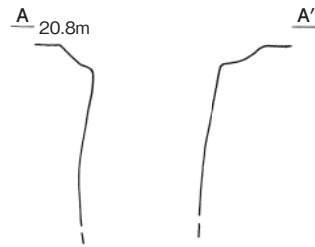
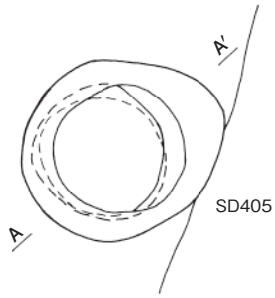
調査区中央部の標高 21 m ほどの台地上に 2 基、西部の標高 21 m ほどの台地縁辺部に 1 基、南部の標高 22 m ほどの台地上に 1 基、南西部の標高 20 ~ 21 m ほどの台地縁辺部に 6 基の計 10 基が確認されている。平面形は円形または楕円形で、壁はほぼ垂直な円筒状であり、素掘りの井戸と推定できる。覆土はロームブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。出土遺物が極めて少なく、いずれも細片のため時期を特定することはできないが、重複関係などから漏斗状の井戸跡よりも古いと思われる。



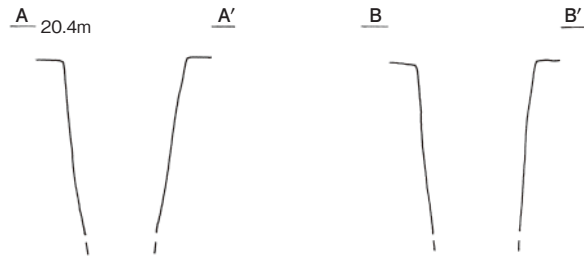
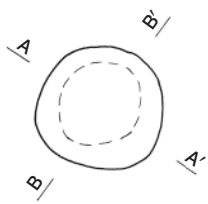
第 257 図 円筒状井戸跡実測図 (1)



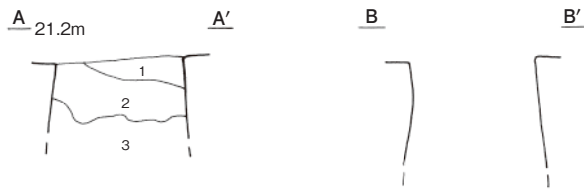
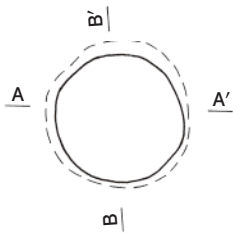
SE152



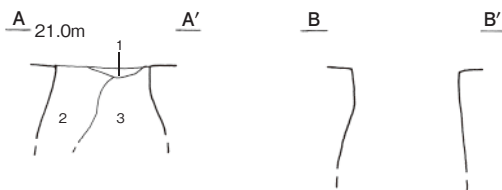
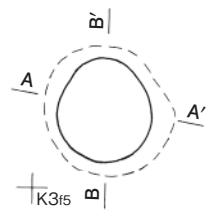
SE158



SE162



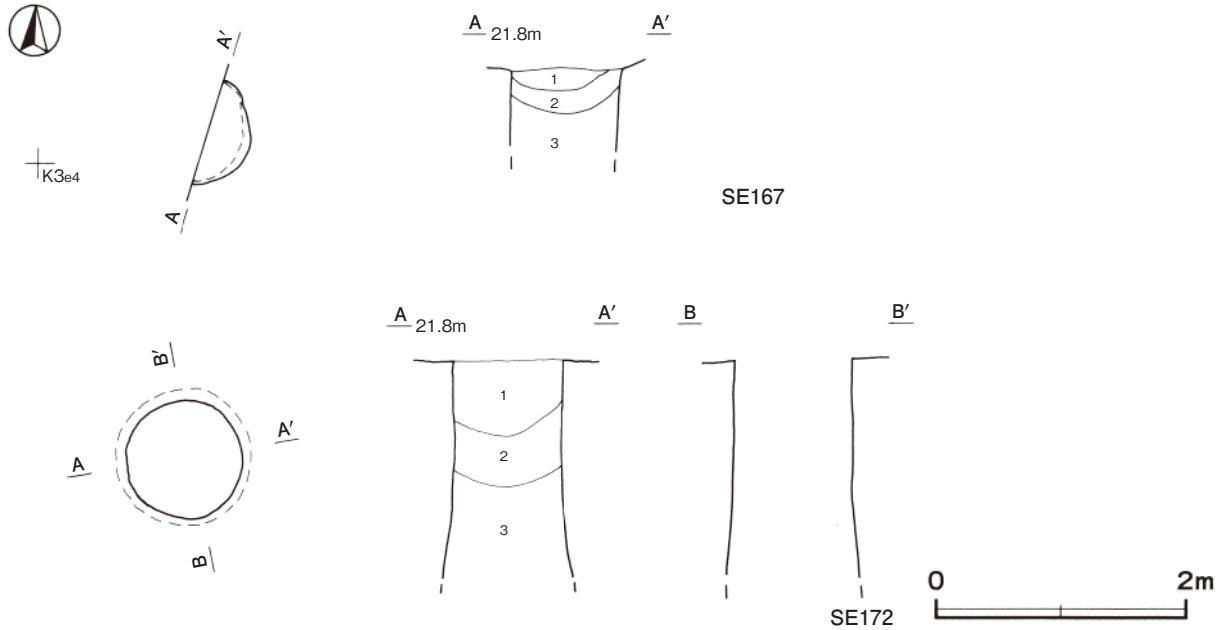
SE165



SE166



第 258 図 円筒状井戸跡実測図 (2)



第 259 図 円筒状井戸跡実測図 (3)

第 146 号井戸跡土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 10 褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 11 褐色 ロームブロック中量
- 12 黒色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第 147 号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, 粘土ブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 8 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量

第 152 号井戸跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量

第 165 号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

第 166 号井戸跡土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量

第 167 号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

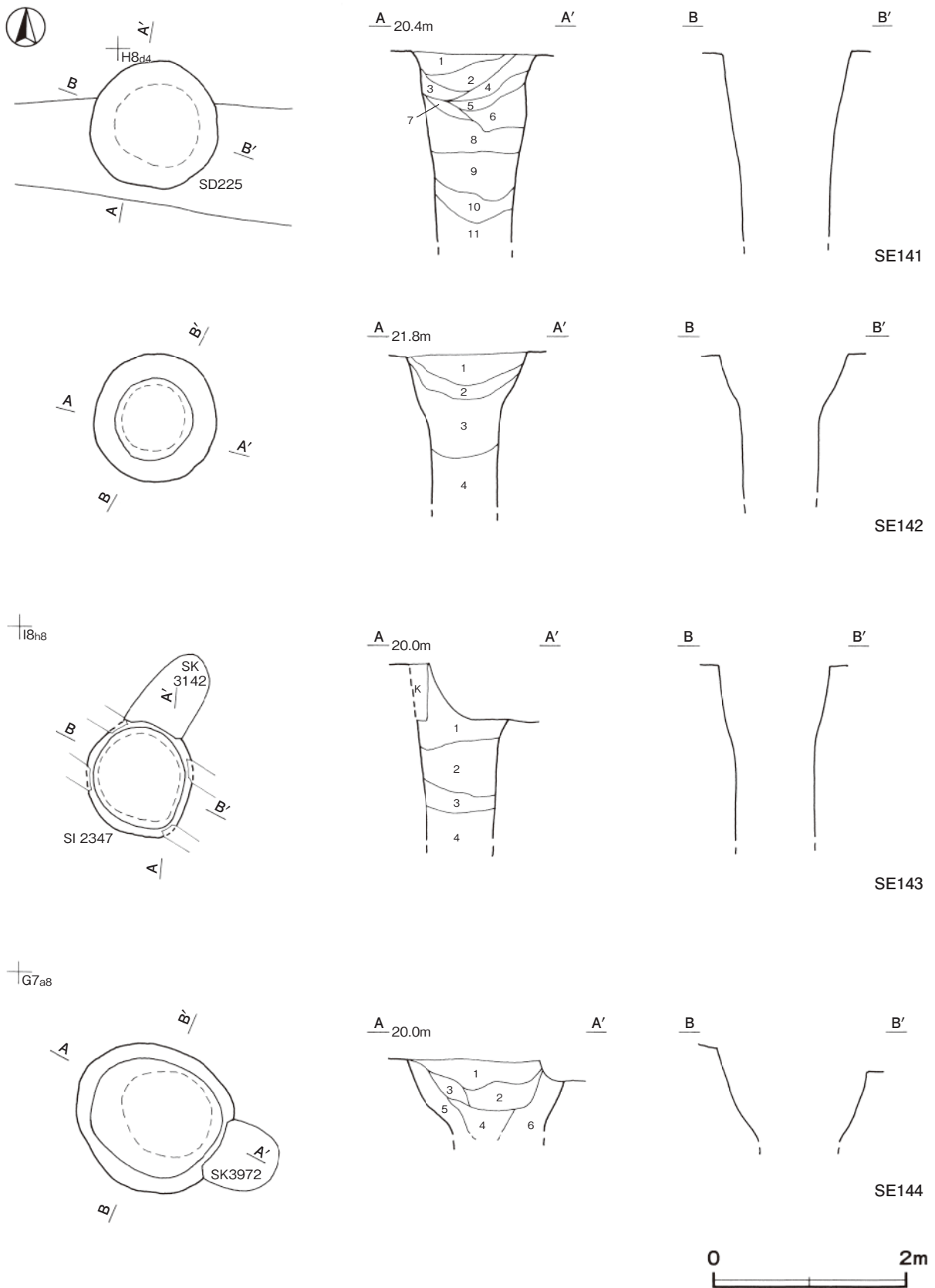
第 172 号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

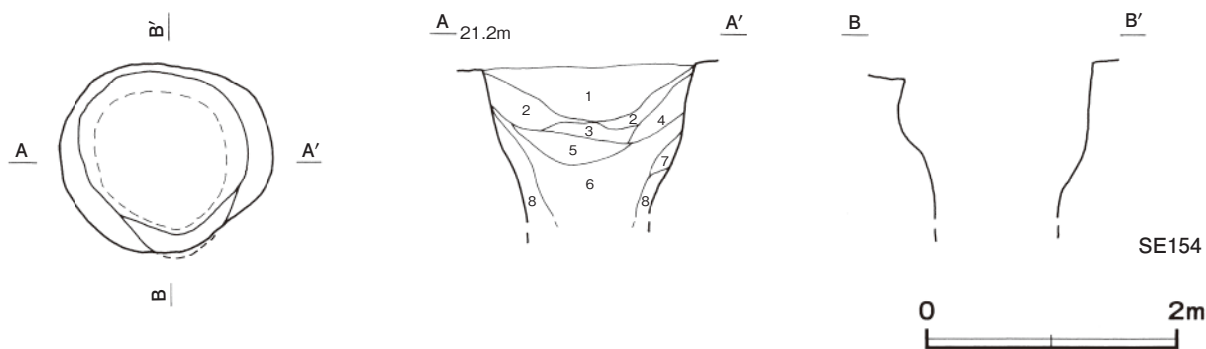
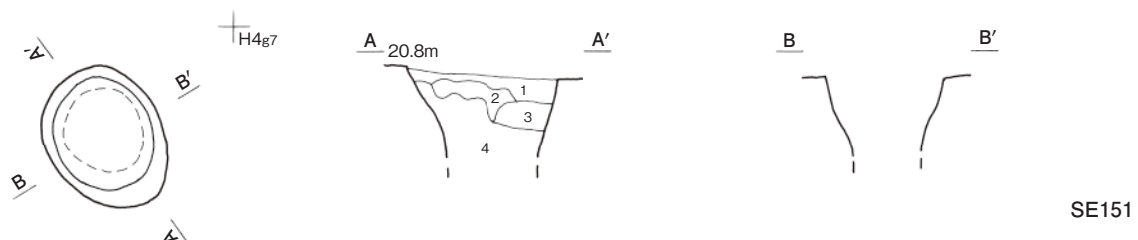
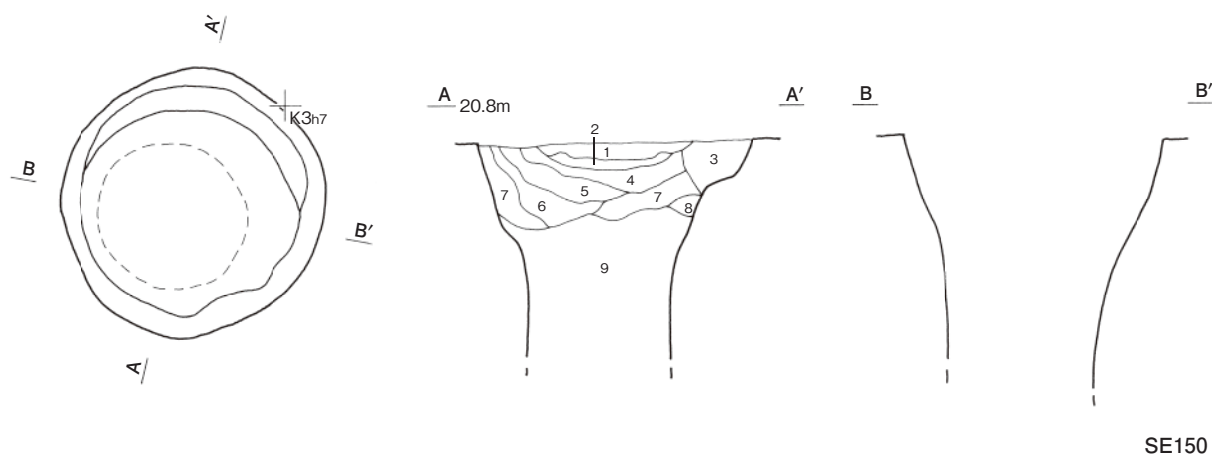
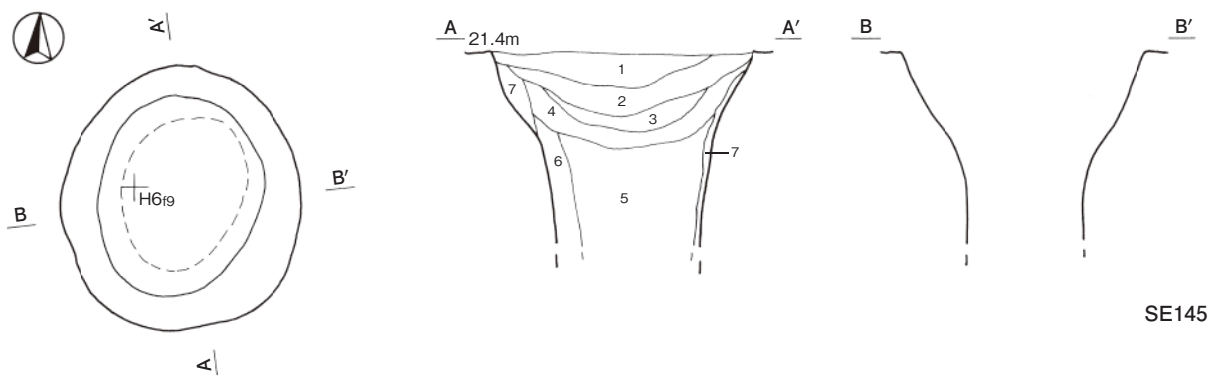
イ 漏斗状の井戸跡 (第 260 ~ 263 図)

調査区北部の標高 20 m ほどの台地縁辺部に 2 基, 中央部の標高 21 m ほどの台地上に 1 基, 西部の標高 21 m ほどの台地縁辺部に 4 基, 東部の標高 22 m ほどの台地上に 2 基, 南西部の標高 20 ~ 21 m ほどの台地縁辺部に 6 基の計 15 基が確認されている。平面形は円形または楕円形で, 断面は漏斗状である。井戸枠の抜き取り痕等は認められないことから, 素掘りの井戸と推定される。覆土はロームブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。出土遺物は少なく, いずれも細片のため時期を特定することはできな

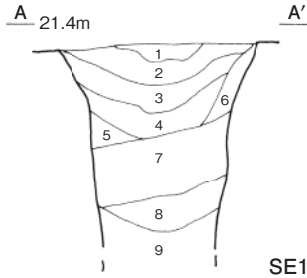
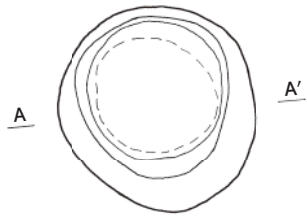
いが、土師質土器片や陶器片がみられることから、中世後半から近世前半にかけてのものと考えられる。



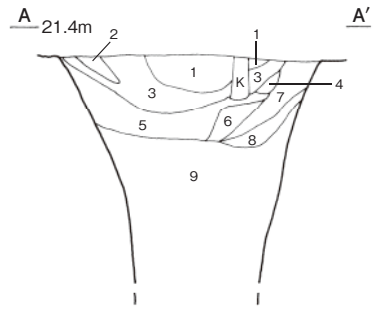
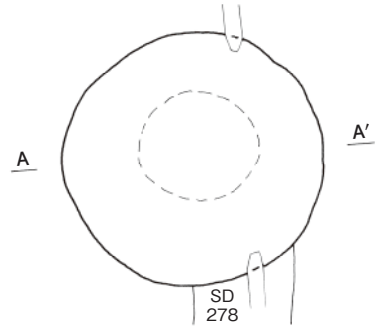
第 260 図 漏斗状井戸跡実測図 (1)



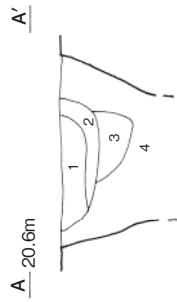
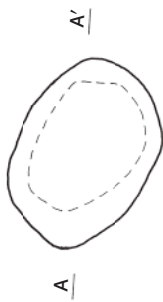
第 261 图 漏斗状井戸跡実測図 (2)



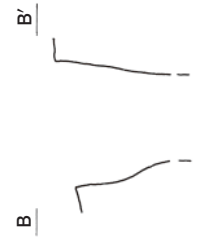
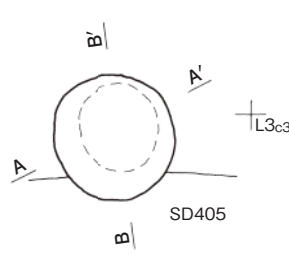
SE155



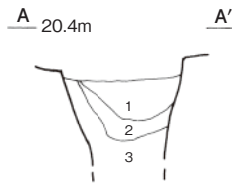
SE156



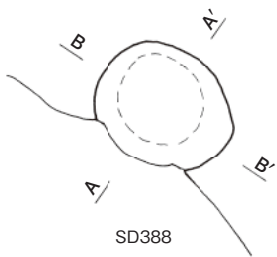
SE159



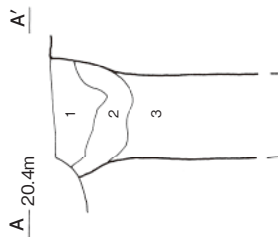
SD405



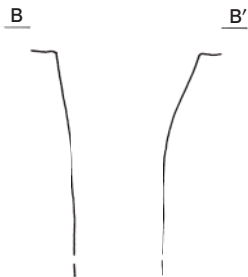
SE163



SD388



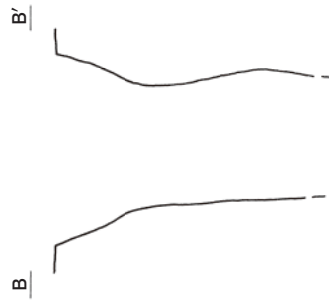
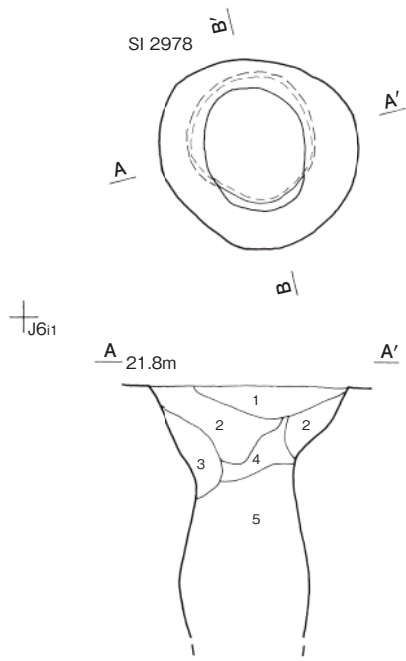
A 20.4m



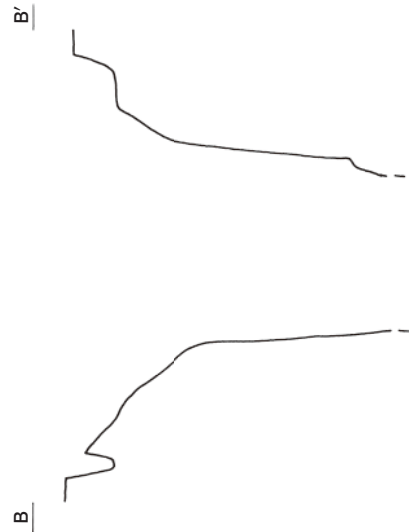
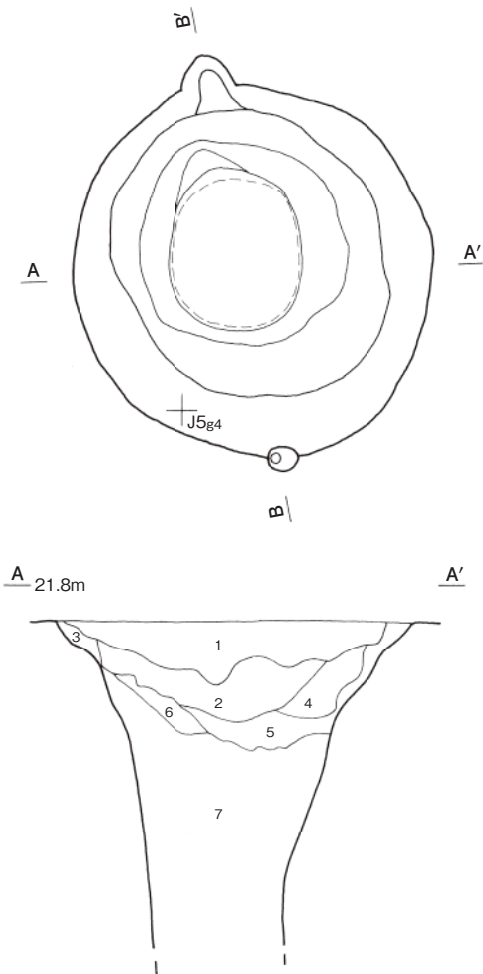
SE164



第 262 图 漏斗状井戸跡実測図 (3)



SE168



SE169



第 263 图 漏斗状井戸跡実測図 (4)

第 141 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 7 黒 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 8 灰 褐 色 粘土ブロック多量, ロームブロック微量
- 9 黒 色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量
- 10 黒 色 粘土粒子中量, ローム粒子微量
- 11 極暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量

第 142 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量
- 3 黒 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量

第 143 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量

第 144 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量

第 145 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック微量
- 6 黒 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 150 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 粘土ブロック微量
- 3 明 褐 色 ローム粒子多量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 黒 色 ローム粒子微量
- 6 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 9 にぶい橙色 粘土ブロック多量

第 151 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

第 154 号井戸跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 褐 色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 8 褐 色 ロームブロック多量

第 155 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 9 褐 色 ロームブロック中量

第 156 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 灰 褐 色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量

第 159 号井戸跡土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 3 黒 色 粘土粒子中量, ローム粒子微量
- 4 黒 色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量

第 163 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 褐 灰 色 粘土粒子中量, ローム粒子少量

第 164 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子少量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量

第 168 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 169 号井戸跡土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 砂粒微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 6 灰 褐 色 砂粒中量, ロームブロック少量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量

表 17 中世・近世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		断 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
141	H8d4	-	円形	1.32 × 1.32	(192)	漏斗状	-	人為		SD225 →本跡
142	I8g4	N - 2° - W	円形	1.34 × 1.26	(150)	漏斗状	-	自然		
143	I8h8	N - 18° - W	楕円形	1.28 × 1.10	(184)	漏斗状	-	人為		SI2347 →本跡 →SK3142
144	G7a8	N - 60° - W	[円形]	[1.66] × 1.54	(91)	漏斗状	-	人為		本跡→SK3972
145	H6f9	N - 1° - W	楕円形	2.10 × 1.90	(156)	漏斗状	-	自然		SI2361・2396・2397 →本跡
146	H7c8	N - 75° - W	楕円形	1.84 × 1.58	(120)	円筒状	-	人為		
147	H6e0	N - 5° - W	円形	1.02 × 0.96	(152)	円筒状	-	人為		
149	H4f7	N - 5° - E	楕円形	0.84 × 0.76	(64)	円筒状	-	-		SD264 →本跡
150	K3h6	-	円形	2.17 × 2.08	(175)	漏斗状	-	人為	土師器片, 土師質土器片, 五輪塔	
151	H4g6	N - 37° - W	楕円形	1.19 × 0.93	(58)	漏斗状	-	人為	土師器片	
152	K3g6	N - 51° - W	楕円形	1.66 × 1.13	(198)	円筒状	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	
153	K3e9	N - 7° - W	楕円形	1.74 × 1.52	(192)	漏斗状	-	人為	土師器片, 土師質土器片, 陶器片	SD404 →本跡
154	J4g1	N - 86° - W	楕円形	1.70 × 1.51	(94)	漏斗状	-	人為	土師器片, 須恵器片	
155	J4c1	-	円形	1.64 × 1.54	150	漏斗状	-	人為	土師器片, 須恵器片	
156	J4c4	-	円形	2.06 × 2.00	(172)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	SD278 →本跡
157	K3h6	-	円形	1.45 × 1.40	(120)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	
158	K3d5	N - 60° - E	楕円形	1.65 × 1.42	(150)	円筒状	-	-		SD405 新旧不明
159	L3b8	N - 35° - E	楕円形	1.45 × 1.05	(68)	漏斗状	-	人為	土師器片	
160	K3f5	-	円形	1.05 × 0.97	(105)	円筒状	-	人為	土師器片, 木製品	
161	L3f7	-	円形	2.08 × 2.00	(168)	漏斗状	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	
162	L3g6	-	円形	1.00 × 1.00	(140)	円筒状	-	-	土師質土器片	
163	L3b2	-	円形	1.00 × 1.00	(85)	漏斗状	-	人為		SD405 新旧不明
164	L3c4	N - 57° - W	楕円形	1.12 × 0.93	(156)	漏斗状	-	人為	土師質土器片, 陶器片	本跡→SD388
165	J3c9	-	円形	1.00 × 1.00	(86)	円筒状	-	人為		
166	K3e5	N - 0°	楕円形	0.92 × 0.76	(84)	円筒状	-	人為	土師質土器片	
167	K3d4	N - 18° - E	楕円形	0.84 × 0.36	(65)	円筒状	-	人為		
168	J6h1	-	円形	1.60 × 1.48	205	漏斗状	-	人為	土師器片	SI2978 →本跡
169	J5f4	-	円形	3.00 × 2.85	254	漏斗状	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄鏃	
170	J4g9	-	円形	2.98 × 2.82	(243)	漏斗状	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	SD274 →本跡
171	J5i2	-	円形	2.35 × 2.22	(210)	漏斗状	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	
172	J5d4	-	円形	0.91 × 0.90	(170)	円筒状	-	人為		

(4) 地下式坑

第 74 号地下式坑 (第 264 図)

位置 調査区北部の G 7 b8 区, 標高 20 m ほどの斜面部上段に位置している。

軸長・軸方向 軸長は 2.14 m で, 主軸方向は N - 145° - E である。

竪坑 主室の北西壁中央部に位置し, 奥行 0.80 m, 横幅 1.10 m の長方形である。深さは 54cm で, 壁はほぼ直立してしている。底面は緩やかに傾斜し, 主室の底面とは 34cm の段差をなしている。

主室 奥行 1.34 m, 横幅 1.66 m の隅丸長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で, 確認面からの深さは 88cm で, 四周の壁は北西側以外はほぼ直立している。

覆土 10 層に分層できる。第 3・4 層は天井部の崩落土に相当し, それより下層は竪坑側から流入した堆積

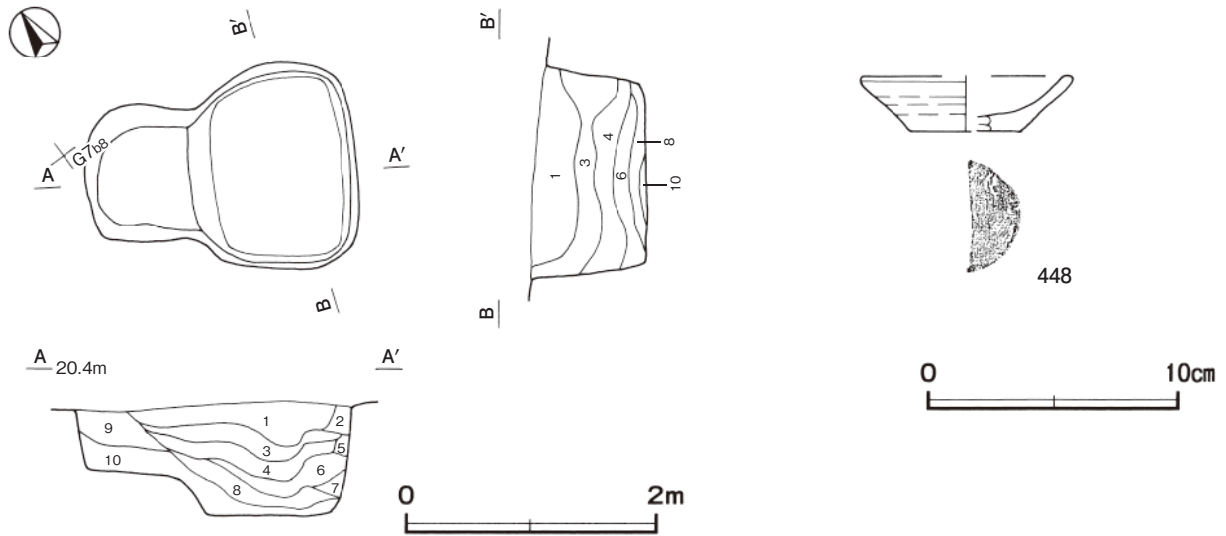
状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|----------|-----------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐 色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | | |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (小皿) が出土しているほか, 流れ込んだ土師器片 32 点 (坏 1, 甕 31), 須恵器片 25 点 (坏 21, 鉢 1, 甕 3) が出土している。448 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 遺構の形状と出土土器から中世後半と考えられる。



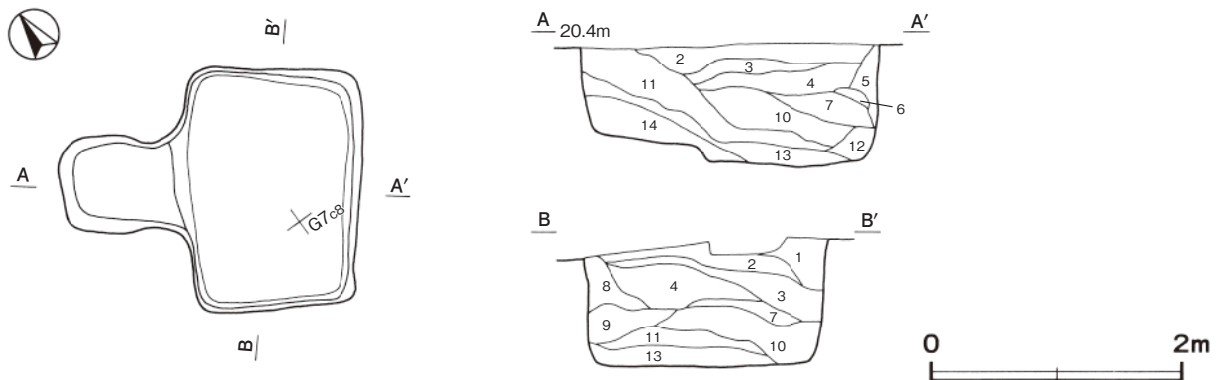
第 264 図 第 74 号地下式坑・出土遺物実測図

第 74 号地下式坑出土遺物観察表 (第 264 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
448	土師質土器	小皿	[8.2]	2.2	[4.4]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ	覆土中	40%

第 75 号地下式坑 (第 265 図)

位置 調査区北部の G 7 b7 区, 標高 20 m ほどの斜面部上段に位置している。



第 265 図 第 75 号地下式坑実測図

軸長・軸方向 軸長は2.37 mで、主軸方向はN - 144° - Eである。

竪坑 主室の北西壁中央部に位置し、奥行0.90 m、横幅0.77 mの長方形である。深さは70cmで、壁はほぼ直立してしている。底面は緩やかに傾斜し、主室の底面とは10cmの段差をなしている。

主室 奥行1.47 m、横幅1.90 mの長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは94cmで、四周の壁は北西側以外は直立して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。第3・4・10層は天井部の崩落土に相当し、それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

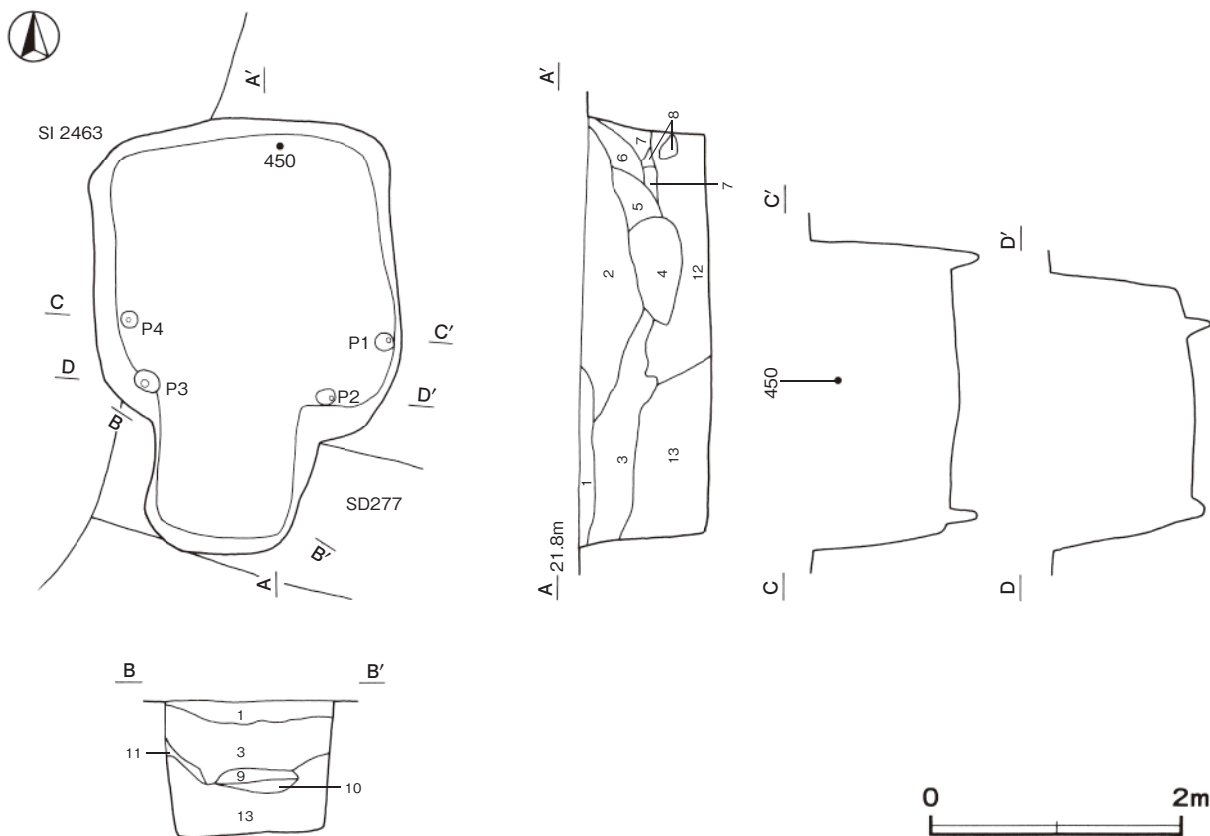
- | | | | |
|-------|-----------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 鉄滓1点が出土しているほか、流れ込んだ土師器片27点（坏5，甕22），須恵器片5点（坏3，蓋1，甕1）が出土している。

所見 時期は、隣接する第74号地下式坑と規模、形状、主軸方向がほぼ同じであることから、中世後半と考えられる。

第76号地下式坑（第266・267図）

位置 調査区西部のI 4j9区、標高22 mほどの平坦な台地上に位置している。



第266図 第76号地下式坑実測図

重複関係 第 2463 号住居跡，第 277 号溝跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は 3.47 m で，主軸方向は N - 3° - E である。

竪坑 主室の南壁中央部に位置し，奥行 1.02 m，横幅 1.20 m の長方形である。深さは 104cm で，壁はほぼ直立している。底面は平坦で，そのまま主室に至っている。

主室 奥行 2.27 m，横幅 2.41 m の隅丸長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で，確認面からの深さは 115cm で，四周の壁は南側以外は外傾して立ち上がっている。

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 13 ~ 28cm で，柱穴と考えられる。

覆土 13 層に分層できる。第 4 層は天井部の崩落土に相当し，ほかは不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------|------------|----------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 極 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 黒 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック多量 | 11 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 5 極 暗 褐 色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 12 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック中量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 75 点（坏 17，甕 58），須恵器片 10 点（坏 5，甕 5），土師質土器片 34 点（香炉 1，内耳鍋 33）が出土している。450 は北部の覆土上層から出土している。449 は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から中世後半と考えられる。



第 267 図 第 76 号地下式坑出土遺物実測図

第 76 号地下式坑出土遺物観察表（第 267 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
449	土師質土器	香炉	-	(3.1)	[8.5]	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	ロクロナデ 脚貼付（残存 1）	覆土中	10%
450	土師質土器	内耳鍋	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳 1 か所残存	上層	5% 外面煤付着

第 77 号地下式坑（第 268 図）

位置 調査区南西部の J 5 c7 区，標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2486 号住居跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は 4.98 m で，軸方向は N - 30° - E である。

竪坑 主室の南側に位置し，奥行 1.72 m，横幅 0.62 m の不整長方形である。深さは 140 ~ 165cm で，壁はほぼ直立している。底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。主室の底面とは 25cm の段差をなしている。

主室 奥行 1.70 m，横幅 3.26 m の隅丸長方形である。天井部は崩落しており，底面は竪坑部へ向ってやや傾斜している。確認面からの深さは 152cm で，竪坑側を除く三方の壁はほぼ直立している。

覆土 7 層に分層できる。第 6・7 層は天井部の崩落土に相当し，各層にロームブロックが含まれていること

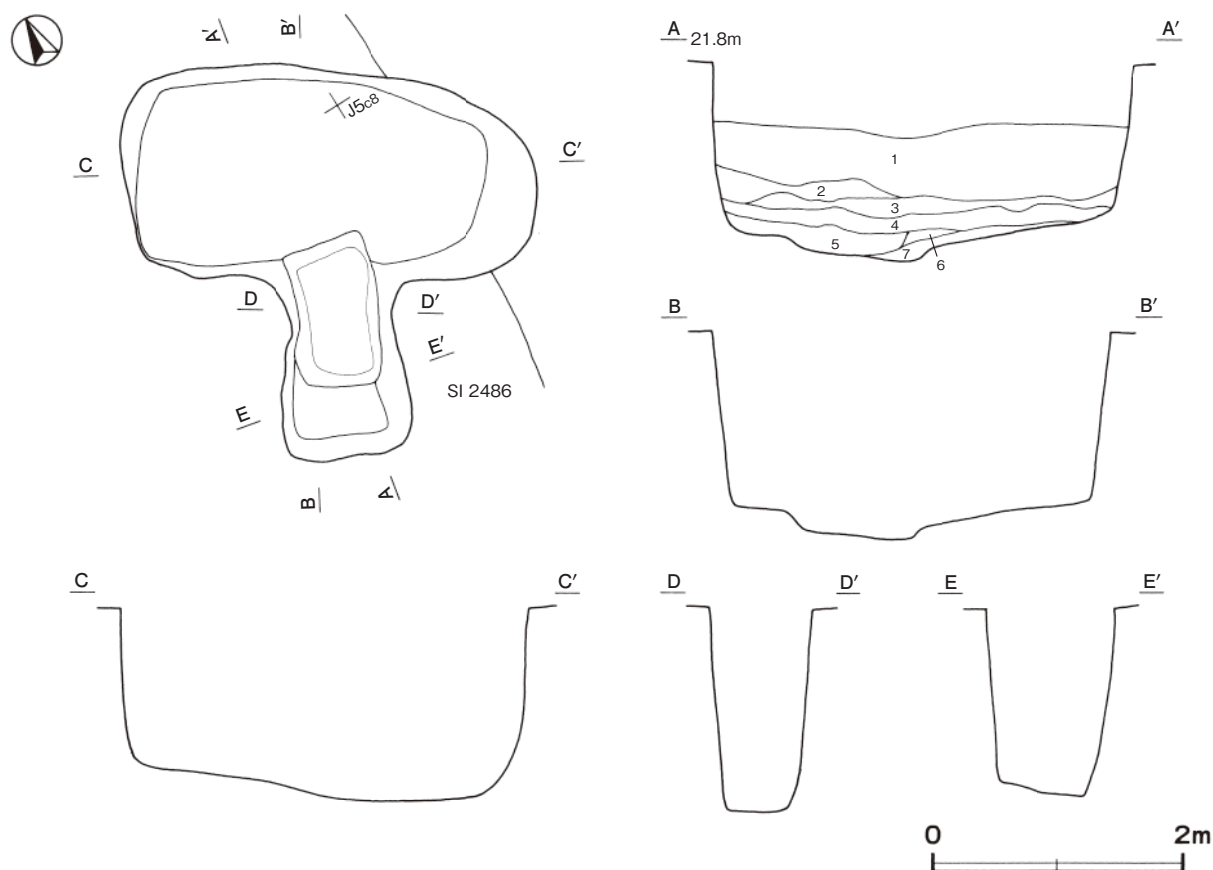
から埋め戻されいる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 暗褐色 砂粒少量, ロームブロック微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 にぶい褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | 7 にぶい褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片 69 点 (坏 13, 甕 56), 須恵器片 2 点 (壺), 土師質土器片 6 点 (内耳鍋) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から中世後半と考えられる。



第 268 図 第 77 号地下式坑実測図

第 78 号地下式坑 (第 269 図)

位置 調査区南西部の J 5 a4 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向 軸長は 4.16 m で, 軸方向は N - 27° - E である。

竪坑 主室の南側に位置し, 奥行 1.65 m, 横幅 1.85 m の不整長方形である。深さは 110cm で, 壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で主室に至っている。主室の底面との段差はほとんどない。

主室 奥行 1.90 m, 横幅 2.35 m の不整長方形である。天井部は崩落しており, 底面は竪坑部へ向ってやや傾斜している。確認面からの深さは 116cm で, 北・西壁は外傾して, 東壁は内彎して立ち上がっている。

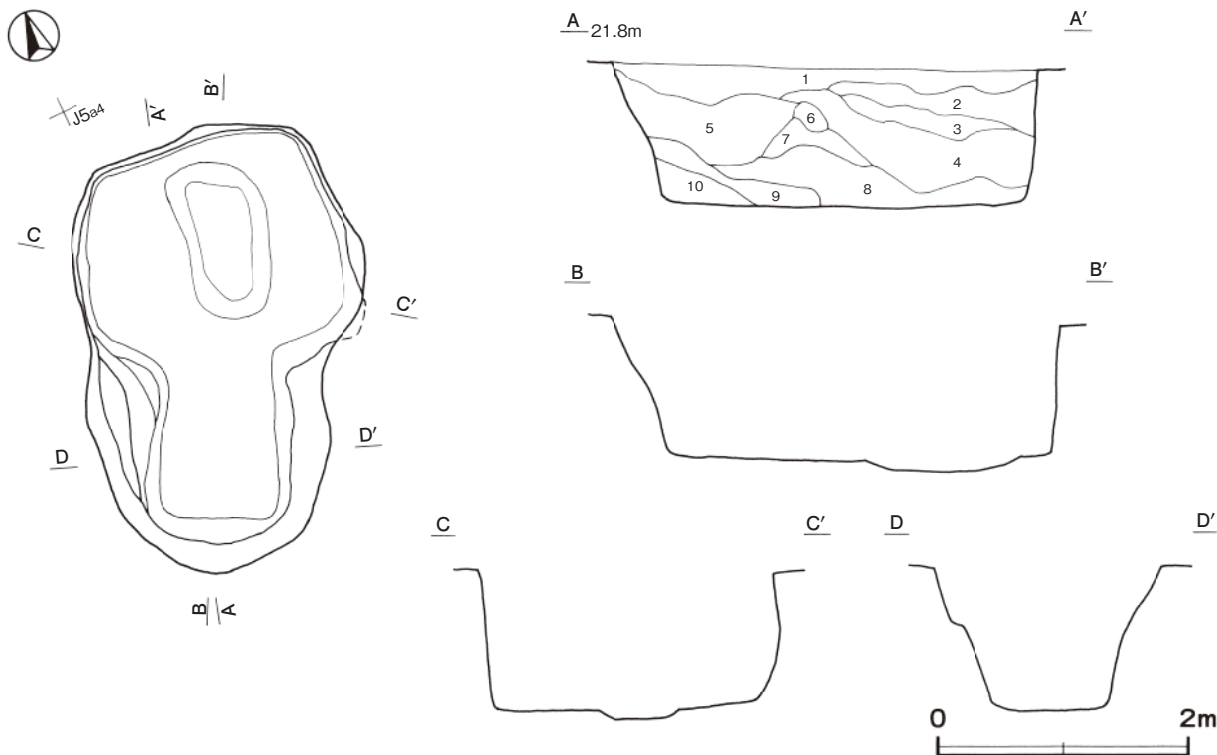
覆土 10 層に分層できる。第 9・10 層は竪坑から流れ込んだ層である。第 6～8 層は天井部の崩落層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 4, 甕 7), 須恵器片 1 点 (甕), 土師質土器片 10 点 (内耳鍋), 陶器片 1 点 (不明) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第 269 図 第 78 号地下式坑実測図

表 18 中世・近世地下式坑一覧表

番号	位置	平面形		軸方向	軸長 (m)	主室規模			竪坑規模			覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
		主室	竪坑			奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
74	G7b8	隅丸長方形	長方形	N - 145° - E	2.14	1.34	1.66	88	0.80	1.10	54	自然	土師質土器片	
75	G7b7	長方形	長方形	N - 144° - E	2.37	1.47	1.90	94	0.90	0.77	70	自然	鉄滓	
76	I4j9	隅丸方形	長方形	N - 3° - E	3.47	2.27	2.41	115	1.02	1.20	104	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	SI2463.SD277 → 本跡
77	J5c7	隅丸長方形	不整長方形	N - 30° - E	4.98	1.70	3.26	152	1.72	0.62	140~165	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	SI2486 → 本跡
78	J5a4	不整長方形	不整長方形	N - 27° - E	4.16	1.90	2.35	116	1.65	1.85	110	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片	

(5) 火葬土坑

第 3211 号土坑 (第 270 図)

位置 調査区北部の G 7e6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 246 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた全長 1.5 m の呂字状で、主軸方向は N - 35° - E である。北東部に主軸方向と直交する推定横幅 0.95 m、奥行 0.83 m で隅丸長方形の焚口部がある。確認できた深さは 15cm である。0.18 m 離れた南西部に、主軸方向と直交する横幅 0.8 m、奥行 0.4 m で楕円形の燃焼部が存在する。深さは 8 cm で、底面は平坦である。焚口部と燃焼部を連結するように長さ 1.12 m で、上幅 0.28 m、下幅 0.15 m、深さ 15cm の通気溝が存在する。通気溝の底面は、焚口部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。通気溝では焼土が確認されている。

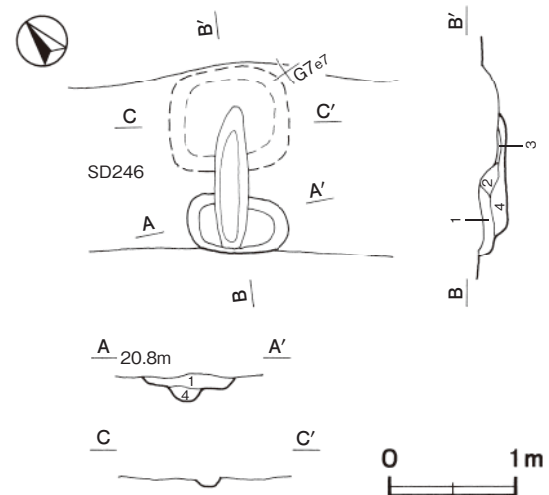
覆土 4層に分層できる。第4層に骨片が確認されていることから、遺体を火葬した後の堆積土と考えられる。火葬後、ロームブロックを含む土で埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 燃焼部から通気溝にかけて、骨片や骨粉が出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世後半と考えられるが、詳細については不明である。



第 270 図 第 3211 号土坑実測図

第 3212 号土坑 (第 271 図)

位置 調査区北部の G 7 d6 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 246 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 全長 1.5 m の呂字状で、主軸方向は N - 52° - W である。北西部に主軸方向と直交する推定横幅 0.95 m、奥行 0.86 m で隅丸長方形の焚口部がある。確認できた深さは 12cm である。0.18 m 離れた南東部に、主軸方向と直交する横幅 0.82 m、奥行 0.58 m の楕円形の燃焼部が存在する。深さは 12cm で、底面は平坦である。焚口部と燃焼部を連結するように長さ 1.17 m で、上幅 0.30 m、下幅 0.15 m、深さ 18cm の通気溝が存在する。通気溝の底面は、焚口部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。通気溝では焼土が確認されている。

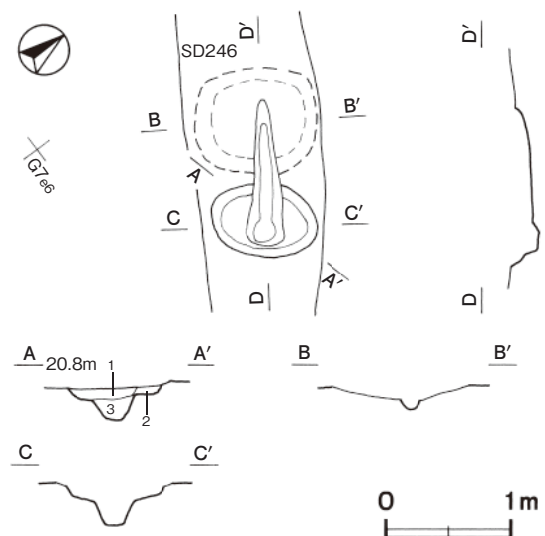
覆土 3層に分層できる。第1・3層に骨片が確認されていることから、遺体を火葬した後の堆積土と考えられる。火葬後、ロームブロックを含む土で埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 燃焼部と通気溝にかけて、骨片と骨粉が出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世後半と考えられるが、詳細については不明である。



第 271 図 第 3212 号土坑実測図

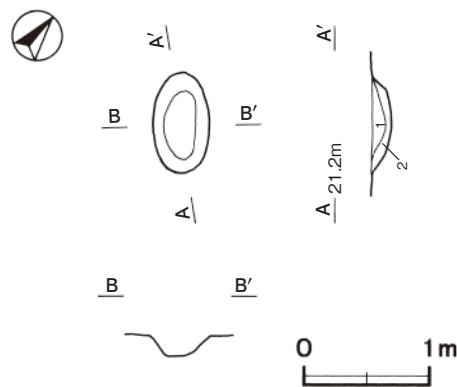
表 19 中世・近世火葬土坑一覧表

番号	位置	平面形	軸方向	全長 (m)	焚口部				燃焼部				通気溝			覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
					奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	底面	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	底面	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)			
3211	G7e6	呂字状	N - 35° - E	1.5	[0.83]	[0.95]	15	平坦	0.40	0.80	8	平坦	0.28	0.15	15	人為	骨片, 骨粉	本跡→SD246
3212	G7d6	呂字状	N - 52° - W	1.5	[0.86]	[0.95]	12	平坦	0.58	0.82	12	平坦	0.3	0.15	18	人為	骨片, 骨粉	本跡→SD246

(6) 墓坑

第 3220 号土坑 (第 272 図)

位置 調査区中央部の G 7 e5 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状 長径 0.78 m, 短径 0.46 m の楕円形で, 長径方向は N - 43° - W である。深さは 18 cm で, 底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

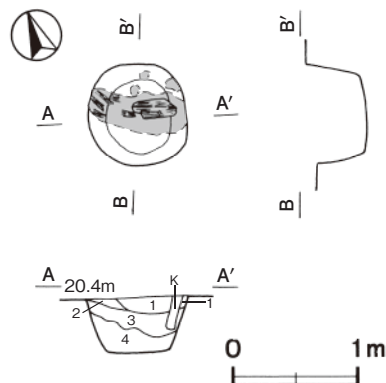
遺物出土状況 覆土下層から人骨片が出土している。覆土中から土師器片 1 点 (甕) が出土しているが, 細片のため図示できない。

第 272 図 第 3220 号土坑実測図

所見 人骨片が出土していることから, 墓坑と推測できる。時期は, 伴う土器が出土していないため明確でないが, 規模や形状から中世から近世と考えられる。

第 3252 号土坑 (第 273 図)

位置 調査区中央部の H 7 c0 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状 長径 0.82 m, 短径 0.79 m の円形である。深さは 45 cm で, 底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。第 3・4 層はレンズ状に堆積しているが, 上層の第 1・2 層は炭化物とロームブロックがやや多く含まれている土が堆積しており, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土ブロック・骨片少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第 273 図 第 3252 号土坑実測図

遺物出土状況 覆土上層から炭化材と焼土, 人骨片が出土している。

所見 覆土の堆積状況から, 土坑が自然に埋没したあとのくぼみで焼成行為がなされたものと推測でき, 火葬土坑あるいは埋葬にかかわる施設の可能性がある。時期は, 土器が出土していないため明確ではないが, 規模や形状から中世から近世と考えられる。

第 3270 号土坑 (第 274 図)

位置 調査区中央部の I 6 a7 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2551 号住居跡を掘り込んでいる。第 20 号道路跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 0.88 m, 短径 0.63 m の楕円形で, 長径方向は N - 55° - W である。深さは 30cm で, 底面はほぼ平坦であり, 壁は緩やかに立ち上がっている。

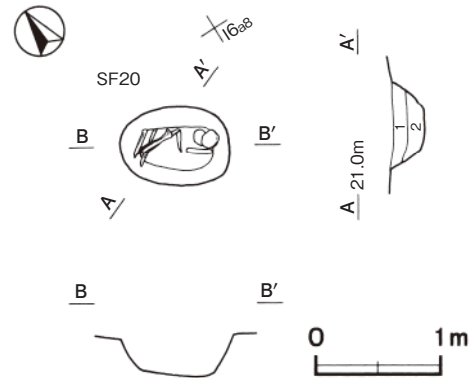
覆土 2 層に分層できる。骨片・ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 骨片少量, ロームブロック微量

遺物出土状況 南東部の底面から人骨の頭蓋骨及び上腕骨の一部, 北西部の底面から大腿骨の一部が出土している。

所見 人骨が出土していることから, 墓坑と推測できる。時期は, 土器が出土していないため明確ではないが, 規模や形状から中世から近世と考えられる。



第 274 図 第 3270 号土坑実測図

第 3277 号土坑 (第 275 図)

位置 調査区西部の J 4 b7 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

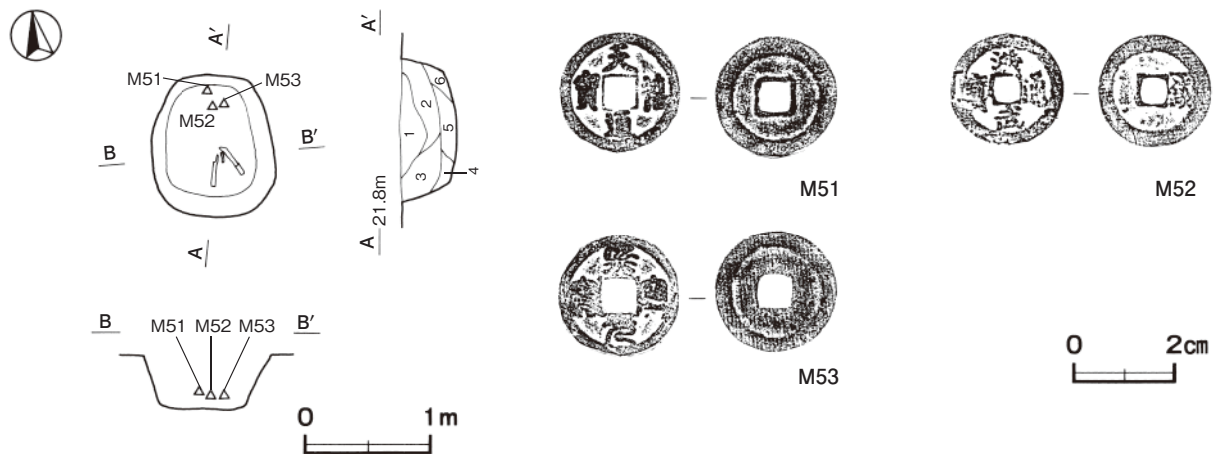
規模と形状 長径 1.13 m, 短径 0.97 m の楕円形で, 長径方向は N - 8° - E である。深さは 43cm で, 底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれ, 各層がブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------|-------|---------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ローム粒子少量, 骨粉微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 底面から人骨片が, 覆土下層から銭貨 3 点 (天禧通寶, 洪武通寶, 熙寧元寶) がそれぞれ出土している。覆土中から混入した土師器片 9 点 (坏 2, 甕 7), 須恵器片 2 点 (坏), 陶器片 1 点 (播鉢) が出土している。M 51 ~ M 53 は, 北部の覆土下層から出土している。



第 275 図 第 3277 号土坑・出土遺物実測図

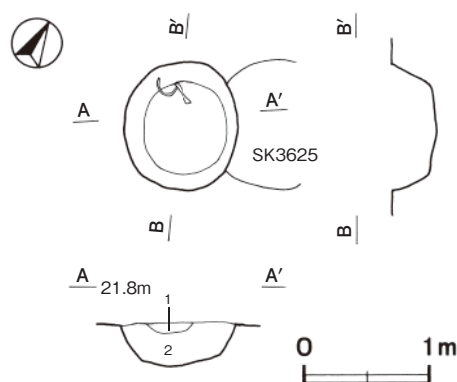
所見 人骨片や銭貨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。

第 3277 号土坑出土遺物観察表 (第 275 図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
M 51	銭貨	2.5	0.55	0.1	3.4	銅	天禧通寶 初铸 1017 年	下層	PL82
M 52	銭貨	2.3	0.45	0.1	3.5	銅	洪武通寶 初铸 1368 年	下層	PL82
M 53	銭貨	2.5	0.65	0.1	2.9	銅	熙寧元寶 初铸 1068 年	下層	PL82

第 3624 号土坑 (第 276 図)

位置 調査区西部の J 4 d5 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 276 図 第 3624 号土坑実測図

重複関係 第 3625 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.02 m, 短径 0.91 m の楕円形で, 長径方向は N - 40° - W である。深さは 34cm で, 底面は皿状であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

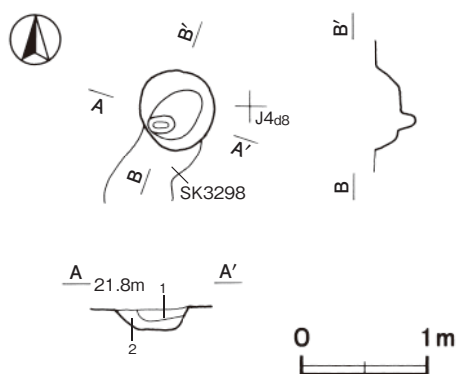
- 1 黒褐色 ローム粒子極微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土下層から人骨片が出土している。覆土中から混入した土師器片 2 点 (甕) が出土している。

所見 人骨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、伴う土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第 3658 号土坑 (第 277 図)

位置 調査区西部の J 4 d7 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 277 図 第 3658 号土坑実測図

重複関係 第 3298 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.64 m, 短径 0.60 m の円形である。深さは 18cm で, 底面は皿状であり, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 骨粉少量, ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 人骨片が出土している。

所見 人骨が出土していることから、墓坑と推測できる。時期は、土器が出土していないため明確ではないが、規模や形状から中世から近世と考えられる。

第 5856 号土坑 (第 278 図)

位置 調査区南部の J 6 f2 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.16 m, 短径 0.79 m の楕円形で, 長径方向は N - 23° - E である。深さは 25cm で, 底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

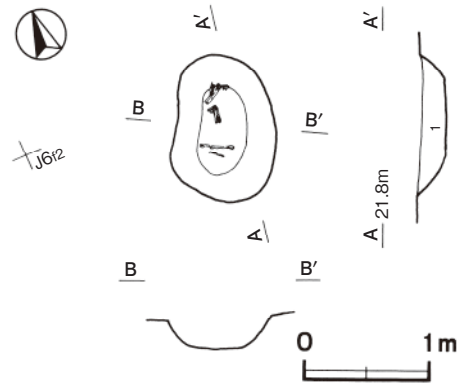
覆土 単一層であり, ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 人骨の右側上腕骨及び下顎骨が底面から出土している (付章参照)。

所見 人骨が出土していることから, 墓坑と推測できる。時期は, 土器が出土していないため明確ではないが, 規模や形状から近世と考えられる。



第 278 図 第 5856 号土坑実測図

表 20 中世・近世墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3220	G 7 e5	N - 43° - W	楕円形	0.78 × 0.46	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 人骨片	
3252	H 7 c0	-	円形	0.82 × 0.79	45	外傾	平坦	人為	人骨片, 炭化材	
3270	I 6 a7	N - 55° - W	楕円形	0.88 × 0.63	30	緩斜	平坦	人為	人骨片	SI2551 → 本跡 SF20 新旧不明
3277	J 4 b7	N - 8° - E	楕円形	1.13 × 0.97	43	外傾	平坦	人為	銭貨, 人骨片	
3624	J 4 d5	N - 40° - W	楕円形	1.02 × 0.91	34	外傾	皿状	人為	人骨片	SK3625 → 本跡
3658	J 4 d7	-	円形	0.64 × 0.60	18	緩斜	皿状	人為	人骨片	SK3298 → 本跡
5856	J 6 f2	N - 23° - E	楕円形	1.16 × 0.79	25	外傾	平坦	人為	人骨片	

(7) 土坑

今回の調査で確認できた中世・近世の土坑 31 基のうち, 遺物が出土した土坑 11 基と馬骨を伴う土坑 2 基については文章で解説し, 火を用いた痕跡のある土坑 18 基については実測図と土層解説, 一覧表で掲載する。

ア 土坑

第 3078 号土坑 (第 279 図)

位置 調査区北西部の F 9 i8 区, 標高 19 m ほどの平坦な台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 218 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.36 m, 短軸 1.08 m の不定形で, 長軸方向は N - 76° - E である。深さは 51cm で, 底面には凹凸があり, 壁は外傾して立ち上がっている。

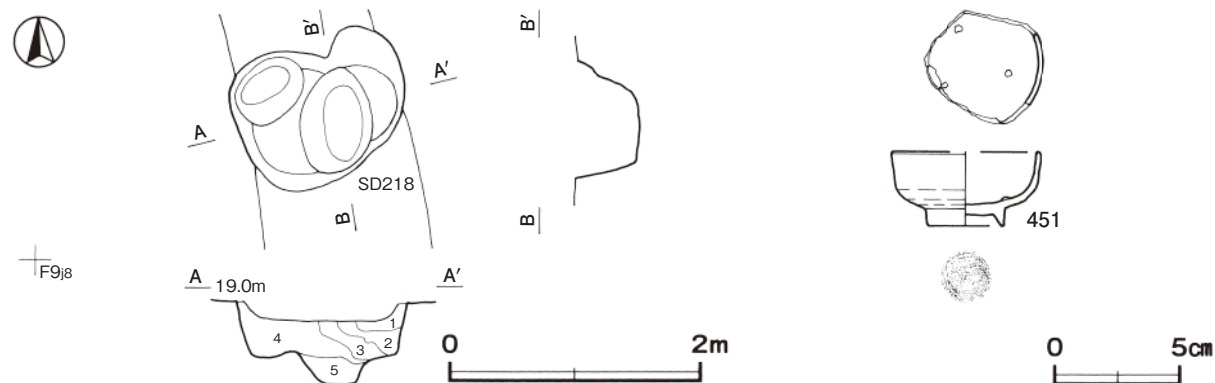
覆土 5 層に分層できる。多くの層に粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄橙色 粘土ブロック・ローム粒子少量
 2 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
 3 にぶい黄橙色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量
 4 暗 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量
 5 にぶい黄橙色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量

遺物出土状況 陶器片1点（小杯）が出土している。また、土師器片3点（甕）も出土している。451は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀後半と考えられる。性格については不明である。



第 279 図 第 3078 号土坑・出土遺物実測図

第 3078 号土坑出土遺物観察表（第 279 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
451	陶器	小杯	[5.8]	2.9	3.0	緻密	浅黄	良好	ロクロナデ 底部内面トチン痕	覆土中	40% PL68

第 3240 号土坑（第 280 図）

位置 調査区中央部の G 7j9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.76 m、短径 0.72 m の円形である。深さは 12 cm で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

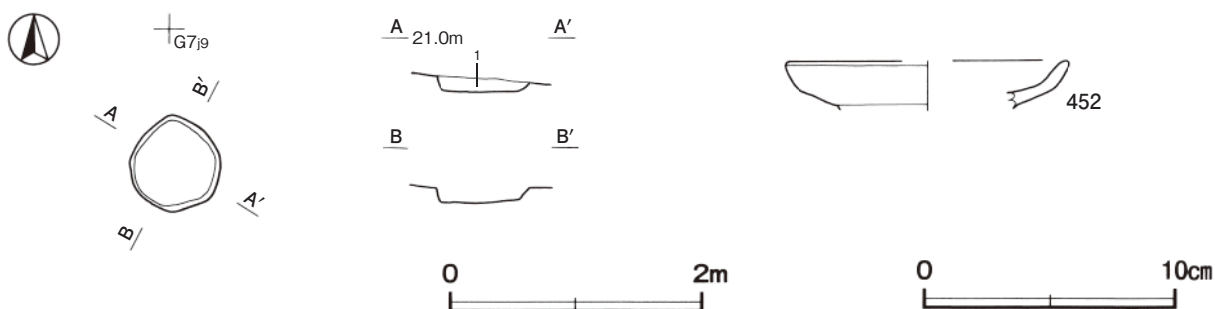
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄橙色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片1点（小皿）が出土している。また、土師器片1点（甕），須恵器片1点（坏）も出土している。452は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から近世後半と考えられる。性格については不明である。



第 280 図 第 3240 号土坑・出土遺物実測図

第 3240 号土坑出土遺物観察表 (第 280 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	陶器	小皿	[11.0]	(2.0)	-	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	5% 瀬戸・美濃系

第 3612 号土坑 (第 281・282 図)

位置 調査区南西部の J 4 a9 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 1.38 m, 短軸 1.22 m の不定形で, 長軸方向は N - 56° - W である。深さは 94 cm で, 底面は凹凸があり, 壁は外傾して立ち上がっている。

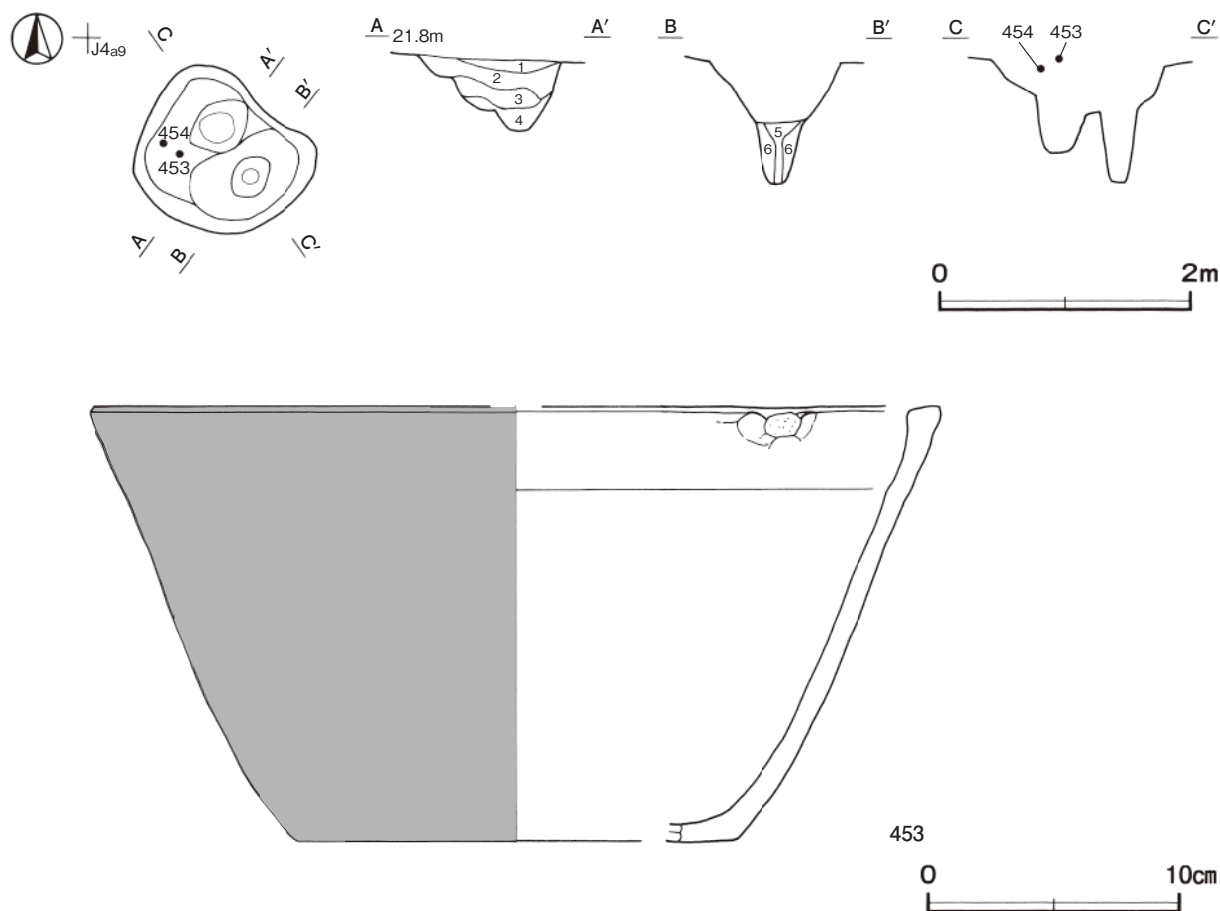
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

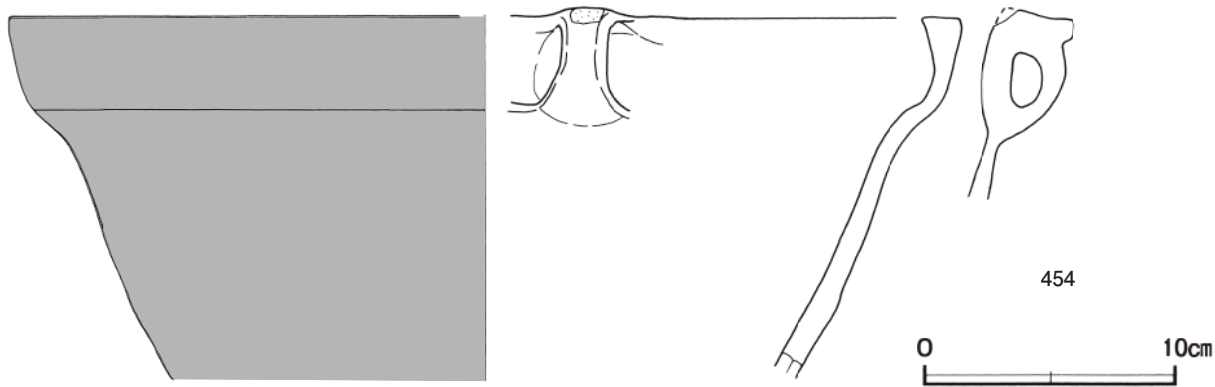
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (内耳鍋) が出土している。また, 土師器片 11 点 (坏 3, 甕 8), 須恵器片 1 点 (坏) も出土している。453・454 は北西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 15 世紀後半と考えられる。形状から柱穴の可能性が考えられるが, 建物の配列や構造を特定することはできなかった。



第 281 図 第 3612 号土坑・出土遺物実測図



第 282 図 第 3612 号土坑出土遺物実測図

第 3612 号土坑出土遺物観察表 (第 281・282 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
453	土師質土器	内耳鍋	[33.5]	17.2	[17.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	上層	20% 外面煤付着
454	土師質土器	内耳鍋	[37.8]	(14.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	上層	10% 外面煤付着

第 3619 号土坑 (第 283 図)

位置 調査区南西部の J 4 h8 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 2.12 m, 短軸 1.14 m の長方形で, 長軸方向は N - 10° - E である。深さは 40cm で, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

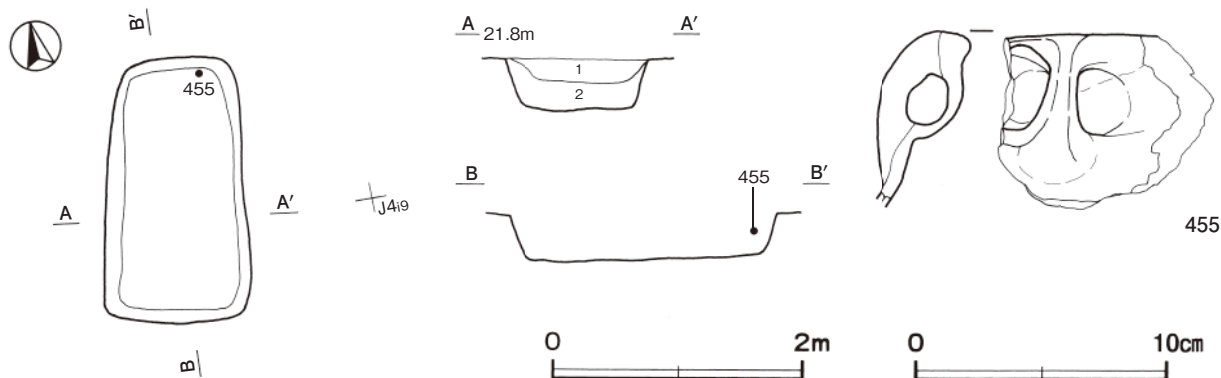
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 6 点 (内耳鍋) が出土している。また, 流れ込んだ土師器片 21 点 (坏 3, 甕 18), 須恵器片 5 点 (坏 4, 瓶類 1) も出土している。455 は北部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 16 世紀前半と考えられる。性格については不明である。



第 283 図 第 3619 号土坑・出土遺物実測図

第 3619 号土坑出土遺物観察表 (第 283 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
455	土師質土器	内耳鍋	-	(6.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	中層	5% 外面煤付着

第 3661 号土坑 (第 284・285 図)

位置 調査区南西部の J 4 d9 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 281 号溝に掘り込まれている。

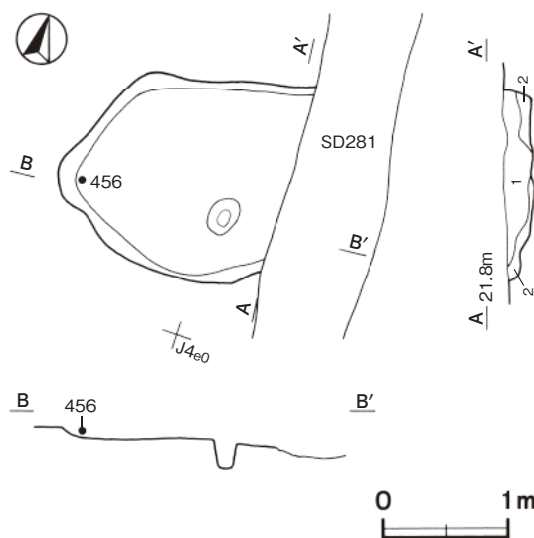
規模と形状 東部が第 281 号溝に掘り込まれているため, 南北軸は 1.58 m で, 東西軸は 1.81 m しか確認できなかった。東西軸方向は N - 78° - E で, 平面形は不定形と推定される。深さは 22cm で, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。底面の南部には, 長径 30cm, 短径 20cm の楕円形で, 深さ 23cm のピットが確認できた。性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

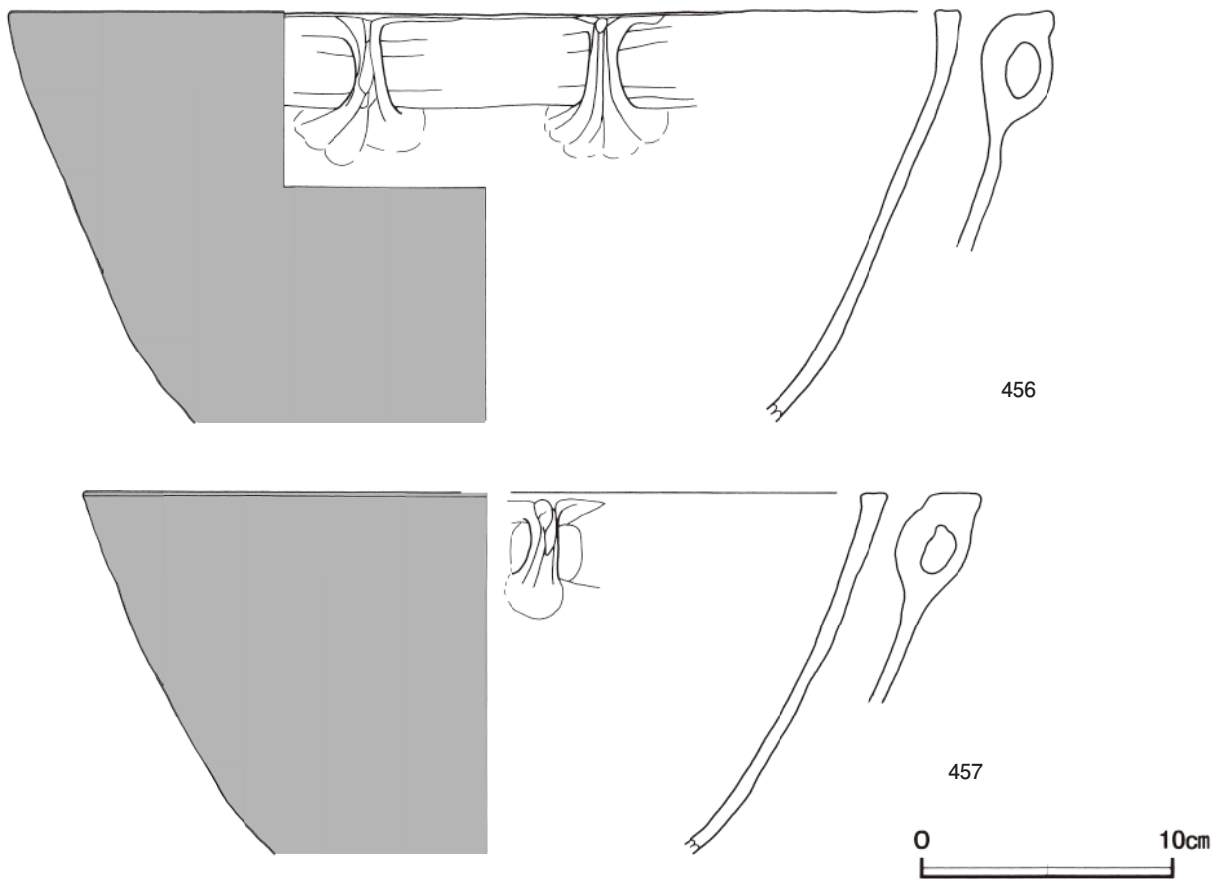
遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (内耳鍋) が出土して



第 284 図 第 3661 号土坑実測図

いる。また, 土師器片 39 点 (坏 12, 甕 27), 須恵器片 2 点 (甕) も出土している。456 は西壁際の覆土下層, 457 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 15 世紀後半と考えられる。性格については不明である。



第 285 図 第 3661 号土坑出土遺物実測図

第 3661 号土坑出土遺物観察表 (第 285 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
456	土師質土器	内耳鍋	[37.8]	(16.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳2か所残存	下層	30% 外面煤付着
457	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(14.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	覆土中	10% 外面煤付着

第 3995 号土坑 (第 286 図)

位置 調査区北部の G 7 f 2 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.20 m, 短径 0.88 m の楕円形で, 長径方向は N - 53° - W である。深さは 32cm で, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

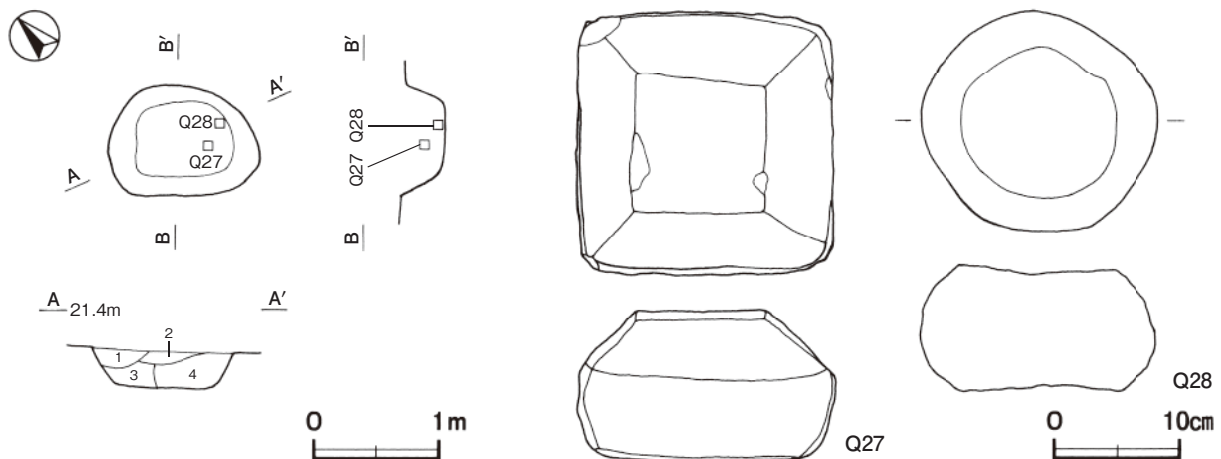
覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 石製品 2 点 (五輪塔) が出土している。また, 土師器片 3 点 (甕), 須恵器片 1 点 (坏) も出土している。Q 28 は東部の底面, Q 27 は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から中世と考えられる。出土遺物から墓坑との関連性が考えられるが, 詳細については不明である。



第 286 図 第 3995 号土坑・出土遺物実測図

第 3995 号土坑出土遺物観察表 (第 286 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 27	五輪塔	21.2	20.6	12.0	(8,180)	花崗岩	火輪 一部欠損	下層	
Q 28	五輪塔	17.6	18.9	10.0	4,780	花崗岩	水輪	底面	

第 5631 号土坑 (第 287 図)

位置 調査区南西部の K 3 i 5 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 405 号溝跡を掘り込み, 第 398 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.56 m の円形である。深さは 40cm で, 底面は皿状であり, 壁は緩やかに傾斜している。

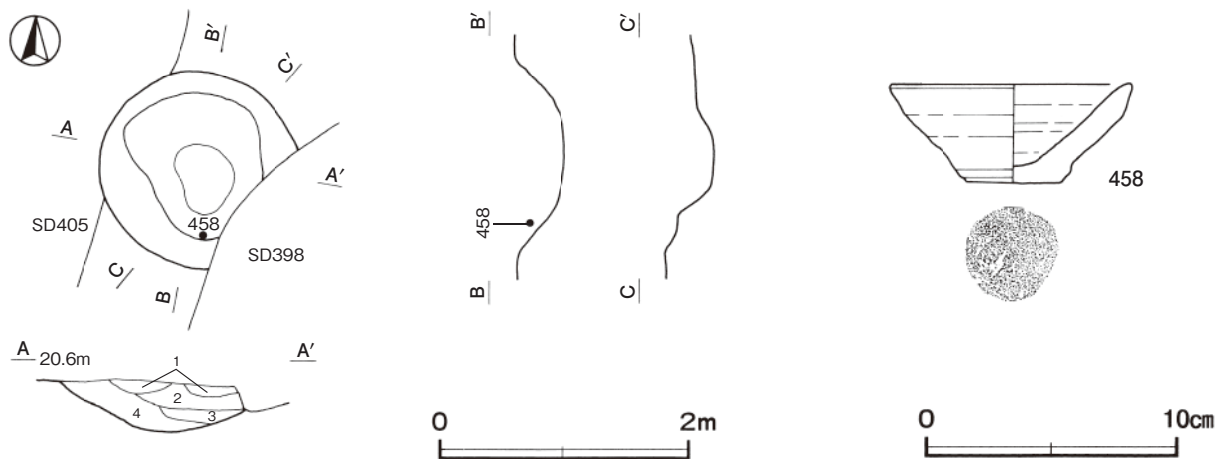
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量
 4 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 21 点（小皿 1，内耳鍋 19，播鉢 1）が出土している。また，縄文土器片 1 点（深鉢），土師器片 11 点（坏 6，甕 5），も出土している。458 は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から 15 世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第 287 図 第 5631 号土坑・出土遺物実測図

第 5631 号土坑出土遺物観察表（第 287 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
458	土師質土器	小皿	9.5	3.9	3.8	長石・石英	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	中層	90%

第 5637 号土坑（第 288・289 図）

位置 調査区南西部の L3d5 区，標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 404 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.04 m，短径 0.88 m の楕円形で，長径方向は N - 70° - E である。深さは 48cm で，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

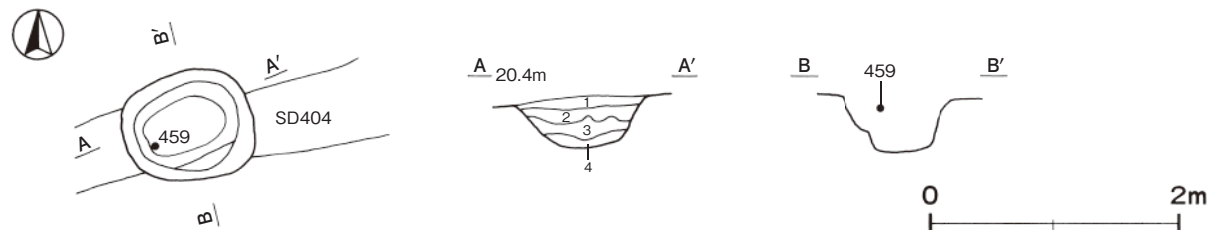
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

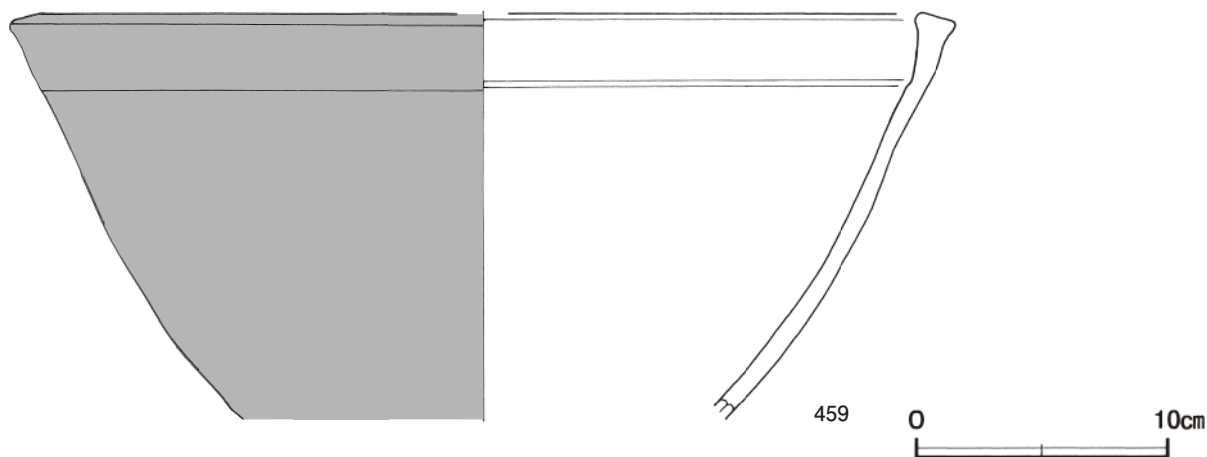
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量
 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（鍋）が出土している。また，須恵器片 1 点（蓋）も出土している。459 は南西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から 15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第 288 図 第 5637 号土坑実測図



第 289 図 第 5637 号土坑出土遺物実測図

第 5637 号土坑出土遺物観察表 (第 289 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
459	土師質土器	鍋	[35.0]	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	上層	30% 外面煤付着

第 5670 号土坑 (第 290 図)

位置 調査区南西部の L 3 c5 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.74 m, 短径 0.68 の円形である。深さは 72cm で, 底面は平坦であり, 壁は直立して立ち上がっている。

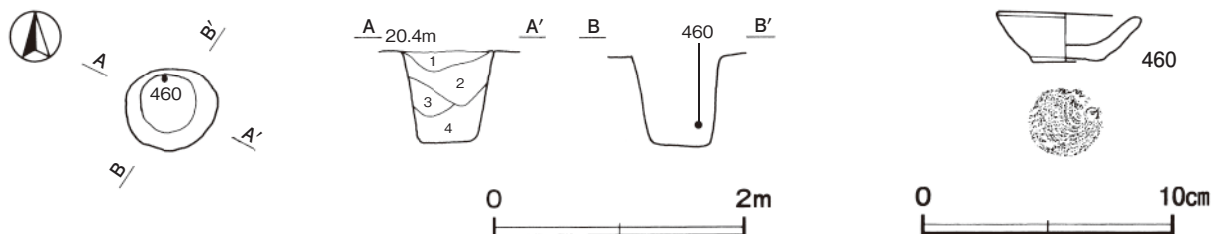
覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 3 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片 6 点 (小皿 1, 播鉢 5) が出土している。また, 須恵器片 1 点 (蓋) も出土している。460 は北部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 16 世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第 290 図 第 5670 号土坑・出土遺物実測図

第 5670 号土坑出土遺物観察表 (第 290 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
460	土師質土器	小皿	5.6	2.0	2.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	下層	90% PL67

第 5672 号土坑 (第 291 図)

位置 調査区南西部の L 3 c8 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 5673 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.19 m の円形である。深さは 26cm で, 底面は平坦であり, 壁は緩やかに傾斜している。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

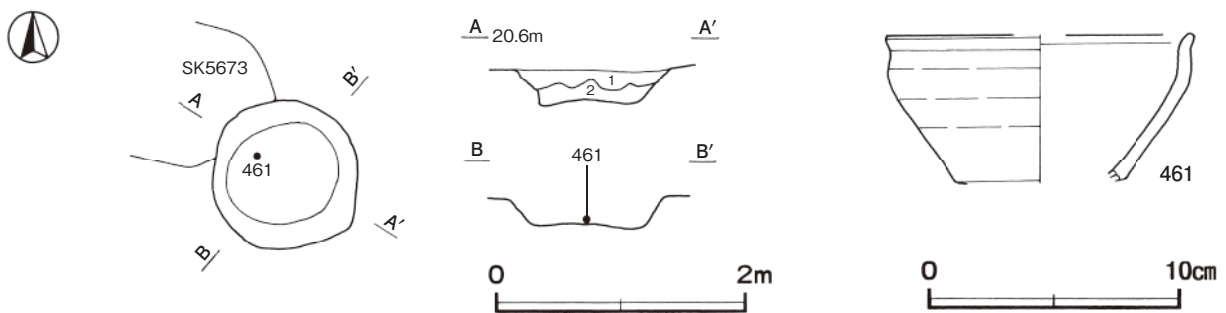
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片 1 点 (天目茶碗) が出土している。また, 土師器片 4 点 (坏 1, 甕 3) も出土している。461 は中央部の底面から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 16 世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第 291 図 第 5672 号土坑・出土遺物実測図

第 5672 号土坑出土遺物観察表 (第 291 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
461	陶器	天目茶碗 [12.2]	(5.9)	-	精良 鉄釉	黒褐	良好	外・内面鉄釉 底部周辺露胎		底面	10%

第 5687 号土坑 (第 292・293 図)

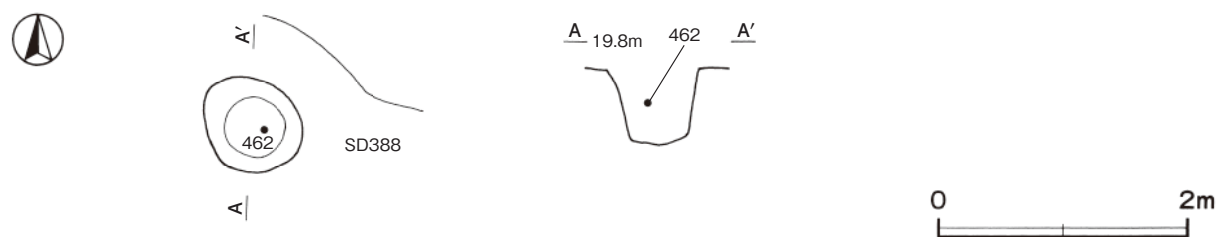
位置 調査区南西部の L 3 c4 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 388 号溝に掘り込まれている。

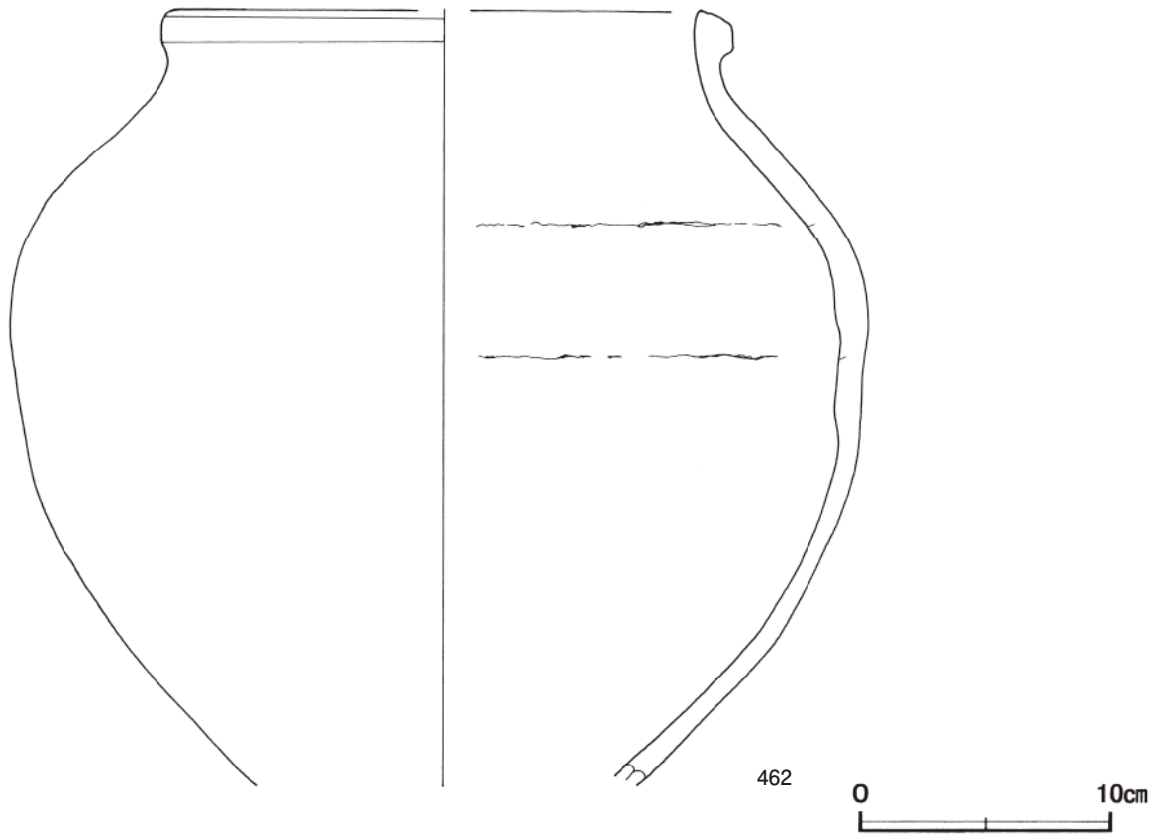
規模と形状 長径 0.88 m, 短径 0.74 m の楕円形で, 長径方向は N - 52° - W である。深さは 56cm で, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (甕) が出土している。また, 須恵器片 1 点 (甕) も出土している。462 は南東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から中世中期と考えられる。性格は不明である。



第 292 図 第 5687 号土坑実測図



第 293 図 第 5687 号土坑出土遺物実測図

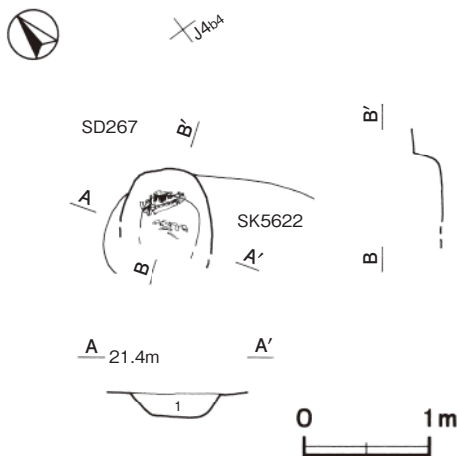
第 5687 号土坑出土遺物観察表 (第 293 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
462	土師質土器	甕	[22.4]	(30.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外・内面ナデ	中層	50% PL68

イ 馬骨を伴う土坑

第 5618 号土坑 (第 294 図)

位置 調査区南西部の J 4 b3 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 294 図 第 5618 号土坑実測図

重複関係 第 5622 号土坑, 第 267 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西半部に攪乱を受けているため, 北西・南東径は 0.72 m, 北東・南西径は 0.54 m しか確認できなかった。北東・南西径方向は N - 35° - E で, 平面形は楕円形と推定される。深さは 18cm で, 底面は平坦であり, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 覆土上層から馬骨 10 点 (馬歯 7, 頭骨 3) が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係や形状などから中世以降と考えられる。性格は不明である。

第 5656 号土坑 (第 295 図)

位置 調査区西部の I 4j3 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 267 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.14 m, 短径 1.06 m の円形である。深さは 16 cm で、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

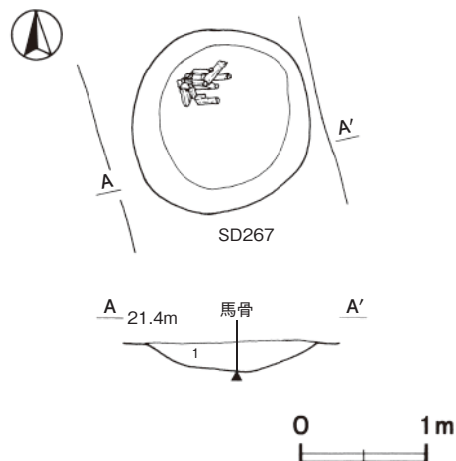
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

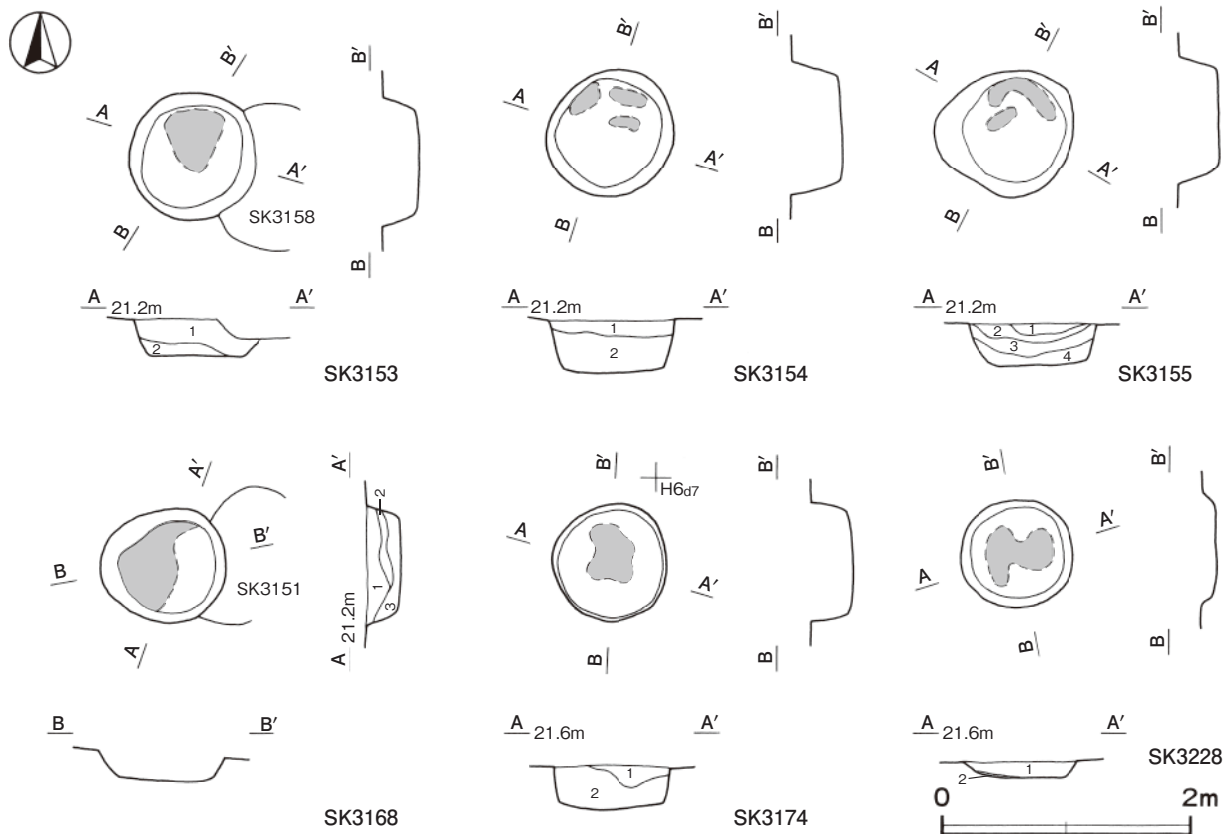
遺物出土状況 底面から馬骨片 14 点(左側の中手骨・手根骨, 中足骨)が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係や形状などから中世以降と考えられる。性格は不明である。

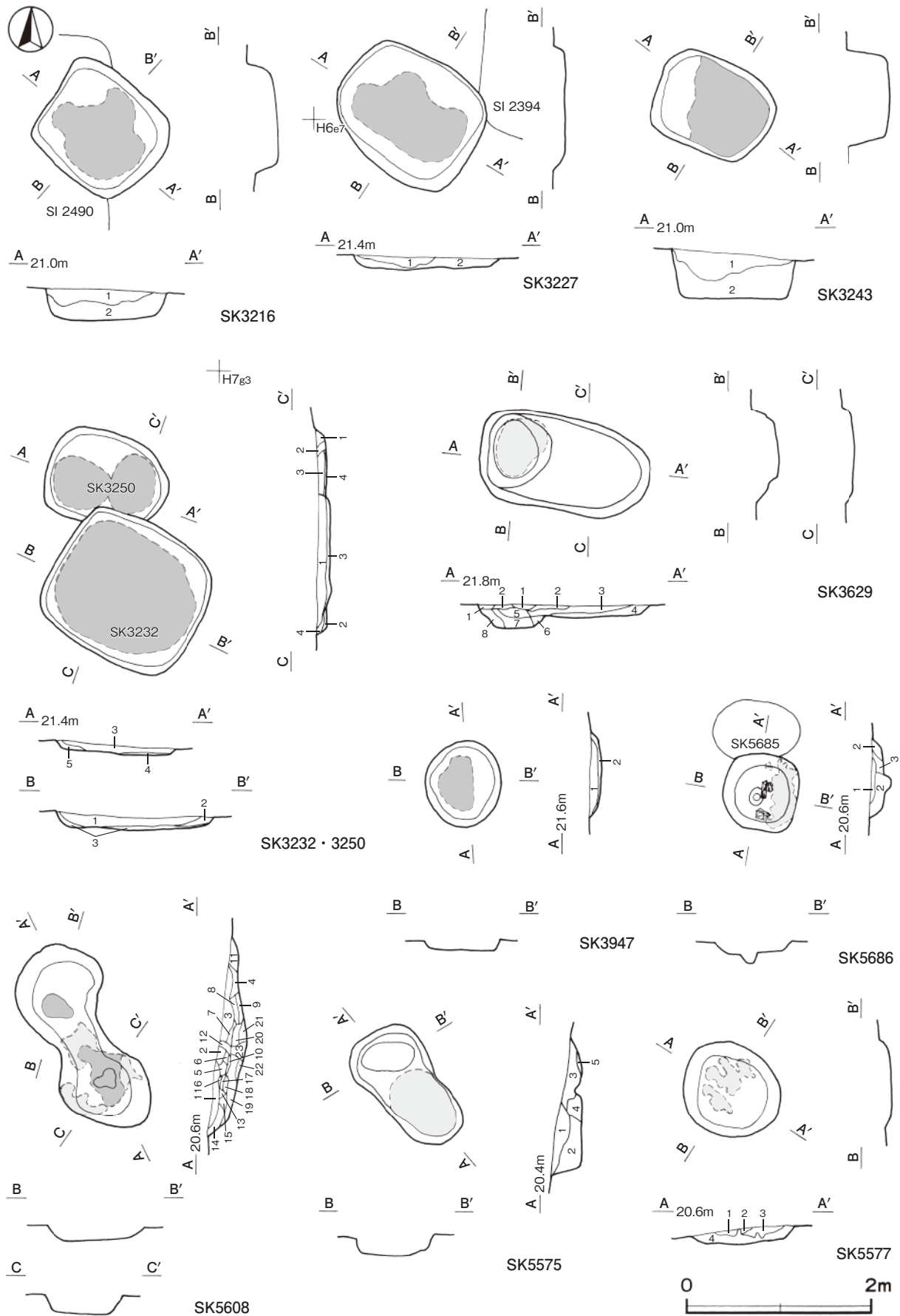


第 295 図 第 5656 号土坑実測図

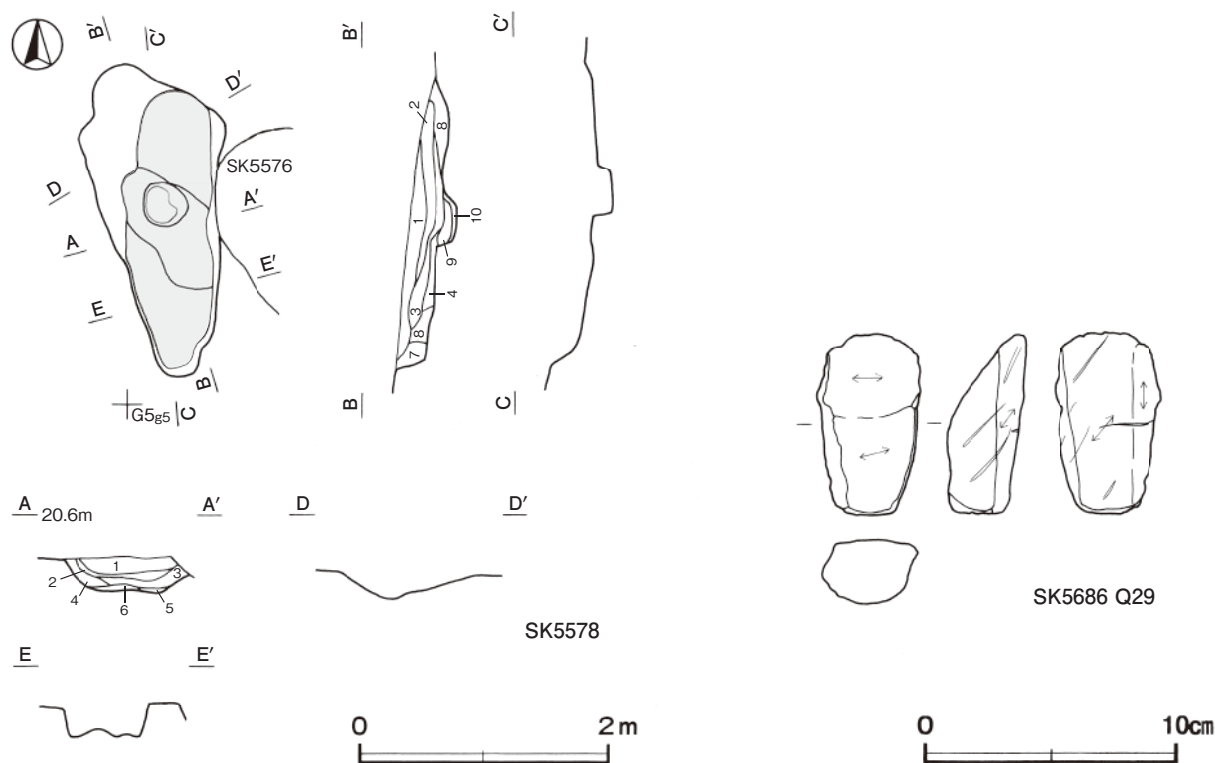
ウ 火を用いた痕跡のある土坑 (第 296 ~ 298 図)



第 296 図 火を用いた痕跡のある土坑実測図 (1)



第 297 図 火を用いた痕跡のある土坑実測図 (2)



第 298 図 火を用いた痕跡のある土坑（3）・出土遺物実測図

第 5686 号土坑出土遺物観察表（第 298 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 29	砥石	7.2	4.2	3.1	91.3	凝灰岩	砥面 3 面	覆土中	PL76

第 3153 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量

第 3154 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 3155 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第 3168 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 3174 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 3216 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第 3227 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 3228 号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 黒色 炭化材中量, ローム粒子微量

第 3232 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第 3243 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 3250 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第 3629 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子極微量
- 2 赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子極微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック極微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量
- 5 赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量, ロームブロック極微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量

第 3947 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 5575 号土坑土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量
- 2 黒 褐 色 炭化物多量
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量
- 4 明 赤 褐色 焼土ブロック多量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

第 5577 号土坑土層解説

- 1 赤 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 赤 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

第 5578 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 褐 色 ロームブロック微量
- 7 黒 褐 色 炭化粒子少量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 9 暗 赤 褐色 炭化物中量, 焼土粒子少量
- 10 褐 色 ロームブロック中量

第 5608 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子少量
- 2 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 (2より粘性強)
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 炭化粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック少量
- 8 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量
- 9 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 10 黒 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 11 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 13 黒 褐 色 焼土ブロック少量
- 14 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 16 明 赤 褐色 焼土粒子少量
- 17 にぶい橙色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 18 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 19 黒 色 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 20 明 赤 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 21 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 22 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 23 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 5686 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒 色 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子中量

表 21 中世・近世土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3078	F9h8	N - 76° - E	不定形	1.36 × 1.08	51	外傾	凹凸	人為	陶器片	本跡→SD218
3240	G7j9	-	円形	0.76 × 0.72	12	外傾	平坦	人為	陶器片	
3612	J4a9	N - 56° - W	不定形	1.38 × 1.22	94	外傾	凹凸	人為	土師質土器片	
3619	J4h8	N - 10° - E	長方形	2.12 × 1.14	40	外傾	平坦	自然	土師質土器片	
3661	J4d9	N - 78° - E	[不定形]	(1.81) × 1.58	22	外傾	平坦	人為	土師質土器片	本跡→SD281
3995	G7f2	N - 53° - W	楕円形	1.20 × 0.88	32	外傾	平坦	人為	五輪塔	
5631	K3i5	-	[円形]	1.56 × 1.56	40	緩斜	皿状	人為	土師質土器片	SD405 →本跡 →SD398
5637	L3d5	N - 70° - E	楕円形	1.04 × 0.88	48	外傾	平坦	人為	土師質土器片	SD404 →本跡 SB510 新旧不明
5670	L3c5	-	円形	0.74 × 0.68	72	直立	平坦	人為	土師質土器片	
5672	L3c8	-	円形	1.19 × 1.19	26	緩斜	平坦	人為	陶器片	SK5673 →本跡
5687	L3c4	N - 52° - W	楕円形	0.88 × 0.74	56	外傾	平坦	-	土師質土器片	本跡→SD388

表 22 馬骨を伴う土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5618	J4b3	N - 35° - E	[楕円形]	0.72 × (0.54)	18	緩斜	平坦	人為	馬骨	SK5622,SD267 → 本跡
5656	I4j3	-	円形	1.14 × 1.06	16	緩斜	皿状	人為	馬骨	SD267 →本跡

表 23 火を用いた痕跡のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3153	G7j5	-	円形	1.07 × 1.01	30	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡→SK3158
3154	G7j5	-	円形	1.05 × 0.97	40	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3155	G7j6	-	円形	1.03 × 1.02	33	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3168	G7j6	-	円形	1.00 × 0.92	27	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK3151 新旧不明
3174	H6d6	-	円形	0.92 × 0.91	35	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3216	H7c7	N - 50° - W	隅丸長方形	1.28 × 1.18	28	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2490 →本跡
3227	H6e7	N - 54° - W	隅丸長方形	1.58 × 1.34	14	緩斜	平坦	人為		SI2394 →本跡
3228	H6f7	-	円形	0.89 × 0.85	12	緩斜	平坦	人為	土師器片	
3232	H7g2	N - 58° - W	隅丸方形	1.68 × 1.52	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 磁器片	SK3250 →本跡
3243	G7i8	N - 63° - W	隅丸長方形	1.26 × 1.01	46	外傾	平坦	人為	土師器片	
3250	H7g2	N - 71° - W	楕円形	1.32 × 1.00	12	緩斜	平坦	人為		本跡→SK3232
3629	J4c6	N - 89° - W	楕円形	1.85 × 1.00	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	SB321 新旧不明
3947	H6c8	N - 4° - W	楕円形	0.92 × 0.80	14	緩斜	平坦	自然		
5575	G5f5	N - 35° - W	楕円形	1.43 × 0.75	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
5577	G5e6	N - 44° - W	楕円形	1.11 × 0.98	11	緩斜	平坦	人為		
5578	G5f5	N - 10° - W	楕円形	2.53 × 0.93	29	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK5576
5608	G5e6	N - 29° - W	不定形	2.15 × 0.49	5 ~ 13	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片	
5686	L3c8	N - 8° - E	隅丸方形	0.82 × 0.80	13	緩斜	平坦	人為	砥石	SK5685 →本跡

(8) 道路跡

当調査区からは2条の道路跡が検出されており、いずれも中世から近世にかけて機能していたと考えられる。以下、遺構の特徴について記述するが、ここでは土層断面のみを掲載し、平面図は全体図に示す。

第 19 号道路跡 (第 299 図, 付図 1・2)

位置 調査区北部の G 9 f4 ~ G 9 g8 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上から斜面部中段に位置している。

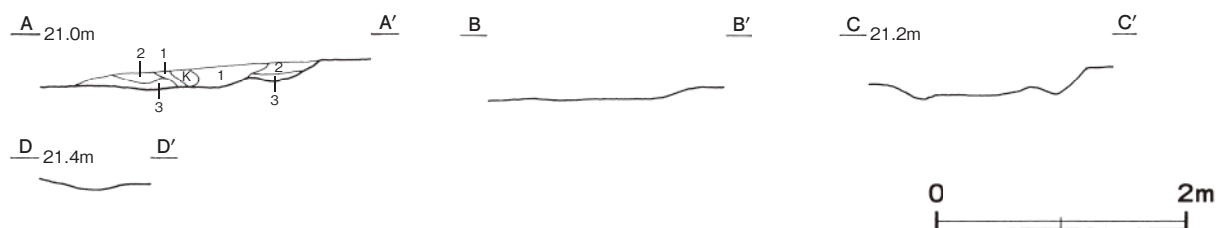
重複関係 第 220 号溝跡を掘り込み, 第 219 号溝に掘り込まれている。

規模と構造 G 9 g8 区の南東部から西方向 (N - 68° - W) に直線的に延び, 確認できた長さは 18.62 m である。規模は上幅 0.4 ~ 1.6 m, 下幅 0.2 ~ 0.8m, 深さ 15cm である。断面は浅い U 字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量



第 299 図 第 19 号道路跡実測図

所見 時期は、重複関係から中世から近世にかけて機能していたものと考えられる。

第20号道路跡（第300図，付図1・2）

位置 調査区北部のH6g3～J7a8区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。平成16年度に北西部の長さ27.5mと南西部の32.5m，平成20年度に中央部25.6mが調査された。また，平成16年度には南西側が調査区域外（現況道路）であったため，北東側しか調査できなかった。ここでは遺存状態のよい平成20年度調査部分を中心に記述する。

重複関係 第2355・2494・2551・3030号住居跡，第5996号土坑を掘り込み，第6007号土坑に掘り込まれている。第3270号土坑，第57号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 H6g3区から南東方向（N-46°-W）にJ7a8区まで直線的に延びているが，両端とも調査区域外に延びているため，長さは85.6mしか確認できなかった。規模は上幅1.7～2.3m，下幅0.7～1.1m，深さ10～36cmである。I6a7区からI7g2区までの南西側では，側溝が長さ25.6mにわたって確認された。規模は上幅0.3～0.9m，下幅0.2～0.5mで，深さ15～30cmである。断面は浅いU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。北東側には側溝はなく，緩やかに外傾して立ち上がっている。

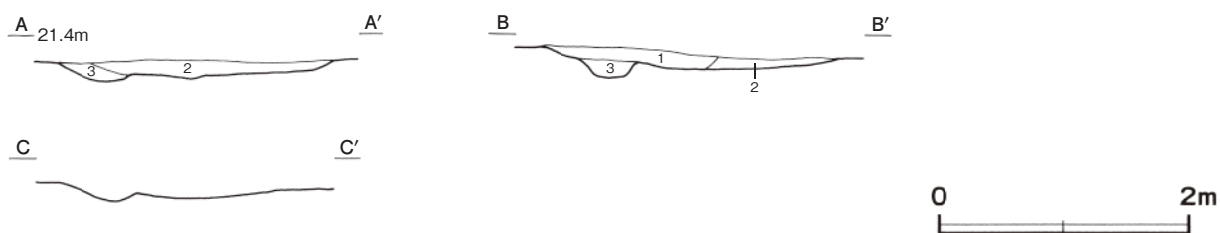
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片114点（坏6，甕類108），須恵器片13点（坏4，高台付坏1，甕類8），陶器片1点（瓶，甕），土製品1点（支脚）が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は，陶器片が常滑の甕片とみられることと重複関係から，中世から近世にかけて機能していたものと考えられる。明確な痕跡等は検出できなかったが，北東側に位置する第268号溝跡は幅約3.8mで併走していることから，本跡の側溝または土塁を挟む形で並行して機能していたことが想定できるが，詳細については不明である。



第300図 第20号道路跡実測図

表24 道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
19	G9f4～G9g8	N-68°-W	直線	18.62	0.4～1.6	0.2～0.8	15	浅いU字状	緩斜	自然		重複関係(古→新) SD220→本跡→SD219
20	H6g3～J7a8	N-46°-W	直線	(85.6)	0.3～2.3	0.2～1.1	10～36	浅いU字状	緩斜	自然	土師器片，須恵器片，陶器片，土製品	S12355・2494・2551・3030・SK5996→本跡→SK6007 SK3270.PG57 新旧不明

(9) 溝跡

第 218 号溝跡 (第 301 図, 付図 1・2)

位置 調査区北東部の F 9 i8 ~ G 9 g7 区, 標高 19 ~ 21 m の平坦な台地上から斜面部中段に位置している。

重複関係 第 3078 号土坑, 第 222・224 号溝跡を掘り込み, 第 3075 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは 32.4 m である。G 9 g7 区から北北東方向 (N - 22° - E) に直線的に延びている。上幅 0.90 ~ 1.50 m, 下幅 0.08 ~ 0.52 m, 深さ 47 ~ 52 cm で, 溝底は南端部が最も高く, 北端部との比高は 1.05 m である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

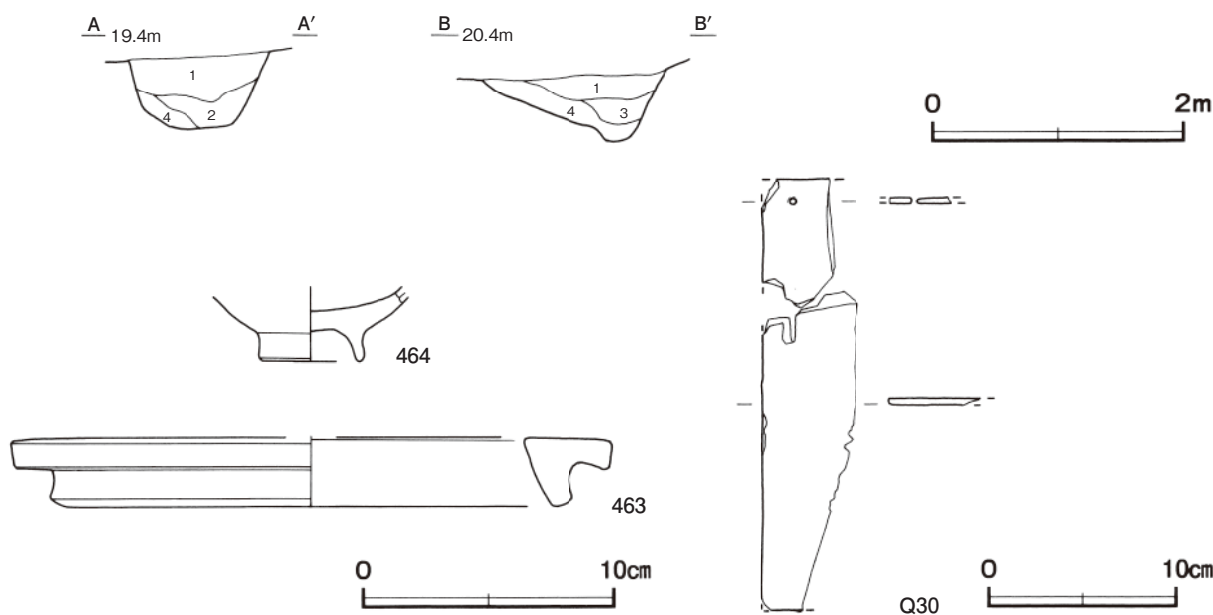
覆土 4 層に分層できる。多くの層に粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量 | 3 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄橙色 粘土ブロック中量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 74 点 (坏 8, 鉢 1, 甕 64, 甑 1), 須恵器片 7 点 (坏 1, 高台付坏 1, 甕 5), 土師質土器片 1 点 (五徳), 陶器片 7 点 (碗 1, 鉢 6), 磁器片 4 点 (碗), 石器・石製品 2 点 (縦長剥片, 石板) が出土している。463・464・Q 30 はいずれも覆土中から出土している。

所見 雨水等を北方向の谷津に排水する機能をもっていたものと推測できる。時期は, 出土土器や重複関係から 17 世紀後半と考えられる。



第 301 図 第 218 号溝跡・出土遺物実測図

第 218 号溝跡出土遺物観察表 (第 301 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
463	土師質土器	五徳	[23.8]	2.8	[19.6]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	覆土中	10% PL68
464	陶器	碗	-	(3.0)	3.9	緻密	にぶい黄橙	良好	畳付無釉	覆土中	30% 肥前系唐津

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 30	石板	[23.1]	(5.1)	0.3	(63.8)	滑石	孔 1 か所 孔径 0.3cm	覆土中	PL78

第 219 号溝跡（第 302 図，付図 1・2）

位置 調査区北東部の G 9 f3～G 9 j4 区，標高 20～21 m の平坦な台地上から斜面部上段に位置している。

重複関係 第 19 号道路跡，第 220 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さ 20.4 m で，G 9 j4 区から北西方向(N - 64° - W)に延び，G 9 i3 区で北北東方向(N - 20° - E)に屈曲して直線的に延びている。上幅 0.54～1.56 m，下幅 0.27～0.70 m，深さ 22～34cm で，溝底は東端部が最も高く，コーナー部との比高は 0.40 m，北端部との比高は 0.58 m である。断面形は U 字状で，壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

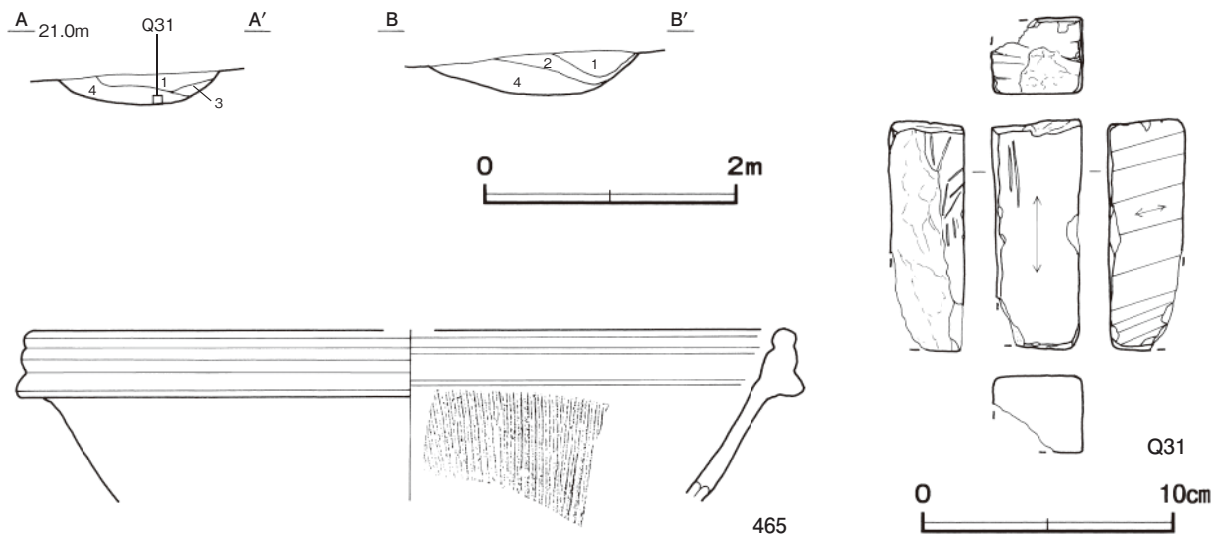
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 129 点(坏 3，高台付坏 1，甕 125)，陶器片 10 点(碗 3，鉢 6，播鉢 1)，磁器片 3 点(碗)，石器 1 点(砥石)が出土している。Q 31 は北部の底面から，465 は覆土中から出土している。

所見 形状から地境のための溝と考えられ，また，溝底の比高差から雨水等の排水の機能ももっていたものと推測できる。時期は，出土土器や重複関係から近世後半と考えられる。



第 302 図 第 219 号溝跡・出土遺物実測図

第 219 号溝跡出土遺物観察表（第 302 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
465	陶器	播鉢	[30.0]	(6.8)	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁帯三段 内面櫛目	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 31	砥石	9.1	3.6	3.0	(122.7)	凝灰岩	砥面 2 面 他は破断面	底面	PL76

第 220 号溝跡（第 303 図，付図 1・2）

位置 調査区北東部の G 9 f5～I 7 j9 区，標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2317・2326・2327・2329・2344・2352・2353 号住居跡を掘り込み，第 19 号道路，第 219 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端が調査区外に延びているため、確認できた長さは115.2mである。I 7j9区から北東方向(N-30°-E)に直線的に延びている。上幅0.95~2.76m, 下幅0.40~0.82m, 深さ23~42cmで、溝底は南端が最も高く、北端との比高差は0.50mである。断面形は、I 8b5区からI 8h1区までの長さ31.5mにわたってが浅いW字状で、その他は浅いU字状である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

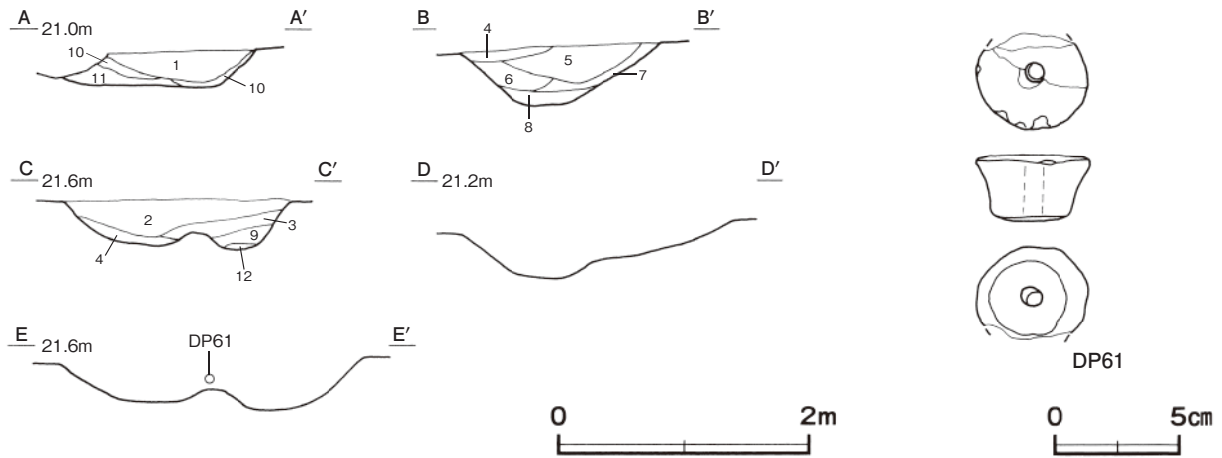
覆土 12層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片2150点(坏425, 高台付坏5, 甕1720), 須恵器片76点(坏31, 高台付坏1, 蓋1, 瓶類3, 甕40), 陶器片14点(碗), 磁器片10点(碗), 土製品2点(土玉, 紡錘車), 石器・石製品2点(砥石, 紡錘車), 鉄製品2点(不明)が覆土中から出土している。多量に出土している出土遺物は、多くの竪穴住居跡と重複しているために、埋め戻される際に混入したものと思われる。DP61は南西部の覆土中層から出土している。

所見 東側の台地部と西側の谷部を区画するための機能を有していたものと考えられ、また、溝底の比高差から雨水等の排水の機能ももっていたものと推測できる。時期は、出土土器や時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世と考えられる。



第303図 第220号溝跡・出土遺物実測図

第220号溝跡出土遺物観察表(第303図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP61	紡錘車	4.5	2.7	0.8	(35.8)	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	中層	

第224号溝跡 (第304図, 付図1・2)

位置 調査区北東部のG 9e6~G 9f6区, 標高20mほどの台地縁辺部上段に位置している。

重複関係 第218号溝に掘り込まれている。

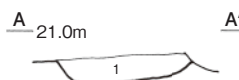
規模と形状 北端を第218号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは4.6mである。G 9f6区から北方向(N-4°-E)に直線的に延びている。上幅0.97~1.16m, 下幅0.56~0.89m, 深さ18cmで、溝底は

南端が最も高く、北部へ行くに従って低くなっている。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量



所見 雨水等を北方向の谷津に排水する機能をもっているものと推測できる。時期は、時期決定の根拠となる土

第304図 第224号溝跡実測図

器が出土していないため不明であるが、重複関係から17世紀前半以前と考えられる。

第225号溝跡 (第305図, 付図1・2)

位置 調査区北東部のH7d9～H8d0区, 標高20～21mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第83号方形竪穴遺構, 第141号井戸, 第3107・3108・3111号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さ42.3mで, H8d0区から西方向(N-86°-W)に直線的に延びている。上幅0.49～1.66m, 下幅0.18～0.90m, 深さ10～47cmで, 溝底は中央部が最も低く, 東端との比高は0.98m, 西端との比高は0.88mである。断面形は浅いU字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

4 褐色 ロームブロック少量

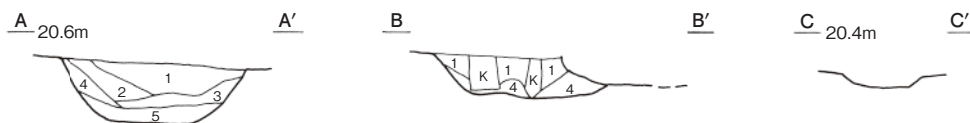
2 黒褐色 ローム粒子微量

5 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片59点(坏6, 甕51, 甗1, 手捏土器1), 須恵器片4点(蓋1, 鉢1, 甕2), 陶器片2点(碗)が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 西方向に約80mの延長線上に軸を同じくする第264号溝跡が確認されており, 台地を南北に区画する溝として機能していた可能性が考えられる。時期は, 時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 重複関係から中世前半と考えられる。



第305図 第225号溝跡実測図

第262号溝跡 (第306図, 付図1・2)

位置 調査区中央部のH5h0～J5h0区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2459・2978・2981号住居跡, 第343・461号掘立柱建物跡を掘り込み, 第3757・5110号土坑, 第267号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長さ82.6mで, J5h0区から北方向(N-2°-W)に直線的に延びている。上幅0.54～1.50m,

下幅 0.45 ~ 1.08 m, 深さ 8 ~ 54cm で, 溝底の比高差はほとんどなく, 最も高い北端部と南端部との比高は 0.08 m である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

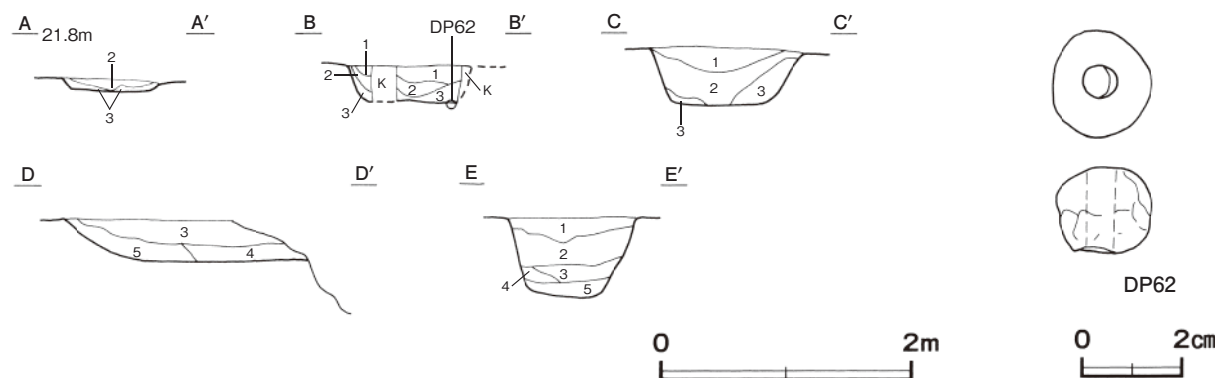
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 306 点 (坏 86, 甕 219, 甗 1), 須恵器片 5 点 (蓋 2, 瓶 1, 甗 2), 土製品 3 点 (土玉 1, 支脚 2) が, 北部と南部の覆土中から出土している。DP62 は南部の底面から出土している。

所見 台地平坦部に位置しており, 溝底の比高差がほとんどないこと, 延長線上にある第 225・264 号溝跡と直交していることから, 土地利用のために区画する機能を有していたものと推測できる。時期は, 時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 重複関係から中世前半と考えられる。



第 306 図 第 262 号溝跡・出土遺物実測図

第 262 号溝跡出土遺物観察表 (第 306 図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP62	土玉	2.1	1.7	0.6	5.6	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	底面	

第 263 号溝跡 (第 307 図, 付図 1・2)

位置 調査区西部の H 5 c2 ~ J 4 a9 区, 標高 21 ~ 22 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2489・2868・2871 号住居跡, 第 264 号溝跡を掘り込み, 第 266・267・277 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端を第 266 号溝に掘り込まれているため, 確認できた長さは 74.09 m である。J 4 a9 区から北方向 (N - 16° - W) に直線的に延びている。上幅 0.60 ~ 1.50 m, 下幅 0.30 ~ 1.30 m, 深さ 14 ~ 19cm で, 溝底は南端部が最も高く, 北端部との比高は 0.44 m である。断面形は浅い U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

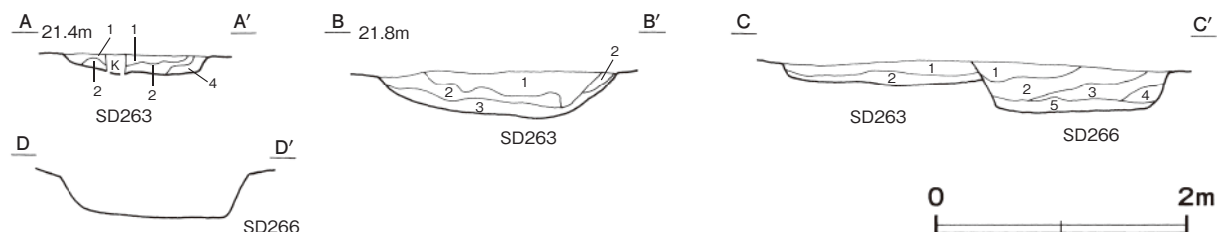
覆土 4層に分層できる。多くの層にローム・焼土ブロックや炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 174 点 (坏 18, 甕 156), 須恵器片 9 点 (坏 2, 甕 7), 陶器片 2 点 (碗) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡の東部に中世に比定される掘立柱建物跡群があることから、台地を東西に区画する機能を有していたと推測できる。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。



第 307 図 第 263・266 号溝跡実測図

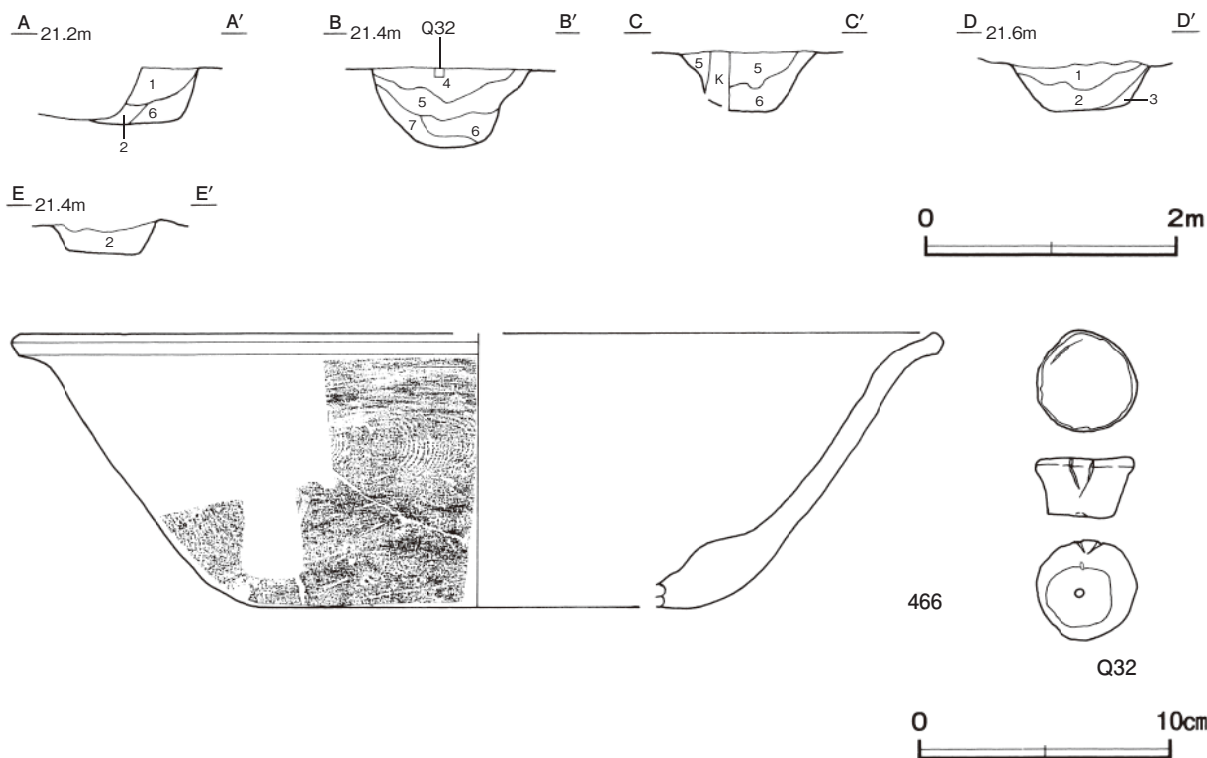
第 264 号溝跡 (第 308 図, 付図 1・2)

位置 調査区西部の H 4 f6 ~ H 5 e9 区, 標高 21 ~ 22 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2871 号住居跡を掘り込み, 第 149 号井戸, 第 5606 号土坑, 第 263 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東端が調査区域外に伸びているため, 確認できた長さは 53.0 m である。H 4 f6 区から東方向 (N - 86° - E) に直線的に伸びている。上幅 0.50 ~ 1.40 m, 下幅 0.18 ~ 0.60 m, 深さ 17 ~ 37cm で, 溝底は東端部が最も高く, 西端部との比高は 0.63 m である。断面形は浅い U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第 308 図 第 264 号溝跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|---------|---------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック微量 | 7 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 321 点 (坏 41, 甕 280), 須恵器片 21 点 (坏 11, 蓋 7, 鉢 3), 陶器片 1 点 (碗), 磁器片 1 点 (碗), 石製品 1 点 (紡錘車未製品), 鉄製品 2 点 (釘) が出土している。土師器片と須恵器片は, 北部を中心に覆土中から出土している。Q 32 は西部の覆土上層から出土している。

所見 東方向に約 80 m の延長線上に軸を同じくする第 225 号溝跡が確認されており, 台地を南北に区画する機能を有していた可能性が考えられる。時期は, 時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 重複関係から中世前半と考えられる。

第 264 号溝跡出土遺物観察表 (第 308 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
466	須恵器	鉢	[36.4]	10.9	[17.4]	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面同心円状の叩き内面ナデ 体部下端ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 32	紡錘車未製品	4.0	2.5	0.4	41.1	凝灰岩	全面研磨 穿孔未完了	上層	PL78

第 266 号溝跡 (第 307 図, 付図 1・2)

位置 調査区西部の I 5 b2 ~ J 4 h8 区, 標高 21 ~ 22 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2465・2489 号住居跡, 第 263 号溝跡を掘り込み, 第 3648・3649・3689 号土坑, 第 267・274・277 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長さ 68.16 m で, J 4 h8 区から北方向 (N - 16° - E) にほぼ直線的に延びている。上幅 1.04 ~ 1.52 m, 下幅 0.84 ~ 1.32 m, 深さ 14 ~ 48cm で, 溝底は中央部が最も低く, 北端部との比高は 0.12 m, 南端部との比高は 0.32 m である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 623 点 (坏 104, 甕 519), 須恵器片 13 点 (坏 4, 蓋 1, 瓶 4, 甕 4), 土師質土器片 1 点 (小皿), 陶器片 1 点 (甕), 磁器片 1 点 (碗), 鉄製品 1 点 (不明), 鉄滓 1 点が, 南部を中心に覆土中層から上層にかけて出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡の東部に中世に比定される掘立柱建物跡群があることから, 台地を東西に区画する機能を有していたと推測できる。時期は, 時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 重複関係から中世前半と考えられる。

第 267 号溝跡 (第 309・310 図, 付図 1・2)

位置 調査区中央部の I 4 f3 ~ K 6 a1 区, 標高 21 ~ 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

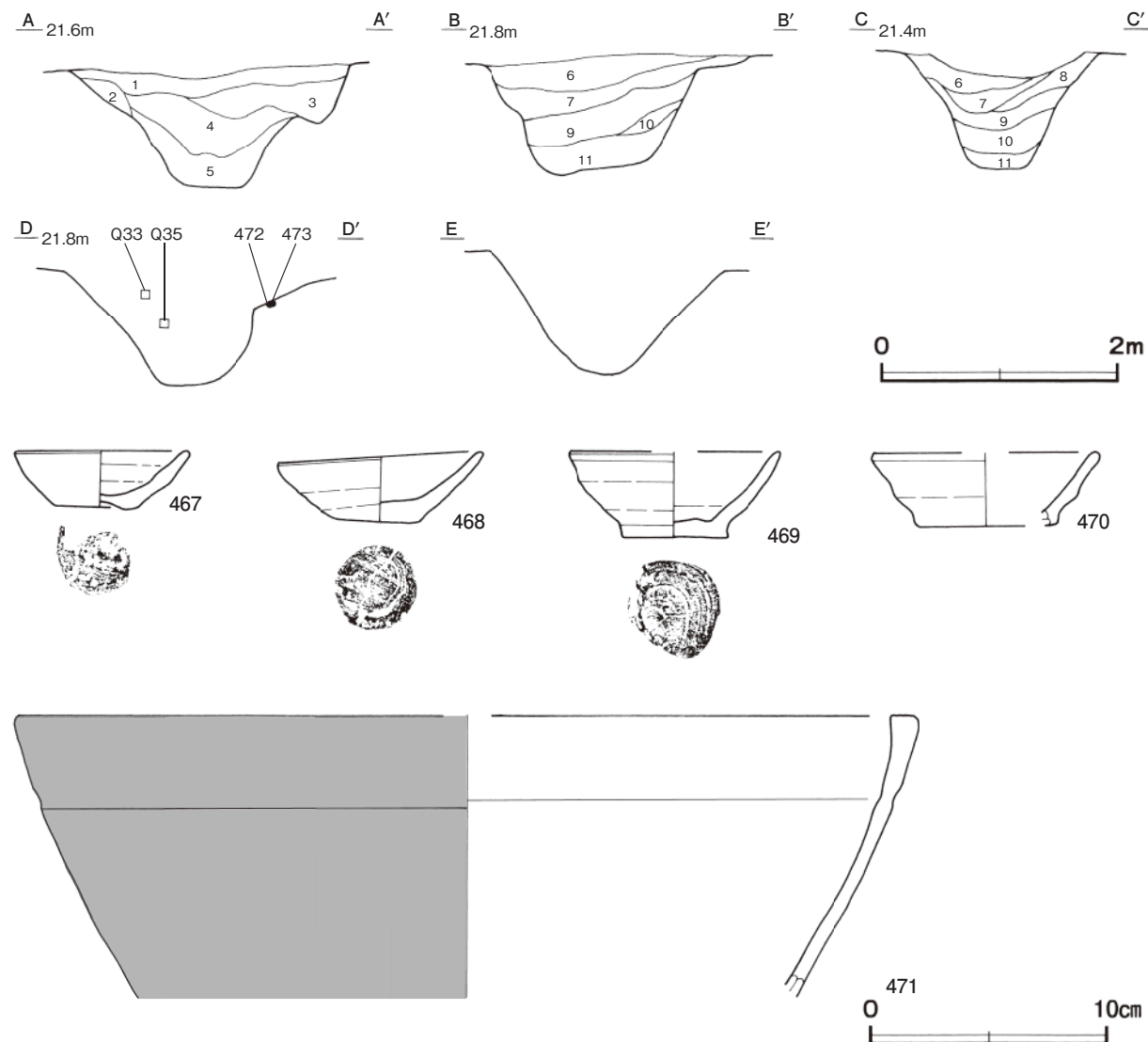
重複関係 第 2481 ~ 2483・2486・2977・2979・2980・2985 号住居跡, 第 469 号掘立柱建物跡, 第 3292 号土坑, 第 262・263・266・275・406B 号溝跡を掘り込み, 第 3989・5618・5622・5656 号土坑, 第 408 号溝に掘り込まれている。第 533 号掘立柱建物跡, 第 3791 号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 南東端が調査区域外に延びており, 南西端を第 407・408 号溝に掘り込まれているため, 確認できた長さは 148.2 m ほどである。J 4 b3 区から北方向 (N - 5° - W) に直線的に 26.0 m 延び, I 4 f3 区ではほぼ 110 度東へ屈曲し, 直線的に 94.4 m 延び, さらに J 6 e4 区で南へほぼ 90 度屈曲し, 直線的に 27.8 m 延び, K 6 a1 区で調査区域外に至っている。上幅 1.24 ~ 2.36 m, 下幅 0.30 ~ 0.84 m, 深さ 94 ~ 109 cm で, 溝底は北部の東西端の比高差がほとんどない。東・西部ともにコーナー部が最も高く, 南端との比高は 0.35 ~ 0.40 m である。断面形は逆台形形で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

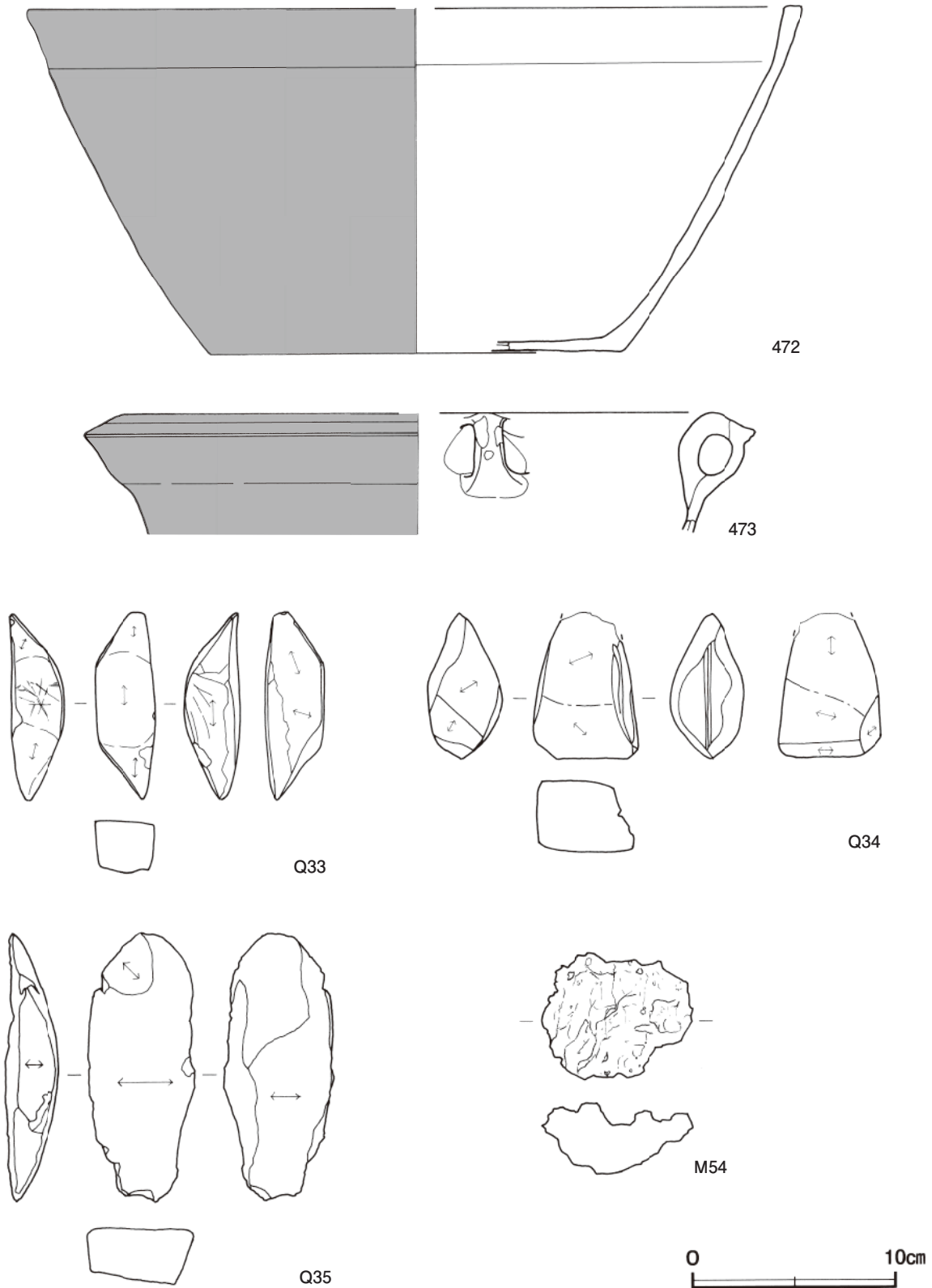
土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|----------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック中量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐 色 | ロームブロック中量 | 11 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第 309 図 第 267 号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 64 点（小皿 15, 蓋 1, 鍋 2, 内耳鍋 41, 鉢 1, 播鉢 4), 陶器片 7 点（碗 3, 皿 1, 鉢 1, 甕 2), 石器 4 点（砥石), 鉄滓 9 点が出土している。このほかに土師器片 349 点（坏 61, 高坏 6, 甕 282), 須恵器片 19 点（坏 6, 蓋 2, 甕 11) も出土している。Q 35 は中央部の覆土中層, 472・473・Q 33 は中央部の覆土上層から出土している。467～471・Q 34・M 54 は覆土中から出土している。



第 310 図 第 267 号溝跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。ほぼ同時期と考えられる第527・531号掘立柱建物跡が本跡の南側に位置していることから、これらの建物を区画する機能を有し、さらに第408号溝と連結し、雨水等を排水していたと推測できる。

第267号溝跡出土遺物観察表（第309・310図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
467	土師質土器	小皿	7.2	2.5	3.4	石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60% PL69
468	土師質土器	小皿	8.5	2.4~3.0	3.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60%
469	土師質土器	小皿	[8.3]	3.6	4.4	長石・雲母	淡黄	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%
470	土師質土器	小皿	[9.4]	3.1	[6.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	覆土中	20%
471	土師質土器	鍋	[38.0]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	30% 外面煤付着
472	土師質土器	鍋	[38.0]	17.0	[20.3]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	上層	30% 外面煤付着
473	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(5.9)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳1か所残存	上層	5% 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 33	砥石	9.2	3.0	2.7	86.5	凝灰岩	砥面4面 他は破断面	上層	PL76
Q 34	砥石	(7.2)	5.2	3.6	(144.8)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL76
Q 35	砥石	13.2	5.2	2.7	185.0	凝灰岩	砥面3面 他は破断面	中層	PL76

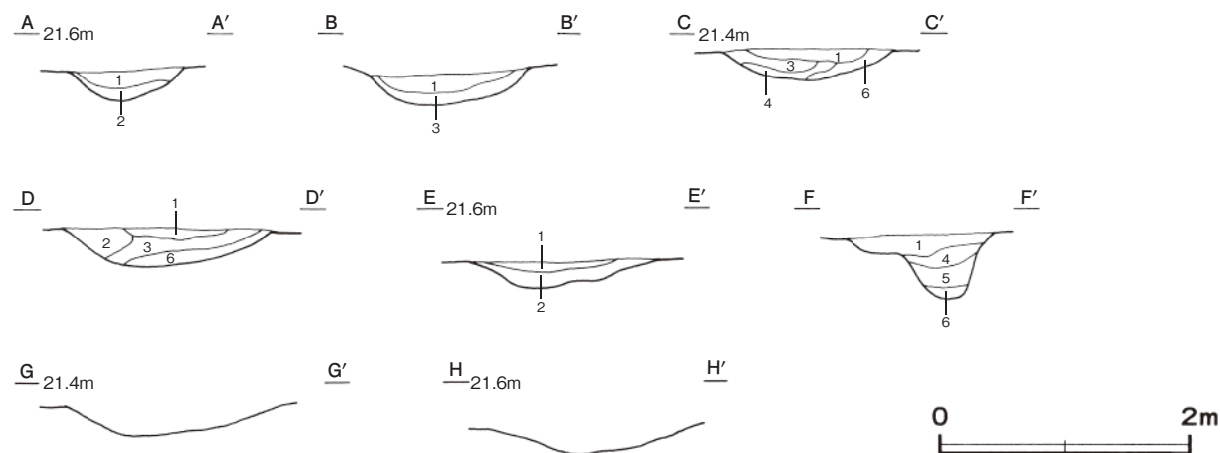
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 54	鉄滓	7.4	6.2	3.5	174.0	鉄	着磁性有り	覆土中	

第268号溝跡（第311図，付図1・2）

位置 調査区北部のH6f3～J7a8区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。平成16年度に北西部の長さ27.5mと南西部の32.5m，平成20年度に中央部25.6mが調査された。

重複関係 第2355・2394・2398・2399・2494・3029号住居跡，第537号掘立柱建物跡，第3264号土坑に掘り込まれている。第6000・6001・6004・6006・6008号土坑，第56・57号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 東端が調査区域外に伸びているため，確認できた長さは85.6mである。J7a8区から北西方向(N-44°-W)に直線的に伸びている。上幅0.47～1.80m，下幅0.20～1.00m，深さ20～52cmで，溝底は東



第311図 第268号溝跡実測図

端部が最も高く、西端部との比高は0.13mである。断面形はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 327点（坏40, 甕286, 甑1）, 須恵器片 29点（坏7, 高台付坏1, 蓋3, 瓶2, 甕16）, 土師質土器片1点（鍋）, 土製品1点（支脚）, 鉄滓1点が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係と南西側に幅約3.8mで併走している第20号道路跡と同時期に機能していたとが想定できることから、中世から近世と考えられる。また、第20号道路跡の側溝または土塁を挟む形で併走して機能していたことが想定できるが、詳細については不明である。

第274号溝跡（第312図、付図1・2）

位置 調査区西部のJ4f5～J4g9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

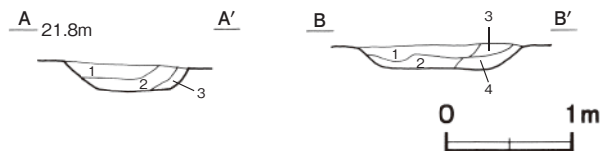
重複関係 第2464・2556号住居跡、第329号掘立柱建物跡、第266号溝跡を掘り込み、第170号井戸、第3644号土坑に掘り込まれている。第4955・4956号土坑とも重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 西端を第3644号土坑、東端を第170号井戸に掘り込まれているため、確認できた長さは16.6mである。J4g9区から西方向(N-75°-W)に直線的に伸び、第278号溝付近で途切れている。上幅0.80～0.98m、下幅0.42～0.58m、深さ17～21cmで、溝底の比高差はほとんどなく平坦である。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 |



第312図 第274号溝跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿、内耳鍋）、馬歯が出土している。また、土師器片95点（坏8, 椀1, 鉢1, 甕83, 甑1, 手捏土器1）、須恵器片4点（甕）も出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世と考えられる。性格については不明である。

第275号溝跡（第313図、付図1・2）

位置 調査区西部のI5i3～J5a6区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2481・2483号住居跡を掘り込み、第267号溝に掘り込まれている。

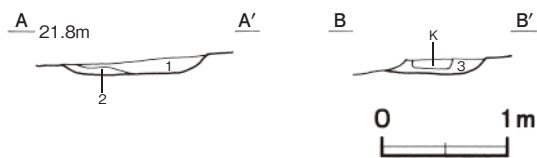
規模と形状 西端を第2481号住居跡と重複し、東端を第267号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは15.32mである。J5a6区から西方向(N-67°-W)に直線的に伸びている。上幅0.68～1.18m、下幅0.48～0.76m、深さ6～12cmで、溝底は東端部が最も高く、中央部との比高は0.05m、西端部との比高は0.65

mである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況については不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量



第 313 図 第 275 号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片 4 点（坏 2，碗 1，甕 1），須恵器片 2 点（坏，甕）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明であるが、重複関係から中世前半と考えられる。性格は不明である。

第 277 号溝跡（第 314 図，付図 1・2）

位置 調査区南西部の I 4j0～I 4h4，I 4h4～J 4d4 区，標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2463・2555 号住居跡，第 263・266 号溝跡を掘り込み，第 76 号地下式坑，第 3291・3642・3669 号土坑，第 278 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西端を第 278 号溝に掘り込まれているため，確認できた長さは 46.63 m である。I 4j0 区から西方向（N-73°-W）に直線的に延び，I 4h4 区でほぼ 90 度に屈曲して南方向に直線的に延びている。上幅 0.74～1.26 m，下幅 0.26～0.83 m，深さ 14～30cm で，溝底はコーナー部が最も低く，東端部との比高は 0.39 m，南端部との比高は 0.16 m である。断面形は逆台形で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

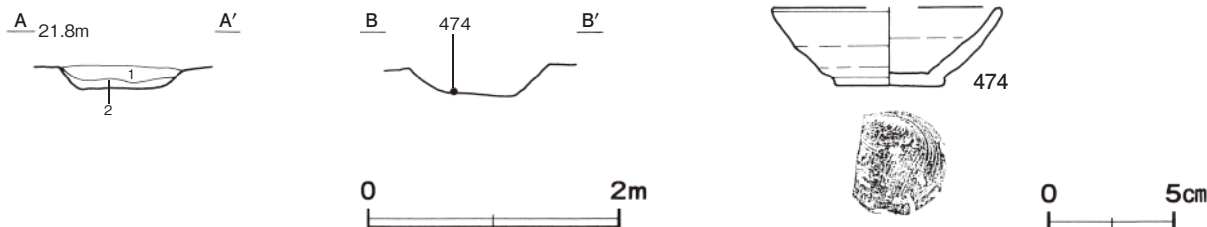
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 80 点（坏 15，甕 65），須恵器片 8 点（坏 4，瓶 1，甕 3），土師質土器片 23 点（小皿 6，内耳鍋 17），陶器片 3 点（瓶 1，播鉢 2）が出土している。474 は南西部の底面から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から 15 世紀後半と考えられる。同時期に機能していたと考えられる第 267 号溝跡の西コーナー部とほぼ同様に屈曲して，幅 3.1～5.1 m で併走していることから，通路を区画するための機能を有していたものと推測できる。



第 314 図 第 277 号溝跡・出土遺物実測図

第 277 号溝跡出土遺物観察表（第 314 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
474	土師質土器	小皿	[9.0]	3.0～3.2	4.3	石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	底面	50% PL68

第 278 号溝跡 (第 315 図, 付図 1・2)

位置 調査区南西部の J 4c4 ~ J 4h5 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2556 号住居跡, 第 5694 号土坑, 第 277 号溝跡を掘り込み, 第 156 号井戸, 第 3636・3644 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端を第 156 号井戸に掘り込まれ, 南端は調査区域外に延びているため, 確認できた長さは 18.54 m である。J 4c4 区から北方向(N-15°-W)に直線的に延び, J 4h5 区に至っている。上幅 0.80 ~ 1.65 m, 下幅 0.32 ~ 0.65 m, 深さ 8 ~ 30cm で, 溝底は北端部が最も高く, 南方向に緩やかに傾斜して, 中央部で 20cm ほど一段低くなり, さらに緩やかに傾斜しながら南端部に至っている。断面形は浅い U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

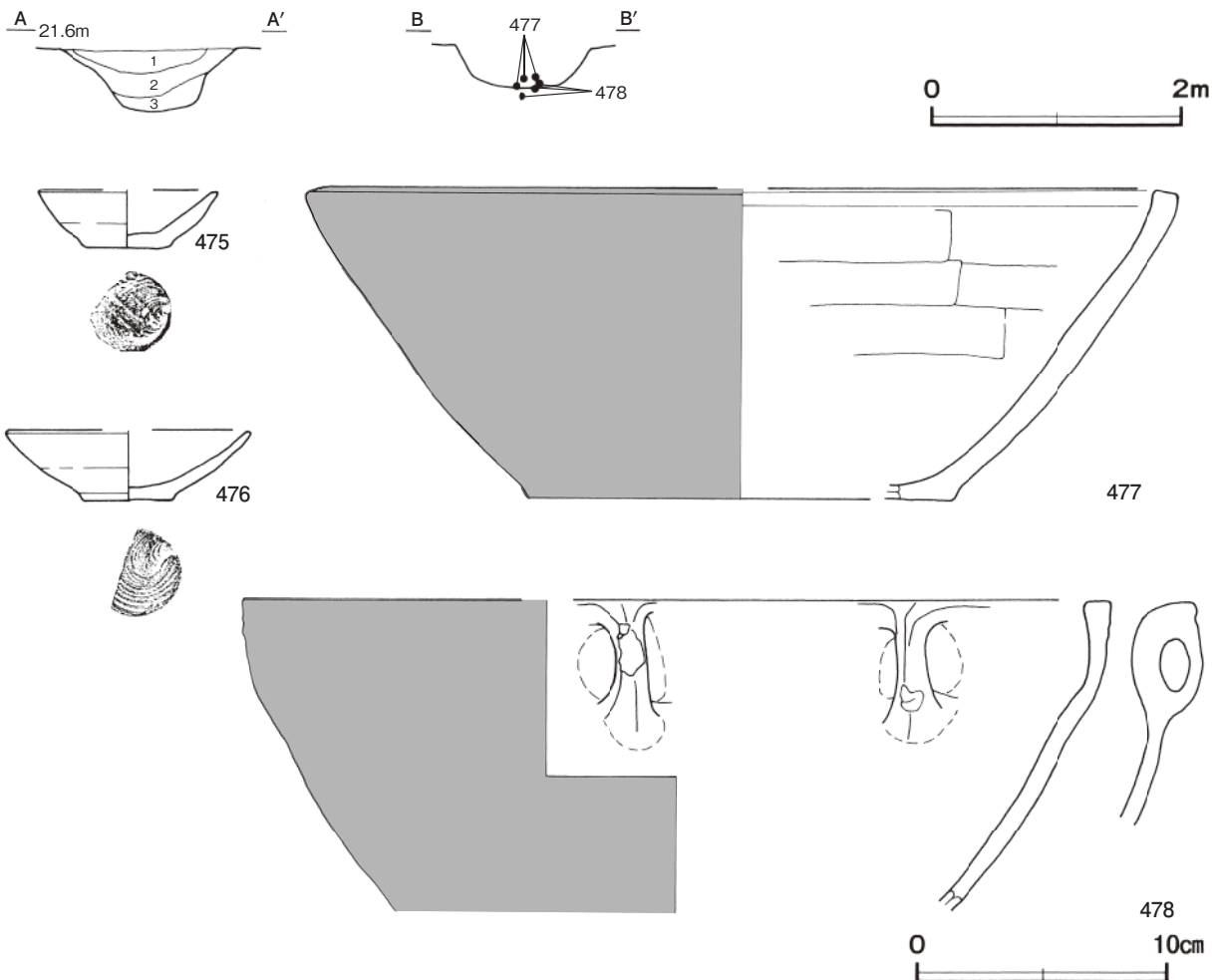
覆土 3 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師質土器片 43 点 (小皿 2, 鍋 1, 内耳鍋 40), 石器 1 点 (砥石) が出土している。また, 土師器片 63 点 (坏 5, 甕 58), 須恵器片 12 点 (坏 2, 蓋 5, 甕 5) も出土している。477・478 は中央部の底面から出土している。475・476 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 16 世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第 315 図 第 278 号溝跡・出土遺物実測図

第 278 号溝跡出土遺物観察表 (第 315 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
475	土師質土器	小皿	[7.0]	2.3	3.3	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 外・内面摩滅	覆土中	60%
476	土師質土器	小皿	[9.5]	2.8	3.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	30%
477	土師質土器	鍋	[33.0]	12.4	[17.0]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	底面	20% PL67 外面煤付着
478	土師質土器	内耳鍋	[34.8]	(12.4)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内耳2か所残存	底面	20% PL67 外面煤付着

第 388 号溝跡 (第 316 ~ 318 図, 付図 1・2)

位置 調査区南西部の L 3 c3 ~ L 3 h8 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 5687 号土坑, 第 164 号井戸跡, 第 404 号溝跡を掘り込み, 第 5660 号土坑, 第 405 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西端を第 405 号溝に掘り込まれており, 東端は調査区域外に延びているため, 確認できた長さは 32.18 m である。L 3 c3 区から東方向 (N - 77° - W) へ直線的に 4.0 m 延び, L 3 c5 区でほぼ 90 度南へ屈曲し, 直線的に 12.5 m 延び, L 3 g4 区でさらに 90 度東へ屈曲して直線的に 15.5 m 延び, L 3 h8 区で調査区域外に至っている。上幅 1.58 ~ 3.50 m, 下幅 0.50 ~ 1.50 m, 深さ 44cm で, 溝底は東端部が最も高く, コーナー部との比高は 0.05 m, 北部との比高は 0.10 m である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

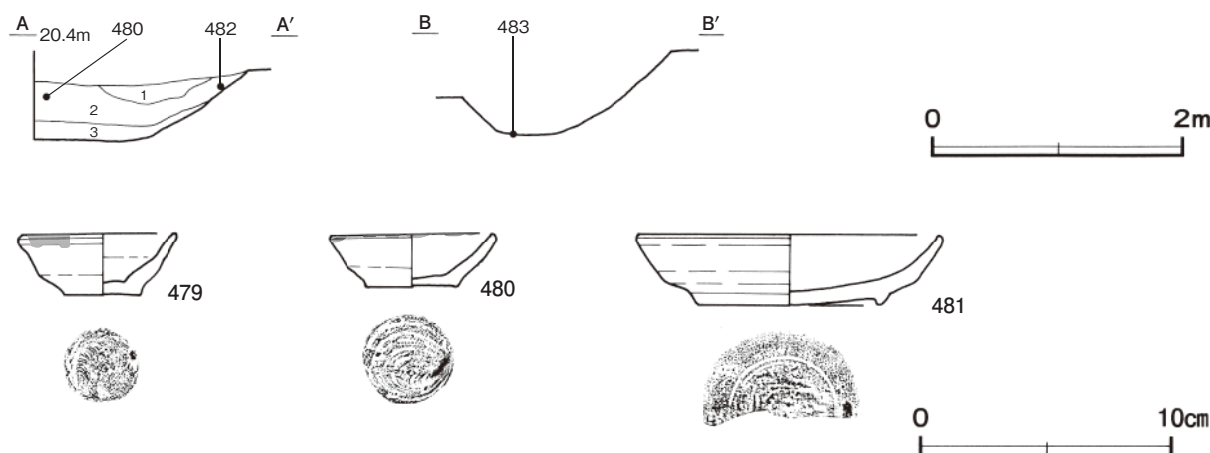
覆土 3 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

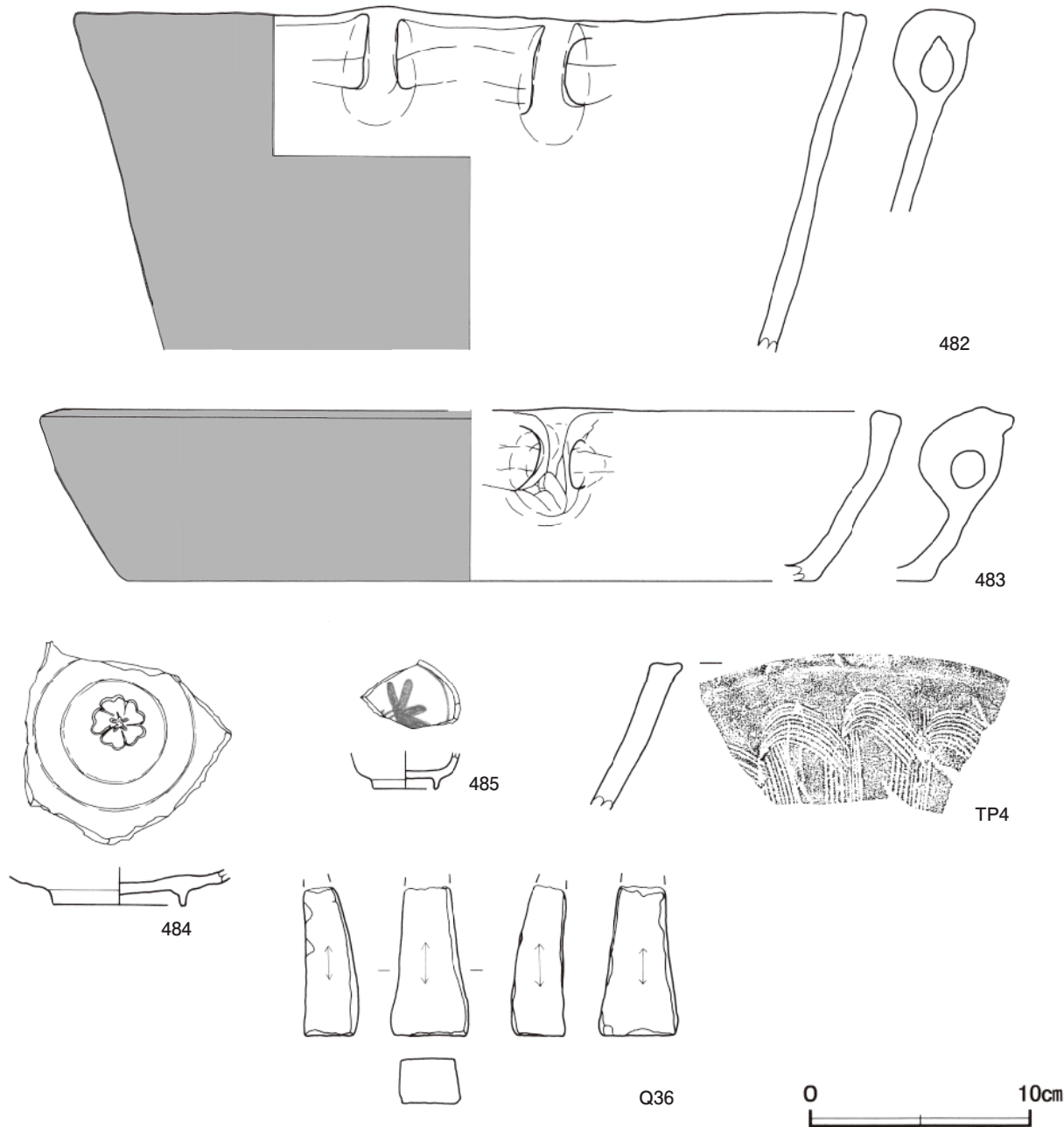
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 145 点 (小皿 26, 内耳鍋 99, 播鉢 20), 陶器片 9 点 (碗 1, 皿 3, 不明 5), 磁器片 2 点 (小杯, 不明), 石器 2 点 (石臼, 砥石) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 85 点 (甕), 須恵器片 15 点 (坏 2, 甕 13) も出土している。483 は南部の底面, 480・482 は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。479・481・484・485・TP 4・Q 36・Q 37 はいずれも覆土中から出土している。

所見 規模と形状から北東部の区画と雨水等の排水の両方の機能を有していたものと推定できるが, 東側が調査区域外のため, 詳細は不明である。時期は, 出土土器や重複関係から 16 世紀後半以前と考えられる。



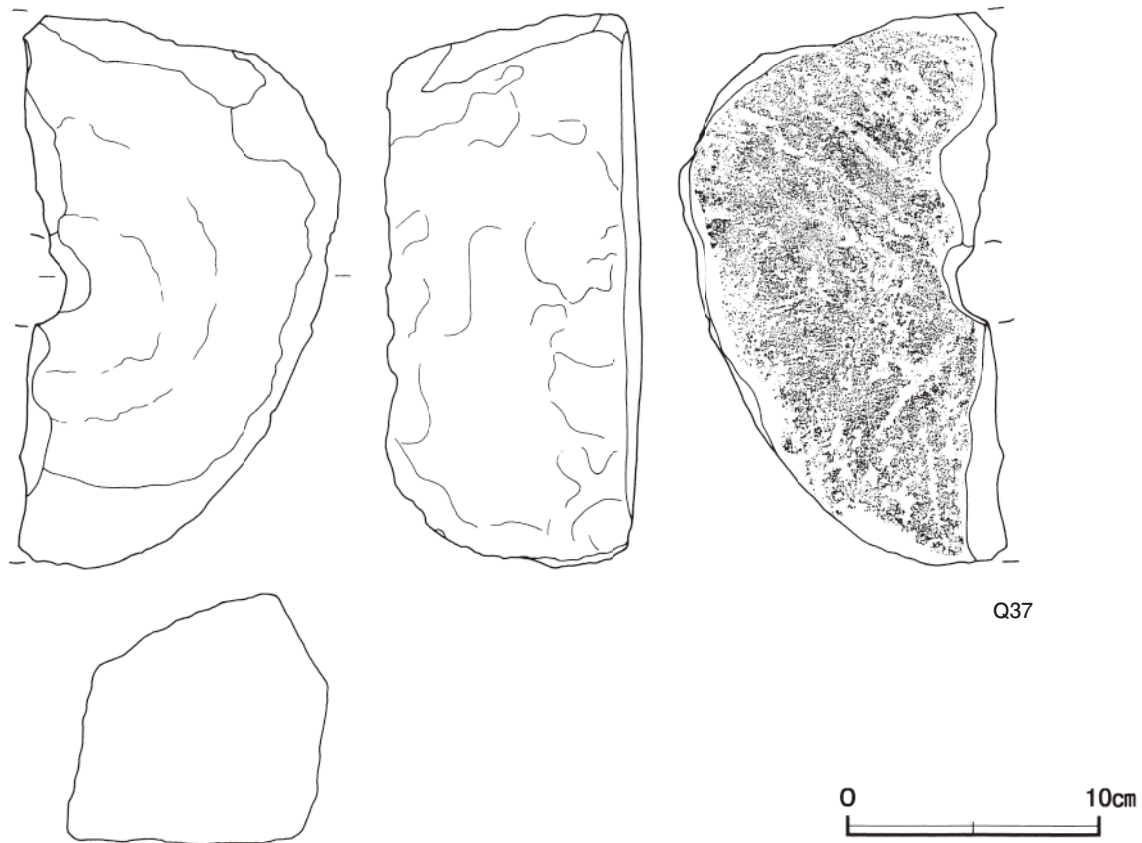
第 316 図 第 388 号溝跡・出土遺物実測図



第 317 図 第 388 号溝跡出土遺物実測図 (1)

第 388 号溝跡出土遺物観察表 (第 316 ~ 318 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
479	土師質土器	小皿	6.2	2.5	3.0	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% PL69 油煙付着
480	土師質土器	小皿	6.5	2.2	3.6	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	上層	100% PL69 油煙付着
481	陶器	皿	12.1	2.8	7.3	精良・灰釉	黄灰	良好	ロクロ成形	覆土中	50% 瀬戸・美濃系
482	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(15.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	上層	10% 外面煤付着
483	土師質土器	内耳鍋	[37.0]	7.9	[31.5]	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	底面	10% 外面煤付着
484	陶器	皿	-	1.7	6.1	精良 灰釉	にぶい黄橙	良好	ロクロ成形 底部内面花文押捺	覆土中	10% PL86 瀬戸・美濃系
485	磁器	小杯	-	(1.7)	2.9	精良 灰釉	灰白	良好	内面染付	覆土中	10% 肥前系カ



第 318 図 第 388 号溝跡出土遺物実測図 (2)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 4	土師質土器	播鉢	長石・石英・雲母	灰褐	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面9条1単位の播り目	覆土中	PL72

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 36	砥石	(6.8)	3.6	2.4	(83.3)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL76

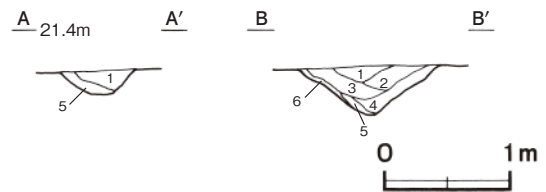
番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 37	石白(上白)	[23.6]	[3.7]	10.2	(3,615)	安山岩	1条1単位の播り目	覆土中	PL77

第 397 号溝跡 (第 319 図, 付図 1・2)

位置 調査区西部の I 3j9 ~ J 3g0 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 408 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北端が調査区域外へ延びているため, 確認できた長さは 29.80 m である。J 3g0 区から北方向 (N - 3° - W) に直線的に延び, I 3j9 区で調査区域外に至っている。上幅 0.22 ~ 1.10 m, 下幅 0.10 ~ 0.58 m, 深さ 20 ~ 42cm で, 溝底は北部が最も高く, 中央部との比高は 0.15 m, 南端部との比高は 0.04 m である。断面形は V 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。



第 319 図 第 397 号溝跡実測図

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 35 点（坏 3，高台付坏 4，甕 28），須恵器片 6 点（坏 2，甕 4），鉄滓 8 点が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係から 16 世紀前半以前と考えられるが、時期決定の根拠となる土器が出土していないため詳細は不明である。性格は不明である。

第 399 号溝跡（第 320・321 図，付図 1・2）

位置 調査区南西部の J 3i6～J 4j2 区，標高 20～21 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 5614 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 両端とも調査区域外へ延びているため、確認できた長さは 25.70 m である。J 4j2 区から西方向（N-83°-W）に直線的に延びている。上幅 1.18～2.34 m，下幅 0.18～0.40 m，深さ 66～90cm で、溝底は東端部が最も高く、西端部との比高は 0.23 m である。断面形は V 字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

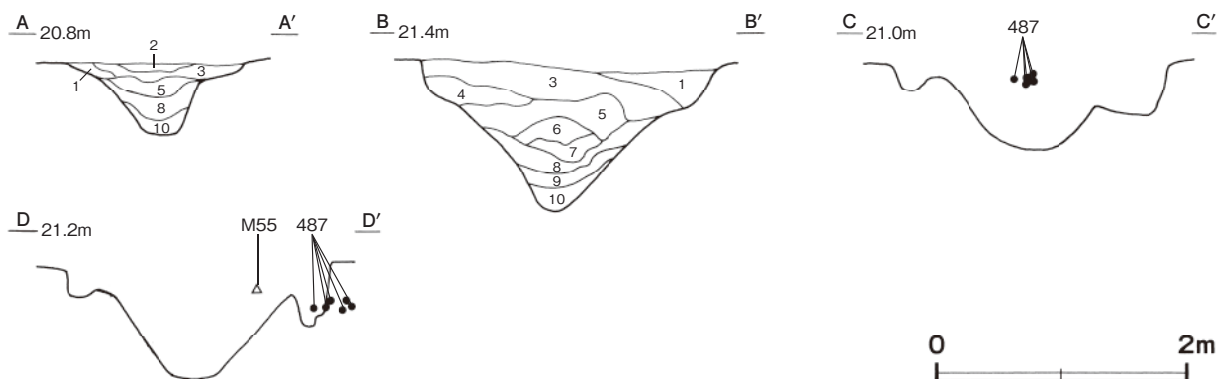
覆土 10 層に分層できる。第 1～7 層は不規則な堆積状況を示してことから埋め戻されている。第 8～10 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

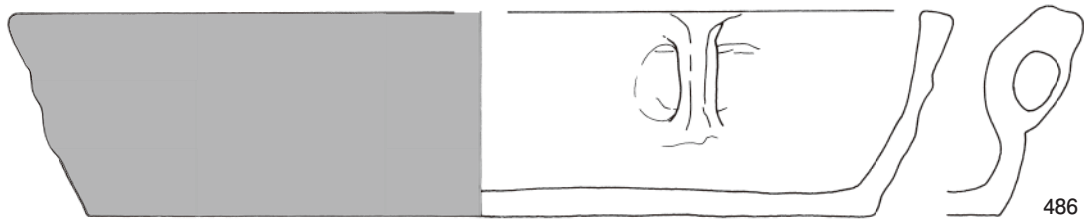
- | | | | |
|-------|---------------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片 69 点（小皿 10，内耳鍋 56，播鉢 3），陶器片 3 点（碗 1，皿 2），鉄製品 2 点（包丁，釘）のほか，土師器片 113 点（坏 27，高坏 2，甕 84），須恵器片 16 点（蓋 1，甕 15）も出土している。487 は東部の覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。M 55 は東部の覆土上層，486・M 56 は覆土中からそれぞれ出土している。

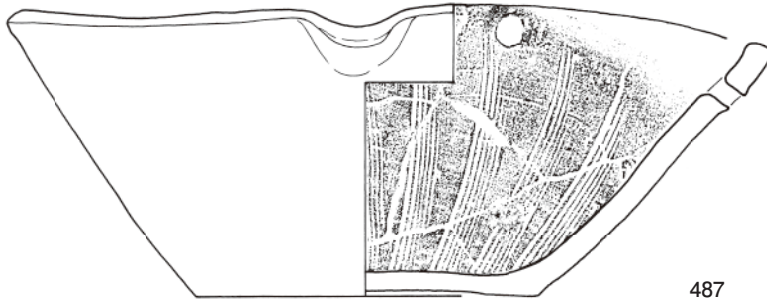
所見 規模と形状から雨水等の排水の機能を有していたものと推測できる。また，南側の第 403 号溝跡と幅約 6 m（芯々間 7.4～8.5 m）で併走しており，道路跡の可能性が想定されるが，硬化面等は確認されておらず，詳細について不明である。時期は，出土土器や重複関係から 16 世紀後半から 17 世紀前半と考えられる。



第 320 図 第 399 号溝跡実測図



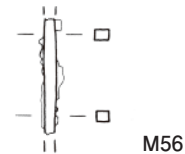
486



487



M55



M56



第 321 図 第 399 号溝跡出土遺物実測図

第 399 号溝跡出土遺物観察表 (第 321 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
486	土師質土器	内耳鍋	[36.2]	8.3	31.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	40% 外面煤付着
487	土師質土器	播鉢	29.0	11.6	13.5	長石・石英・雲母・小礫	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面6条1単位の播り目 底部外面ナデ	中・上層	90% PL67

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M55	包丁	(7.1)	(3.5)	0.4	(19.2)	鉄	刃部欠損	上層	PL80 木質付着
M56	釘	(4.7)	0.6	0.4	(4.9)	鉄	両端部欠損 断面長方形	覆土中	PL81

第 402 号溝跡 (第 322 図, 付図 1・2)

位置 調査区南西部の K 3 e7 ~ K 3 f9 区, 標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 404 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは 7.88 m で, K 3 f9 区から西方向 (N - 76° - W) に直線的に延びている。上幅 0.90 ~ 1.19 m, 下幅 0.36 ~ 0.70 m, 深さ 32 ~ 37cm で, 溝底はほとんど比高差がなく, 平坦である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

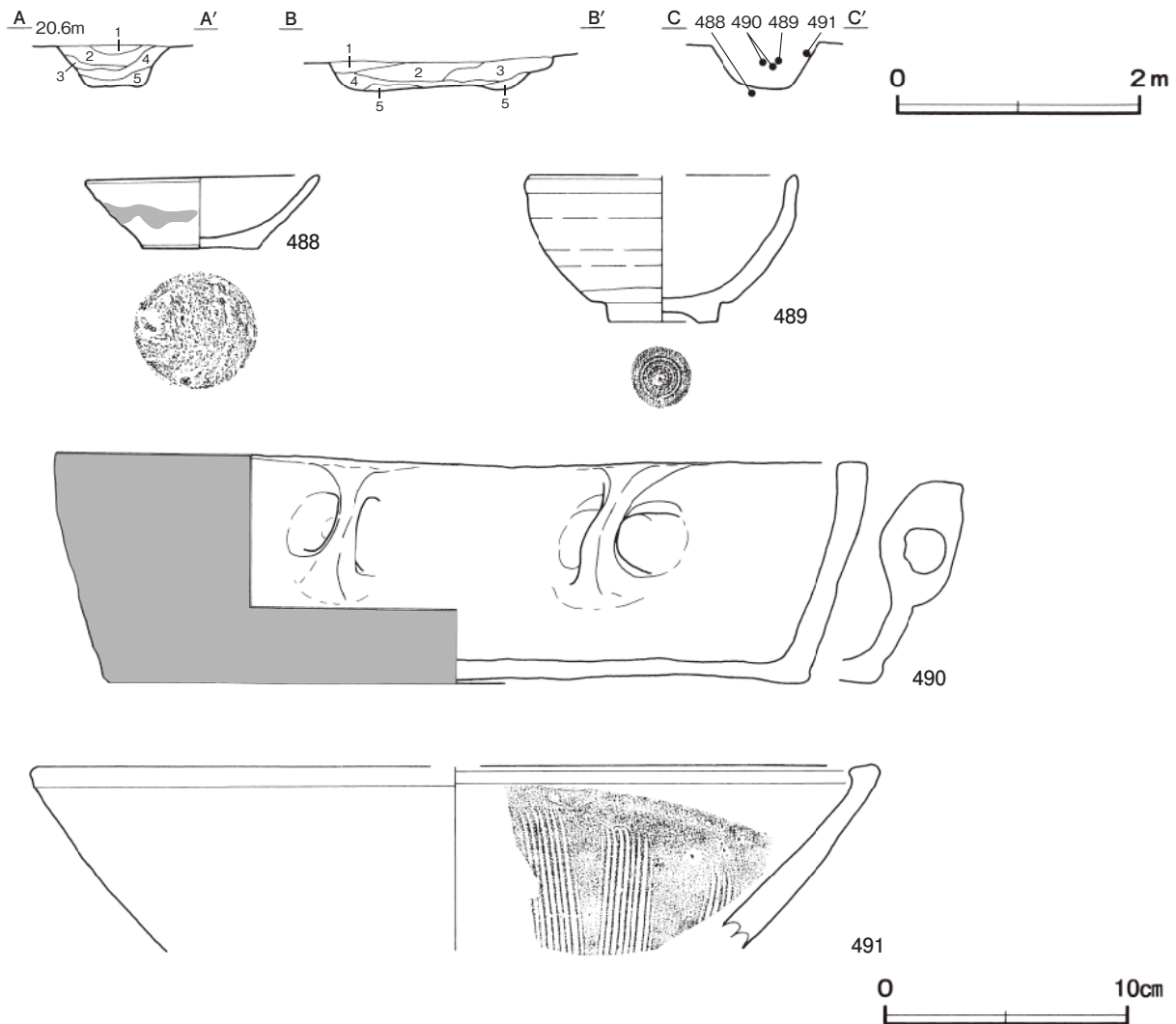
覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片 34 点 (小皿 1, 内耳鍋 26, 播鉢 7), 陶器片 3 点 (碗, 播鉢, 不明) のほか, 土師器片 46 点 (坏 2, 皿 2, 蓋 1, 甕 41), 須恵器片 8 点 (坏 4, 甕 4) も出土している。488 は中央部の底面から出土している。490 は西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。489 は西部の覆土中層, 491 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 16 世紀中葉から後葉と考えられる。性格については不明である。



第 322 図 第 402 号溝跡・出土遺物実測図

第 402 号溝跡出土遺物観察表 (第 322 図)

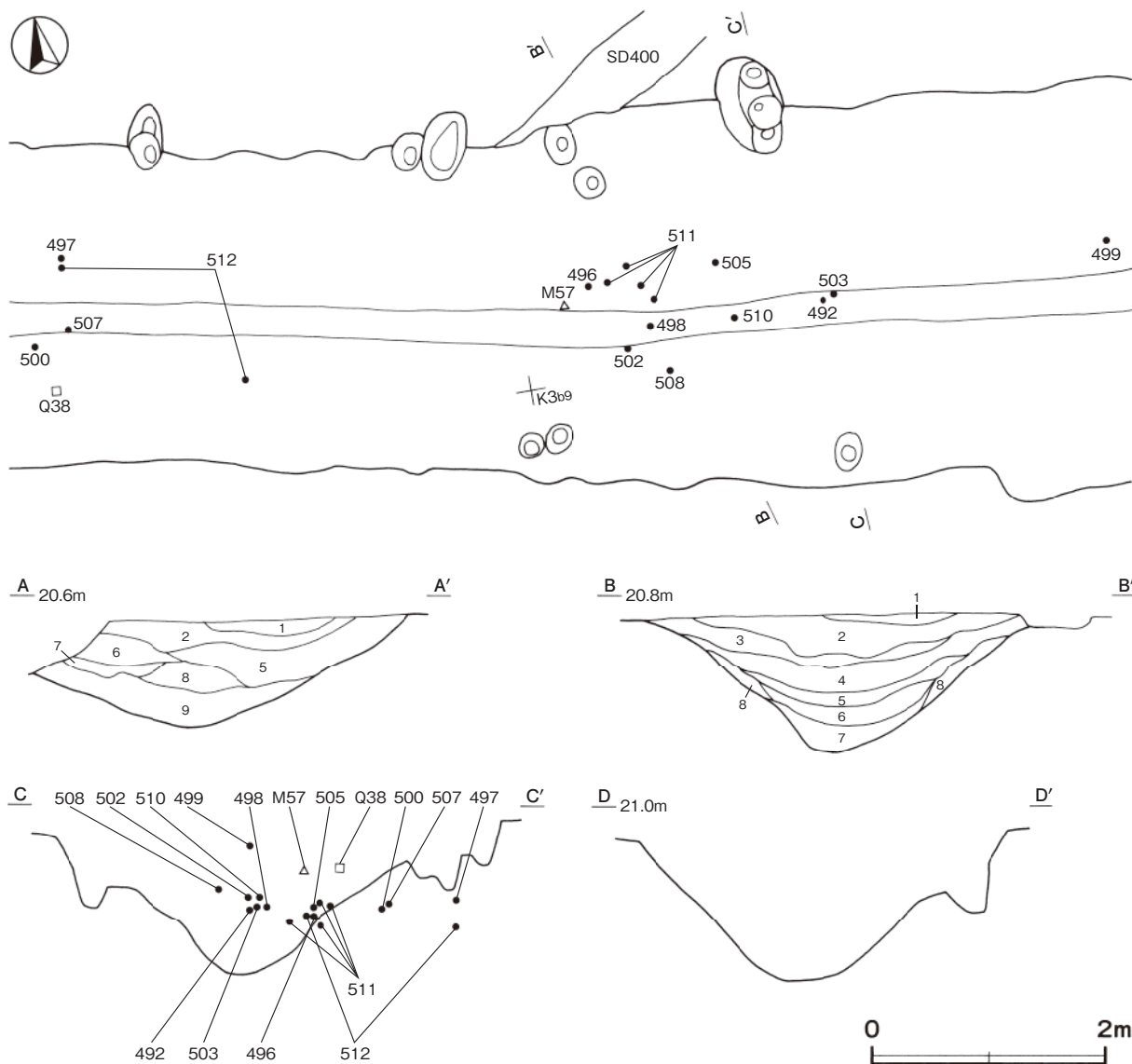
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
488	土師質土器	小皿	9.7	3.0	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% PL69 油煙付着
489	陶器	天目茶碗	[11.0]	6.0	4.4	精良	明赤褐	良好	体部外・内面鉄釉 削り出し高台 高台周辺露胎	中層	50% PL86
490	土師質土器	内耳鍋	33.4	9.5	28.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部へら削り	中層	90% PL68 外面煤付着
491	陶器	播鉢	[34.4]	(7.6)	-	長石・石英	赤灰	普通	ロクロ成形 体部内面9条1単位の播り目	上層	5% PL72

第 403 号溝跡 (第 323 ~ 325 図, 付図 1・2)

位置 調査区南西部の J 3 j5 ~ K 4 b1 区, 標高 20 ~ 21 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 400・405 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端が調査区域外へ延びているため, 確認できた長さは 25.44 m である。K 4 b1 区から西方向(N



第 323 図 第 403 号溝跡実測図

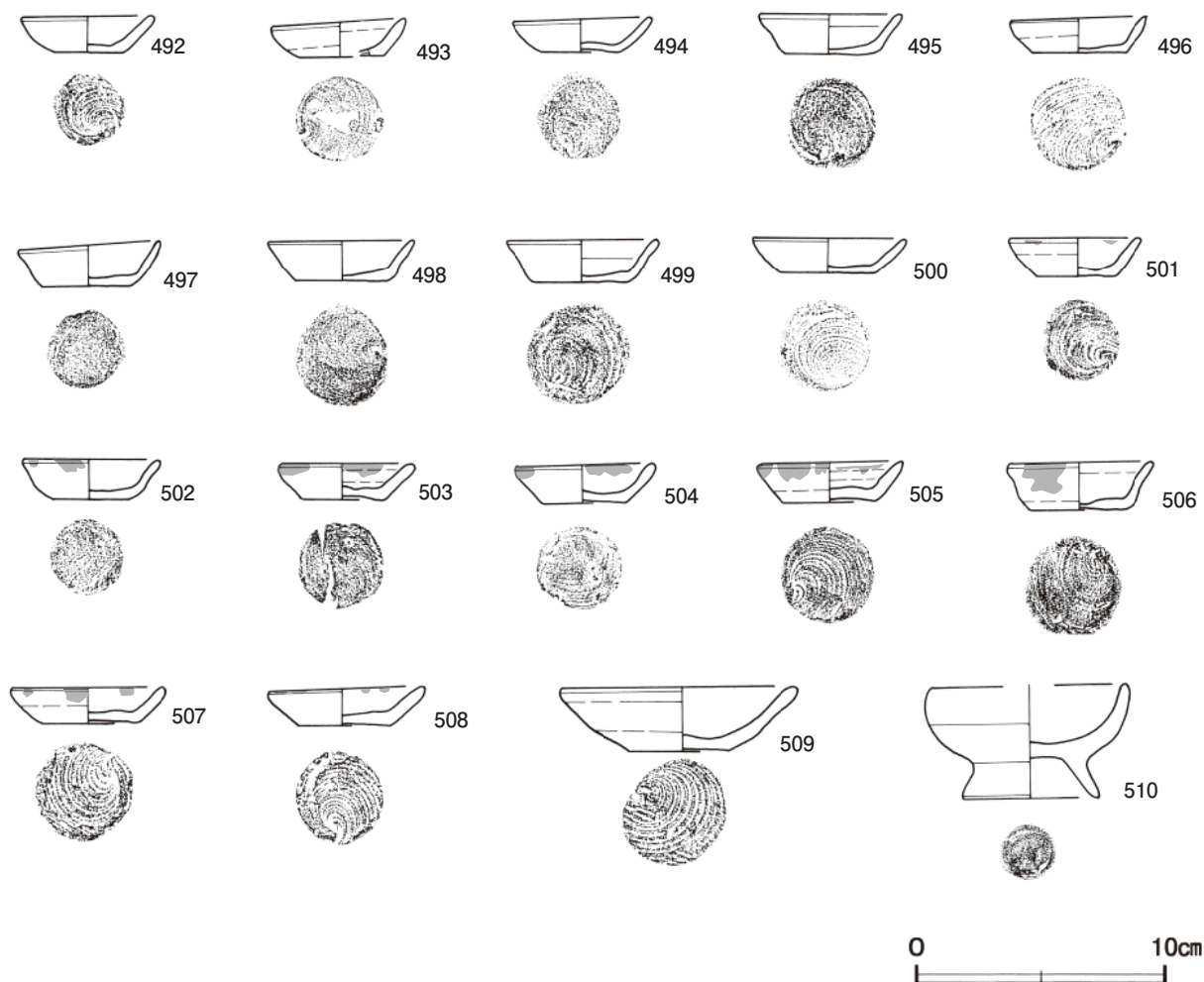
- 83° - W) に直線的に延びている。上幅 1.90 ~ 3.50 m, 下幅 0.26 ~ 0.40 m, 深さ 106 ~ 120cm で, 溝底は東端部が最も高く, 西端部との比高は 0.22 m である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

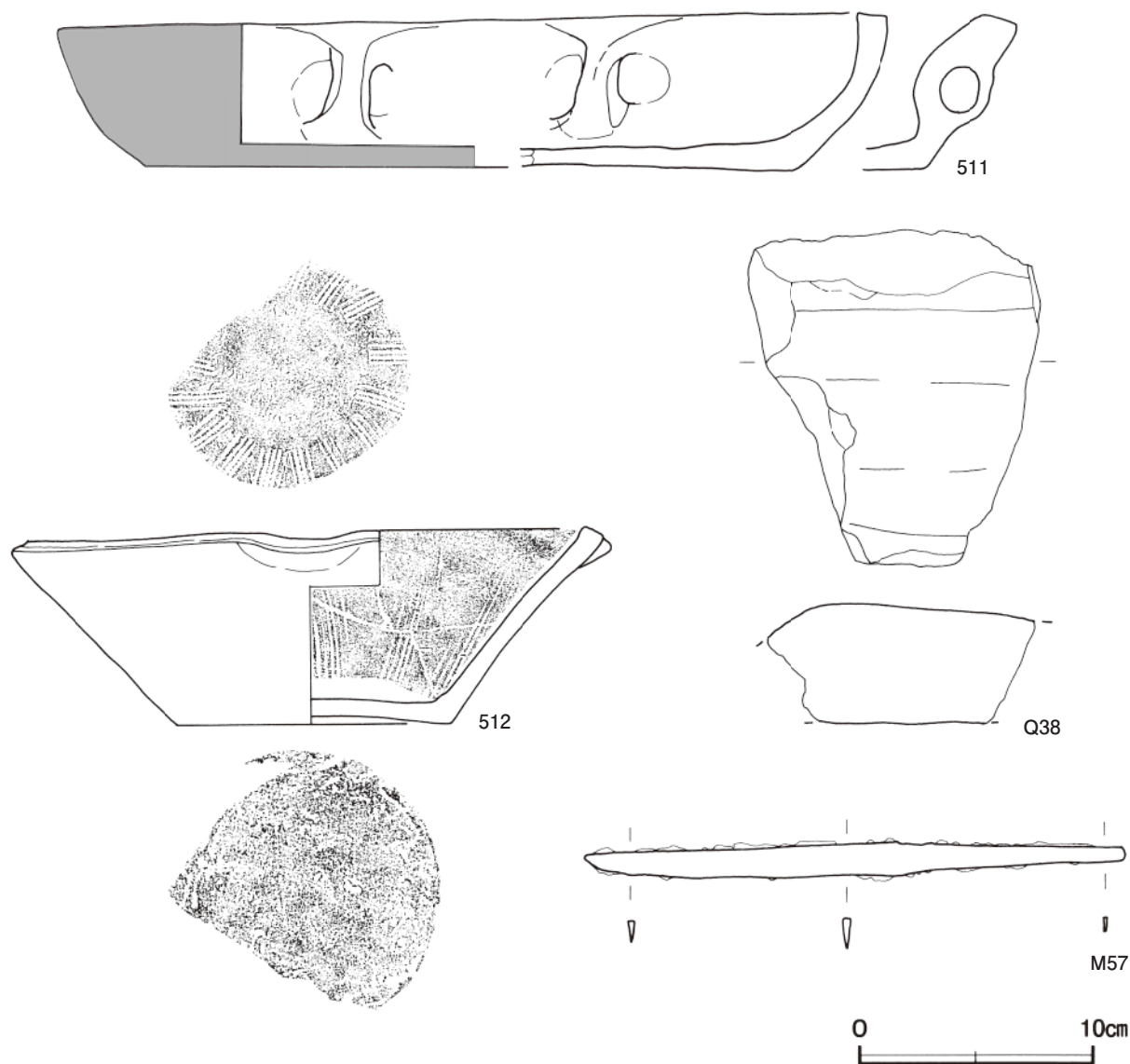
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 灰色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック微量 | 7 灰色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐灰色 | ロームブロック少量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 5 褐灰色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片 225 点 (高台付椀 1, 皿 3, 小皿 28, 内耳鍋 185, 播鉢 8), 陶器片 3 点 (碗 2, 不明 1) のほか, 土師器片 176 点 (坏 27, 甕 148, 甑 1), 須恵器片 33 点 (坏 8, 蓋 4, 甕 21), 石器 1 点 (磨石), 鉄製品 1 点 (刀子) が, 東部から中央部の覆土中層から上層にかけて出土している。492・496・498・502・503・505・508・510 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。497・500・507 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。511 は東部, 512 は中央部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。499・M 57 は東部, Q 38 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。493 ~ 495・501・504・506・509 はそれぞれ覆土中から出土している。



第 324 図 第 403 号溝跡出土遺物実測図 (1)



第 325 図 第 403 号溝跡出土遺物実測図（2）

所見 規模と形状から雨水等の排水の機能を有していたものと推測できる。また、南側の第 399 号溝跡と幅約 6 m（芯々間 7.4～8.5 m）で併走しており、道路跡の可能性が想定されるが、硬化面等は確認されておらず、詳細について不明である。時期は、出土土器から 16 世紀後半から 17 世紀前半と考えられる。

第 403 号溝跡出土遺物観察表（第 324・325 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
492	土師質土器	小皿	5.3	1.5	2.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	100% PL69
493	土師質土器	小皿	5.4	1.6	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土中	90% PL69
494	土師質土器	小皿	5.6	1.4	3.3	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	80% PL69
495	土師質土器	小皿	5.7	1.6	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	80% PL69
496	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	90% PL69
497	土師質土器	小皿	5.6	1.9	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中層	100% PL69
498	土師質土器	小皿	5.9	1.7	3.6	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中層	100% PL69

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
499	土師質土器	小皿	6.0	1.8	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	100% PL69
500	土師質土器	小皿	6.1	1.5	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	100% PL69
501	土師質土器	小皿	5.3	1.6	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% PL69 油煙付着
502	土師質土器	小皿	5.5	1.6	3.1	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中層	100% PL69 油煙付着
503	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	中層	90% PL69 油煙付着
504	土師質土器	小皿	5.6	1.6	3.3	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	95% PL69 油煙付着
505	土師質土器	小皿	5.9	1.6	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	100% PL69 油煙付着
506	土師質土器	小皿	5.8	1.9	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% PL70 油煙付着
507	土師質土器	小皿	6.1	1.4	3.9	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	100% PL70 油煙付着
508	土師質土器	小皿	6.3	1.6	3.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	80% PL70 油煙付着
509	土師質土器	小皿	9.5	2.6	4.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	80% PL70
510	土師質土器	高台付碗	[8.0]	4.5	5.4	長石・石英・雲母	黒褐	普通	ロクロ成形	中層	40% PL67
511	土師質土器	内耳鍋	35.4	6.7	28.2	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り	中層	70% PL68 外面煤付着
512	土師質土器	播鉢	23.8	8.5	11.7	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面5条1単位の播り目	中層	60% PL67

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 38	石臼	(14.4)	(12.5)	5.2	(1.200)	雲母片岩	使用面1面	上層	

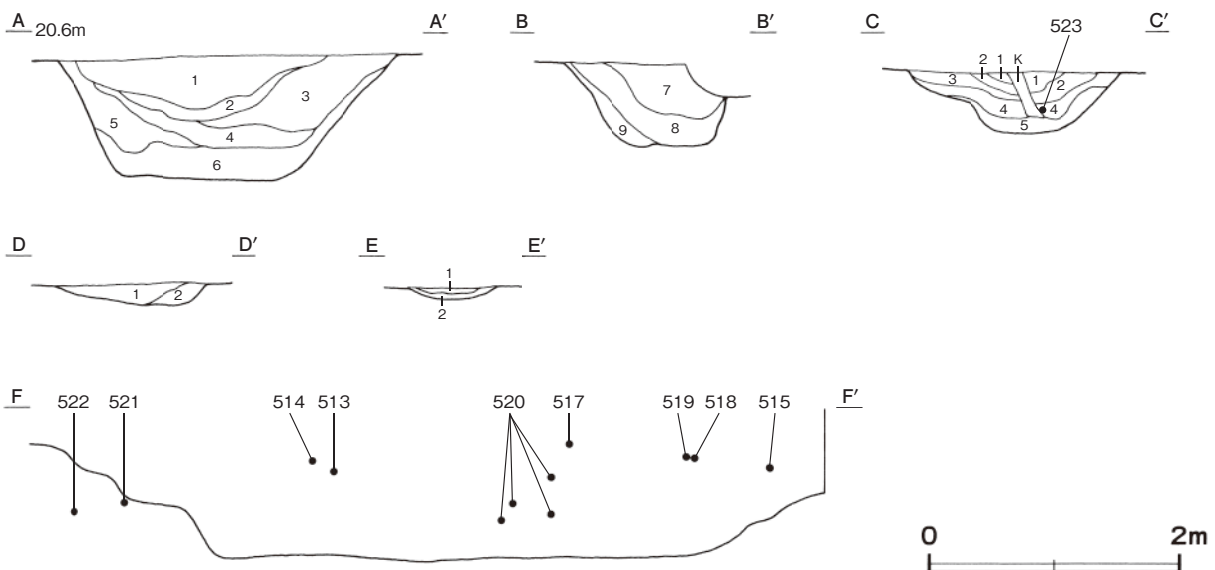
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 57	刀子	23.2	1.6	0.1~0.3	37.4	鉄	片関 断面三角形	上層	PL79

第404号溝跡 (第326～328図, 付図1・2)

位置 調査区南西部のK 3 e0～L 3 d5区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5630・5638・5639・5661・5666・5667号土坑を掘り込み, 第510号掘立柱建物, 第153号井戸, 第5626・5634・5637号土坑, 第388・402号溝に掘り込まれている。第511・516・517号掘立柱建物跡, 第60・61号杭列群, 第49・50・52・53号ピット群とも重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 北東端が調査区域外へ延びているため, 確認できた長さは47.30mである。L 3 d5区から北方向



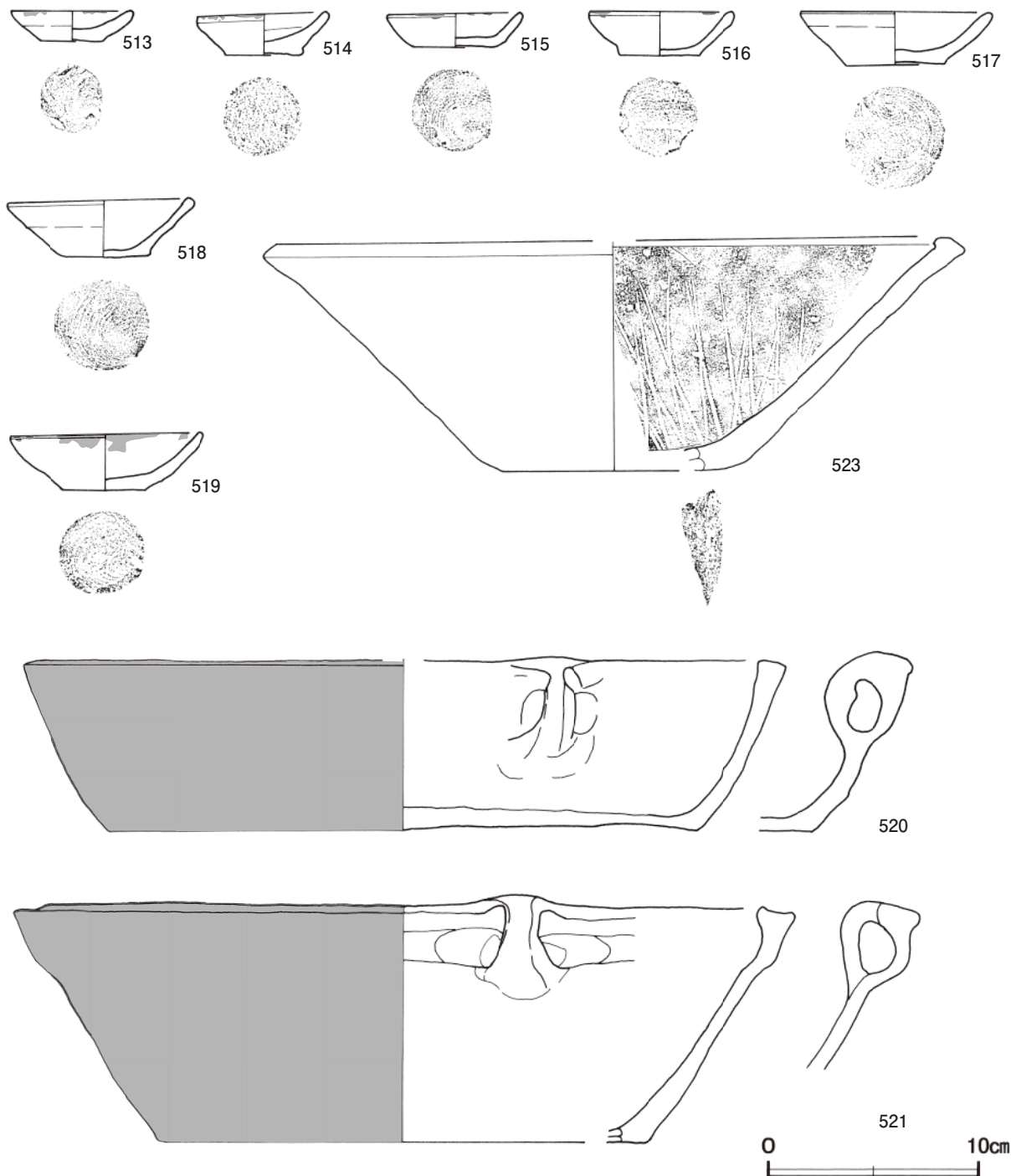
第326図 第404号溝跡実測図

(N - 15° - E)へ蛇行しながら延び、K 3e0区で調査区域外に至っている。上幅0.44～3.02 m、下幅0.20～1.43 m、深さ16～100cmで、溝底は南端部が最も高く、中央部との比高は0.50 m、北端部との比高は0.86 mである。断面形はU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

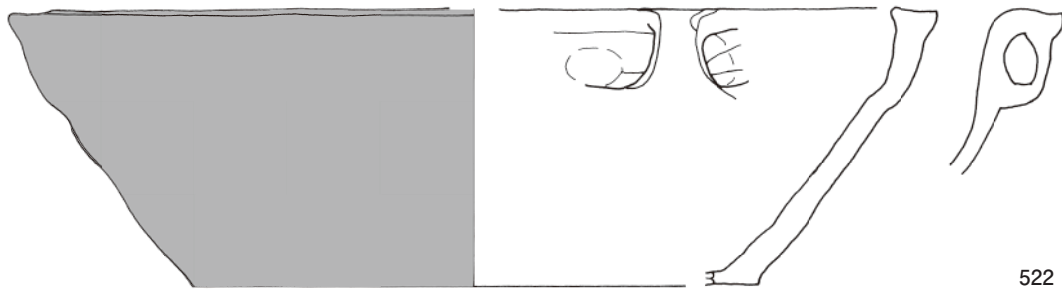
覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 7 黒 色 ロームブロック少量 |
| 3 黒 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒 褐 色 ロームブロック微量 |
| 4 黒 色 ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 9 褐 灰 色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |



第 327 図 第 404 号溝跡出土遺物実測図 (1)



522



Q39



第 328 図 第 404 号溝跡出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 土師質土器片 167 点 (小皿 30, 内耳鍋 116, 播鉢 21), 磁器片 1 点 (不明), 石製品 1 点 (硯) のほか, 土師器片 98 点 (坏 5, 甕 91, 甑 2), 須恵器片 28 点 (坏 3, 蓋 1, 甕 24) が, 北部の覆土中層から上層を中心に出土している。521・522 は北部, 523 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。520 は北部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。513～515・517～519 は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。516・Q 39 はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 雨水等を北東方向に排水する機能を有していたものと推測できる。時期は, 出土土器や重複関係から 16 世紀代と考えられる。

第 404 号溝跡出土遺物観察表 (第 327・328 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
513	土師質土器	小皿	5.9	1.5	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	100% PL70 油煙付着
514	土師質土器	小皿	6.2	2.1	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	90% 油煙付着
515	土師質土器	小皿	6.6	1.7	3.9	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	100% PL70 油煙付着
516	土師質土器	小皿	6.8	2.1	3.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% PL70 油煙付着
517	土師質土器	小皿	9.0	2.6	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	上層	95% PL70
518	土師質土器	小皿	8.5	2.8	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	上層	100% PL70
519	土師質土器	小皿	9.2	2.8	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	上層	80% PL70 油煙付着
520	土師質土器	内耳鍋	[33.8]	8.5	28.0	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り	中層	50% 外面煤付着
521	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	11.6	[23.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り	中層	20% 外面煤付着
522	土師質土器	内耳鍋	[33.8]	8.5	[28.0]	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り	中層	20% 外面煤付着
523	土師質土器	播鉢	[32.0]	10.9	[10.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面無単位の播り目 底部外面ナデ	中層	10%

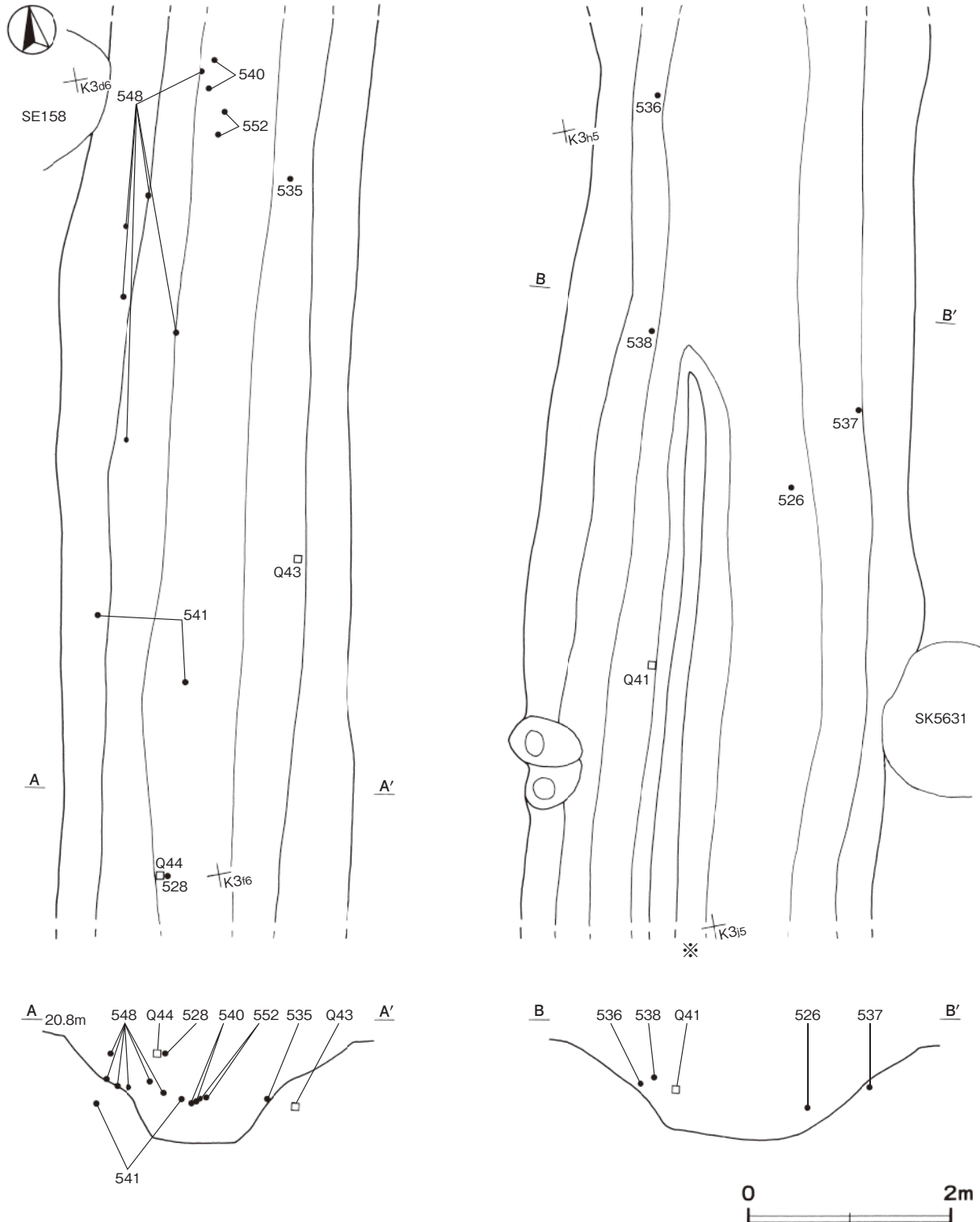
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 39	硯	(10.5)	5.7	1.6	(156.5)	泥岩	海部一部欠損 捺痕有り	覆土中	PL77

第 405 号溝跡 (第 329 ~ 337 図, 付図 1・2)

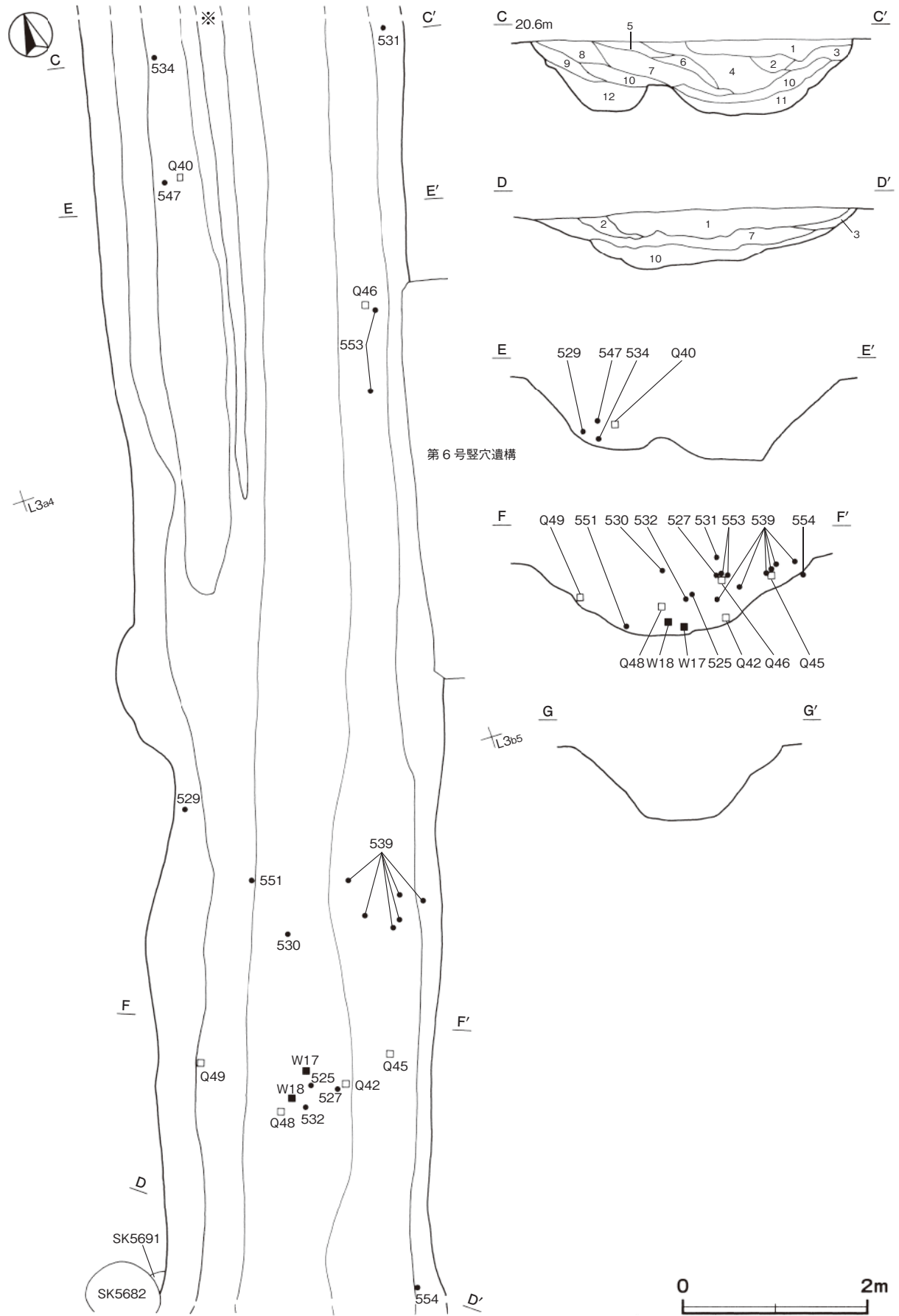
位置 調査区南西部の K 3 a7 ~ L 3 c2 区, 標高 20 ~ 21 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 5691 号土坑, 第 388・403 号溝跡を掘り込み, 第 6 号竪穴遺構, 第 5631 号土坑, 第 54 号ピット群に掘り込まれている。第 158・163 号井戸跡, 第 5682 号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 南端が調査区域外に伸びているため, 確認できた長さは 53.0 m である。K 3 a6 区から南方向 (N



第 329 図 第 405 号溝跡実測図 (1)



第 330 图 第 405 号沟迹实测图 (2)

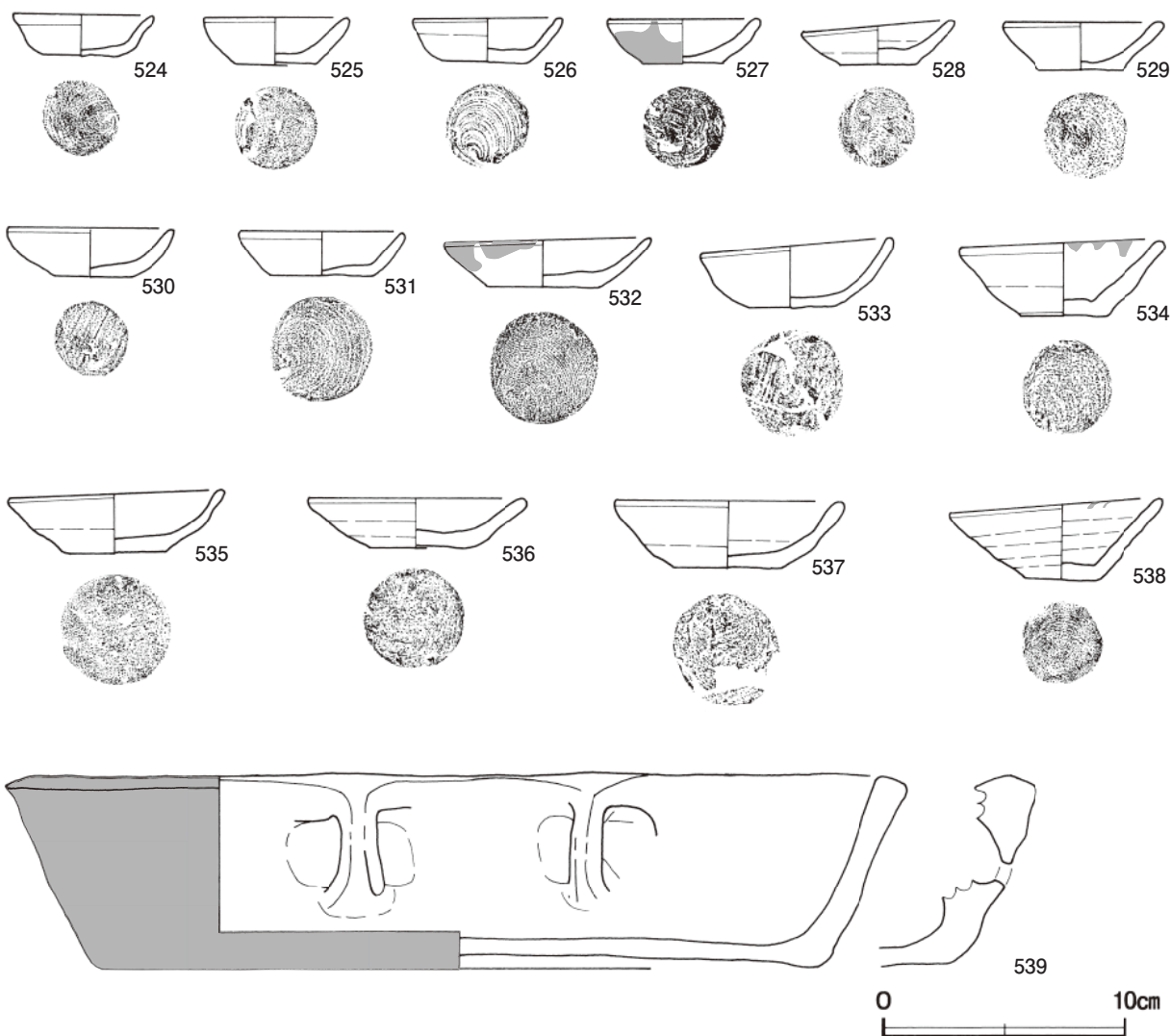
- 78° - W) へ直線的に 46.5 m 延び, L 3 c4 区でほぼ 90 度西へ屈曲して直線的に 6.5 m 延び, L 3 c2 区で調査区域外に至っている。上幅 1.68 ~ 3.88 m, 下幅 0.28 ~ 1.12 m, 深さ 45 ~ 105cm で, 溝底は北東部が最も高く, 南西部との比高は 0.05 m である。断面形は U 字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 12 層に分層できる。多くの層にローム・粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

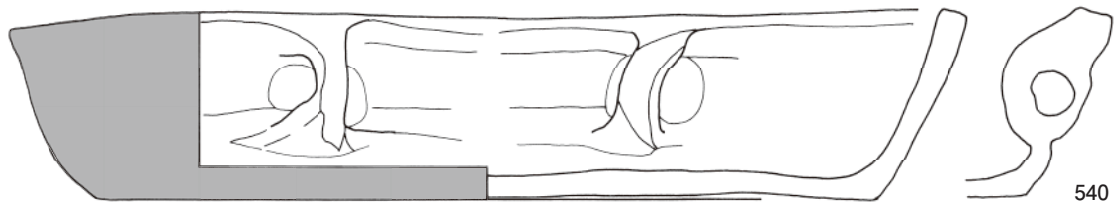
土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|----------|------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック微量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 9 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 10 黒 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 11 黒 褐 色 | 粘土ロームブロック微量 |
| 6 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 黒 褐 色 | 粘土粒子微量 |

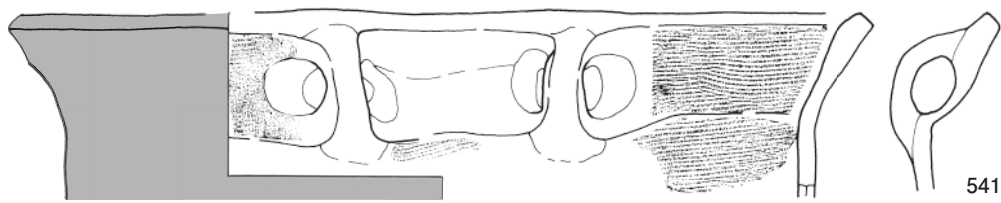
遺物出土状況 土師質土器片 962 点 (小皿 110, 内耳鍋 477, 鍋 4, 香炉 3, 鉢 270, 挿鉢 90, 火鉢 2, 甕 6), 陶器片 16 点 (天目茶碗 6, 小杯 1, 皿 4, 挿鉢 2, 壺 2, 甕 1), 磁器片 2 点 (皿, 不明), 石器・石製品 11 点 (石臼 3, 茶臼 1, 砥石 6, 宝篋印塔 1), 木製品 2 点 (曲物・板材) のほか, 縄文土器片 5 点 (深鉢), 土師器片 176 点 (坏 44, 高台付坏 3, 甕 125, 甌 4), 須恵器片 56 点 (坏 20, 高台付坏 1, 鉢 33, 甌 2) が, 全体的に散在した状態で出土している。529・534・547・551・Q 40・Q 42・W 17・W 18 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。525・532・Q 48・Q 49 は南部, 526・536 ~ 538・Q 41・Q 43 は中央部, 535 は北部



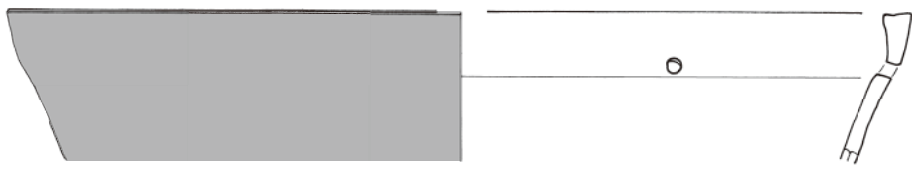
第 331 図 第 405 号溝跡出土遺物実測図 (1)



540



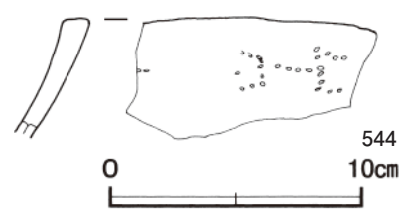
541



542



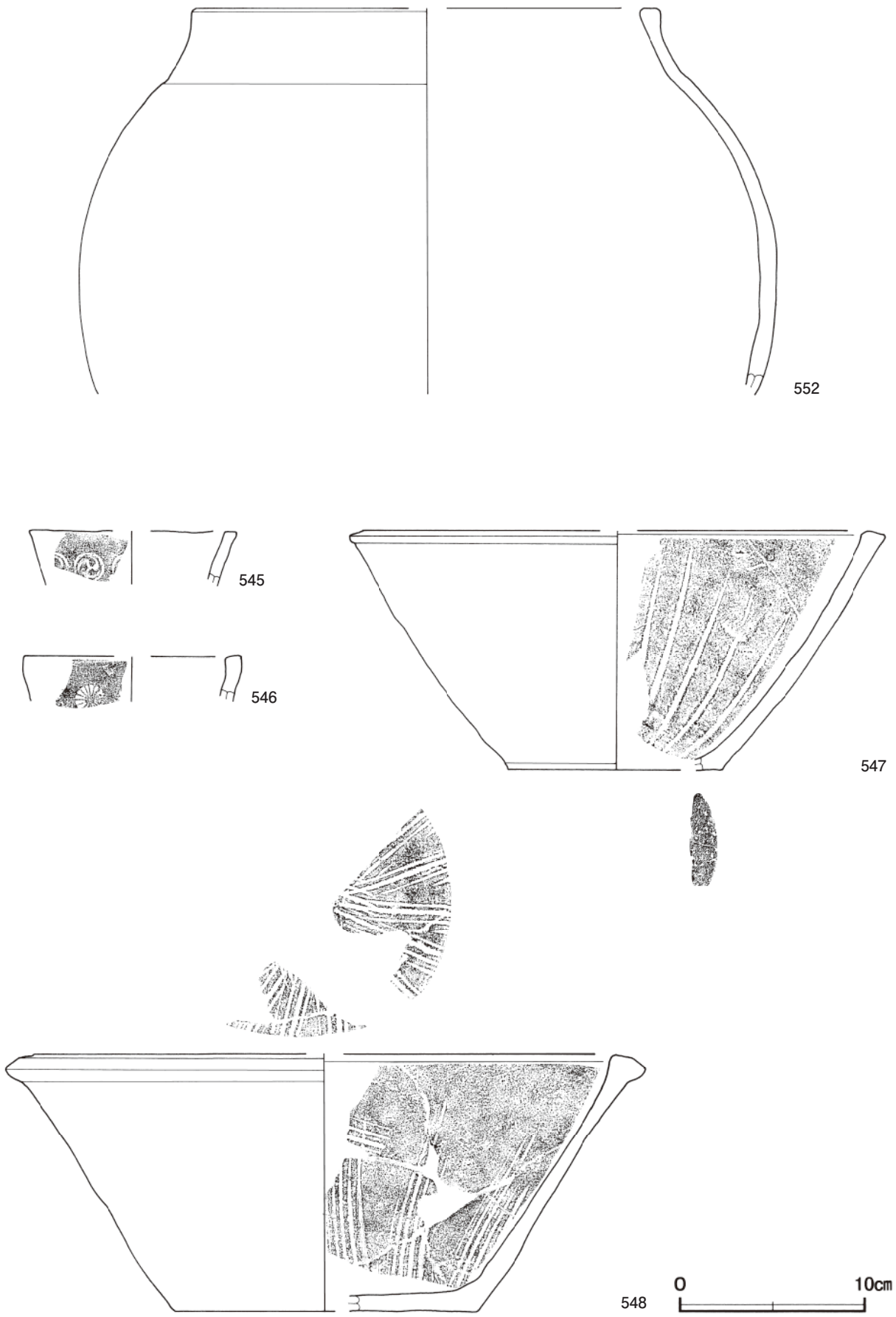
543



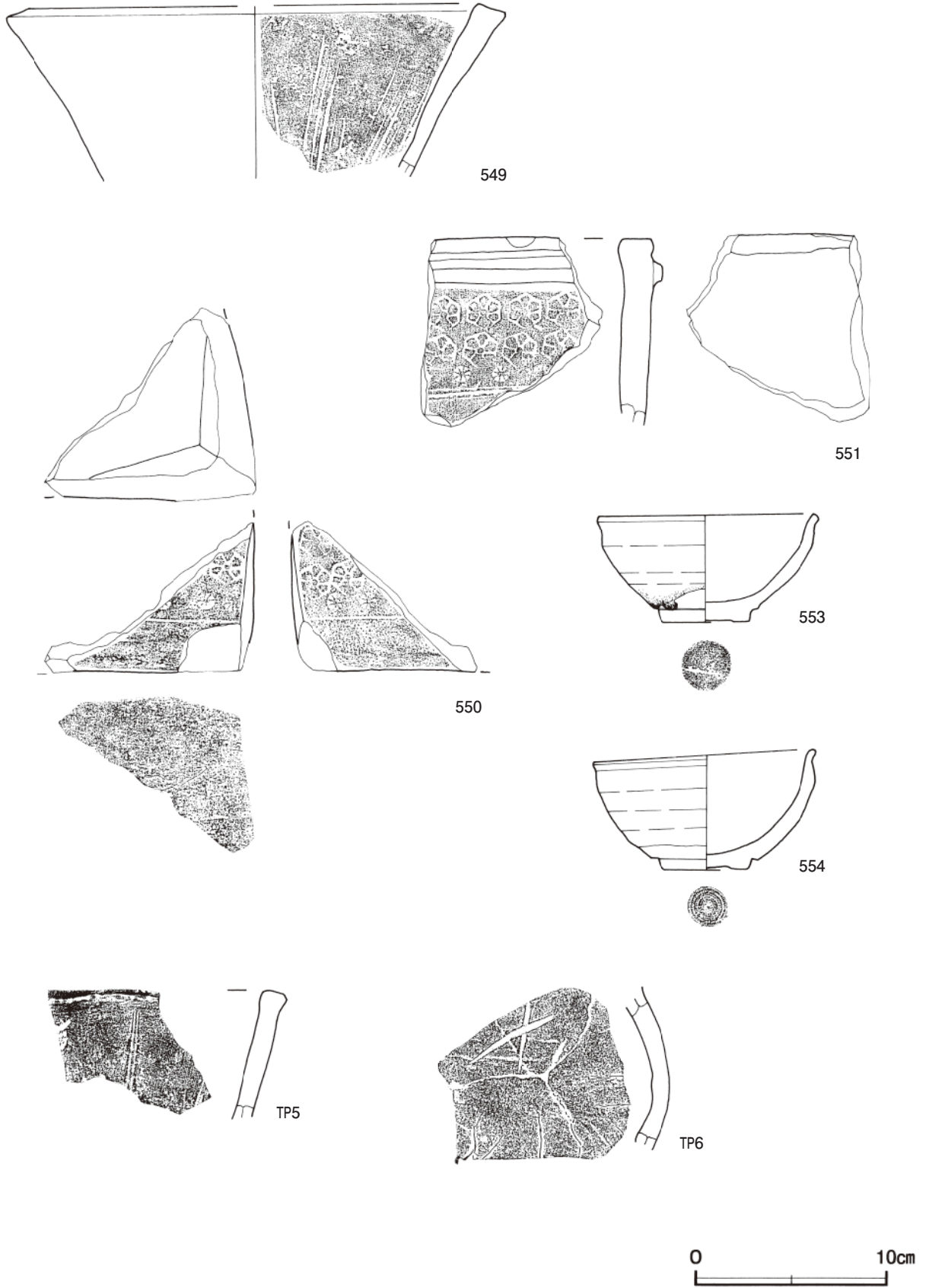
544

0 10cm

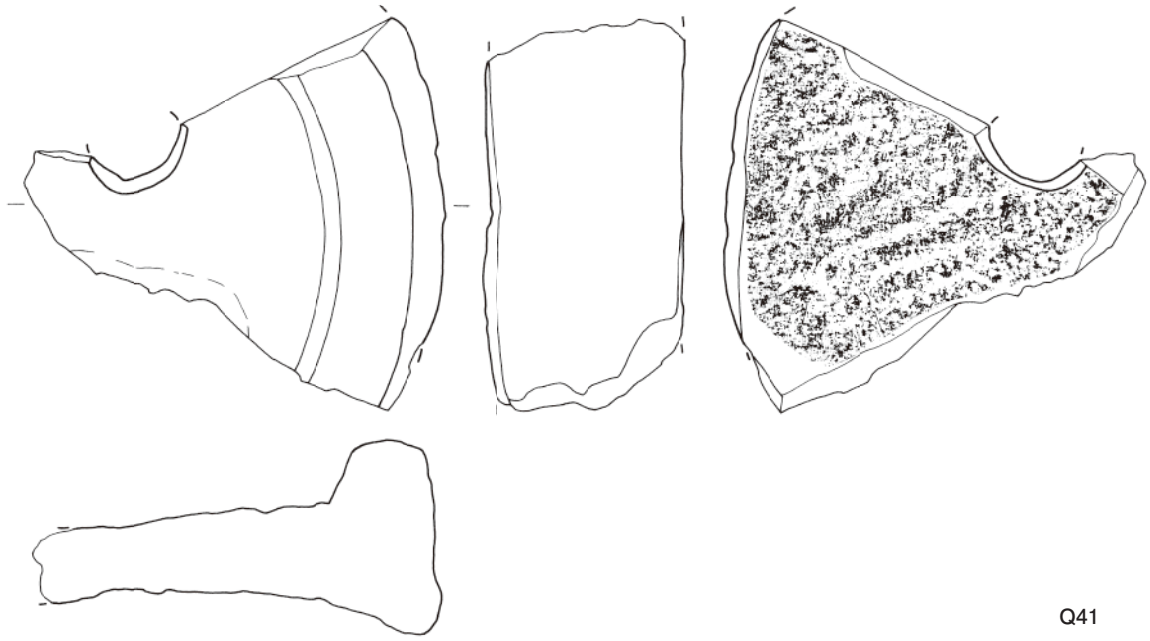
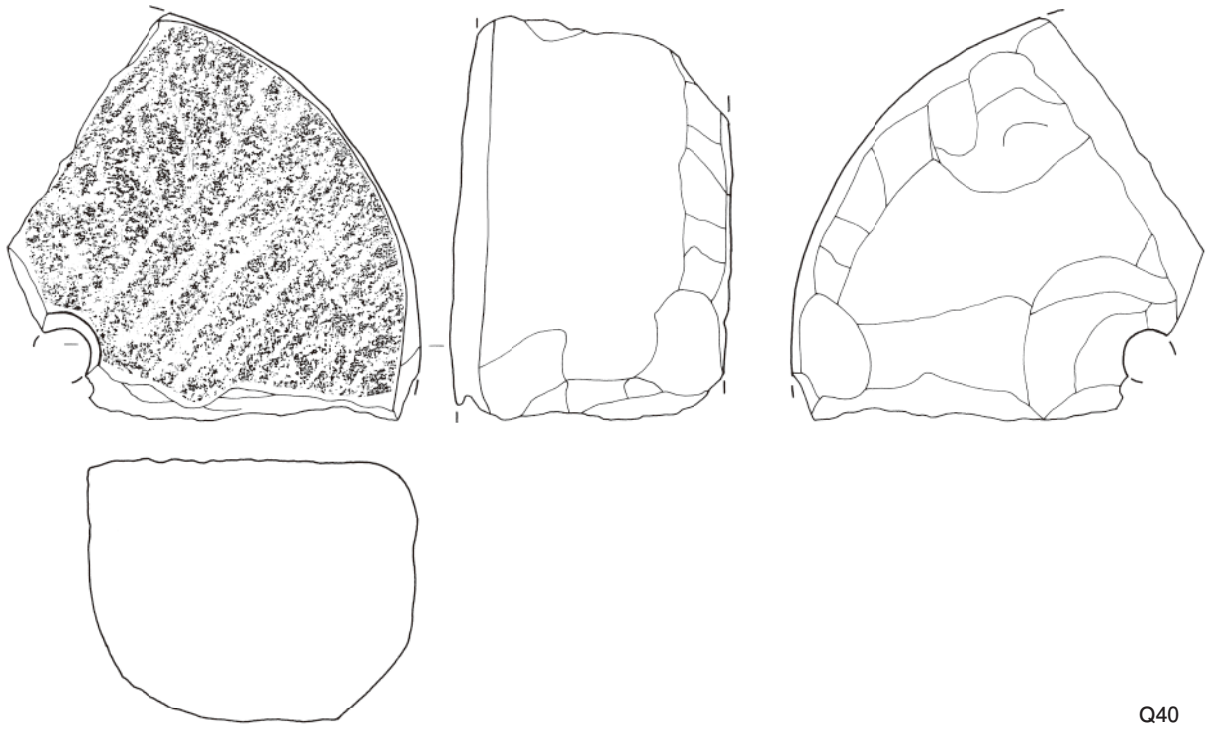
第 332 图 第 405 号沟迹出土遗物实测图 (2)



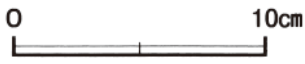
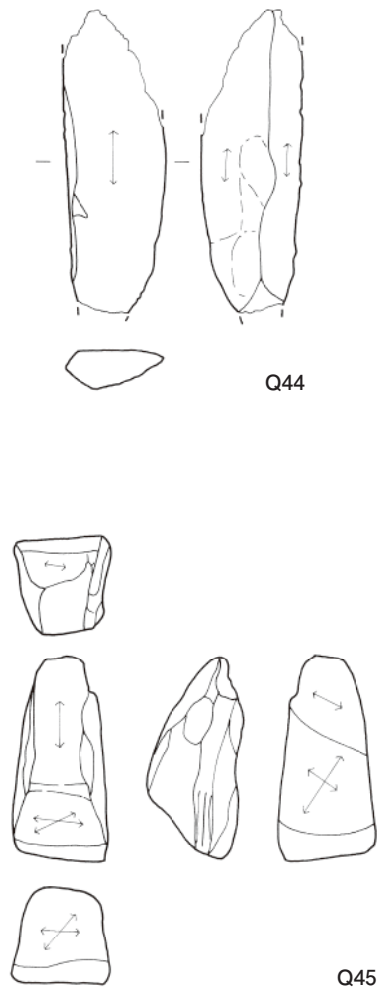
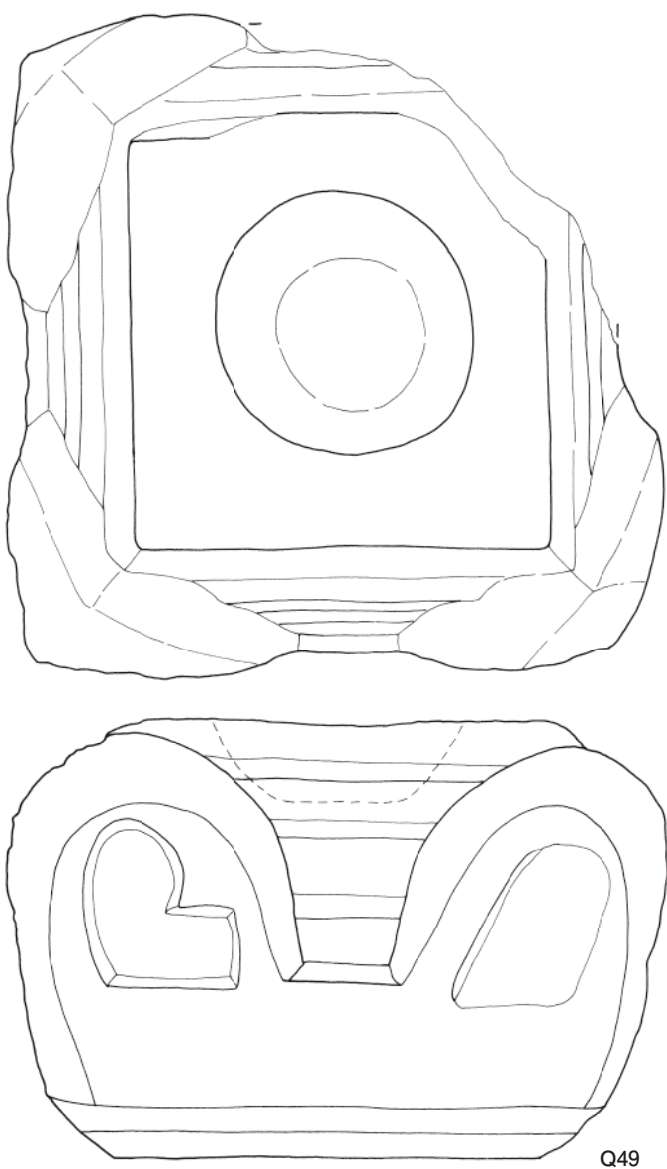
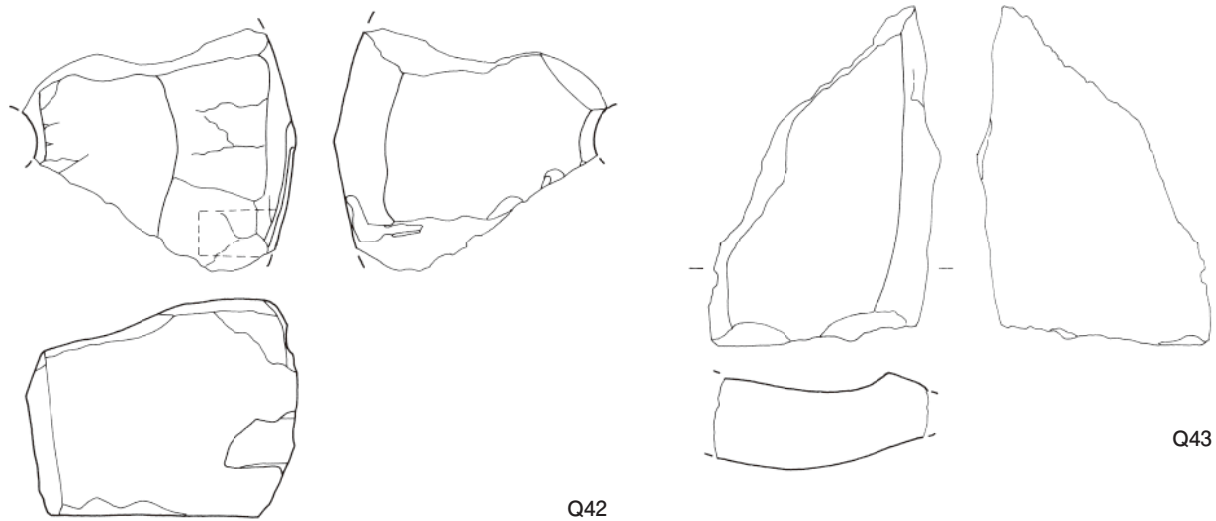
第 333 图 第 405 号沟迹出土遗物实测图 (3)



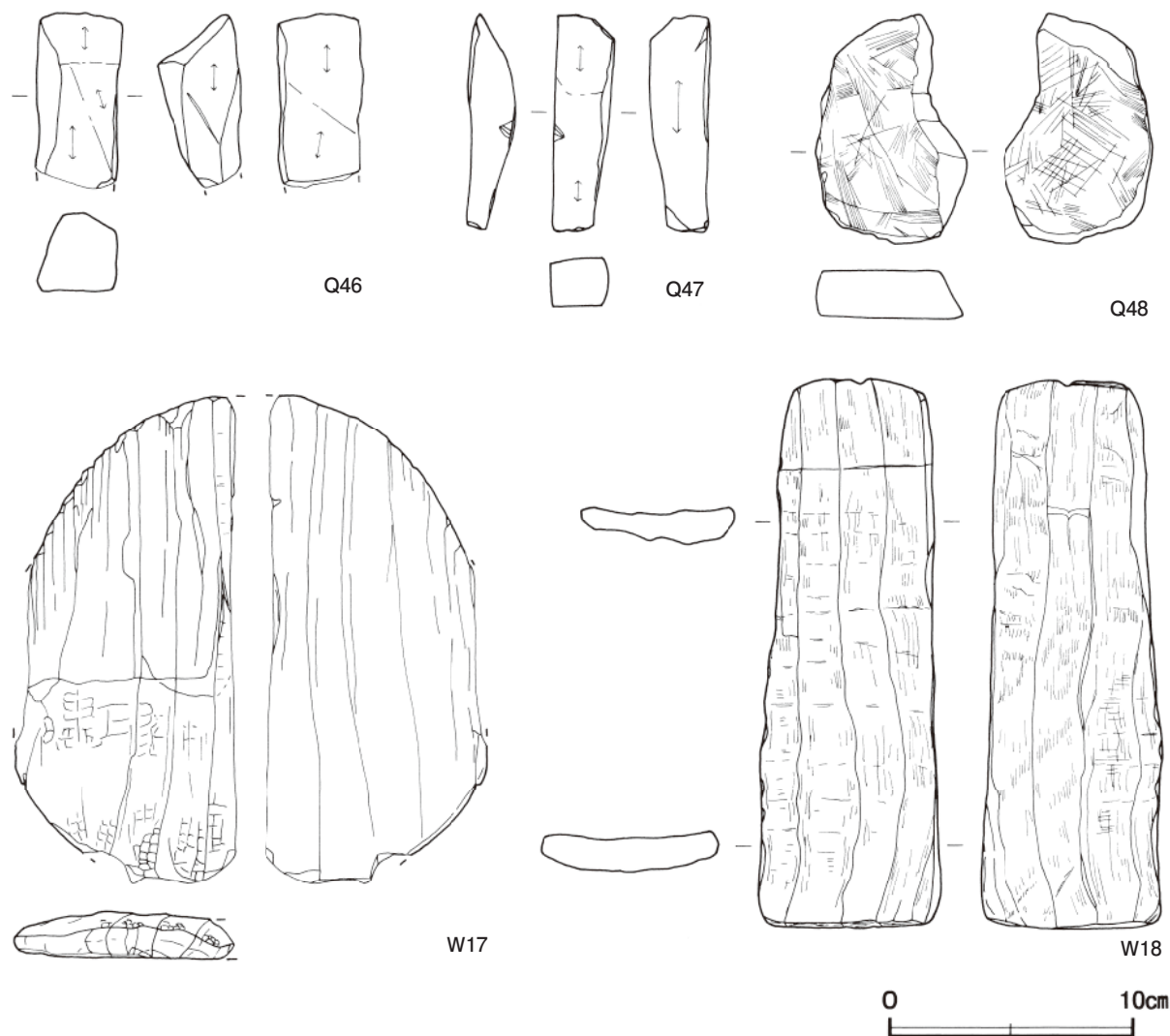
第 334 图 第 405 号沟迹出土遗物实测图 (4)



第 335 图 第 405 号沟迹出土遗物实测图 (5)



第 336 图 第 405 号沟迹出土遗物实测图 (6)



第 337 図 第 405 号溝跡出土遺物実測図（7）

の覆土中層からそれぞれ出土している。540・541・552 は北部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。539 は南部，548 は北部の覆土中層から上層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。527・530・531・554・Q 45・Q 46 は南部，528・Q 44 は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。553 は南部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。524・533・542～544・546・549・550・Q 47・TP 5・TP 6 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 比高差は少ないが，規模と形状から雨水等を排水する機能を有しており，また，南部で西方向に屈曲していることから，西側を区画するための機能を有していたものと推測できる。時期は，出土土器から 16 世紀後半から 17 世紀前半と考えられる。

第 405 号溝跡出土遺物観察表（第 331～337 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
524	土師質土器	小皿	5.8	1.7	3.2	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL70
525	土師質土器	小皿	6.0	2.0	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	95% PL70
526	土師質土器	小皿	6.1	1.8	3.5	長石・石英・雲母	淡橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	100% PL70
527	土師質土器	小皿	6.2	1.9	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	100% PL70 油煙付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
528	土師質土器	小皿	6.4	1.8	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	上層	100% PL70
529	土師質土器	小皿	6.5	2.0	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	下層	100% PL71
530	土師質土器	小皿	6.8	2.0	3.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	上層	95% PL71
531	土師質土器	小皿	6.7	1.8	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	90% PL71
532	土師質土器	小皿	8.5	2.1	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中層	100% PL71 油煙付着
533	土師質土器	小皿	8.0	2.9	4.2	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL71
534	土師質土器	小皿	8.4	3.2	3.7	長石・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	下層	100% PL71 油煙付着
535	土師質土器	小皿	8.9	2.6	4.4	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	95% PL71
536	土師質土器	小皿	9.0	2.0	4.2	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	中層	100% PL71
537	土師質土器	小皿	9.4	2.8	4.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	中層	80% PL71
538	土師質土器	小皿	8.8	3.4	3.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中層	100% PL71 油煙付着
539	土師質土器	内耳鍋	35.4	7.9	25.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り 体部内耳欠損部に孔有り 孔径0.8cm	中・上層	60% 外面煤付着
540	土師質土器	内耳鍋	36.1	7.6	31.0	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り	中層	100% PL68 外面煤付着
541	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラ削り	中層	20% 外面煤付着
542	土師質土器	鍋	[35.8]	(6.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 孔径0.6cm	覆土中	5% PL72 外面煤付着
543	土師質土器	鍋	[26.4]	(4.1)	-	長石・石英・小礫	橙	普通	外・内面ナデ 孔有り 孔径1.1cm	覆土中	5%
544	土師質土器	鍋	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 刺突文	覆土中	5% PL72
545	土師質土器	香炉	[11.2]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口コロ成形 体部外面三つ巴文押捺	覆土中	5% PL72
546	土師質土器	香炉	[11.6]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口コロ成形 体部外面菊花文押捺	覆土中	5% PL72
547	土師質土器	播鉢	[27.4]	12.9	[11.6]	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面1条1単位の播り目	下層	10%
548	土師質土器	播鉢	[31.4]	13.9	[16.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面5条1単位の播り目	中・上層	40% PL67
549	土師質土器	播鉢	[23.5]	(9.6)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面5条1単位の播り目	覆土中	5%
550	土師質土器	火鉢	(10.1)	(7.9)	(11.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面ナデ 花文・菊花文押捺 沈線による区画	覆土中	5% PL67
551	土師質土器	火鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	外・内面ナデ 外面突帯貼り付け 花文・菊花文押捺 沈線による区画	下層	5%
552	土師質土器	甕	[25.0]	(20.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明褐	普通	外・内面ナデ	中層	20%
553	陶器	天目茶碗	11.2	5.6	4.5	精良 鉄釉	黒褐	良好	外・内面鉄釉 体部下端釉だれ 削り出し高台 高台周辺露胎	上層	80% PL86
554	陶器	天目茶碗	11.5	6.3	4.4	精良 鉄釉	黒褐	良好	外・内面鉄釉 削り出し高台 高台周辺露胎	上層	70% PL86

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 5	土師質土器	鍋	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	PL72
TP 6	土師質土器	甕	長石・石英・雲母	橙	体部外・内面ナデ	覆土中	PL72 刻書「十」カ

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 40	石白(下白)	[28.8]	[2.3]	(11.3)	(3.650)	安山岩	1単位4条以上の播り目	下層	PL77
Q 41	石白(上白)	[34.0]	[4.0]	8.0	(1.245)	安山岩	裏側7条の播り目	中層	PL77
Q 42	石白(上白)	[23.0]	[2.8]	8.7	(970)	安山岩	軸受け横打込孔残存	下層	PL77
Q 43	茶白(下白)	-	-	(4.0)	(430)	安山岩	下白片	中層	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 44	砥石	(12.0)	4.0	1.5	(69.2)	凝灰岩	砥面3面	上層	PL76
Q 45	砥石	8.1	3.9	3.8	114.8	凝灰岩	砥面4面	上層	PL76
Q 46	砥石	(7.2)	3.5	3.4	(90.6)	凝灰岩	砥面6面	上層	PL76
Q 47	砥石	8.9	2.5	2.0	55.0	凝灰岩	砥面3面	覆土中	PL76
Q 48	砥石	9.5	6.2	2.0	198.7	泥岩	砥面2面 擦痕多数	中層	PL76

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 49	宝篋印塔	26.5	26.2	17.5	(17.300)	花崗岩	笠部 一部欠損	中層	PL77

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W 17	木製品	曲物カ	(20.0)	(9.0)	2.0	木	炭化範囲有り	下層	PL83
W 18	木材	板材	22.5	7.4	1.6	木	断面やや彎曲	下層	PL83

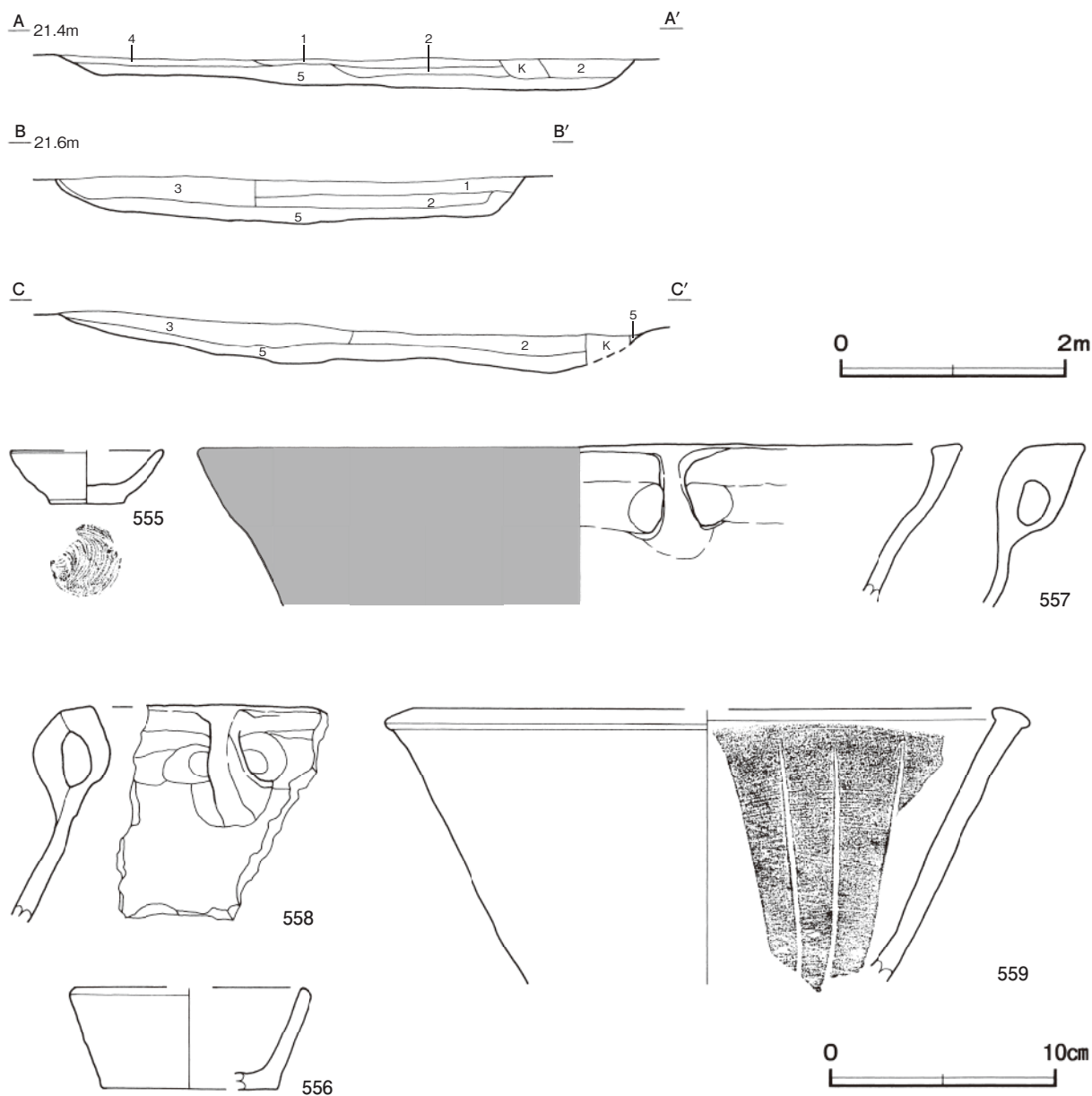
第 407 号溝跡 (第 338・339 図, 付図 1・2)

位置 調査区南西部の J 4 b2 ~ J 4 h4 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 408 号溝跡を掘り込み, 第 5657 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南端が調査区域外へ延びているため, 確認できた長さは 24.40 m である。J 4 h4 区から北方向 (N - 10° - W) に直線的に延びている。幅 0.35 ~ 0.52 m, 深さ 12cm で, 溝底は南端部が最も高く, 北部との比高は 0.18 m である。断面形は浅い U 字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



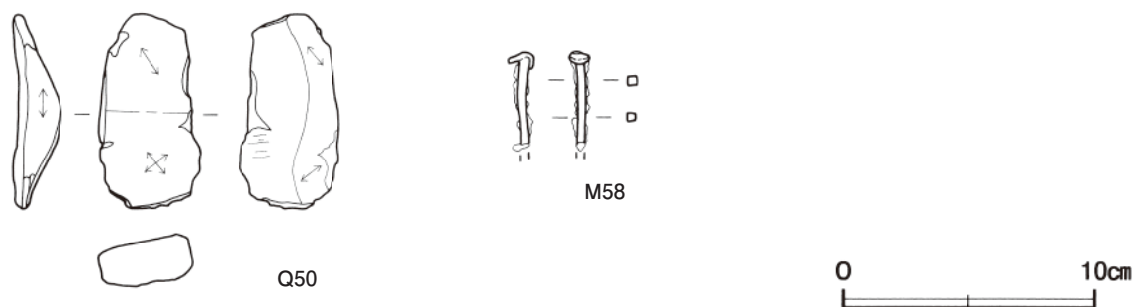
第 338 図 第 407 号溝跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 (極めて締まり強い) | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 (極めて締まり強い) | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師質土器片 98 点 (小皿 1, 内耳鍋 65, 香炉 2, 播鉢 4, 甕 26), 石器 1 点 (砥石), 鉄製品 1 点 (釘) のほか, 土師器片 4 点 (甕), 須恵器片 20 点 (坏 2, 高台付坏 1, 甕 17) も出土している。558 は南部, Q 50 と M 58 は中央部の覆土中層から出土している。555 ~ 557・559 はいずれも覆土中から出土している。

所見 第 408 号溝が機能を失った後に構築されたものである。時期は, 出土土器や重複関係から 17 世紀以降と考えられる。覆土の第 1・2 層が硬化していることから, 雨水等の排水する溝としての機能を失った後に道路として利用されていたものと考えられる。



第 339 図 第 407 号溝跡出土遺物実測図

第 407 号溝跡出土遺物観察表 (第 338・339 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
555	土師質土器	小皿	[6.8]	2.3	3.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	50% PL71
556	土師質土器	香炉	[10.2]	4.5	[7.8]	長石・石英	明褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	5%
557	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(7.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5% 外面煤付着
558	土師質土器	内耳鍋	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	中層	5% 外面煤付着
559	土師質土器	播鉢	[26.0]	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面 1 条 1 単位の播り目	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 50	砥石	7.8	4.0	2.1	56.3	凝灰岩	砥面 4 面 擦痕有り	中層	PL76

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 58	釘	(4.0)	0.8	0.3~0.4	(3.6)	鉄	先端部欠損 断面正方形	中層	PL81

第 408 号溝跡 (第 340・341 図, 付図 1・2)

位置 調査区南西部の J 3 a7 ~ J 4 h4 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 267・397 号溝跡を掘り込み, 第 5657 号土坑, 第 407 号溝に掘り込まれている。第 390・393・406A・410 号溝跡, 第 5648 号土坑とも重複するが, 新旧関係は不明である。

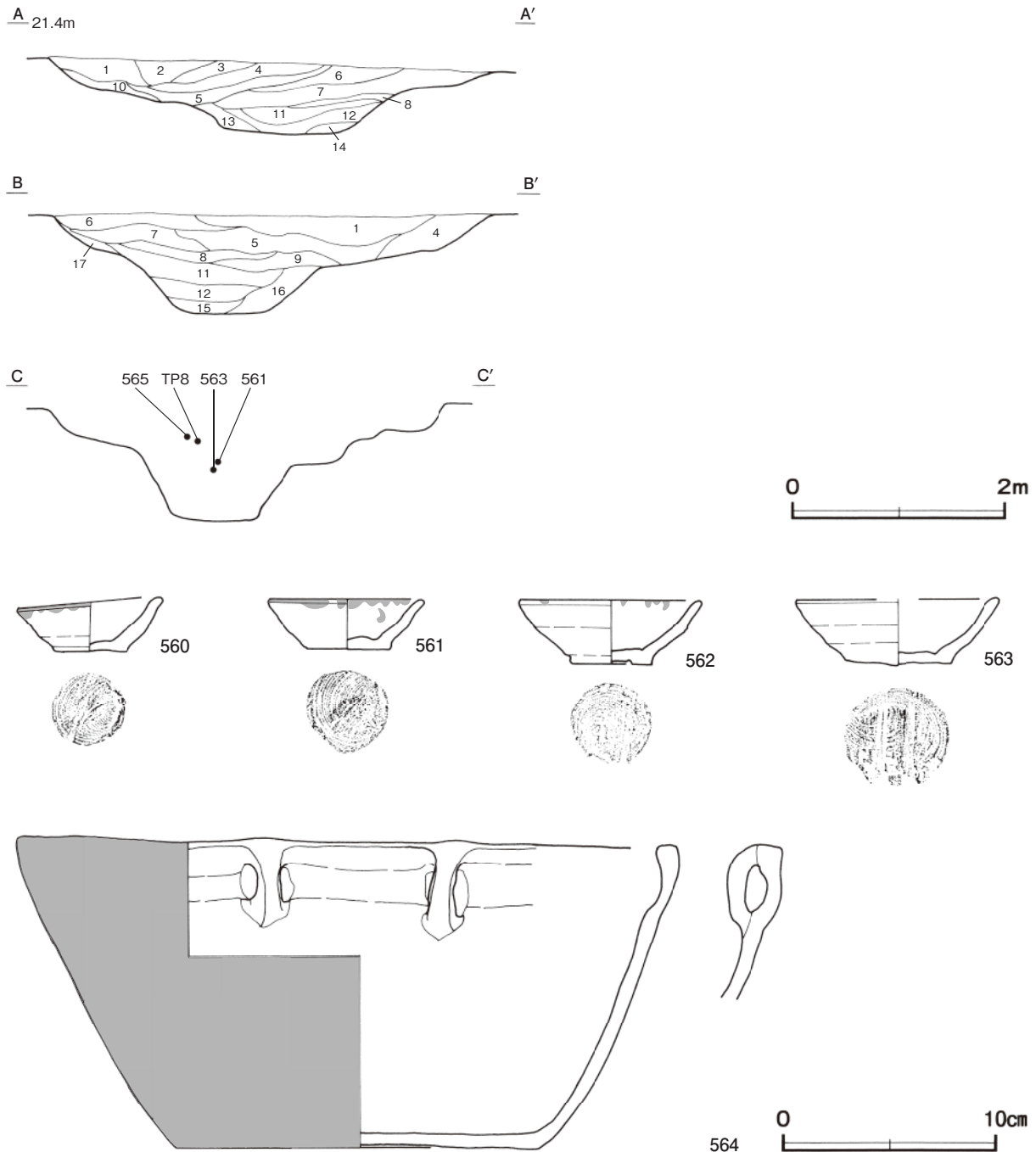
規模と形状 両端ともに調査区域外に延びており, 確認できた長さは 51.0 m である。J 4 i4 区から北方向 (N - 12° - W) に直線的に 28.0 m 延び, J 4 b3 区でほぼ 110 度西へ屈曲し, 直線的に 23.0 m 延び, J 3 a7 区で調査区域外に至っている。上幅 0.34~0.45 m, 下幅 0.61~0.88 m, 深さ 102cm で, 溝底は西部が最も高く, コーナー部との比高は 0.39 m, 南端部との比高は 0.19 m である。断面形は箱葉研状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 17層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

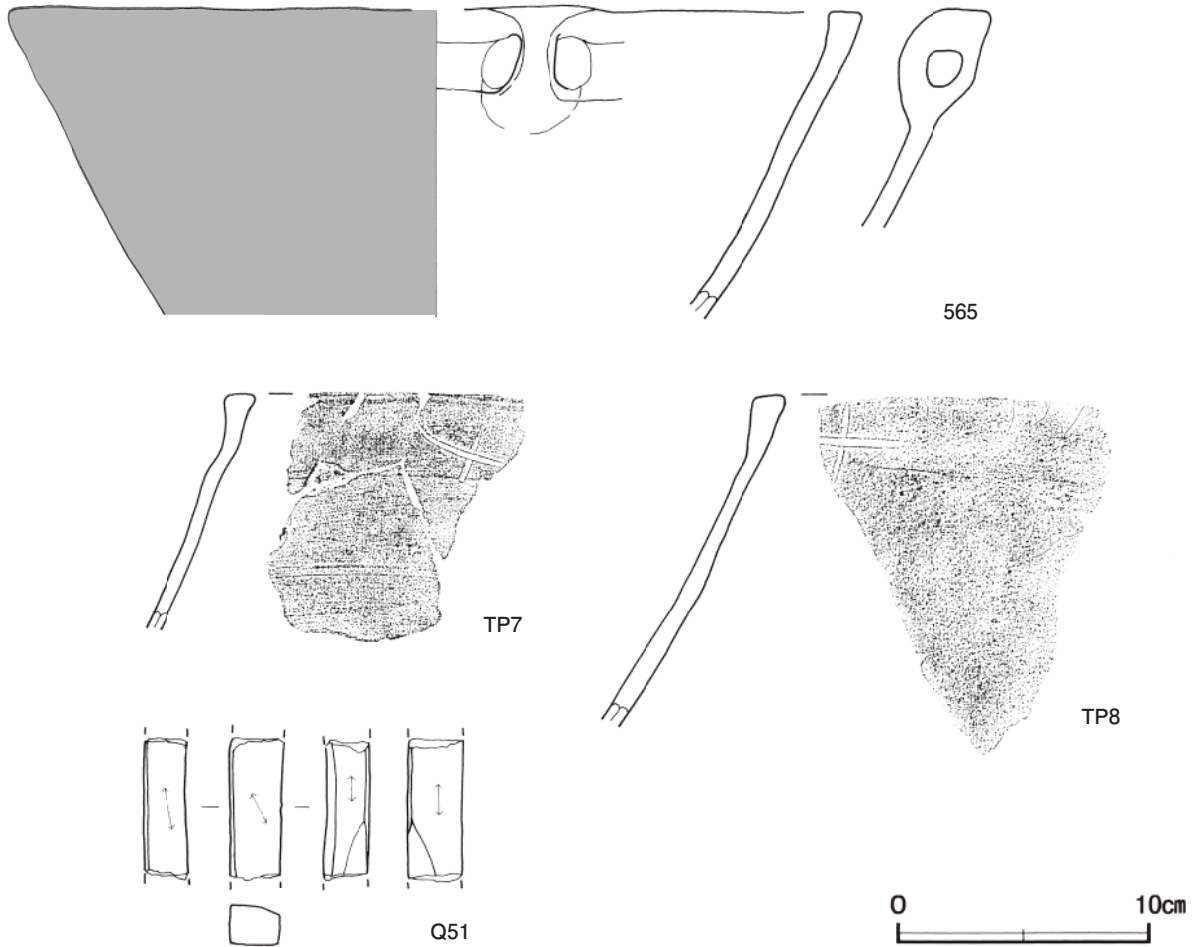
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒色 | ロームブロック少量 (鉄分含む) |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 極暗褐色 | ロームブロック少量 (鉄分含む) |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量 (鉄分含む) |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | 16 にぶい褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 17 褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片 402 点 (小皿 4, 蓋 1, 内耳鍋 397), 磁器片 1 点 (碗), 石器 1 点 (砥石), 馬歯のほか, 土師器片 63 点 (坏 13, 高坏 1, 甕 49), 須恵器片 14 点 (坏 6, 高台付坏 1, 甕 7) が, 主に中央



第 340 図 第 408 号溝跡・出土遺物実測図



第 341 図 第 408 号溝跡出土遺物実測図

部の覆土中層から上層にかけて出土している。561・563 は中央部の覆土中層，565・TP 8 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。560・562・564・TP 7・Q 51 はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 規模と形状から南西側を区画する機能を有しており，覆土の第 12・14・15 層に鉄分が含まれていることから，常に水が滞留していたと考えられる。時期は，出土土器や重複関係から 16 世紀後半と考えられる。

第 408 号溝跡出土遺物観察表（第 340・341 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
560	土師質土器	小皿	6.8	2.6	3.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	90% PL71 油煙付着
561	土師質土器	小皿	7.2	2.4	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	80% PL71 油煙付着
562	土師質土器	小皿	8.5	3.0	3.8	長石	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% PL71 油煙付着
563	土師質土器	小皿	[9.5]	3.1	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	中層	70% PL71
564	土師質土器	内耳鍋	31.0	14.2	17.1	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ削り 内耳 2 か所残存	覆土中	80% PL68 外面煤付着
565	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(12.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内耳 1 か所残存	上層	20% 外面煤付着

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 7	土師質土器	鍋	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	PL72 刻書「十」か 外面煤付着
TP 8	土師質土器	鍋	長石・石英	にぶい黄橙	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	上層	PL72 刻書「十」か 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 51	砥石	(5.6)	2.2	1.9	(36.9)	凝灰岩	砥面 4 面 他は破断面	覆土中	PL76

表 25 中世・近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
218	F9i8 ~ G9g7	N - 22° - E	直線	(32.4)	0.90 ~ 1.50	0.08 ~ 0.52	47 ~ 52	U字状	外傾緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 石器	SK3078, SD222・224 →本跡→SK3075
219	G9f3 ~ G9j4	N - 20° - E N - 64° - W	L字状	20.4	0.54 ~ 1.56	0.27 ~ 0.70	22 ~ 34	U字状	緩斜	自然	土師器片, 陶器片, 磁器片, 石器	SF19, SD220 → 本跡
220	G9f5 ~ I7j9	N - 30° - E	直線	(115.2)	0.95 ~ 2.76	0.40 ~ 0.82	23 ~ 42	W字状・U字状	緩斜	人為	陶器片, 磁器片, 土製品, 石器, 石製品	SI2317・2326・2327・2329・2344・2352・2353 → 本跡 → SF19, SD219
224	G9e6 ~ G9f6	N - 4° - E	直線	(4.6)	0.97 ~ 1.16	0.56 ~ 0.89	18	浅いU字状	緩斜	-		本跡 → SD218
225	H7d9 ~ H8d0	N - 86° - W	ほぼ直線	42.3	0.49 ~ 1.66	0.18 ~ 0.90	10 ~ 47	浅いU字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	本跡 → SH83, SE141, SK3107・3108・3111
262	H5h0 ~ J5h0	N - 2° - W	直線	82.6	0.54 ~ 1.50	0.45 ~ 1.08	8 ~ 54	U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 土製品	SI2459・2978・2981, SB343・461 → 本跡 → SK3757・5110, SD267
263	H5c2 ~ J4a9	N - 16° - W	直線	(74.09)	0.60 ~ 1.50	0.30 ~ 1.30	14 ~ 19	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SD2489・2868・2871, SD264 → 本跡 → SD266・267・277
264	H4f6 ~ H5e9	N - 86° - E	直線	(53.0)	0.50 ~ 1.40	0.18 ~ 0.60	17 ~ 37	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁器片, 石器, 鉄製品	SD2871 → 本跡 → SE149 SK5606, SD263
266	I5b2 ~ J4h8	N - 16° - E	直線	68.16	1.04 ~ 1.52	0.84 ~ 1.32	14 ~ 48	浅いU字状	緩斜外傾	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 鉄製品	SI2465・2489, SD263 → 本跡 → SK3648・3649・3689, SD267・274・277
267	I4f3 ~ J6e4 J6e4 ~ K6a1 I4f3 ~ J4b4	N - 5° - W N - 67° - W N - 34° - E	コ字状	(148.2)	1.24 ~ 2.36	0.30 ~ 0.84	94 ~ 109	逆台形	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 石器	SI2481 ~ 2483・2486・2977・2979・2980・2985, SB469, SK3292, SD262・263・266・275・406B → 本跡 → SK3989・5618・5622・5656・SD408 SB333, SK3791 新旧不明
268	H6f3 ~ J7a8	N - 44° - W	ほぼ直線	(85.6)	0.47 ~ 1.80	0.20 ~ 1.00	20 ~ 52	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 土製品	SI2355・2394・2398・2399・2494・3029, SB537 → 本跡 → SK3264・6000・6001・6004・6006・6008, PG56・57 新旧不明
274	J4f5 ~ J4g9	N - 75° - W	直線	(16.6)	0.80 ~ 0.98	0.42 ~ 0.58	17 ~ 21	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 馬歯	SI2464・2556, SB329, SD266 → 本跡 → SE170, SK3644 SK4955・4956 新旧不明
275	I5i3 ~ J5a6	N - 67° - W	直線	(15.32)	0.68 ~ 1.18	0.48 ~ 0.76	6 ~ 12	浅いU字状	緩斜	-	土師器片, 須恵器片	SI2481・2483 → 本跡 → SD267
277	I4j0 ~ I4h4 I4h4 ~ J4d4	N - 73° - W N - 4° - E	L字状	(46.63)	0.74 ~ 1.26	0.26 ~ 0.83	14 ~ 30	逆台形	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片	SI2463・2555, SD263・266 → 本跡 → UP76, SK3291, 3642・3669, SD278
278	J4c4 ~ J4h5	N - 15° - W	直線	(18.54)	0.80 ~ 1.65	0.32 ~ 0.65	8 ~ 30	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 石器	SI2556, SK5694, SD277 → 本跡 → SE156, SK3636・3644
388	L3c3 ~ L3h8	N - 5° - E N - 77° - W	屈曲	(32.18)	1.58 ~ 3.50	0.50 ~ 1.50	44	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 石器	SK5687, SE164・SD404 → 本跡 → SK5660, SD405
397	I3j9 ~ J3g0	N - 3° - W	直線	(29.80)	0.22 ~ 1.10	0.10 ~ 0.58	20 ~ 42	V字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片	本跡 → SD408
399	J3i6 ~ J4j2	N - 83° - W	直線	(25.70)	1.18 ~ 2.34	0.18 ~ 0.40	66 ~ 90	V字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 鉄製品	SK5614 → 本跡
402	K3e7 ~ K3f9	N - 76° - W	直線	(7.88)	0.90 ~ 1.19	0.36 ~ 0.70	32 ~ 37	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片	SD404 → 本跡
403	J3j5 ~ K4b1	N - 83° - W	直線	(25.44)	1.90 ~ 3.50	0.26 ~ 0.40	106 ~ 120	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 鉄製品	本跡 → SD400・405
404	K3e0 ~ L3d5	N - 87° - E N - 15° - E	L字状	(47.30)	0.44 ~ 3.02	0.20 ~ 1.43	16 ~ 100	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 磁器片, 石製品	SK5630・5639 → 本跡 → SB510, SE153, SK5626・5634・5637・5638・5661・5666・5667, SD388・402, SB511・516・517, SA60・61, PG49・50・52・53 新旧不明
405	K3a7 ~ L3c2	N - 78° - W	L字状	(53.0)	1.68 ~ 3.88	0.28 ~ 1.12	45 ~ 105	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 石器, 石製品, 木製品	SK5691, SD388・403 → 本跡 → 第6号堅穴遺構, SK5631, PG54, SE158・163, SK5682 新旧不明
407	J4b2 ~ J4h4	N - 10° - W	直線	(24.40)	0.35 ~ 0.52	-	12	浅いU字状	外傾	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 石器, 鉄製品	SD408 → 本跡 → SK5657
408	J3a7 ~ J4h4	N - 12° - W N - 80° - W	L字状	(51.00)	0.34 ~ 0.45	0.61 ~ 0.88	102	箱築研状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 石器, 馬歯, 土師質土器片, 磁器片	SD267・397 → 本跡 → SK5657, SD407, SD390・393・406A・410, SK5648 新旧不明

(10) 杭列跡

今回の調査で22列の杭列跡が検出された。このうち17列には、それぞれの位置関係から、配列に規則性があると考えられる。よって、17列については3か所の杭列群に分け、実測図と一覧表で紹介するとともに、それらの特徴について記載するものとする。その他の5列については、それぞれの関連性が認められないことから、個別に取り上げて記述し、実測図と一覧表で紹介するものとする。

ア 杭列群

第1号杭列群 (第342・343図)

調査区北西部のF 6 f6～F 6 j1から、第33・34・47～50号杭列跡の6列の杭列が検出された。標高20 mほどの台地緩斜面部に位置し、長さは4.23～11.20 mである。列方向はN-40～48°-Eとほぼ揃っている。柱間は0.13～1.30 mとばらつきがある。柱穴は、5～28cmの深さで7～23か所が確認されている。遺物は、土師器片2点(甕)、陶器片1点(不明)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

第2号杭列群 (第344図)

調査区北西部のG 5 a9～G 5 c8から、第35・36号杭列跡の2列の杭列が検出された。標高20 mほどの台地緩斜面部に位置し、長さは9.54・8.92 mである。列方向はいずれもN-40°-Eと揃っている。柱間は0.31～1.78 mとばらつきがある。柱穴は、8～39cmの深さで12・17か所が確認されている。遺構に伴う遺物は出土していない。

第3号杭列群 (第345図)

調査区西部のH 4 h9～I 4 c8から、第38～46号杭列跡の9列の杭列が検出された。標高20 mほどの台地緩斜面部に位置し、長さは2.43～8.21 mである。列方向はN-20～24°-Eとほぼ揃っている。柱間は0.21～1.30 mとばらつきがある。柱穴は、10～50cmの深さで5～29か所が確認されている。遺物は、土師器片41点(坏4, 甕37), 須恵器片2点(不明), 陶器片2点(不明), 礫1点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 第1～3号までの杭列は、それぞれ1 m前後の幅で並列して確認されている。第1・2号杭列は、調査区の北西部に位置し、H 4 h9区から南西方向にほぼ一直線に並び、総延長は約42 mになる。また、第3号杭列は、H 4 h9区から南南西方向にほぼ一直線に並び、総延長は約21 mになる。東側に位置していた建物または建物群を区画するための柵跡もしくは板塀の可能性が想定されるが、詳細については不明である。時期は、調査区中央部を東西に横切る第20号道路跡とほぼ直交していることから、同時期中世から近世にかけて機能していたものと考えられる。

イ 杭列跡

第37号杭列跡 (第346図)

位置 調査区北西部のG 5 h4区、標高21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 3.80 mの間に5か所のピットが確認された。列方向はN-38°-Wで、柱間は0.63～1.07 mとばらつきがある。

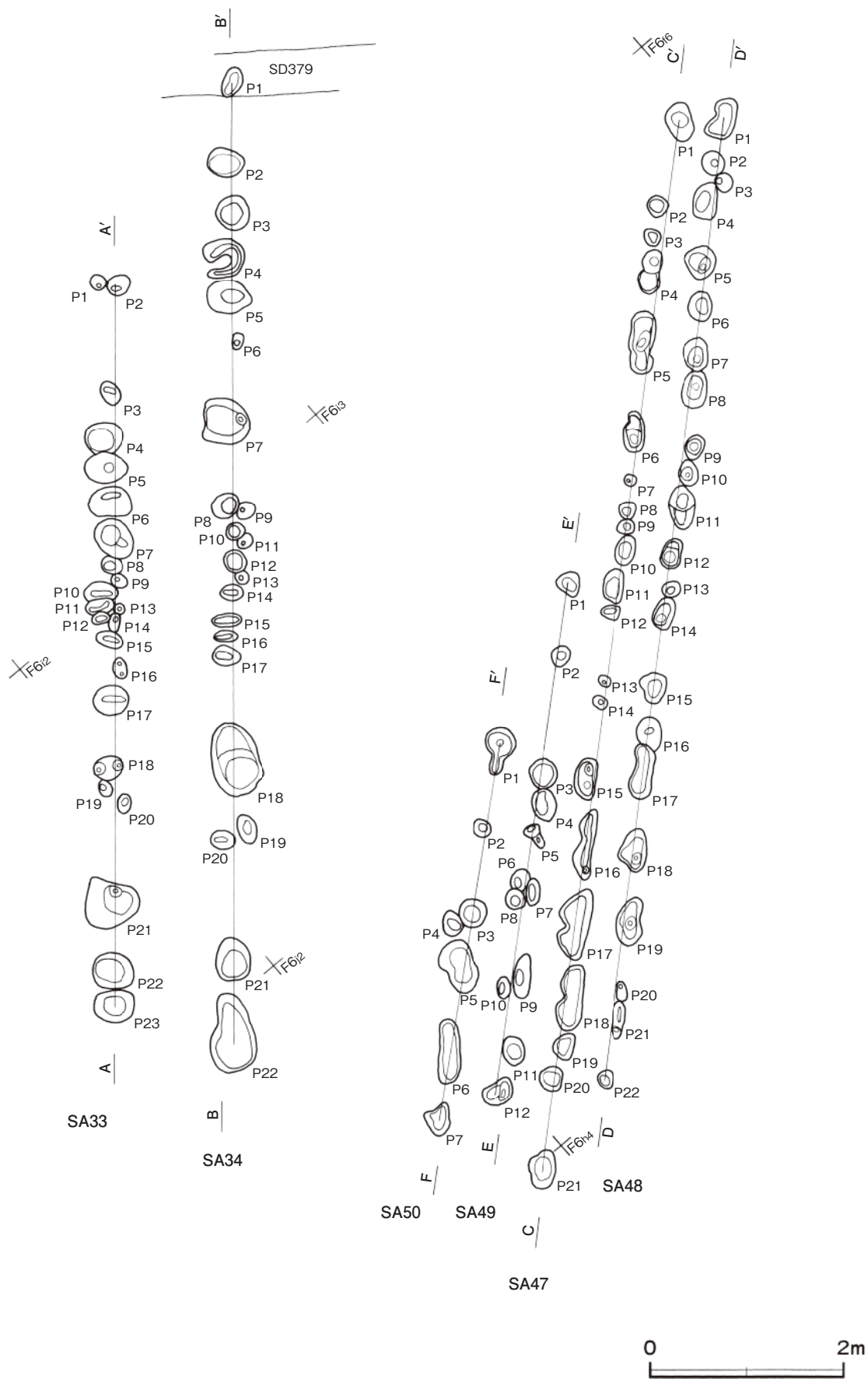
柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径40～58cm、短径34～50cmである。深さは15～45cmで、掘方の断面形は不整U字形または不整V字形である。

土層解説

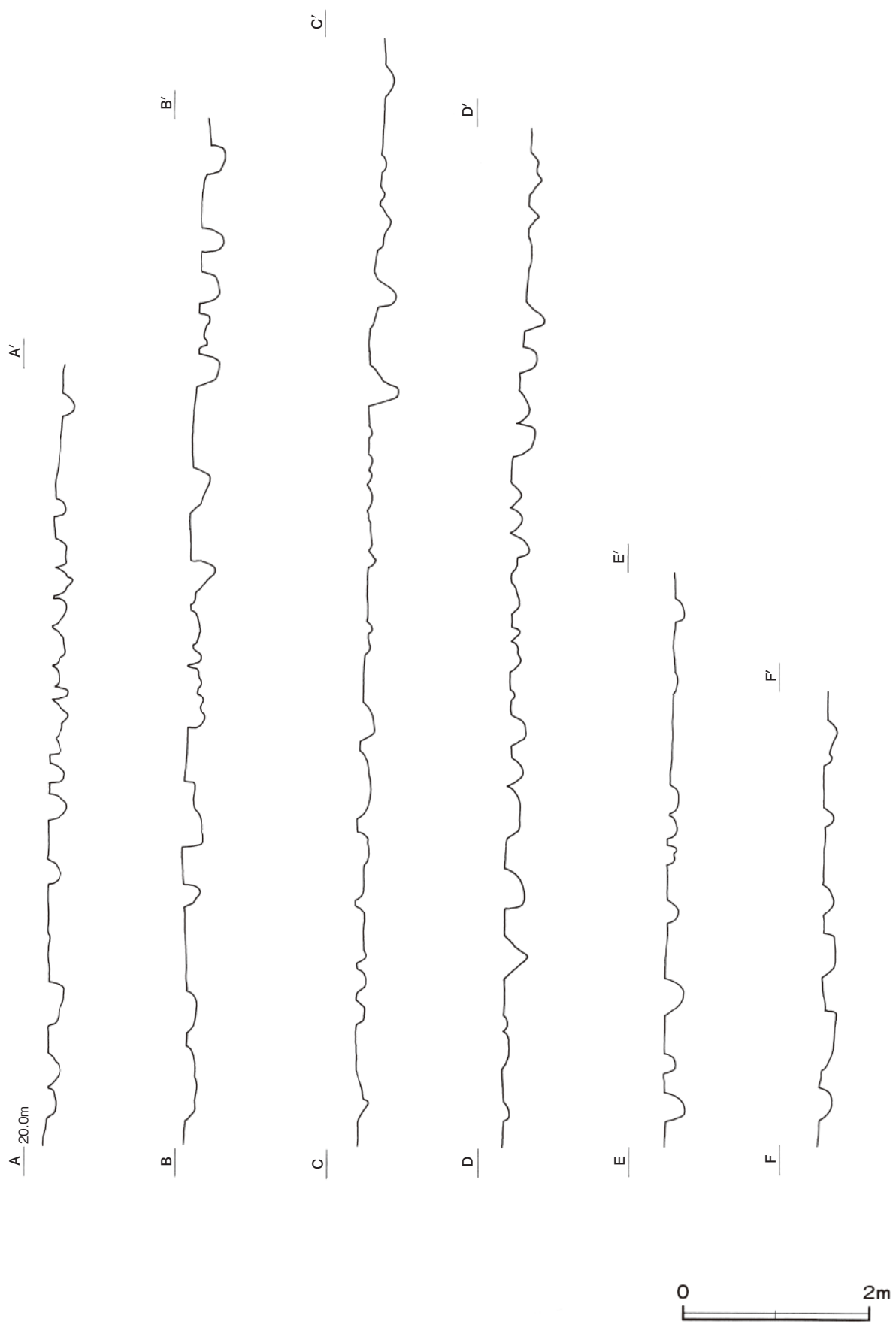
1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点(坏2, 甕2)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

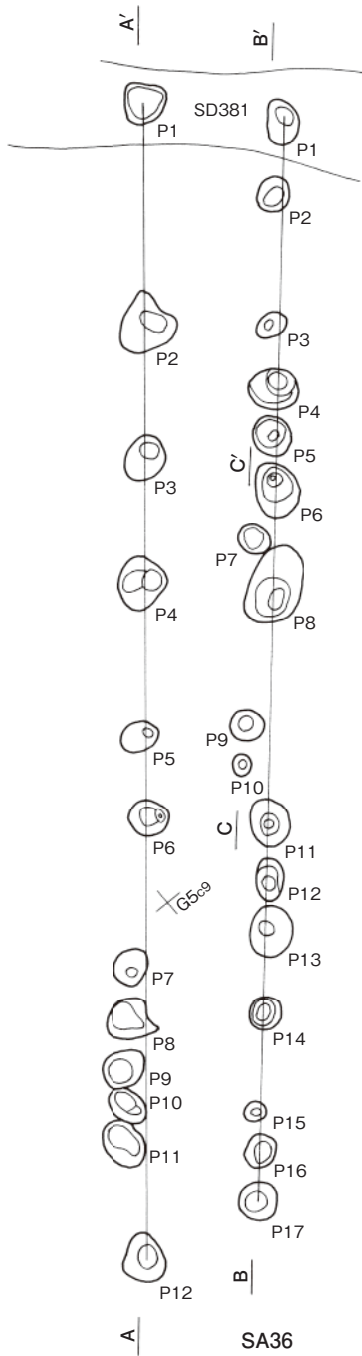
所見 時期は、出土土器から古墳時代後期と考えられる。本遺構のみ、他の杭列と列方向が大きく異なっていることから、他の杭列とは時期や性格が異なるものと想定される。



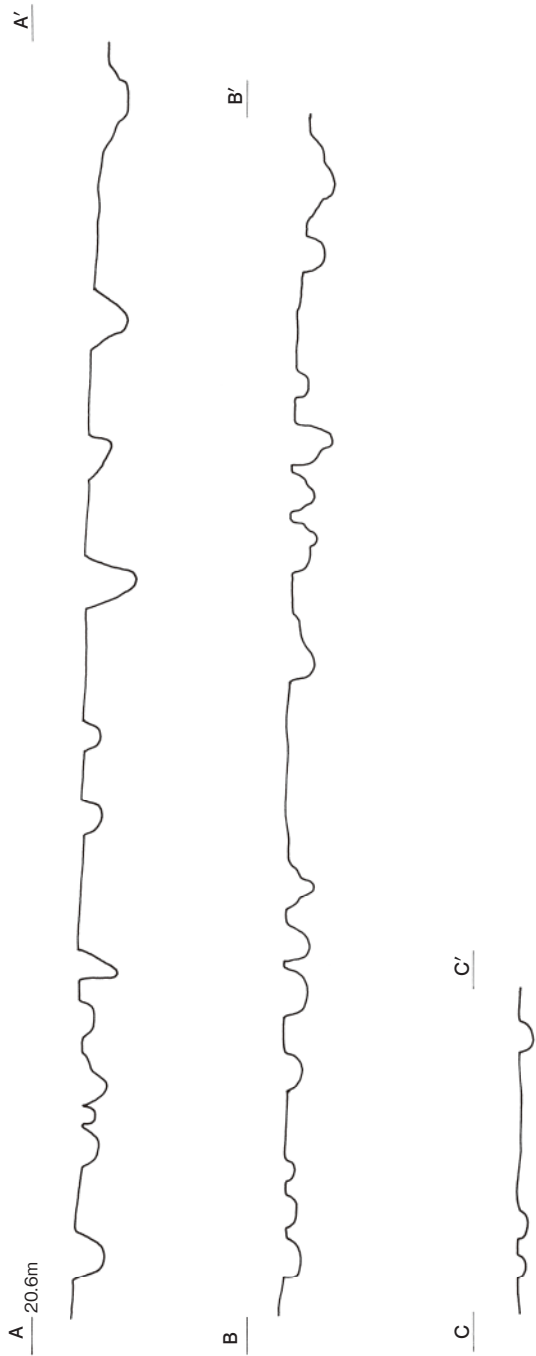
第 342 图 第 1 号杭列群实测图 (1)



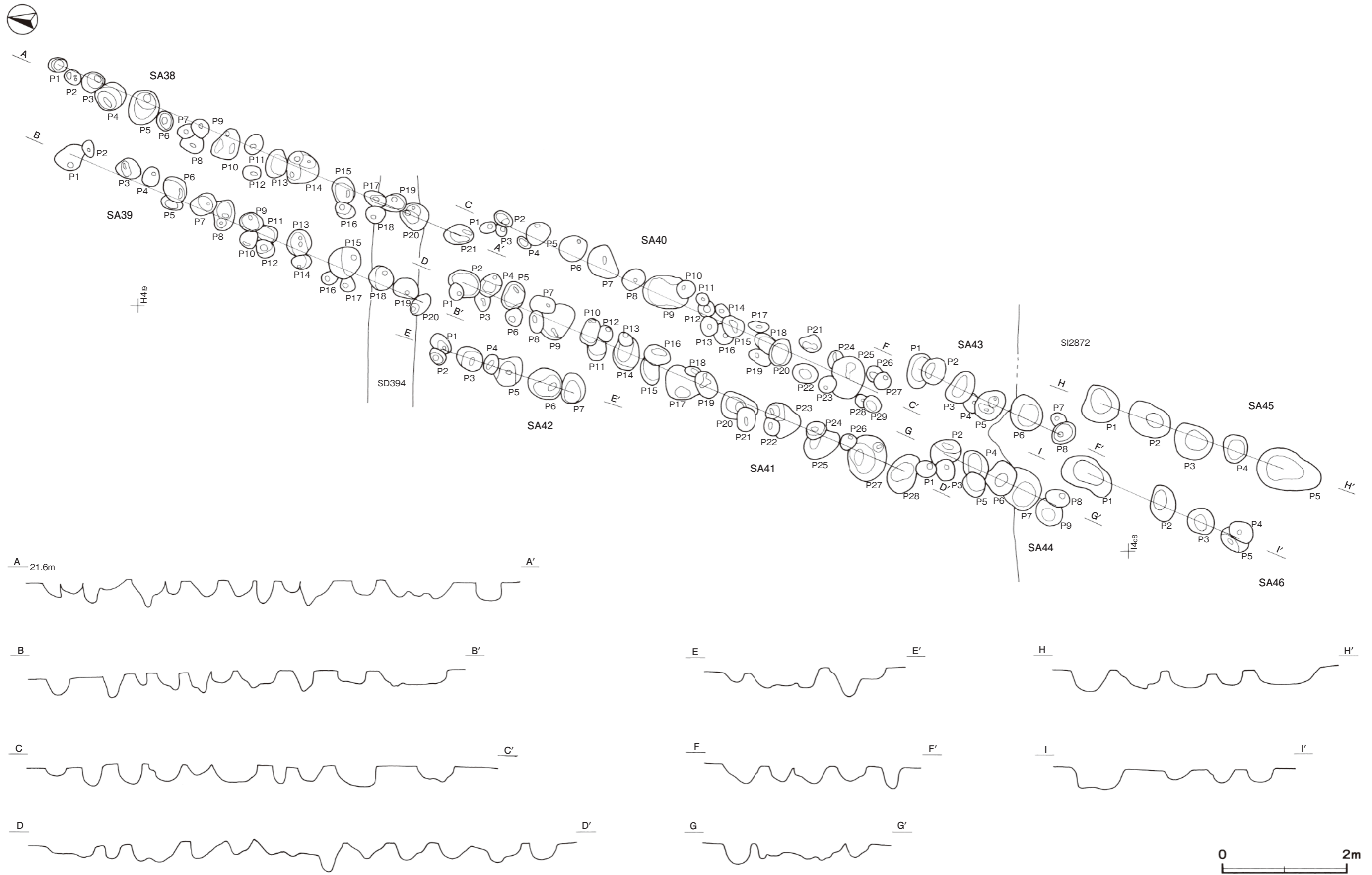
第 343 图 第 1 号杭列群实测图 (2)



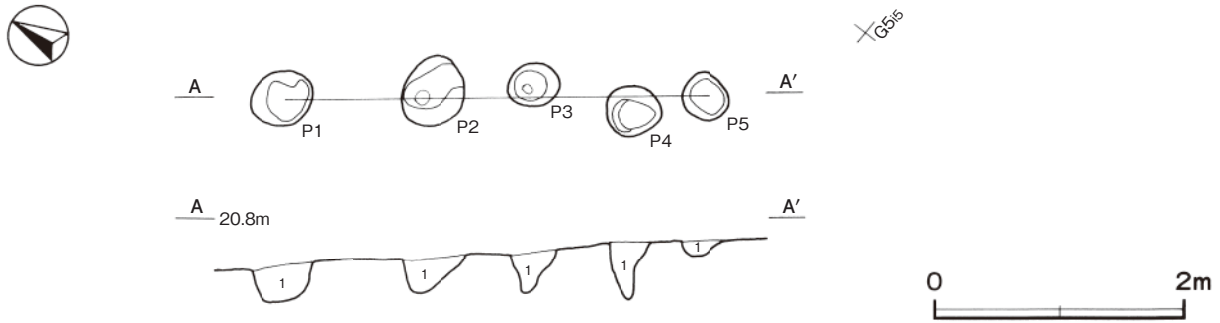
SA35



第 344 图 第 2 号杭列群实测图



第 345 图 第 3 号杭列群实测图



第 346 図 第 37 号杭列跡実測図

第 55 号杭列跡 (第 347 図)

位置 調査区南西部の K 3 g8 ~ K 3 i8 区, 標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 8.87 m の間に 8 か所のピットが確認された。列方向は N - 7° - E で, 柱間は 0.87 ~ 1.72 m とばらつきがある。

柱穴 平面形は円形または楕円形で, 長径 22 ~ 46cm, 短径 20 ~ 32cm である。深さは 18 ~ 43cm で, 掘方の断面形は U 字形または不定形である。

所見 時期は, 根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 第 1 ~ 3 号杭列群の延長線上に位置していることから, 杭列群と同時期中世後半と考えられる。

第 56 号杭列跡 (第 347 図)

位置 調査区南西部の K 3 g7 ~ K 3 i7 区, 標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 8.74 m の間に 7 か所のピットが確認された。列方向は N - 6° - E で, 柱間は 0.84 ~ 3.25 m とばらつきがある。

柱穴 平面形は円形または楕円形で, 長径 20 ~ 50cm, 短径 14 ~ 36cm である。深さは 28 ~ 36cm で, 掘方の断面形は U 字形または不定形である。

所見 時期は, 根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 第 1 ~ 3 号杭列群の延長線上に位置していることから, 杭列群と同時期中世後半と考えられる。

第 60 号杭列跡 (第 348 図)

位置 調査区南西部の L 3 c5 ~ L 3 d5 区, 標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 510 号掘立柱建物跡, 第 52・53 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 3.60 m の間に 4 か所のピットが確認された。列方向は N - 16° - E で, 柱間は 1.20 m とほぼ揃っている。

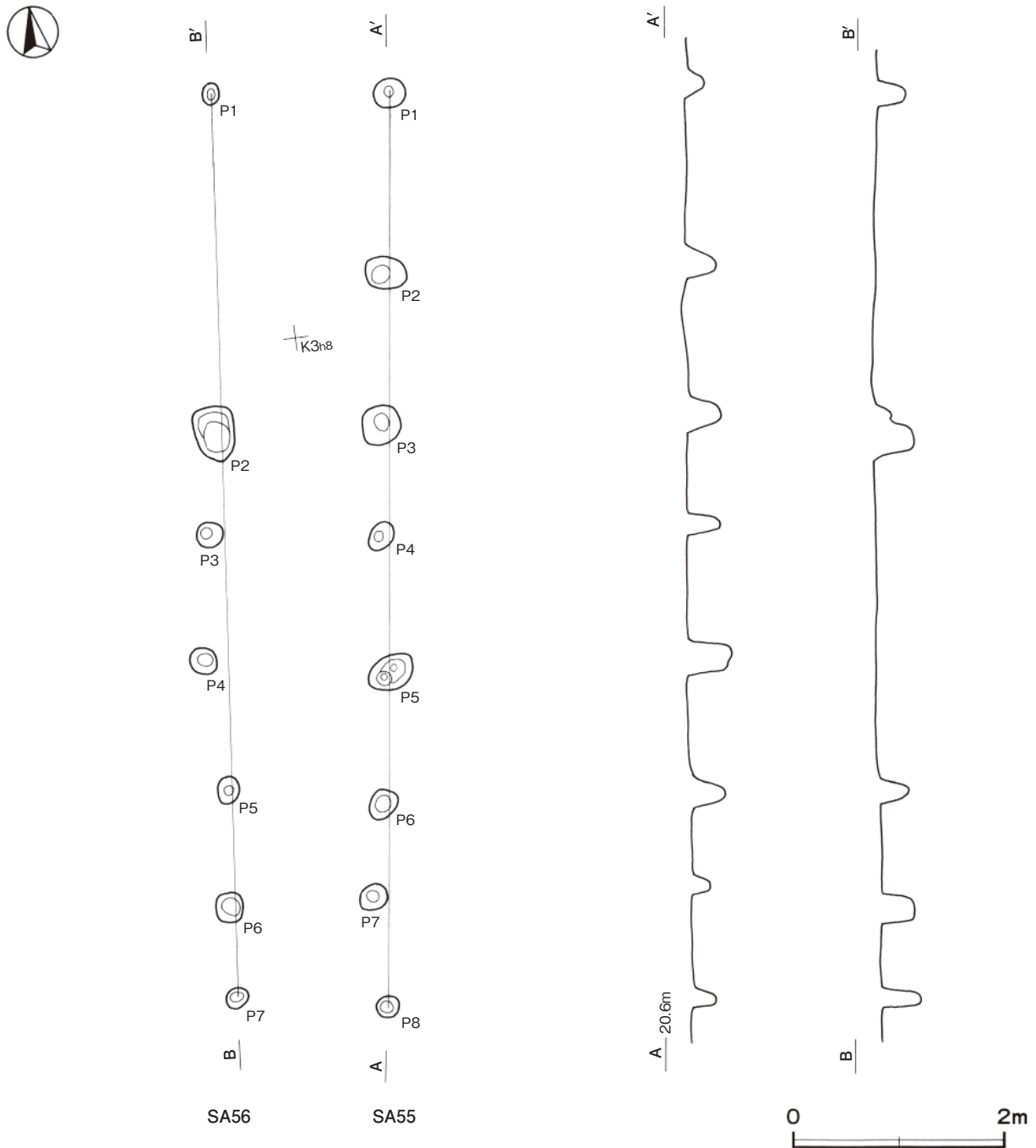
柱穴 平面形は円形または楕円形で, 長径 30 ~ 43cm, 短径 27 ~ 32cm である。深さは 19 ~ 43cm で, 掘方の断面形は U 字形または不定形である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 色 ローム粒子少量

3 暗 褐 色 ロームブロック微量
4 橙 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量

所見 時期は, 根拠となる土器が出土していないため不明であるが, 第 510 号掘立柱建物跡と列方向が類似していることから, 中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。



第 347 図 第 55・56 号杭列跡実測図

第 61 号杭列跡 (第 348 図)

位置 調査区南西部の L 3 c6 ~ L 3 d5 区, 標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 510 号掘立柱建物跡, 第 404 号溝跡, 第 52・53 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 4.75 m の間に 5 か所のピットが確認された。列方向は $N - 14^{\circ} - E$ で, 柱間は 0.80 m ~ 1.60 m とばらつきがある。

柱穴 平面形は円形または楕円形で, 長径 18 ~ 43cm, 短径 14 ~ 32cm である。深さは 13 ~ 38cm で, 掘方の断面形は U 字形または不定形である。

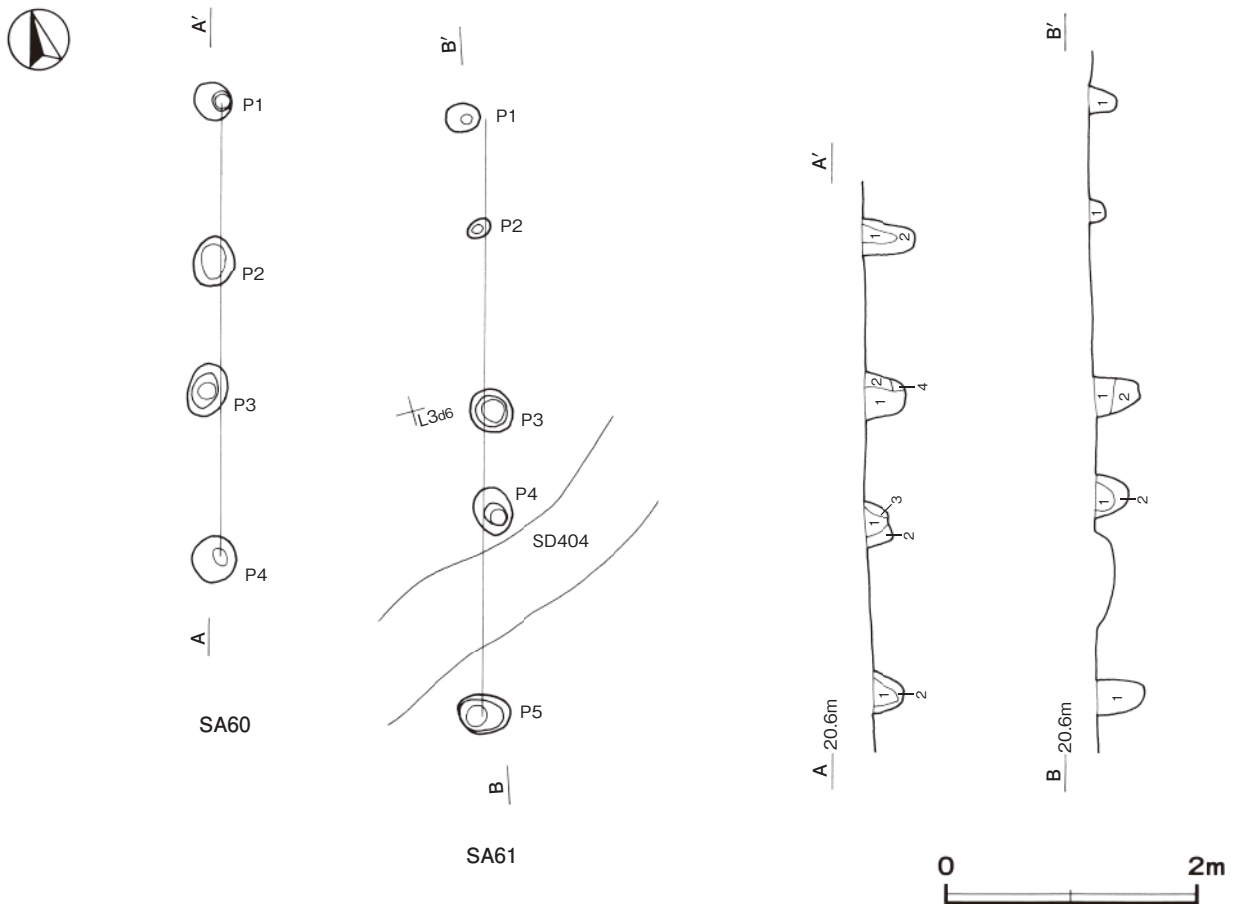
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点（坏，甕）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、第510号掘立柱建物跡と方向が類似していることから、中世後半から近世にかけて機能していたと考えられる。



第348図 第60・61号杭列跡実測図

表26 中世・近世杭列跡一覧表

番号	位置	列方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴					備 考 重複関係 (古→新)
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
33	F6h2 ~ F6i1	N - 40° - E	8.50	0.13 ~ 1.09	23	円形・楕円形	13 ~ 60	12 ~ 45	8 ~ 21	第1号杭列群
34	F6h3 ~ F6j1	N - 40° - E	9.30	0.15 ~ 1.30	22	円形・楕円形	17 ~ 76	10 ~ 48	9 ~ 24	第1号杭列群 SD379 新旧不明
35	G5a0 ~ G5c9	N - 40° - E	9.54	0.31 ~ 1.78	12	円形・楕円形・ 不整楕円形	30 ~ 50	22 ~ 42	8 ~ 39	第2号杭列群 本跡→SD381
36	G6a1 ~ G5c9	N - 40° - E	8.92	0.34 ~ 1.06	17	円形・楕円形	18 ~ 40	14 ~ 64	9 ~ 31	第2号杭列群 本跡→SD381
37	G5h4	N - 38° - W	3.80	0.63 ~ 1.07	5	円形・楕円形	40 ~ 58	34 ~ 50	15 ~ 45	
38	H4h9 ~ H4j9	N - 23° - E	7.40	0.28 ~ 0.88	21	円形・楕円形	30 ~ 56	23 ~ 50	15 ~ 50	第3号杭列群 SD394→本跡
39	H4h9 ~ H4j9	N - 24° - E	6.50	0.31 ~ 0.64	20	円形・楕円形	30 ~ 54	19 ~ 50	22 ~ 40	第3号杭列群 SD394→本跡
40	H4j9 ~ I4b8	N - 20° - E	7.00	0.21 ~ 0.66	29	円形・楕円形	25 ~ 70	15 ~ 47	10 ~ 48	第3号杭列群
41	H4j9 ~ I4b8	N - 23° - E	8.21	0.30 ~ 0.54	28	円形・楕円形	23 ~ 74	22 ~ 60	12 ~ 47	第3号杭列群
42	H4j8	N - 18° - E	2.64	0.22 ~ 0.73	7	円形・楕円形	29 ~ 57	20 ~ 50	17 ~ 47	第3号杭列群

番号	位置	列方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴					備 考 重複関係 (古→新)
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
43	I4b8	N - 24° - E	2.94	0.23 ~ 0.58	8	楕円形	21 ~ 60	20 ~ 50	22 ~ 35	第 3 号杭列群 SI2872 → 本跡
44	I4b8	N - 21° - E	2.43	0.27 ~ 0.53	9	楕円形	30 ~ 65	26 ~ 45	22 ~ 45	第 3 号杭列群 SI2872 → 本跡
45	I4b8 ~ I4c8	N - 20° - E	3.97	0.64 ~ 0.93	5	楕円形	44 ~ 102	38 ~ 65	23 ~ 35	第 3 号杭列群 SI2872 → 本跡
46	I4b8 ~ I4c8	N - 21° - E	3.25	0.34 ~ 1.30	5	円形・楕円形	40 ~ 84	30 ~ 40	20 ~ 28	第 3 号杭列群 SI2872 → 本跡
47	F6f5 ~ F6h3	N - 48° - E	11.20	0.17 ~ 0.92	21	円形・楕円形・ 不定形	12 ~ 14	20 ~ 74	5 ~ 28	第 1 号杭列群
48	F6f5 ~ F6g4	N - 48° - E	10.20	0.21 ~ 0.83	22	円形・楕円形	17 ~ 54	17 ~ 20	5 ~ 26	第 1 号杭列群
49	F6f4 ~ F6g3	N - 48° - E	5.50	0.23 ~ 1.22	12	円形・楕円形	16 ~ 48	12 ~ 18	5 ~ 23	第 1 号杭列群
50	F6g4 ~ F6g3	N - 48° - E	4.23	0.24 ~ 0.90	7	円形・楕円形・ 不定形	18 ~ 66	16 ~ 20	12 ~ 15	第 1 号杭列群
55	K3g8 ~ K3i8	N - 7° - E	8.87	0.87 ~ 1.72	8	円形・楕円形	22 ~ 46	20 ~ 32	18 ~ 43	
56	K3g7 ~ K3i7	N - 6° - E	8.74	0.84 ~ 3.25	7	円形・楕円形	20 ~ 50	14 ~ 36	28 ~ 36	
60	L3c5 ~ L3d5	N - 16° - E	3.60	1.20	4	円形・楕円形	30 ~ 43	27 ~ 32	19 ~ 43	SB510.PG52・53 新旧不明
61	L3c6 ~ L3d5	N - 14° - E	4.75	0.80 ~ 1.60	5	円形・楕円形	18 ~ 43	14 ~ 32	13 ~ 38	SB510.SD404.PG52・53 新旧不明

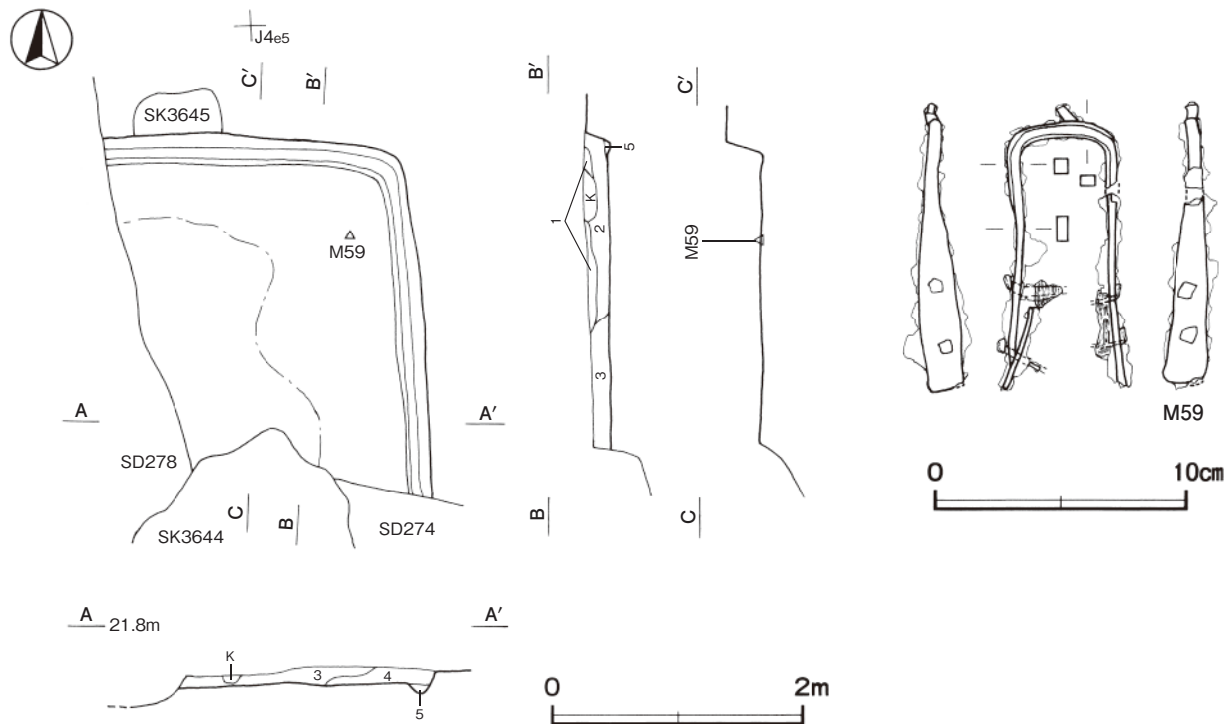
5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 8 棟、土坑 625 基、溝跡 34 条、ピット群 14 か所を確認した。以下、これらの遺構のうち特徴的なくつかについては文章で記述し、それ以外の遺構については実測図と一覧表を掲載する。

(1) 竪穴住居跡

第 2556 号住居跡 (第 349 図)

位置 調査区南西部の J 4 e5 区、標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 349 図 第 2556 号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第 3645 号土坑を掘り込み、第 274・278 号溝、第 3644 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を溝と土坑に掘り込まれ、西部が溝に掘り込まれているため、南北軸は 2.70 m、東西軸は 2.35 m しか確認できなかった。南北軸方向は $N - 0^\circ$ である。壁高は 13 ~ 27cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

覆土 5 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒 色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 M 59 が床面から出土している。

所見 時期は、重複関係から中世前半以前と考えられるが、時期決定の根拠となる土器が出土していないため詳細については不明である。

第 2556 号住居跡出土遺物観察表 (第 349 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 59	鍔金具	10.8	5.0	1.8	44.5	鉄	釘・木質一部残存	床面	PL81

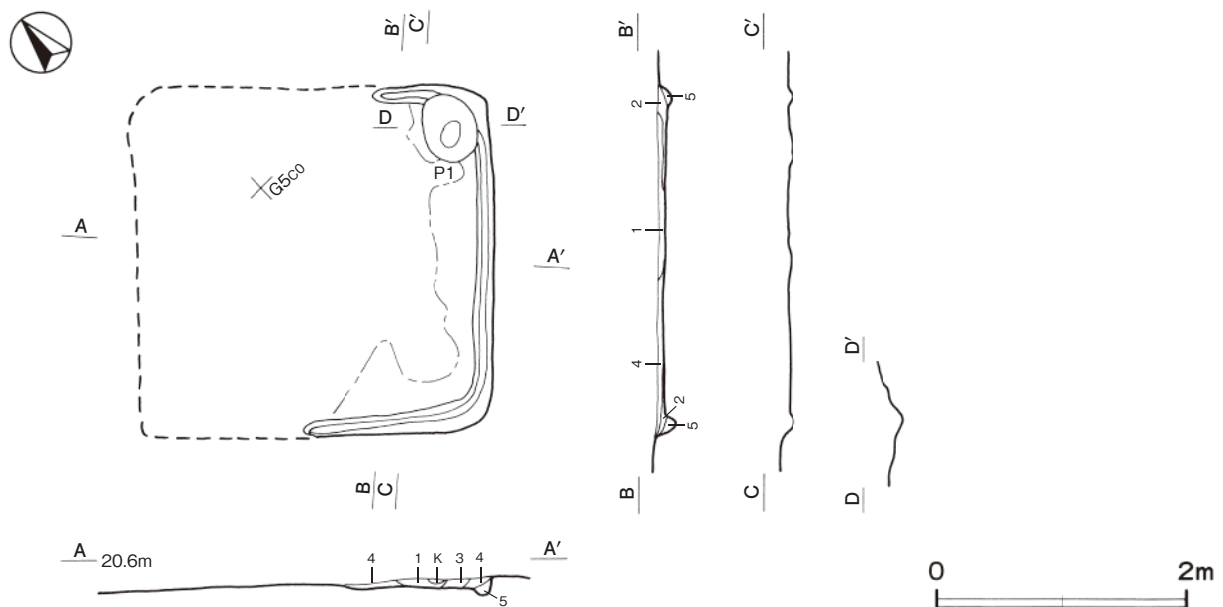
第 2870 号住居跡 (第 350 図)

位置 調査区北西部の G 5 c0 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 上面が削平されているため、北東・南西軸は 2.85 m で、北西・南東軸は 1.57 m しか確認できなかった。隅丸方形または長方形と推定される。北東・南西軸方向は $N - 45^\circ - E$ である。壁高は 2 ~ 7 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

ピット 深さ 12cm で、性格は不明である。



第 350 図 第 2870 号住居跡実測図

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量 | 4 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | |

所見 時期は、遺構の遺存状況が悪く、時期決定の根拠となる遺物が出土していないことから、時期不明である。

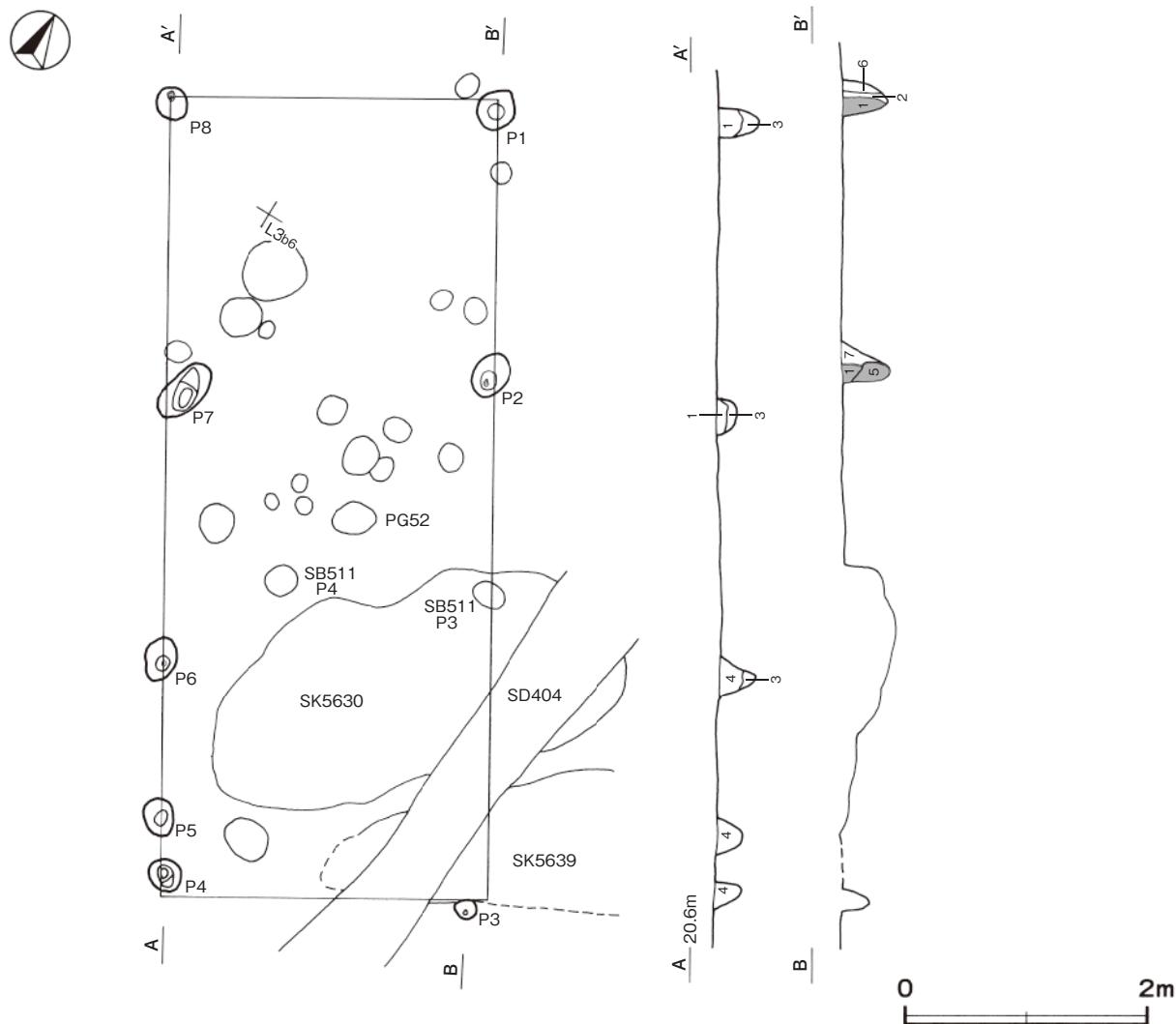
表 27 その他の竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2556	J4e5	[方形・長方形]	N-0°	(2.70)×(2.35)	13~27	平坦	(全周)	-	-	-	-	-	人為	鉄製品	SK3645→本跡→SK3644, SD274・278
2870	G5c0	[隅丸方形・長方形]	N-45°-E	2.85×(1.57)	2~7	平坦	(全周)	-	-	1	-	-	人為		

(2) 掘立柱建物跡

第 512 号掘立柱建物跡 (第 351 図)

位置 調査区南西部の L 3 a5 ~ L 3 c7 区、標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 351 図 第 512 号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第5639号土坑を掘り込んでいる。第511号掘立柱建物跡, 第5630号土坑, 第404号溝跡, 第52号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-30°-Wの南北棟である。規模は, 桁行6.6m, 梁行2.7mで, 面積は17.82㎡である。柱間寸法は, 桁行が東平で2.1m, 西平で北妻から2.4m, 2.1m, 1.8mで, 梁行は北妻が2.7m, 南妻が2.5mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で, 長径18~53cm, 短径15~28cmである。深さは21~40cmで, 掘方の断面形はU字状である。柱痕・柱抜き取り痕は第1・5層が相当する。柱のあたりが, P2・P6・P8の底面で確認できる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------|
| 1 暗灰黄色 | ロームブロック中量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック中量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗灰黄色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

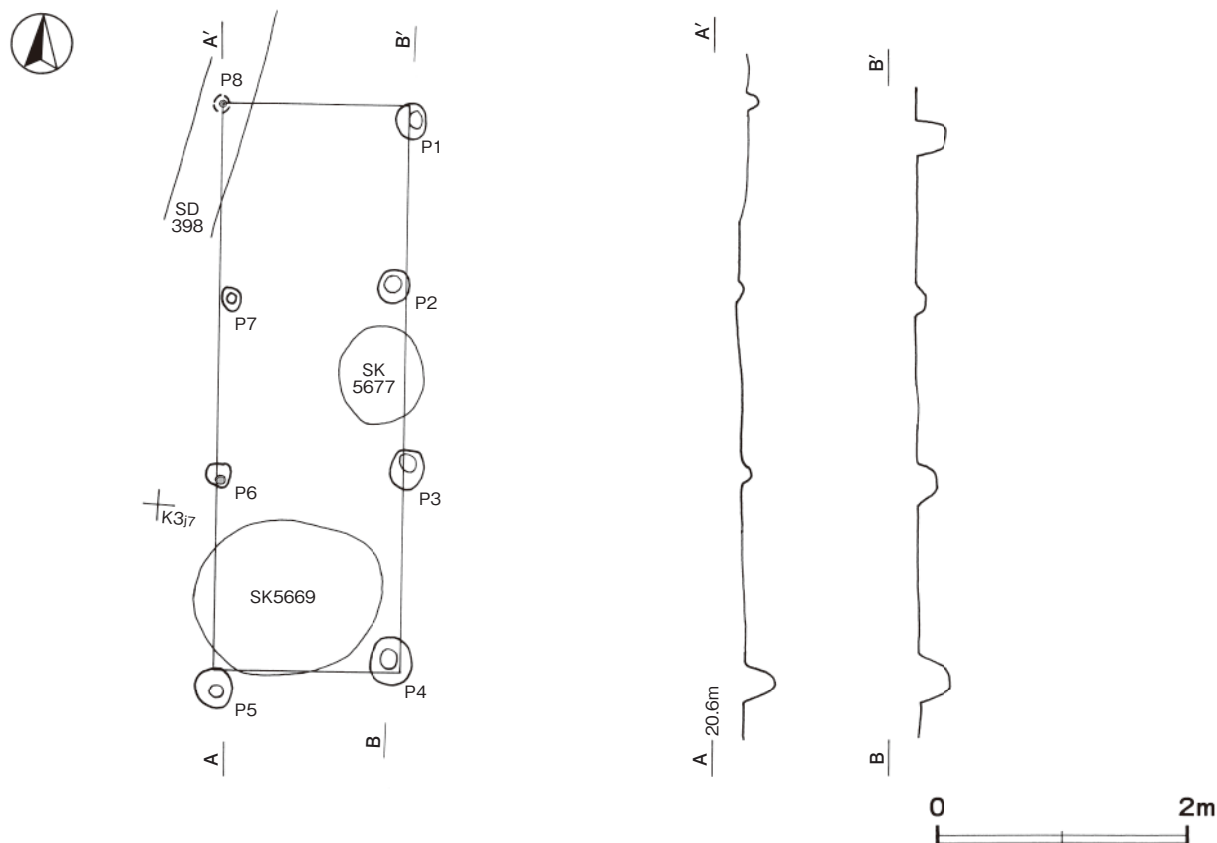
所見 時期は, 時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

第514号掘立柱建物跡 (第352図)

位置 調査区南西部のK3i7~K3j7区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第398号溝に掘り込まれている。第5669・5677号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-6°-Wの南北棟である。規模は, 桁行4.5m, 梁行1.5mで, 面積は6.75㎡である。柱間寸法は, 桁行が東平で北妻から1.4m, 1.4m, 1.6m, 西平で1.5m, 1.5m, 1.7mで, 梁行は1.5mである。柱筋はほぼ揃っている。



第352図 第514号掘立柱建物跡実測図

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径14～39cm、短径12～32cmである。深さは8～27cmで、掘方の断面形は逆台形またはU字状である。柱のあたりが、P6・P8の底面で確認できる。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

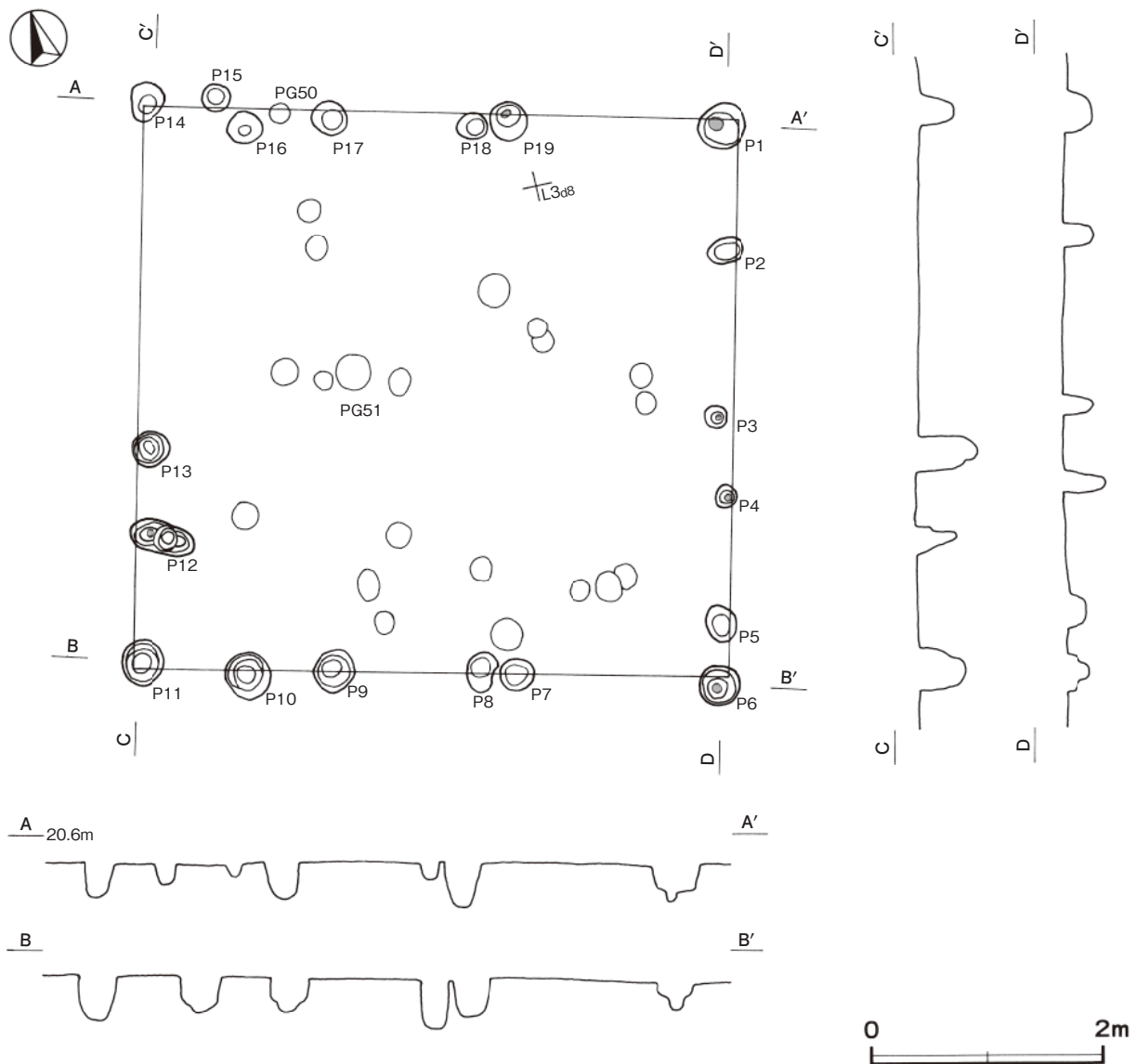
第519号掘立柱建物跡（第353図）

位置 調査区南西部のL3c7～L3e8区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第50・51号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行・梁行ともに3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-75°-Wの東西棟である。規模は桁行5.1m、梁行4.9mで、面積は24.99㎡である。柱間寸法は、桁行が北平で西妻から1.6m、1.5m、1.8m、南平で1.7m、1.3m、2.0m、梁行は東妻が北平から1.1m、2.1m、1.7mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 19か所。平面形は円形または不整楕円形で、長径20～55cm、短径19～25cmである。深さは17～46cmで、



第353図 第519号掘立柱建物跡実測図

掘方の断面形はU字状である。柱のあたりが、P1・P3・P4・P6・P12・P19の底面で確認できる。

所見 P7・P8とP18・P19が隣接していることから、建て替えの可能性はある。時期は、時期決定の根拠となる遺物が出土していないため不明である。

第520号掘立柱建物跡（第354図）

位置 調査区南西部のK3f4～K3g4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

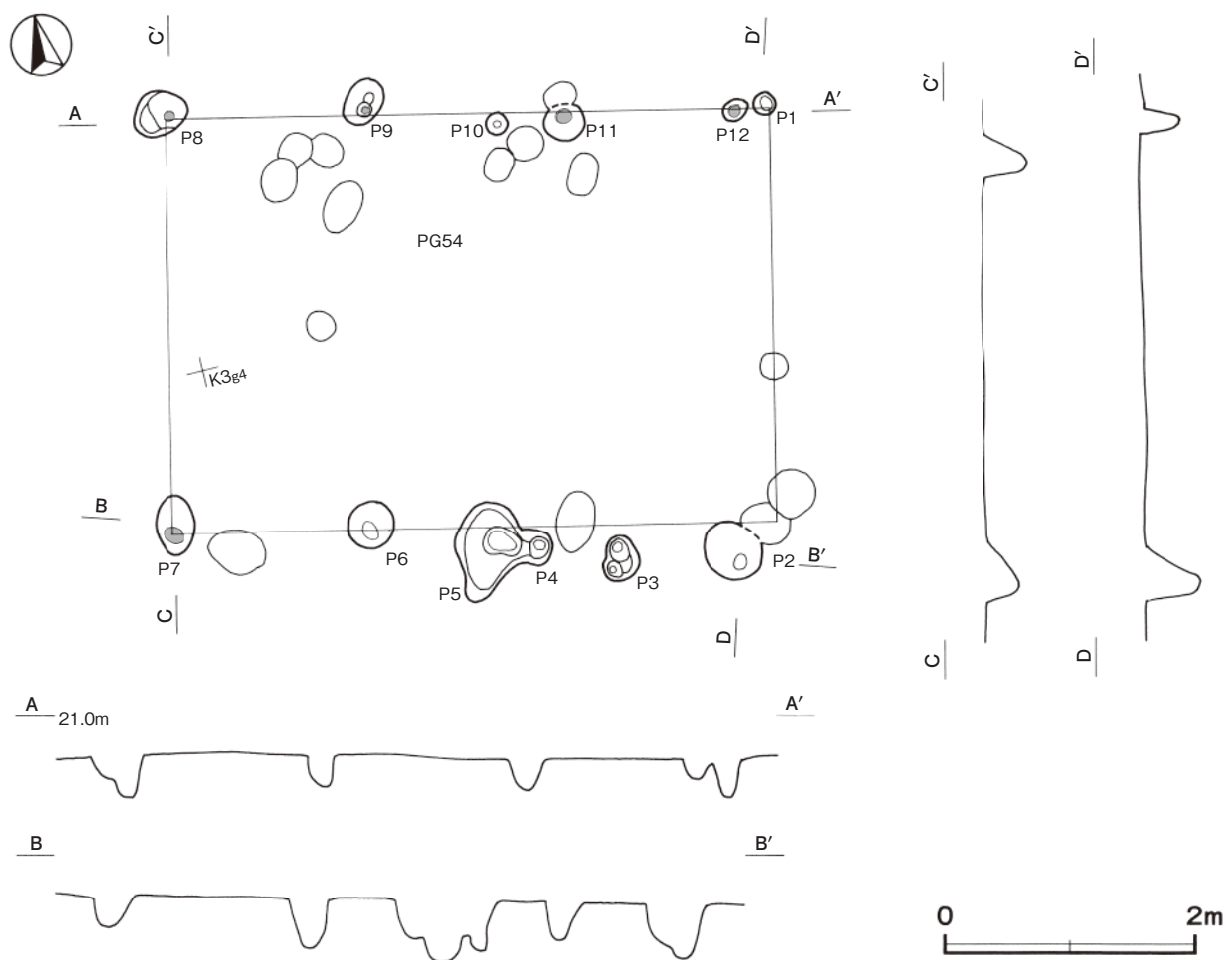
重複関係 第54号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.8m、梁行3.3mで、面積は15.84㎡である。柱間寸法は、桁行が北平で西妻から1.6m、1.6m、1.4m、南平で1.5mで、梁行は西妻が3.3m、東妻が3.6mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形または不整楕円形で、長径18～78cm、短径15～53cmである。深さは15～50cmで、掘方の断面形はU字状である。柱のあたりが、P7～P9・P11・P12の底面で確認できる。

遺物出土状況 土師器片3点（甕），土師質土器片1点（播鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 P1・P12、P4・P5、P10・P11がそれぞれ隣接していることから、建て替えの可能性はある。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。



第354図 第520号掘立柱建物跡実測図

第 528 号掘立柱建物跡 (第 355 図)

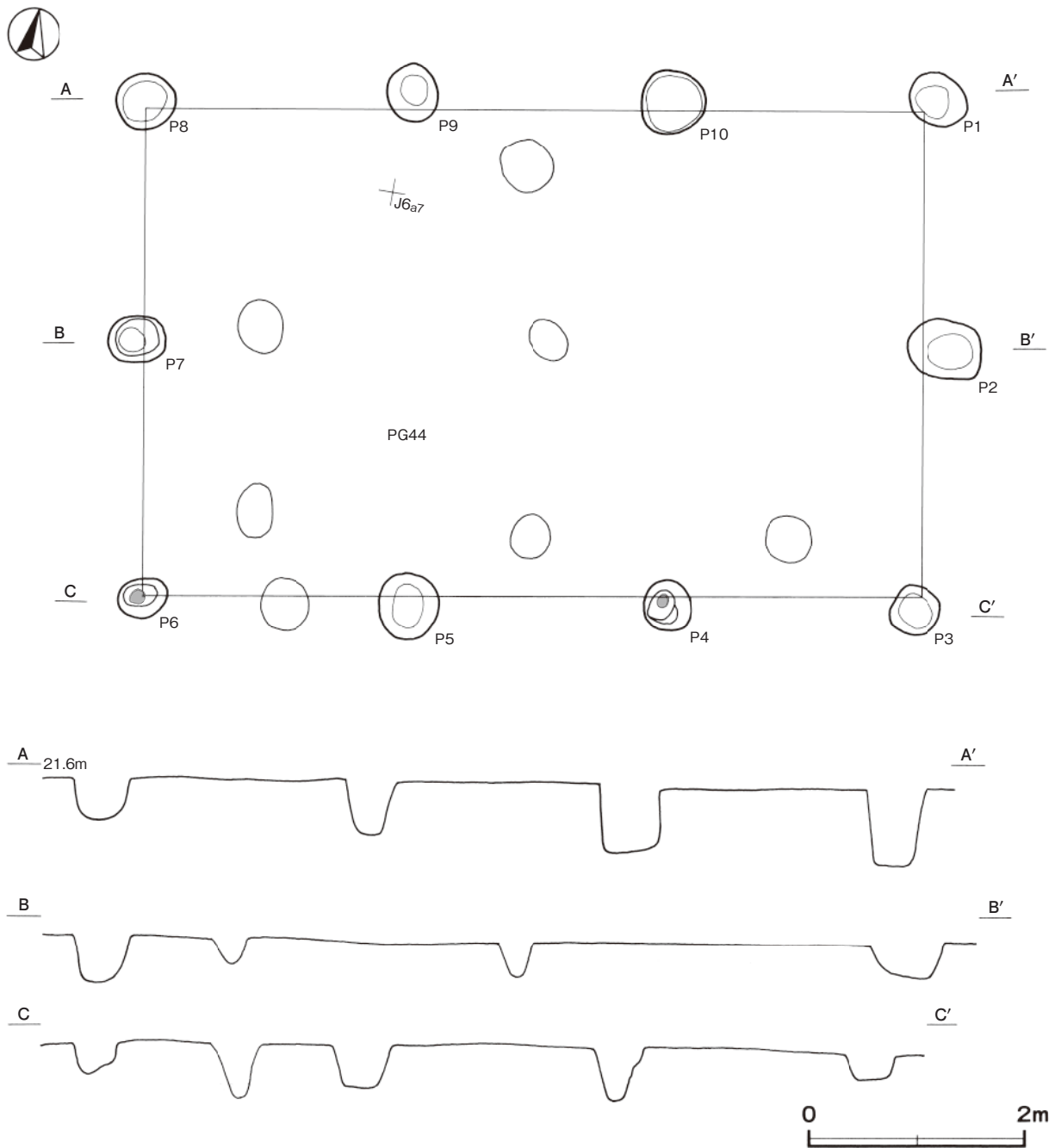
位置 調査区南部の I 6 j6 ~ J 6 a8 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 44 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 80° - E の東西棟である。規模は, 桁行 7.2 m, 梁行 4.5 m で, 面積は 32.4m² である。柱間寸法は, 桁行は 2.4 m を基調とし, 梁行は西妻が 2.1 m, 2.4 m, 東妻が 2.4 m でばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で, 長径 43 ~ 59cm, 短径 37 ~ 52cm である。深さは 26 ~ 71cm で, 掘方の断面形は U 字状である。柱のあたりが, P 4・P 6 の底面で確認できる。

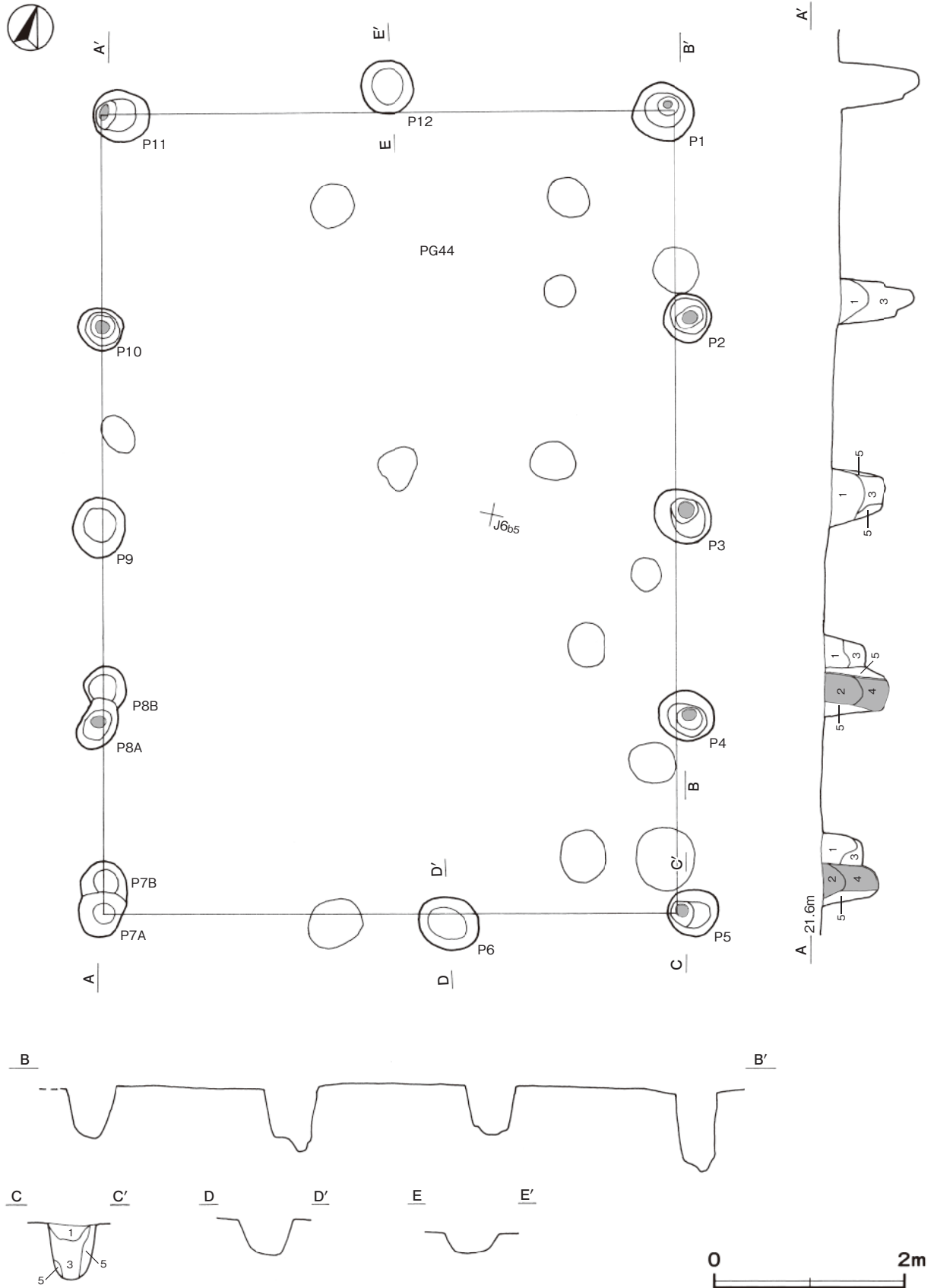
所見 時期は, 遺物が出土していないため不明である。



第 355 図 第 528 号掘立柱建物跡実測図

第 529 号掘立柱建物跡 (第 356 図)

位置 調査区南部の J 6 a3 ~ J 6 b5 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 356 図 第 529 号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第44号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-17°-Wの南北棟である。規模は、桁行8.4m、梁行6.0mで、面積は50.4㎡である。柱間寸法は、桁行は2.1mを基調とし、梁行は北妻が3.0m、南妻が3.6m、2.4mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 14か所。平面形は円形または楕円形で、長径48～67cm、短径42～57cmである。深さは40～84cmで、掘方の断面形はU字状である。柱痕・柱抜き取り痕は第2・4層が相当する。柱のあたりが、P1～P5・P8A・P10・P11の底面で確認できる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

所見 P7、P8で掘方が重複していることから、建て替えの可能性はある。時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

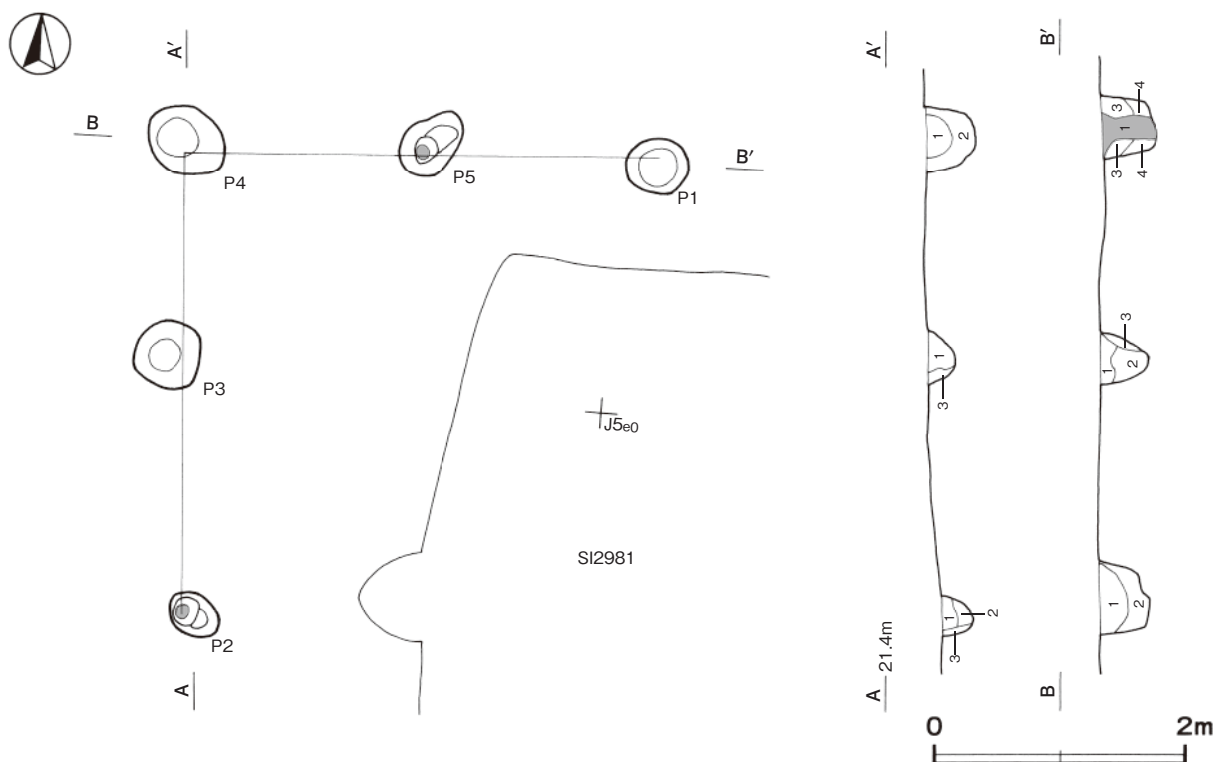
第530号掘立柱建物跡（第357図）

位置 調査区南西部のJ5d9～J5e9区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2981号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 重複しているため、東西2間、南北2間しか確認できなかった。南北軸方向はN-2°-Wである。柱間寸法は、1.5～2.1mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 5か所。平面形は円形または楕円形で、長径41～65cm、短径31～55cmである。深さは22～40cmで、



第357図 第530号掘立柱建物跡実測図

掘方の断面形はU字状である。柱痕・柱抜き取り痕は第1層が相当する。柱のあたりが、P2・P5の底面で確認できる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片2点（甕）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

第532号掘立柱建物跡（第358図）

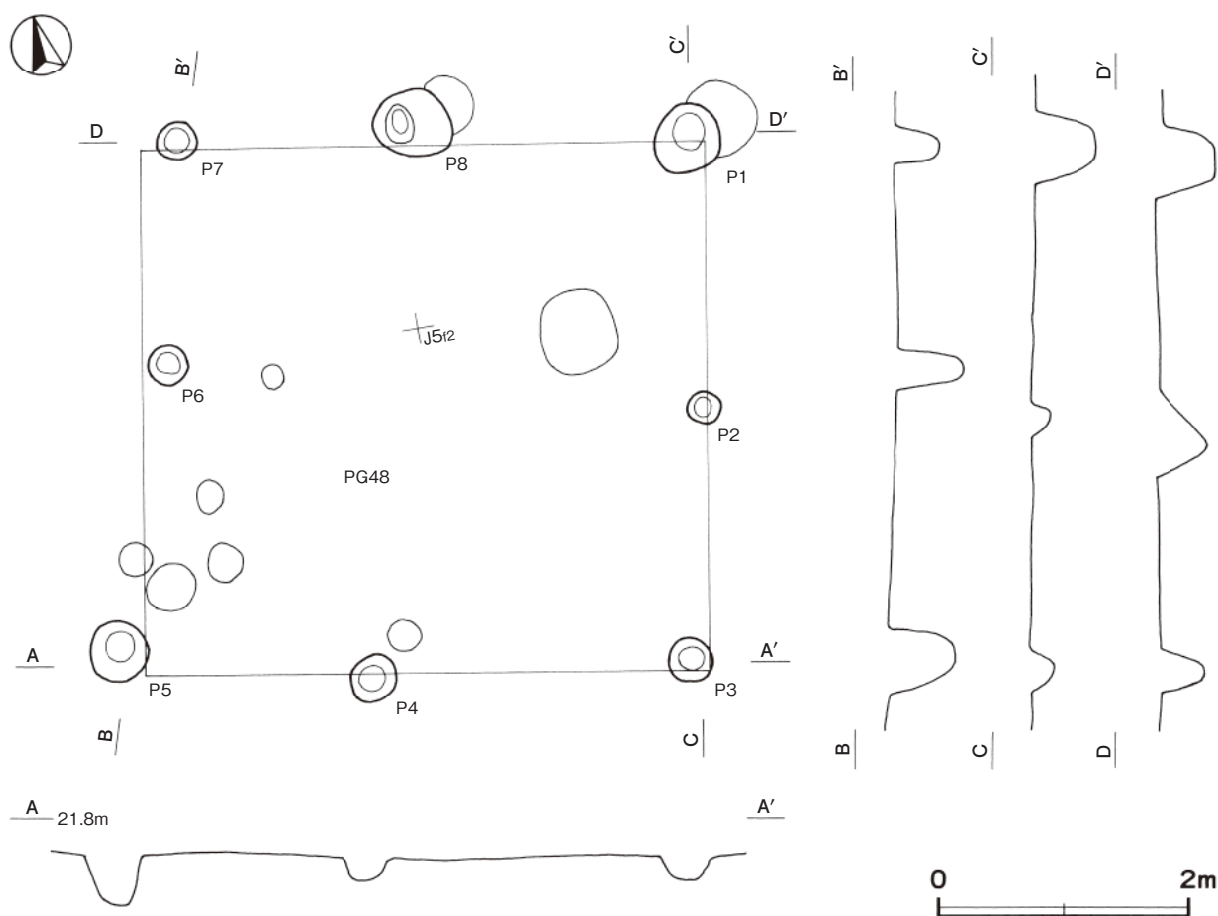
位置 調査区南西部のJ5e1～J5f2区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第48号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行・梁行ともに2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-82°-Wの東西棟である。規模は桁行4.6m、梁行4.2mで、面積は19.32㎡である。柱間寸法は、桁行が北平で西妻から1.8m、2.4m、南平で2.1m、2.6m、梁行は西妻が北平から1.8m、2.4m、東妻が2.1mでばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径28～64cm、短径23～45cmである。深さは14～52cmで、掘方の断面形はU字状である。

所見 時期は、時期決定の根拠となる遺物が出土していないため不明である。



第358図 第532号掘立柱建物跡実測図

表 28 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規 模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴				主な出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)		
512	L3a5~ L3c7	N - 30° - W	3 × 1	6.6 × 2.7	17.82	1.8 ~ 2.4	2.5 · 2.7	側柱	8	凹形 楕円形	21 ~ 40		SK5639 → 本跡 SB511, SK5630, SD404, PG52 新旧不明
514	K3i7~ K3j7	N - 6° - W	3 × 1	4.5 × 1.5	6.75	1.4 ~ 1.7	1.5	側柱	8	凹形 楕円形	8 ~ 27		本跡 → SD398 SK5669 · 5677 新旧不明
519	L3c7~ L3e8	N - 75° - W	3 × 3	5.1 × 4.9	24.99	1.3 ~ 2.0	1.1 ~ 2.1	側柱	19	凹形 不整楕円形	17 ~ 46		PG50·51 新旧不明
520	K3f4~ K3g4	N - 74° - W	3 × 1	4.8 × 3.3	15.84	1.4 ~ 1.6	3.3 · 3.6	側柱	12	凹形 不整楕円形	15 ~ 50	土師器片, 土師質土器片	PG54 新旧不明
528	J6j6~ J6a8	N - 80° - E	3 × 2	7.2 × 4.5	32.4	2.4	2.1 ~ 2.4	側柱	10	凹形 楕円形	26 ~ 71		PG44 新旧不明
529	J6a3~ J6b5	N - 17° - W	4 × 2	8.4 × 6.0	50.4	2.1	2.4 ~ 3.6	側柱	14	凹形 楕円形	40 ~ 84		PG44 新旧不明
530	J5d9~ J5e9	N - 2° - W	(2 × 2)	(3.6 × 3.6)	-	1.5 ~ 2.1		側柱	5	凹形 楕円形	22 ~ 40	土師器片	SI2981 新旧不明
532	J5e1~ J5f2	N - 82° - W	2 × 2	4.6 × 4.2	19.32	1.8 ~ 2.6	1.8 ~ 2.4	側柱	8	凹形 楕円形	14 ~ 52		PG48 → 本跡

(3) 土坑 (付図 2)

今回の調査で、性格や時期ともに不明な土坑 625 基を確認した。これらの土坑については、規模・形状等について一覧表を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

表 29 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3075	F9j8	N - 5° - E	楕円形	1.05 × [0.75]	52	外傾	平坦	自然		SD218 → 本跡
3076	H8i0	-	円形	1.01 × 0.93	28	緩斜	平坦	-		SI2315 → 本跡
3077	I9f2	N - 34° - E	長方形	3.36 × 1.43	20	緩斜	平坦	-		SI2313 → 本跡
3079	I8f7	-	円形	0.45 × 0.44	18	外傾	平坦	自然	土師器片	SH81 → 本跡
3080	H8i0	N - 69° - W	隅丸長方形	3.10 × 1.42	20	緩斜	平坦	-		SI2318 → 本跡
3082	I8d8	N - 58° - W	長方形	2.48 × [1.06]	22	緩斜	平坦	自然	土師器片, 鉄製品	SI2325 → 本跡
3083	I8i5	-	円形	0.96 × 0.94	22	緩斜	皿状	自然	土師器片	SB314 新旧不明
3084	I8i4	-	円形	0.45 × 0.41	38	外傾	皿状	自然		SI2331 → 本跡
3086	I8h5	N - 40° - E	楕円形	1.04 × 0.85	40	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片	SB314 新旧不明
3087	I8g6	N - 16° - E	不定形	[2.32] × 1.72	32	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁器片	SB314 → 本跡
3089	I8f1	N - 33° - E	長方形	2.39 × 0.76	58	外傾	平坦	自然		SI2334 → 本跡
3090	I8f2	N - 40° - E	長方形	1.95 × 0.63	35	直立	平坦	自然	土師器片	SI2334 · SK3092 → 本跡
3092	I8f2	N - 40° - E	長方形	2.78 × 0.67	61	直立	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK3090 · 3093
3093	I8f2	N - 39° - E	長方形	1.82 × 0.76	39	直立	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁器片, 砥石, 刀子カ	SK3092 → 本跡
3094	I8f8	N - 63° - E	楕円形	0.95 × 0.74	23	外傾	平坦	自然	土師器片	SI2337 → 本跡
3095	I7g9	N - 1° - W	楕円形	1.17 × 0.86	16	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI2333 → 本跡
3096	I7h9	N - 2° - E	長方形	1.76 × 0.70	10	緩斜	平坦	人為	土師器片	
3097	I8h6	-	円形	0.34 × 0.34	22	外傾	平坦	自然		
3098	I8i4	-	円形	0.70 × 0.70	52	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SI2331 → 本跡
3099	I8h9	N - 15° - W	楕円形	1.29 × 0.90	9	緩斜	平坦	自然		SI2338 → 本跡
3100	I8g8	-	円形	0.26 × 0.24	46	直立	平坦	自然		SI2338 → 本跡
3101	I8g9	N - 53° - E	楕円形	0.34 × 0.28	40	直立	平坦	人為		SI2338 → 本跡
3102	I8h9	N - 40° - E	楕円形	0.30 × 0.24	26	外傾	平坦	自然		
3103	I8g0	-	円形	0.26 × 0.24	24	外傾	平坦	人為		SI2338 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3104	I8g0	-	円形	0.28 × 0.27	23	外傾	平坦	人為		
3106	H8d7	N - 55° - E	楕円形	0.90 × 0.69	30	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡→SK3111
3107	H8d8	N - 66° - W	楕円形	0.38 × 0.33	55	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SD225 →本跡
3108	H8d8	N - 55° - W	楕円形	1.28 × [1.09]	42	緩斜	平坦	人為		SD225 →本跡
3109	H8d8	-	円形	0.52 × 0.48	38	外傾	平坦	人為		
3110	H9e1	-	円形	0.73 × 0.67	18	緩斜	皿状	人為		
3111	H8d7	N - 49° - E	楕円形	1.32 × 0.75	17	緩斜	平坦	自然		SK3106・SD225 →本跡
3112	G9f7	-	円形	0.54 × 0.50	9	緩斜	平坦	自然		
3113	G9e7	-	円形	0.64 × 0.62	16	緩斜	平坦	人為		
3114	H8c7	-	円形	0.52 × [0.48]	32	外傾	平坦	自然	土師器片	
3115	H8c8	-	円形	0.59 × [0.58]	30	外傾	平坦	自然	土師器片	
3116	H9f5	-	円形	0.41 × 0.40	12	緩斜	平坦	人為	土師器片	
3117	H9f5	-	円形	0.48 × 0.46	29	外傾	皿状	人為	土師器片	
3118	H9g6	-	円形	0.41 × 0.38	44	外傾	平坦	人為	土師器片	
3119	H9g5	N - 5° - E	楕円形	0.48 × 0.35	31	外傾	凸凹	人為		
3120	H9g5	-	円形	0.47 × 0.47	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
3121	I9a3	N - 64° - W	楕円形	1.07 × 0.68	18	緩斜	平坦	自然		
3122	H9g6	-	円形	0.37 × 0.35	43	直立	平坦	人為	土師器片	
3123	G9g2	-	円形	0.53 × 0.52	24	緩斜	皿状	自然	土師器片	
3124	G9e2	N - 80° - W	楕円形	0.62 × 0.56	20	外傾	平坦	自然		
3125	G9f2	-	円形	0.62 × 0.60	24	緩斜	皿状	自然		
3126	G9f2	N - 42° - E	楕円形	0.49 × 0.43	58	直立	凸凹	人為		
3127	G9g1	-	円形	0.69 × 0.63	20	外傾	平坦	自然		
3128	G8g0	N - 15° - E	楕円形	1.08 × 0.74	32	外傾	平坦	自然	土師器片	
3129	G9f3	N - 18° - W	楕円形	0.61 × 0.54	25	緩斜	平坦	自然		
3130	G9g1	N - 15° - E	楕円形	0.85 × 0.57	16	緩斜	平坦	自然		
3131	G8h9	N - 10° - E	楕円形	0.65 × 0.55	26	緩斜	皿状	自然		
3132	H8a8	-	円形	[0.80] × 0.75	33	外傾	平坦	自然		
3133	H8a9	-	円形	0.64 × 0.61	32	緩斜	皿状	人為		
3134	G8i8	N - 80° - W	楕円形	0.57 × 0.47	40	外傾	皿状	自然		
3135	G7j6	-	円形	0.68 × 0.62	30	外傾	平坦	自然		SI2380 新旧不明
3136	H8b6	-	円形	1.09 × 1.05	21	緩斜	平坦	自然		
3137	G9h2	-	円形	0.24 × 0.23	38	直立	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	
3138	G9h2	N - 38° - E	楕円形	0.84 × 0.72	40	外傾	皿状	人為	土師器片, 陶器片	
3140	I8h2	N - 2° - E	楕円形	1.50 × 1.01	39	外傾	平坦	人為		
3141	G7i4	-	円形	1.18 × 1.08	7	緩斜	平坦	自然		
3142	I8h8	N - 27° - E	不整楕円形	1.90 × 0.85	57	外傾	平坦	自然		SI2347・SE143 →本跡
3143	I8b8	N - 43° - W	方形	1.00 × 0.95	14	緩斜	平坦	自然		SI2342・2343 → 本跡
3146	G7j3	N - 71° - W	楕円形	1.24 × 1.00	26	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2360 →本跡
3147	G7j4	N - 72° - W	長方形	1.77 × 1.50	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2360 →本跡
3149	H7a5	N - 43° - W	楕円形	0.49 × 0.42	27	外傾	皿状	自然	土師器片	
3150	G7i6	-	円形	0.53 × 0.50	26	外傾	平坦	自然	土師器片	
3151	G7j6	N - 30° - E	楕円形	1.14 × 0.79	11	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK3168 新旧不明
3152	H7a5	N - 73° - E	楕円形	0.72 × 0.58	16	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3171 →本跡
3156	H6f7	-	円形	0.59 × 0.56	54	外傾	平坦	自然	土師器片	
3157	H6f7	-	円形	0.99 × 0.98	22	直立	平坦	人為	釘	SI2371 →本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3158	G7j5	N - 9° - E	楕円形	1.17 × 0.94	15	緩斜	平坦	自然		SK3153 → 本跡 → SK3182
3162	G7b6	N - 2° - W	楕円形	2.72 × 2.38	112	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3163	G7b4	N - 47° - W	長方形	3.31 × 1.17	36	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3164	G7e4	-	円形	(0.80) × 0.72	38	外傾	平坦	-		本跡 → SD247
3166	G7j3	-	円形	0.46 × 0.43	40	外傾	皿状	自然	土師器片	SI2360 → 本跡
3169	G7d9	N - 67° - W	長方形	1.26 × (1.08)	27	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SD229
3170	G7e0	-	円形	1.06 × 1.03	12	緩斜	平坦	自然		
3171	H7a6	N - 67° - W	楕円形	(1.43) × 1.00	12	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3172 → 本跡 → SK3152 · SD249
3172	H7a6	N - 59° - W	楕円形	2.34 × 1.02	15	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 磁器片	SI2380 → 本跡 → SK3171 · SD249
3175	G7c6	N - 18° - E	楕円形	(1.12) × 0.92	54	外傾	平坦	人為		本跡 → SD229
3176	G7c6	N - 20° - E	楕円形	1.01 × 0.78	32	緩斜	平坦	人為		
3177	G7d6	N - 25° - E	楕円形	0.81 × 0.52	12	緩斜	平坦	自然		
3178	G7c4	N - 24° - W	長方形	2.08 × 1.04	33	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SK3179 · SD260 → 本跡
3179	G7c5	N - 47° - E	[長方形]	[1.85] × (1.40)	73	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡 → SK3178 · SD260
3180	I8d1	N - 45° - E	楕円形	[1.16] × 0.80	38	外傾	平坦	人為		SI2356 → 本跡
3181	H7e2	N - 1° - E	楕円形	0.50 × 0.42	38	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	SI2365 → 本跡
3182	G7j6	-	円形	0.47 × 0.43	16	緩斜	皿状	自然	土師器片	SK3158 → 本跡
3183	G7e9	N - 48° - W	長方形	1.24 × 0.70	14	緩斜	平坦	自然		SD229 → 本跡
3184	G7i9	N - 37° - E	楕円形	2.77 × 1.45	15	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SD259 → 本跡 → SK3197
3185	G7h8	-	円形	1.19 × 1.12	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3186	G7h8	N - 32° - W	楕円形	0.53 × 0.48	57	外傾	凸凹	人為		
3187	G7g9	-	円形	0.54 × 0.50	34	外傾	皿状	自然		
3188	G7g9	N - 85° - E	楕円形	0.55 × 0.44	68	外傾	平坦	自然		
3189	G7g9	N - 82° - W	楕円形	0.50 × 0.44	14	外傾	平坦	自然		
3190	G7g0	N - 2° - E	楕円形	1.06 × 0.93	27	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3191	G7g9	-	円形	0.35 × 0.33	42	外傾	皿状	自然		
3192	G7g0	-	円形	0.46 × 0.42	18	外傾	平坦	自然		
3193	G7f9	N - 15° - W	楕円形	0.68 × 0.54	12	緩斜	皿状	自然		
3194	G7f0	N - 43° - E	隅丸長方形	1.14 × 0.88	14	緩斜	平坦	自然		
3195	G7f0	-	円形	0.90 × 0.88	13	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3196	G8d1	N - 33° - E	長方形	3.11 × 0.75	23	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3197	G7i9	N - 12° - E	楕円形	0.72 × 0.64	26	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3184 → 本跡
3198	G7h9	N - 85° - W	楕円形	0.96 × 0.76	31	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK3199
3199	G7h9	N - 70° - E	楕円形	1.08 × 0.95	48	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3198 → 本跡
3200	G7j8	-	円形	0.98 × 0.98	18	外傾	平坦	自然	土師器片	SI2379 → 本跡
3201	G7j7	N - 10° - E	楕円形	0.98 × 0.86	19	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2379 · 2380 → 本跡
3202	H7a7	N - 54° - W	楕円形	1.16 × 0.89	14	外傾	平坦	自然	土師器片	SI2380 → 本跡
3203	H7a7	N - 60° - W	楕円形	1.86 × 1.26	26	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2380 → 本跡
3204	H7a6	N - 24° - E	不整楕円形	2.27 × 0.96	10	緩斜	皿状	自然		
3205	H7b6	-	円形	0.76 × 0.74	14	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	
3207	G7i8	N - 60° - W	長方形	2.58 × 1.85	18	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI2379 → 本跡
3213	G7d5	N - 61° - W	[楕円形]	(1.28) × (1.07)	56	外傾	平坦	人為		本跡 → SD246
3214	H7c7	-	円形	0.84 × 0.80	16	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2490 → 本跡
3215	H7c6	-	円形	1.03 × 1.01	15	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2382 A · 2490 → 本跡
3217	G7d3	-	円形	0.76 × 0.76	34	外傾	平坦	自然		
3218	G7d3	N - 45° - E	[楕円形]	0.88 × [0.70]	20	緩斜	皿状	人為		本跡 → SD265

番号	位置	長径方向	平面形	模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3219	G7e4	N - 56° - E	楕円形	1.18 × 0.92	30	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3221	G7f3	N - 32° - E	楕円形	0.44 × 0.40	18	外傾	平坦	人為		
3223	H6a3	N - 36° - E	長方形	2.68 × 0.92	23	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI2389 →本跡
3224	H6b3	N - 36° - W	隅丸長方形	2.26 × 1.04	19	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2389 →本跡
3225	G7d5	N - 38° - E	[隅丸長方形]	(0.82) × (0.70)	34	外傾	平坦	自然		本跡→SD246
3226	H6d5	N - 36° - E	長方形	1.72 × 0.95	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3229	G7i2	N - 13° - E	楕円形	1.22 × 0.88	60	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2360 →本跡
3230	G7c3	N - 62° - W	[隅丸長方形]	(1.18) × (0.52)	77	外傾	平坦	人為	砥石	本跡→SD247
3234	H6e9	N - 45° - E	楕円形	0.78 × 0.48	12	緩斜	平坦	人為		SI2361 →本跡
3235	H6e9	-	円形	1.05 × 0.93	47	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2361・2396・2397 →本跡
3236	H7b0	N - 56° - E	楕円形	0.50 × 0.44	64	外傾	皿状	自然		
3237	H6d7	N - 12° - E	隅丸長方形	1.11 × 0.68	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2394 →本跡
3239	G7j8	-	[円形]	(0.96) × 0.90	14	緩斜	皿状	自然	土師器片	本跡→SD272
3241	G7j9	-	円形	0.29 × 0.28	44	外傾	平坦	自然	土師器片	
3242	G7j9	-	円形	0.34 × 0.32	64	外傾	平坦	自然		
3244	G7i9	-	円形	0.80 × 0.80	13	緩斜	皿状	人為	土師器片	
3245	G7i9	-	円形	0.30 × 0.28	36	外傾	U字状	人為	土師器片	
3246	G7i0	N - 33° - E	楕円形	(1.12) × 0.73	24	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SD259
3247	G7j9	-	円形	0.97 × 0.92	10	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 剥片(黒曜石)	
3248	H7a8	-	円形	0.92 × 0.89	12	緩斜	皿状	自然	土師器片	
3251	H7c0	N - 21° - W	楕円形	0.98 × 0.80	56	外傾	平坦	自然		
3253	G7b7	N - 35° - E	楕円形	0.90 × 0.80	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
3254	G7a7	N - 48° - W	楕円形	1.08 × 0.90	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3255	G7a7	N - 63° - W	楕円形	1.14 × 0.86	28	緩斜	凸凹	自然	土師器片, 須恵器片	
3256	G8j2	-	円形	0.98 × 0.92	38	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3257	H7g2	-	円形	1.20 × 1.12	12	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3258・3259 →本跡
3258	H7g3	N - 42° - E	[楕円形]	1.12 × [0.87]	16	緩斜	平坦	人為		本跡→SK3257・3259
3259	H7g3	-	[楕円形]	0.96 × (0.69)	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3258 →本跡 →SK3257
3260	H7h2	-	円形	0.78 × 0.73	20	緩斜	皿状	人為		
3261	H6d0	N - 37° - E	長方形	2.61 × 1.04	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SB315 →本跡
3262	G8e4	N - 85° - W	隅丸長方形	2.46 × 0.50	10	緩斜	平坦	-		
3263	I7d6	-	円形	1.16 × 1.08	13	緩斜	平坦	自然	土師器片, 炭化物(種)	SI2351 →本跡
3264	I7j8	N - 41° - E	長方形	5.36 × 1.22	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 陶器片	SD268 →本跡
3265	H6f9	-	円形	0.51 × 0.49	30	外傾	平坦	自然		SI2396・2397 →本跡
3267	H6a3	-	[円形]	1.06 × (0.70)	28	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3268 →本跡 →SI2493
3268	H6a3	N - 50° - E	[長方形]	0.58 × (0.44)	37	外傾	凸凹	人為	土師器片	本跡→SK3267
3269	H6j7	N - 60° - E	楕円形	0.68 × 0.48	70	外傾	平坦	自然	土師器片	SI2551 →本跡
3271	I8i2	-	[円形]	[0.66] × (0.59)	26	緩斜	皿状	-		SI2332・SK3272 →本跡
3272	I8i1	-	[円形]	0.60 × (0.60)	43	外傾	皿状	-		本跡→SK3271
3273	H7b7	N - 62° - E	楕円形	1.11 × 0.89	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3274	H7b7	N - 16° - W	楕円形	0.74 × 0.64	18	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3278	J4b7	N - 42° - E	楕円形	0.69 × 0.59	76	外傾	皿状	人為		
3279	J4c8	-	円形	0.50 × 0.46	50	外傾	平坦	自然		
3280	J4a5	N - 2° - E	隅丸長方形	1.59 × 1.15	24	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3281	J4h8	N - 11° - W	楕円形	0.78 × 0.639	35	緩斜	平坦	-		SI2552 →本跡
3282	J4h7	-	円形	0.60 × 0.58	50	外傾	平坦	-		SI2552 →本跡 →SK3620

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3283	I4f5	N - 11° - E	楕円形	0.59 × 0.50	67	外傾	皿状	自然		
3284	I4d5	N - 14° - E	楕円形	0.58 × 0.49	43	外傾	平坦	自然		
3285	I4f4	N - 66° - W	楕円形	0.71 × 0.59	60	外傾	平坦	自然		
3286	I4f4	N - 33° - W	楕円形	0.67 × 0.56	40	外傾	傾斜	自然		
3287	I4f4	-	円形	0.45 × 0.45	35	外傾	平坦	自然		
3288	I4f4	-	円形	0.44 × 0.43	44	外傾	皿状	人為		
3289	I4e4	-	円形	0.46 × 0.44	35	外傾	平坦	人為		
3290	I4f4	N - 23° - E	楕円形	0.59 × 0.50	66	外傾	皿状	人為		
3291	I4j0	N - 73° - W	楕円形	0.58 × 0.43	49	外傾	皿状	自然		SD277 →本跡
3293	I4d5	N - 16° - W	不整楕円形	0.86 × 0.62	18	外傾	平坦	自然		
3294	I4e4	-	円形	0.44 × 0.41	20	緩斜 外傾	平坦	自然		
3295	I4e5	N - 55° - W	不整楕円形	0.41 × 0.35	53	外傾	平坦	自然		
3296	I4e6	N - 2° - E	楕円形	1.05 × 0.56	54	外傾	皿状	自然		
3297	J4d0	-	円形	0.55 × 0.54	40	外傾	平坦	-		SD281 →本跡
3298	J4d7	N - 20° - E	[楕円形]	(0.76) × 0.52	21	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SK3658 中世・近世カ
3299	I4e7	N - 39° - E	楕円形	0.36 × 0.32	29	外傾	皿状	自然		
3614	I6a5	-	楕円形	0.59 × [0.46]	62	外傾	平坦	自然		SI2443 →本跡
3617	J4f9	N - 16° - E	[長方形]	2.42 × (0.44)	19	外傾	平坦	自然	土師質土器片, 土師器片, 須恵器片	
3620	J4h7	N - 1° - E	長方形	2.04 × 1.46	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2552, SK3282 →本跡
3623	I4j7	N - 5° - E	隅丸長方形	0.83 × 0.61	24	直立	平坦	自然		SI2448 →本跡
3625	J4d5	N - 32° - W	楕円形	1.08 × (0.76)	19	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SK3624 中世・近世カ
3626	J4d5	N - 86° - W	楕円形	1.44 × 1.11	35	緩斜	平坦	自然	土師器片, 砥石	SB321
3627	J4c5	N - 74° - W	楕円形	1.75 × 1.01	37	緩斜	皿状	自然		SB321
3628	J4c5	N - 84° - W	長方形	2.60 × 0.96	30	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SB321
3631	J4c5	N - 4° - E	楕円形	1.37 × 0.93	13	緩斜	平坦	自然	鉄製品	SB321
3632	J4d5	-	円形	1.10 × 1.03	15	緩斜	平坦	自然	須恵器片	
3633	J4d5	N - 80° - W	[楕円形]	0.82 × (0.64)	11	緩斜	平坦	自然		本跡→SK3634
3634	J4d5	N - 80° - W	楕円形	1.08 × 0.92	14	緩斜	平坦	自然		SK3633・3635 → 本跡
3635	J4d5	-	円形	1.08 × 1.02	19	緩斜	平坦	自然		SK3636 →本跡 →SK3634
3636	J4d4	N - 86° - E	[楕円形]	(1.02) × 0.88	16	緩斜	平坦	自然		SD278 →本跡 →SK3635
3637	J4b5	N - 16° - W	[楕円形]	(1.32) × 0.79	12	外傾	平坦	自然		本跡→SK3638・ 3643
3638	J4b5	N - 82° - W	楕円形	1.68 × 0.90	18	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	SK3637 →本跡
3639	J4b5	N - 83° - W	楕円形	2.85 × 0.93	20	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3640	J4b6	N - 82° - W	楕円形	2.00 × 1.04	35	外傾 緩斜	皿状	人為	土師器片	
3641	J4a8	N - 6° - E	[楕円形]	1.60 × (0.84)	32	外傾	平坦	-		SI2488 →本跡
3642	J4c4	N - 10° - E	[楕円形]	1.69 × 1.27	37	緩斜	平坦	自然		SI2555, SD277 →本跡
3643	J4b5	N - 20° - E	楕円形	1.14 × 0.89	34	外傾	平坦	自然	土師器片, 砥器片	SK3637 →本跡
3644	J4f4	N - 3° - E	不定形	2.11 × (1.72)	36	緩斜	皿状	自然		SI2556, SD274・ 278 →本跡
3645	J4e4	N - 86° - E	[隅丸長方形]	0.72 × (0.35)	19	緩斜	皿状	人為		本跡→SI2556
3646	J4d4	N - 20° - E	楕円形	0.63 × 0.54	32	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	
3647	J5b6	N - 5° - E	楕円形	0.89 × 0.65	74	外傾	皿状	自然		SI2486 →本跡
3648	J4b9	N - 78° - W	長方形	2.49 × 1.12	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SD266 →本跡
3649	J4c9	N - 6° - E	長方形	2.34 × 1.20	34	外傾	平坦	人為	土師器片	SD266 →本跡
3650	J4g9	N - 14° - E	楕円形	2.42 × 0.83	16	緩斜	平坦	自然		
3651	J4h8	N - 15° - E	[楕円形]	0.98 × (0.56)	19	緩斜	皿状	自然		
3652	J4c7	-	円形	0.66 × 0.64	24	外傾	平坦	自然		SK3653 →本跡

番号	位置	長径方向	平面形	模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3653	J4a7	N - 16° - E	長方形	2.32 × 1.26	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3654 → 本跡 → SK3652
3654	J4c7	N - 15° - E	[楕円形]	(0.99) × 0.90	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	本跡 → SK3653
3655	J4d7	N - 16° - E	楕円形	1.32 × 0.82	6	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
3656	J4e7	N - 80° - W	[楕円形]	(1.76) × 0.81	7	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片	本跡 → SK3657
3657	J4e7	N - 8° - E	長方形	1.04 × 0.91	4	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3656 → 本跡
3659	J4c0	N - 5° - E	楕円形	1.05 × 0.56	19	外傾	皿状	自然		SD281 → 本跡
3660	J4c0	N - 67° - E	楕円形	0.70 × 0.57	40	外傾	平坦	自然		本跡 → SD281
3662	J4e9	N - 19° - E	長方形	2.12 × 0.72	14	外傾 緩斜	平坦	人為		
3663	J4g7	N - 1° - E	楕円形	1.04 × 0.68	14	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3664	J4h8	N - 7° - E	楕円形	0.38 × 0.30	28	外傾	平坦	自然		
3665	J4h7	N - 10° - E	楕円形	0.38 × 0.31	23	外傾	平坦	自然		
3666	J4h7	N - 60° - W	楕円形	0.45 × 0.40	40	直立 外傾	平坦	自然		
3667	J4h7	N - 57° - W	楕円形	0.52 × 0.40	28	外傾	皿状	自然		
3668	J4g5	N - 73° - W	楕円形	0.95 × 0.86	14	緩斜	平坦	自然		
3669	J4a4	N - 71° - E	不定形	0.80 × 0.62	14	外傾 緩斜	平坦	人為		SD277 → 本跡
3670	J4a4	N - 45° - W	楕円形	0.68 × 0.46	74	外傾	皿状	自然		
3671	J4c7	N - 35° - W	楕円形	0.49 × 0.42	72	直立	皿状	人為		
3672	H5g2	N - 69° - W	楕円形	1.55 × 0.81	16	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	
3673	I5a1	N - 20° - E	楕円形	1.58 × 0.71	12	緩斜	平坦	人為	土師器片	
3674	I5c5	-	円形	1.04 × 1.01	24	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
3675	I5d6	-	円形	1.27 × 1.17	42	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3676	I4e8	N - 40° - E	楕円形	0.88 × 0.49	29	外傾	平坦	人為		SI2478 → 本跡
3677	I5g5	N - 6° - W	楕円形	0.99 × 0.82	24	外傾	皿状	人為		SB465, SK3734 新旧不明
3678	I5g5	-	円形	1.06 × 1.05	44	外傾	皿状	自然	土師器片	SB465 新旧不明
3679	I5h8	-	円形	1.10 × 1.01	40	外傾	皿状	自然	土師器片	
3680	I5g8	N - 32° - E	楕円形	0.92 × 0.76	19	外傾 緩斜	皿状	自然		
3683	I5f8	N - 24° - W	楕円形	0.92 × 0.75	18	緩斜	皿状	自然		
3684	I5f8	N - 27° - E	楕円形	0.82 × 0.76	16	外傾	皿状	自然	須恵器片	
3685	J4b8	N - 14° - E	楕円形	0.58 × 0.49	42	外傾	平坦	人為		
3686	I4i0	N - 80° - E	楕円形	0.54 × 0.49	68	外傾	皿状	人為	土師器片	
3687	I5j1	N - 24° - E	楕円形	0.66 × 0.38	30	外傾	平坦	自然		
3688	I5j1	N - 75° - W	楕円形	0.57 × 0.49	60	外傾	平坦	自然		
3689	I4j0	N - 71° - W	不整楕円形	1.66 × 0.99	49	外傾	皿状	人為	土師器片	SD266 → 本跡
3690	I5j1	-	円形	0.87 × 0.82	22	外傾	平坦	自然		
3691	I4i7	N - 79° - W	長方形	1.51 × 1.08	20	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 縄文土器片	
3692	I4i6	-	円形	0.52 × 0.52	59	直立 外傾	平坦	自然		
3693	I5a8	N - 14° - E	楕円形	1.20 × 0.94	22	緩斜	皿状	人為	土師器片	
3694	I5h5	-	円形	0.82 × 0.76	34	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3695	I5h5	N - 81° - W	楕円形	0.99 × 0.84	41	外傾	平坦	自然	土師器片	SB465 → 本跡
3696	I5h4	-	円形	1.71 × 1.70	80	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡 → SB465
3697	I4i5	N - 8° - E	楕円形	2.00 × 0.98	12	緩斜	平坦	自然		
3698	I5g4	-	円形	0.44 × 0.42	53	外傾	平坦	人為		
3699	H6b6	N - 43° - E	長方形	2.85 × 1.05	18	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI2558 → 本跡 → SK3700
3700	H6b6	N - 45° - E	楕円形	0.92 × 0.57	16	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK3699 → 本跡
3701	I5g4	-	円形	0.34 × 0.32	34	外傾	平坦	自然		
3702	I6c2	N - 30° - E	楕円形	0.78 × 0.66	14	外傾	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3703	H6b5	-	円形	0.36 × 0.34	22	緩斜	平坦	人為		
3704	I6e4	N - 66° - E	楕円形	0.98 × 0.82	48	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SB467 →本跡
3705	H6b5	N - 7° - E	楕円形	1.01 × 0.60	25	外傾 緩斜	平坦	自然		SI2558 →本跡
3706	I6e3	N - 28° - E	楕円形	0.54 × 0.46	34	外傾	平坦	人為		
3707	I6c2	N - 60° - W	隅丸長方形	1.00 × 0.58	38	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3708	I6c3	N - 8° - E	楕円形	1.01 × 0.87	18	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 縄文土器片	
3709	I6d6	N - 52° - E	不定形	1.06 × 0.86	16	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡→SK3720
3710	I6d6	N - 49° - E	楕円形	0.46 × 0.40	26	外傾	平坦	自然	土師器片	
3711	I6d7	N - 88° - W	隅丸長方形	1.10 × 0.87	21	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3712	I5j6	N - 28° - E	楕円形	0.40 × 0.30	45	外傾	平坦	自然		
3713	I5j6	N - 32° - E	楕円形	0.67 × 0.54	38	(外傾)	平坦	人為		
3714	J5a7	N - 8° - W	楕円形	0.53 × 0.48	42	外傾	平坦	自然		
3715	I5j7	N - 47° - W	楕円形	0.52 × 0.42	64	外傾	平坦	自然		SB468 新旧不明
3716	I5i9	N - 49° - E	楕円形	0.58 × 0.40	77	直立	平坦	自然		SB327・343 新旧不明
3717	I5i9	N - 57° - E	楕円形	0.62 × 0.55	66	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SB327・343 新旧不明
3718	I5i9	-	円形	0.46 × 0.45	45	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SB327・343 新旧不明
3719	I5i0	-	円形	0.60 × 0.59	62	外傾	平坦	人為		SB327・343 新旧不明
3720	I6d6	-	円形	0.24 × 0.23	30	(緩斜)	平坦	自然		SK3709 →本跡
3721	I6d6	N - 66° - W	楕円形	0.79 × 0.71	24	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須恵器片, 縄文土器片	
3723	I5g9	-	円形	0.42 × 0.40	34	外傾	平坦	自然		
3724	I5g0	-	円形	0.46 × 0.42	48	外傾	平坦	自然		
3725	I5g0	N - 71° - W	楕円形	0.74 × 0.36	38	外傾	平坦	人為		
3726	I5g0	N - 62° - E	楕円形	0.40 × 0.36	54	外傾	平坦	自然		
3727	I5h0	N - 30° - E	楕円形	0.42 × 0.37	52	外傾	平坦	人為		
3728	I5h0	-	円形	0.42 × 0.42	28	外傾	平坦	自然		
3729	I5h0	-	円形	0.48 × 0.46	68	外傾	平坦	自然		
3730	I5h9	N - 83° - E	楕円形	0.50 × 0.40	34	外傾 緩斜	平坦	自然		
3731	I5h9	-	円形	0.46 × 0.43	24	外傾	平坦	自然		
3732	I5i8	N - 27° - W	楕円形	0.54 × 0.48	20	緩斜	平坦	自然		
3733	I5i8	-	円形	0.38 × 0.35	43	外傾 直立	平坦	自然		
3734	I5g5	-	円形	0.42 × 0.38	49	外傾	平坦	自然		SB465, SK3677 新旧不明
3735	I5c6	N - 4° - W	楕円形	0.34 × 0.30	22	外傾	平坦	-		
3736	I5c6	N - 46° - E	楕円形	0.32 × 0.28	14	外傾 緩斜	平坦	-		
3737	I5c7	-	円形	0.32 × 0.31	24	直立 緩斜	平坦	-	土師器片	
3738	I6d8	N - 22° - E	楕円形	1.22 × 0.68	53	緩斜	平坦	人為		
3739	I6d3	-	円形	0.50 × 0.50	21	外傾 緩斜	[平坦]	自然		
3740	H6j2	-	円形	0.36 × 0.35	50	外傾	平坦	自然		
3741	H6j2	-	円形	0.55 × 0.54	52	直立	平坦	人為	土師器片	
3742	H6j2	N - 39° - W	楕円形	0.38 × 0.34	24	外傾	平坦	自然		
3743	H6j2	N - 41° - E	楕円形	0.54 × 0.48	15	外傾	平坦	自然		
3744	I6a2	-	[円形]	0.34 × (0.32)	46	外傾	平坦	人為		
3745	I6a2	-	[円形]	0.38 × (0.37)	45	直立	平坦	自然	土師器片	
3746	I6a2	N - 37° - W	楕円形	[0.34] × 0.30	58	外傾	平坦	自然		
3747	I6a1	N - 88° - E	楕円形	0.70 × 0.60	14	緩斜	平坦	自然		
3748	I6a1	N - 40° - E	楕円形	0.43 × 0.38	15	緩斜	平坦	自然		
3749	I6b1	-	円形	0.41 × 0.39	28	外傾 直立	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3750	I6a1	N - 80° - E	楕円形	0.32 × 0.28	23	緩斜 直立	平坦	自然		
3751	H6j1	-	円形	0.31 × 0.30	14	緩斜	平坦	自然		
3752	H6j1	N - 35° - W	不整楕円形	0.64 × 0.40	54	外傾	平坦	自然		
3753	H6j2	-	円形	0.60 × 0.55	32	外傾	平坦	自然		
3754	H6j2	N - 80° - W	[楕円形]	0.38 × (0.25)	39	外傾	平坦	自然	土師器片	
3755	I6a1	N - 82° - W	楕円形	(1.80) × 1.05	98	外傾	平坦	人為		本跡→SI2459
3756	I5g9	-	円形	0.62 × 0.58	60	外傾	平坦	-		SB341 新旧不明
3757	I5b0	-	[円形]	(0.80) × (0.74)	94	外傾	平坦	人為		SD262 →本跡
3758	I4j6	N - 49° - W	楕円形	0.44 × 0.38	44	外傾	平坦	人為		
3759	I4j6	-	円形	0.44 × 0.41	47	外傾	平坦	人為		
3760	I4i6	N - 79° - E	楕円形	0.75 × 0.60	58	外傾	平坦	人為		
3761	I6g5	N - 46° - W	[楕円形]	0.79 × (0.62)	19	外傾 緩斜	平坦	人為		
3762	I6g5	N - 67° - W	楕円形	0.76 × 0.66	19	外傾	平坦	人為		
3763	I6g5	-	円形	0.40 × 0.38	42	外傾 直立	平坦	人為		
3764	I6g5	N - 28° - E	楕円形	0.84 × 0.76	19	外傾 緩斜	平坦	自然		
3765	I6g5	-	円形	0.76 × 0.73	15	外傾 緩斜	皿状	自然		
3766	I6g5	-	円形	0.70 × 0.65	16	緩斜	平坦	自然		
3767	I4g5	N - 70° - W	不定形	1.31 × 0.68	34 ~ 45	外傾	平坦	人為		
3768	I4g4	N - 58° - E	不整楕円形	0.94 × 0.58	35	外傾	平坦	人為		
3769	I4g4	N - 82° - W	楕円形	0.97 × 0.55	52	外傾 緩斜	平坦	人為	土師器片	
3770	I4h4	N - 3° - W	楕円形	2.27 × 0.90	12	外傾 緩斜	平坦	人為		本跡→SK3771
3771	I4h4	N - 40° - W	不整楕円形	0.81 × 0.41	58	直立 緩斜	平坦	人為		SK3770 →本跡
3772	I4h4	N - 66° - E	楕円形	1.00 × 0.82	26	緩斜	凸凹	人為	土師器片	
3773	H6j1	N - 65° - E	楕円形	0.36 × 0.34	58	直立	皿状	自然		SB345 新旧不明
3774	I6e5	-	円形	0.72 × 0.68	24	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3775	I6d5	-	円形	0.35 × 0.34	24	外傾 緩斜	平坦	人為		SB344
3776	I6d5	-	円形	0.44 × 0.42	44	外傾	平坦	人為		SB344
3777	I6d5	-	円形	0.40 × 0.38	26	外傾	平坦	人為		SB344
3778	I6d5	N - 65° - W	楕円形	0.62 × 0.56	40	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SB344,SK3779 → 本跡
3779	I6d5	N - 1° - W	[楕円形]	(1.08) × 0.79	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	SB344 本跡→ SK3778・3780
3780	I6d5	N - 24° - E	[楕円形]	0.72 × (0.66)	28 ~ 38	直立 外傾	平坦	自然	土師器片	SB344,SK3779 → 本跡→SK3781
3781	I6d5	N - 60° - W	楕円形	1.38 × 0.82	44	緩斜	平坦	自然	土師器片	SB344,SK3780 → 本跡
3782	I6e7	-	円形	0.42 × 0.41	35	外傾	平坦	自然	土師器片	
3783	I6f7	-	円形	0.55 × 0.53	39	外傾 直立	平坦	自然	土師器片, 縄文土器片	
3784	I6f7	-	[円形]	(0.54) × (0.45)	57	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3785	I6f6	-	円形	0.40 × 0.38	51	外傾	平坦	自然		
3786	I6d3	-	円形	0.76 × [0.70]	24	緩斜	皿状	自然		
3787	I6d4	N - 16° - W	楕円形	0.84 × 0.76	22	緩斜	皿状	人為	土師器片	
3788	I6d4	-	円形	0.74 × 0.68	20	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3789	J4a4	-	[円形]	1.12 × (0.76)	20	緩斜	平坦	人為		
3790	J5a7	N - 61° - W	楕円形	0.44 × 0.36	66	外傾	平坦	-		SB469 新旧不明
3791	J5a6	-	円形	0.68 × 0.67	72	外傾	皿状	-		SD267 新旧不明
3792	I6e7	N - 60° - W	楕円形	0.66 × 0.51	66	外傾 直立	平坦	自然	土師器片	
3793	H6i1	N - 12° - W	楕円形	1.26 × (0.97)	36	外傾	凸凹	人為		本跡→SI2446 SB345・346 新旧不明
3794	H6h6	N - 87° - E	楕円形	0.87 × 0.66	10	緩斜	平坦	-	土師器片	SK3795 →本跡
3796	I5g0	-	円形	0.88 × 0.86	13	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3797	H5i9	N - 76° - E	楕円形	0.50 × 0.38	22	外傾	皿状	自然	土師器片	
3901	H6c5	N - 63° - E	楕円形	0.96 × 0.88	16	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK3902 → 本跡
3902	H6c5	N - 40° - E	楕円形	1.14 × 1.06	15	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK3903 → 本跡 → SK3901
3903	H6c5	N - 60° - W	長方形	2.23 × 1.18	33	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡 → SK3902
3904	H7e4	-	円形	0.98 × 0.92	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK3905 → 本跡
3905	H7e4	N - 20° - E	[楕円形]	0.88 × (0.72)	12	外傾 緩斜	平坦	自然		本跡 → SK3904
3906	H7f4	-	円形	0.72 × 0.72	14	外傾	平坦	自然		SK3907 → 本跡
3907	H7f4	N - 70° - E	[楕円形]	0.67 × (0.51)	13	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡 → SK3906
3908	H7f4	N - 18° - E	楕円形	1.07 × 0.92	26	外傾	平坦	自然		本跡 → SK3909
3909	H7f4	N - 63° - E	楕円形	1.11 × 1.00	23	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3908 → 本跡
3910	H7f3	N - 43° - E	楕円形	1.48 × 0.98	26	外傾	平坦	自然		SK3911 → 本跡
3911	H7f3	N - 43° - E	[楕円形]	0.74 × (0.29)	21	外傾	平坦	人為		本跡 → SK3910
3912	H7g3	N - 60° - W	楕円形	1.01 × 0.92	16	外傾	平坦	自然		
3913	H7g3	N - 70° - W	楕円形	1.27 × 0.88	5	外傾	平坦	自然	須恵器片	
3914	H7f2	-	円形	0.50 × 0.50	14	外傾	平坦	自然		
3915	H7h3	N - 2° - E	楕円形	0.44 × 0.39	22	外傾	皿状	自然		SK3916 → 本跡
3916	H7h3	-	円形	0.38 × 0.36	23	外傾	皿状	人為		本跡 → SK3915
3917	H7h3	-	円形	0.58 × 0.56	32	外傾	皿状	自然		
3918	H7i2	N - 24° - E	楕円形	0.42 × 0.38	30	外傾	平坦	自然		
3919	H7h2	N - 75° - E	楕円形	0.51 × 0.44	39	外傾	皿状	自然		
3920	H7h1	N - 6° - E	楕円形	1.08 × 0.94	19	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3921	H7i4	-	円形	0.55 × 0.52	44	外傾	平坦	自然		
3922	H7j5	N - 15° - W	楕円形	0.58 × 0.48	24	外傾	平坦	自然		
3923	H7g2	-	円形	0.34 × 0.33	22	外傾	平坦	自然		
3925	I6e3	N - 76° - W	楕円形	0.72 × 0.62	20	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
3926	I6e3	-	円形	0.76 × 0.74	30	外傾	平坦	自然	土師器片	
3928	H6g8	-	円形	0.55 × 0.52	61	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3929	H6f8	N - 25° - E	楕円形	0.56 × 0.46	61	外傾	平坦	自然		
3930	H6g7	-	円形	0.61 × 0.57	48	外傾	平坦	人為		
3931	H6h7	-	円形	0.56 × 0.525	42	外傾	平坦	自然		
3932	H6h7	-	円形	0.35 × 0.34	32	外傾	平坦	自然		
3933	H6g7	N - 24° - W	楕円形	0.44 × 0.38	46	外傾	平坦	自然	土師器片	
3934	H6g7	-	円形	0.32 × 0.30	17	直立	平坦	自然		
3935	H6h7	-	円形	0.48 × 0.48	73	直立 外傾	平坦	自然	土師器片	
3936	H6h7	N - 56° - E	楕円形	0.58 × 0.36	26	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片	
3937	H6h7	-	円形	0.56 × 0.52	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
3938	H6h7	N - 9° - W	楕円形	0.60 × 0.52	43	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片	
3939	H6h7	-	円形	0.48 × 0.46	51	外傾	平坦	自然		
3940	H6f5	-	円形	0.70 × 0.70	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
3941	H6f5	-	円形	0.34 × 0.33	11	緩斜	平坦	自然		
3942	H6f4	-	円形	0.72 × 0.70	30	緩斜	平坦	自然		
3943	H6f4	N - 79° - E	楕円形	0.32 × 0.29	23	外傾	平坦	自然		
3944	H6f3	-	円形	0.62 × 0.61	29	外傾	平坦	人為		
3945	H8c5	N - 60° - E	[楕円形]	(1.91) × 1.85	41	緩斜	平坦	自然	土師器片, 手捏土器, 縄文土器片	本跡 → SK3946
3946	H8c5	-	円形	1.42 × 1.36	37	緩斜 外傾	平坦	自然	土師器片, 縄文土器片	SK3945 → 本跡
3948	H6c8	N - 24° - E	楕円形	0.75 × 0.56	47	直立	皿状	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3949	H6c8	N - 25° - W	楕円形	0.80 × 0.60	44	直立	平坦	人為	土師器片	
3950	H6c8	N - 3° - W	楕円形	0.66 × 0.58	17	緩斜	平坦	人為	土師器片	
3951	H6c8	N - 45° - E	楕円形	0.59 × 0.39	28	外傾 緩斜	平坦	人為		
3952	H6b8	N - 42° - E	楕円形	0.62 × 0.39	63	外傾	皿状	人為		
3953	H6c8	N - 37° - E	隅丸長方形	1.41 × 1.10	27	外傾 緩斜	平坦	人為		
3954	H6c9	N - 5° - E	楕円形	1.63 × 1.17	72	外傾	平坦	人為		
3955	H6c9	-	円形	0.85 × 0.82	7	緩斜	平坦	人為		
3956	H6d8	N - 2° - E	楕円形	0.49 × 0.40	40	外傾	皿状	人為	土師器片	
3957	H6d9	-	円形	0.44 × 0.44	17	外傾	皿状	自然		
3958	H6c0	N - 30° - W	楕円形	0.64 × 0.57	16	緩斜	平坦	自然		
3959	H6d9	N - 9° - E	楕円形	0.33 × 0.27	39	直立 外傾	皿状	人為		
3960	H6e5	-	円形	0.48 × 0.47	27	外傾	皿状	人為	土師器片	
3961	H6e6	-	円形	0.43 × 0.42	20	緩斜	平坦	自然	土師器片	
3962	H6e7	-	円形	0.45 × 0.45	22	緩斜	皿状	自然	土師器片	
3963	H6e7	-	円形	0.32 × 0.32	23	外傾	平坦	自然		
3964	H6e7	-	円形	0.36 × 0.33	23	直立	平坦	人為		
3965	H7e7	-	円形	0.65 × 0.64	26	外傾	平坦	自然		
3966	H7e7	-	円形	0.31 × 0.30	28	外傾	皿状	人為		
3967	H6e7	N - 21° - W	楕円形	0.37 × 0.32	40	外傾	皿状	自然		
3968	H6e8	N - 7° - W	楕円形	0.33 × 0.28	37	外傾	皿状	自然		
3969	H6e9	N - 15° - E	楕円形	0.94 × 0.88	24	外傾 直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
3970	H7b1	N - 62° - W	楕円形	0.59 × 0.46	18	外傾	平坦	人為	須惠器片	
3971	H6a0	N - 28° - E	楕円形	0.52 × 0.47	15	緩斜	平坦	人為	須惠器片	
3972	G7a8	N - 72° - W	楕円形	0.87 × 0.72	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片	SE144 →本跡
3973	I5g7	N - 1° - W	楕円形	0.45 × 0.36	51	外傾	皿状	自然		SI2472・2473・ 2475 →本跡
3974	G7b5	N - 36° - E	楕円形	0.66 × 0.56	80	外傾	皿状	-		
3975	F7j7	N - 24° - W	楕円形	1.23 × 1.04	28	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	SK3976 →本跡
3976	F7j7	N - 46° - E	楕円形	1.74 × 1.16	46	緩斜 外傾	平坦	自然		本跡 → SK3975
3977	G7a8	N - 38° - W	楕円形	0.86 × 0.80	15	緩斜	平坦	自然		
3978	I8f6	N - 38° - W	楕円形	0.69 × 0.54	45	外傾	平坦	自然	土師器片	
3979	I8f7	N - 26° - E	楕円形	0.69 × 0.60	31	外傾	皿状	自然		
3980	I8f6	-	円形	0.42 × 0.41	21	外傾	平坦	自然	土師器片	
3981	I8f6	-	円形	0.31 × 0.31	25	外傾	皿状	自然		
3982	I8f7	N - 39° - E	楕円形	0.46 × 0.40	22	外傾	皿状	自然		SH81 新旧不明
3983	I8f7	-	円形	0.35 × 0.34	37	直立	皿状	自然		
3984	I8f8	-	円形	0.46 × 0.42	61	外傾	平坦	自然		
3985	I8f8	N - 81° - E	楕円形	0.94 × 0.60	7	緩斜	平坦	人為	須惠器片	
3986	I8f8	N - 13° - E	不整形	0.64 × 0.45	65	外傾	平坦	人為	須惠器片	
3987	I8e7	-	円形	0.54 × 0.54	50	外傾	皿状	人為	土師器片	SH81 新旧不明
3988	I8f7	N - 82° - W	楕円形	0.66 × 0.48	49	外傾	平坦	人為	土師器片	
3989	J5b8	N - 47° - W	不整形	1.16 × 0.76	79	外傾	平坦	-		SK3292, SD267 →本跡
3991	J4d6	N - 37° - W	[楕円形]	(0.12) × (0.10)	38	直立	平坦	人為		本跡 → SK3992
3992	J4d6	N - 37° - W	不整形	0.77 × 0.45	418	直立	凸凹	人為		SK3991 →本跡
3993	I5g2	N - 26° - E	[隅丸長方形]	[2.76] × 0.67	16	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK3994 →本跡
3996	G7e9	-	円形	1.14 × 1.08	30	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
4879	I5f5	-	円形	0.26 × 0.23	5	外傾	皿状	自然		SB465 新旧不明

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4880	I5h7	N - 84° - E	[楕円形]	(0.38) × 0.34	31	外傾	皿状	人為		SB326 新旧不明
4955	J4f6	-	円形	0.45 × 0.44	33	外傾	平坦	自然		SB329,SD274 新旧不明
4956	J4f6	-	円形	0.33 × 0.30	37	直立	平坦	自然		SI2464→本跡 SB329, SD274 新旧不明
4957	J4g7	-	円形	0.40 × 0.38	52	直立	凹凸	自然		
4958	J4g6	-	円形	0.44 × 0.41	23	外傾	凹凸	自然		
4959	J4g6	-	円形	0.33 × 0.31	59	直立	平坦	-		
4960	I5h0	N - 20° - E	不整楕円形	0.83 × 0.41	60 ~ 80	有段	凹凸	人為		
4961	I5h9	N - 7° - E	楕円形	0.72 × 0.62	74	直立	皿状	人為		
4962	I5h9	N - 53° - W	楕円形	0.70 × 0.54	32	外傾	平坦	人為		
4963	I5h8	-	円形	0.61 × 0.60	58	外傾	平坦	人為		
4964	I5g9	-	円形	0.50 × 0.49	37	外傾	平坦	人為		SB341 新旧不明
4965	G5d7	N - 58° - W	楕円形	0.58 × 0.49	27	外傾	皿状	自然		SB463・464 新旧不明
4966	I5d6	-	円形	0.47 × 0.43	32	外傾	皿状	人為		SB464 新旧不明
4967	I5d7	N - 78° - E	[楕円形]	(0.36) × 0.32	18	外傾	平坦	自然		本跡→SB464
4968	I5d7	-	円形	0.37 × 0.36	21	外傾	皿状	-		SB463・464 新旧不明
4969	I5d7	-	円形	0.34 × 0.32	39	外傾	V字状	-		SB463・464 新旧不明
4977	I5h7	-	[円形]	0.78 × [0.77]	16	外傾	平坦	人為		SB326 新旧不明
5006	I5f9	-	楕円形	0.45 × 0.36	-	-	-	-		
5007	I5f9	-	円形	0.38 × 0.35	-	-	-	-		SB461 新旧不明
5101	I5e9	-	円形	0.44 × 0.43	30	外傾	凹凸	自然		SB462 新旧不明
5102	I5d9	-	円形	0.47 × 0.46	20	外傾	平坦	人為		SB462 新旧不明
5103	I5d9	N - 75° - E	楕円形	0.54 × 0.48	31	外傾	平坦	人為		本跡→SB462 P11
5104	I5d9	-	円形	0.47 × 0.44	19	外傾	凹凸	人為		SB462 新旧不明
5105	I5e7	-	円形	0.39 × 0.38	35	外傾	皿状	-		SB463 新旧不明
5106	I5e7	-	円形	0.27 × 0.25	15	外傾	皿状	-		SB463 新旧不明
5107	I5e7	-	円形	0.34 × 0.31	20	外傾	平坦	-		SB463 新旧不明
5108	I5e6	N - 72° - E	楕円形	0.38 × 0.31	25	外傾	皿状	-		SB463 新旧不明
5109	I5i0	N - 76° - E	楕円形	0.60 × 0.47	35	外傾	平坦	人為		SB343 新旧不明
5110	I5i0	N - 67° - E	楕円形	0.65 × 0.57	20	外傾	平坦	-		SD262 →本跡
5197	J4c6	-	円形	0.45 × 0.45	40	外傾	凹凸	人為		SB321 新旧不明
5198	J4c6	-	円形	0.41 × 0.38	-	-	-	-		SB321 新旧不明
5199	J4c5	N - 15° - E	不整楕円形	0.46 × 0.41	40	外傾	凹凸	人為		SB321 新旧不明
5200	I5j8	N - 31° - E	楕円形	0.8 × 0.68	103	外傾	平坦	-		SI2480 →本跡 SB468 新旧不明
5202	I5j7	-	円形	0.58 × 0.57	43	外傾	平坦	人為		本跡→SB468
5203	J5a6	N - 16° - W	[楕円形]	[0.73] × [0.58]	90	外傾	平坦	人為		
5204	I5j6	N - 59° - W	楕円形	0.70 × 0.56	102	外傾	平坦	自然		
5215	I5j9	N - 61° - E	楕円形	0.45 × 0.41	69	垂直	平坦	自然		SI2479 →本跡 SB328 新旧不明
5216	J5a8	-	円形	0.61 × 0.60	76	外傾	平坦	人為		SI2479,SB328・ 469 →本跡
5217	J5a8	N - 1° - E	円形	0.80 × 0.78	54	外傾	平坦	人為		SI2479→本跡 SB328・ 468・469 新旧不明
5218	I5j8	N - 70° - E	楕円形	0.46 × 0.42	53	外傾	平坦	-		SB323・468・469 新旧不明
5569	f6g0	N - 55° - E	楕円形	1.53 × 0.89	55	外傾	皿状	人為		SD386 →本跡→ SD377
5570	G5g8	-	円形	1.17 × 1.12	-	-	-	-	土師器片	
5573	G5f7	N - 24° - E	楕円形	1.10 × 0.96	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
5574	G5g9	-	円形	1.02 × 1.00	10	外傾	平坦	人為		SI2866 →本跡
5576	G5f5	N - 24° - W	不整楕円形	1.75 × 0.86	45	外傾	平坦	人為	土師器片	SK5578・5610 → 本跡
5579	H4e0	-	円形	1.35 × 1.27	40	直立	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
5580	H4j6	N - 18° - E	楕円形	1.34 × 1.22	7	緩斜	平坦	人為		
5581	I4a1	N - 15° - E	長方形	1.58 × 0.74	8	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5582	I4a6	N - 14° - E	長方形	1.92 × 0.74	7	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5583	I4a5	N - 15° - E	不整楕円形	1.32 × 0.90	14	緩斜	平坦	人為		SK5584B → 本跡
5584A	I4b5	N - 47° - E	不整楕円形	1.30 × 0.74	8	緩斜	平坦	人為		SK5584B・SK5585 → 本跡
5584B	I4b5	N - 75° - E	[不定形]	[0.88] × [0.72]	13	緩斜	平坦	人為		本跡 → SK5583・ 5584A
5585	I4b5	N - 13° - E	[楕円形]	(1.97) × 0.96	18	外傾	平坦	人為		本跡 → SK5584A
5586	I4b5	-	円形	0.42 × 0.40	19	外傾	平坦	人為		
5587	I4a6	N - 12° - E	楕円形	1.74 × 0.84	9	緩斜	平坦	人為	須惠器片	
5588	I4a6	N - 14° - E	長方形	2.00 × 0.60	6	緩斜	平坦	人為		SK5589・5590 → 本跡
5589	I4b6	N - 32° - W	楕円形	0.38 × 0.30	28	緩斜	皿状	人為		本跡 → SK5588
5590	I4b6	-	円形	0.28 × 0.28	22	緩斜	皿状	人為		本跡 → SK5588
5591	H4i7	N - 20° - E	長方形	1.82 × 0.62	3	緩斜	平坦	人為		
5592	H4j7	N - 16° - E	楕円形	1.92 × 0.68	5	緩斜	平坦	人為		本跡 → SD394
5593	H4j7	N - 17° - E	隅丸長方形	2.16 × 0.90	11	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5594	I4a7	N - 8° - E	不整楕円形	1.90 × 0.85	7	外傾	平坦	人為	土師器片	
5595	I4a6	N - 15° - E	不整楕円形	1.90 × 0.94	18	緩斜	皿状	人為	土師器片	
5596	I4b6	N - 22° - E	[楕円形]	(1.20) × 0.75	9	緩斜	凹凸	人為		本跡 → SK5597
5597	I4b6	N - 22° - E	長方形	1.50 × 0.90	11	緩斜	平坦	人為	土師器片	SK5596 → 本跡
5598	I4b6	N - 16° - E	楕円形	1.50 × 0.72	14	緩斜	皿状	人為		本跡 → SK5599
5599	I4c6	N - 4° - E	楕円形	1.86 × 0.64	7	緩斜	平坦	人為		SK5598 → 本跡
5600	I4a6	N - 15° - E	楕円形	1.00 × 0.62	3	緩斜	平坦	人為		SK5601 → 本跡
5601	I4a6	-	円形	0.55 × 0.50	58	緩斜	皿状	人為		本跡 → SK5600
5602	H4a8	-	円形	1.03 × 0.97	27	緩斜	皿状	人為		
5604	H4d0	N - 18° - E	楕円形	1.65 × 1.43	39	外傾 直立	平坦	人為	土師器片	
5605	H4e9	-	円形	1.19 × 1.09	49	内傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
5606	H4f8	N - 40° - W	楕円形	1.00 × 0.88	46	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SD264 → 本跡
5607	G5e6	N - 34° - E	楕円形	0.94 × 0.71	46	外傾 緩斜	有段	人為		
5609	G5f5	N - 18° - W	不整楕円形	1.22 × 0.74	15	緩斜	凹凸	人為		
5610	G5f5	N - 26° - W	楕円形	1.27 × 0.82	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK5576
5611	G5j1	N - 35° - E	楕円形	1.27 × 1.14	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
5612	H5a1	-	円形	0.75 × 0.70	20	緩斜	皿状	人為		
5613	H4a1	-	円形	1.10 × 1.02	20	緩斜	平坦	人為		
5614	J3i8	N - 87° - W	楕円形	0.90 × 0.52	26	緩斜	皿状	人為		本跡 → SD399 中世カ
5615	K3c9	-	円形	0.42 × 0.42	16	緩斜	皿状	人為		SK5616 → 本跡
5616	K3d9	N - 4° - W	楕円形	2.14 × 1.34	47	緩斜	皿状	人為		本跡 → SK5615
5619	H4f8	N - 81° - W	不整楕円形	1.25 × 1.13	24	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
5620	H4g8	N - 21° - E	隅丸長方形	1.13 × 0.65	19	外傾 緩斜	平坦	人為	土師器片	
5622	J4b3	N - 32° - W	[楕円形]	2.08 × 1.20	34	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SD267 → 本跡 → SK5618 中世・近世カ
5623	G5j1	-	円形	0.93 × 0.90	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5626	L3a7	-	円形	1.24 × 1.16	24	緩斜	平坦	人為		SD404 → 本跡 SB517 新旧不明
5627	G5d7	N - 62° - W	楕円形	0.90 × 0.78	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SD387 → 本跡
5628	G5i1	N - 36° - E	[楕円形]	(1.00) × (0.96)	35	外傾	平坦	人為		
5630	L3b6	N - 35° - E	不定形	3.39 × 1.39	50	緩斜	皿状	人為		本跡 → SD404 SB511 SB512 新旧不明 中世カ
5632	K3i5	N - 0°	[楕円形]	[1.20] × 1.00	50	外傾	平坦	-	土師器片, 土師質土器片, 砥石	
5633	K3j7	N - 23° - E	長方形	1.49 × 1.04	7	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 磁器片	SB517 SK5634 → 本跡 PG52 新旧不明

番号	位置	長径方向	平面形	模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5634	K3j7	N - 63° - W	楕円形	2.44 × 2.18	158	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 砥石	SD404 → 本跡 → SK5633
5635	K3i5	-	円形	1.02 × 0.98	48	外傾 緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 陶器片, 磁器片	
5636	K3j6	N - 66° - W	楕円形	1.47 × 0.96	7	直立 緩斜	平坦	人為		
5638	K3j8	-	円形	0.82 × 0.80	9	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	本跡 → SD404
5639	L3b7	N - 51° - E	不定形	(2.88) × (0.94)	37	外傾	平坦	人為		本跡 → SB512, SD404 中世カ
5641	L3a8	N - 75° - W	楕円形	1.42 × 0.63	5	緩斜	平坦	自然		
5645	J3c0	N - 4° - E	楕円形	1.35 × 0.70	8	外傾	平坦	人為		
5646	J4a1	N - 10° - E	楕円形	1.53 × 1.08	5	緩斜	平坦	人為		
5648	J4a1	N - 15° - E	[楕円形]	(1.62) × 1.10	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	SD408 新旧不明
5649	J4f2	N - 19° - E	楕円形	1.89 × 1.60	20	緩斜 外傾	平坦	人為		
5650	J3e0	N - 14° - E	楕円形	1.80 × 1.20	18	緩斜	平坦	人為		
5651	J3e0	N - 4° - W	楕円形	1.85 × 1.14	20	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	SK5655 → 本跡
5654	J4d1	-	円形	0.74 × 0.74	14	緩斜	皿状	人為		SD410 → 本跡
5655	J3e0	N - 15° - W	不定形	(1.47) × 0.90	15	緩斜	凹凸	人為	須恵器片	本跡 → SK5651
5657	J4c2	-	円形	1.05 × 1.00	35	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SD407・408 → 本跡
5659	J4f2	N - 8° - E	不整楕円形	1.00 × 0.67	42	外傾 緩斜	皿状	人為	土師器片, 土師質土器片	SI2873 → 本跡
5660	L3c4	N - 72° - W	隅丸長方形	0.94 × 0.80	58	外傾	平坦	人為	土師質土器片	SD388 → 本跡
5661	L3d6	N - 14° - E	[楕円形]	0.80 × (0.62)	41	外傾 緩斜	皿状	人為		本跡 → SD404 SB510, SK5667, PG53 新旧不明
5662	L3b5	N - 17° - E	楕円形	1.38 × 0.45	10	緩斜	平坦	人為		
5666	L3d6	N - 60° - W	楕円形	1.08 × 0.56	62	緩斜	皿状	人為		本跡 → SD404 SB510, SK5667, PG53 新旧不明
5667	L3d6	N - 65° - W	楕円形	1.05 × 0.43	52	緩斜	皿状	人為		本跡 → SD404 SB510, SK5661・5666, PG53 新旧不明
5669	K3j7	N - 54° - E	楕円形	1.50 × 1.24	40	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	SB514 新旧不明
5673	L3b8	N - 77° - W	楕円形	1.57 × 1.13	24	外傾	皿状	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡 → SK5672
5677	K3i7	-	円形	0.79 × 0.71	17	外傾	平坦	自然		SB514 新旧不明
5679	L3f7	-	円形	1.48 × 1.46	82	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 陶器片	
5680	L3f7	N - 63° - E	楕円形	2.44 × 2.22	68	緩斜	平坦	人為	土師器片, 陶器片	
5681	L3f6	-	円形	0.92 × 0.84	76	外傾	平坦	人為		
5682	L3c3	N - 51° - W	楕円形	0.80 × 0.63	70	直立	平坦	人為	土師質土器片	SK5691 → 本跡 SD405 新旧不明
5684	L3c8	N - 78° - W	楕円形	0.70 × 0.28	8	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡 → SK5685 中世・近世カ
5685	L3c8	N - 78° - W	楕円形	0.94 × 0.66	10	緩斜	平坦	自然		SK5684 → 本跡 → SK5686 中世・近世カ
5689	J3j6	N - 90°	楕円形	1.00 × 0.90	78	内彎	平坦	-	土師質土器片	
5690	J3j7	N - 17° - W	楕円形	1.90 × 1.59	20	緩斜	平坦	-		
5691	L3c3	N - 40° - W	楕円形	1.30 × 0.70	73	外傾	平坦	-		本跡 → SK5682, SD405 中世カ
5692	J4h1	N - 20° - W	不定形	1.34 × 1.20	36	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI2873 → 本跡
5694	J4e4	N - 49° - E	楕円形	0.87 × 0.64	18	緩斜	皿状	人為	土師器片	本跡 → SD278 中世カ
5697	L3c6	N - 5° - E	不整楕円形	1.54 × 0.61	8	外傾	平坦	-		PG51 新旧不明
5851	K6a2	N - 70° - W	[長方形]	(2.18) × 2.08	70	外傾	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片	
5852	J5i0	N - 28° - W	楕円形	1.00 × 0.87	24	外傾	皿状	人為	土師器片	SI2977 → 本跡
5853	J5i0	N - 61° - E	楕円形	0.79 × 0.68	12	緩斜	皿状	人為	土師器片	SI2977 → 本跡
5854	J5j9	N - 16° - E	楕円形	1.75 × 0.75	13	緩斜	平坦	人為		SI2977 → 本跡
5857	J5j9	N - 21° - E	長方形	1.33 × 0.74	13	緩斜	平坦	自然	土師器片	SB531 新旧不明
5858	J5f6	N - 72° - W	楕円形	0.83 × 0.49	47	外傾	皿状	人為		第1号竪穴遺構 → 本跡
5860	J5i7	N - 11° - E	楕円形	1.42 × 0.85	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SB531 新旧不明
5861	J5j7	N - 20° - E	長方形	1.08 × 0.68	9	緩斜	平坦	自然	土師器片	
5863	J5i9	N - 64° - W	楕円形	1.01 × 0.75	12	緩斜	平坦	自然		SB531 新旧不明
5864	J6f2	-	円形	1.00 × 1.00	29	外傾	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5866	J5g6	-	円形	1.01 × 1.00	26	外傾	平坦	人為	土師器片	
5867	J5e4	N - 14° - W	楕円形	1.38 × 1.21	36	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2988・2989 → 本跡
5869	I6i4	-	円形	0.59 × 0.56	32	外傾	平坦	人為	土師器片	
5870	I6i4	N - 81° - E	楕円形	1.00 × 0.58	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
5871	I6i4	N - 34° - W	楕円形	0.72 × 0.68	70	外傾	平坦	人為	土師器片	
5872	I6i5	-	円形	0.55 × 0.55	58	外傾	U字	人為	土師器片	
5873	I6g4	-	円形	0.50 × 0.49	78	外傾	U字	人為		SI2471・2474 → 本跡
5874	I6g4	-	円形	0.55 × 0.54	51	緩斜	皿状	人為		SI2474 →本跡
5875	I6g3	-	円形	0.50 × 0.46	102	外傾	U字	人為		SI2474 →本跡
5876	I6g3	-	円形	0.63 × 0.60	100	外傾	平坦	人為		SI2474 →本跡
5877	I6i7	N - 29° - E	楕円形	3.04 × 2.20	68	外傾	平坦	人為		
5878	J5e7	N - 55° - E	楕円形	0.64 × 0.56	35	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
5879	J5e7	N - 30° - W	楕円形	0.70 × 0.62	35	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5880	J5e7	N - 65° - W	楕円形	0.78 × 0.60	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
5881	J5h1	N - 13° - E	楕円形	1.03 × 0.90	23	外傾	平坦	-		
5882	J4h0	N - 86° - E	楕円形	0.70 × 0.55	39	外傾	U字	人為		
5883	J5c8	N - 63° - W	隅丸長方形	2.35 × 1.73	38	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土 器片	
5884	J5a4	-	円形	1.10 × 1.05	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
5885	J5a4	-	円形	0.68 × 0.66	19	緩斜	皿状	人為		
5886	I5j3	-	円形	0.99 × 0.97	25	外傾	平坦	-		
5887	J5d4	N - 70° - W	隅丸長方形	1.13 × 0.92	39	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
5890	J4d0	N - 84° - E	楕円形	0.72 × 0.62	46	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
5891	J5c4	-	円形	1.60 × 1.50	12	緩斜	平坦	-		PG44 新旧不明
5892	J5c4	N - 13° - E	楕円形	[1.52] × 1.37	12	緩斜	平坦	-	土師器片	PG44 新旧不明
5893	J5i5	N - 20° - E	長方形	1.14 × 0.70	8	緩斜	平坦	-		SI2994 →本跡
5894	G6i3	-	円形	0.97 × 0.92	40	外傾	平坦	自然	土師器片	SI2999 →本跡
5895	G5h0	-	円形	1.44 × 1.36	64	外傾	平坦	自然	土師器片	
5896	G6j1	-	円形	1.16 × 1.14	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	
5898	G6i3	N - 60° - E	楕円形	1.40 × 0.68	18	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 石製品	SI2997 →本跡
5899	H6c6	N - 57° - W	隅丸長方形	2.50 × 1.51	27	緩斜	平坦	-	土師器片, 須恵器片, 瓦片	
5902	G6a8	N - 38° - W	[楕円形]	(0.70) × 0.52	24	直立	平坦	人為	錢貨	SI3014 →本跡
5903	H6a5	-	円形	0.42 × 0.40	39	外傾	皿状	自然		SI3010 新旧不明
5904	H6a5	-	[円形]	0.75 × (0.50)	55	外傾	平坦	自然		SI3010 新旧不明
5905	G6c5	N - 57° - E	長方形	(0.78) × 3.80	20	緩斜	平坦	人為		SI3020 →本跡 SI3012 新旧不明
5906	H6a6	N - 12° - W	[楕円形]	(0.97) × (0.83)	60	外傾	皿状	-		SI3010 →本跡
5907	H6a6	N - 3° - W	隅丸長方形	1.03 × 0.66	42	緩斜	皿状	人為		SI3010 →本跡
5996	I6d0	N - 82° - W	楕円形	0.86 × 0.34	30	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器片	本跡→SF20
5997	I7c2	N - 38° - E	楕円形	1.36 × 0.54	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	
5998	I7b2	N - 30° - E	楕円形	1.54 × 0.80	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
5999	I7d1	N - 12° - W	楕円形	0.70 × 0.51	36	外傾	平坦	自然		
6000	I7d2	N - 40° - W	楕円形	(0.96) × (0.85)	74	外傾	平坦	自然		本跡→SD268
6001	I7d1	N - 18° - W	楕円形	(0.98) × (0.88)	63	外傾	平坦	自然		本跡→SD268
6002	I7b2	N - 12° - E	楕円形	1.02 × 0.62	36	緩斜	平坦	人為		
6003	I7b3	N - 47° - E	楕円形	1.02 × 0.77	30	緩斜	皿状	人為		
6004	I6b0	N - 44° - W	長方形	2.0 × 0.70	48	外傾 緩斜	平坦	人為		本跡→SD268
6005	I6d0	N - 41° - W	楕円形	1.03 × 0.77	40	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6006	I6b9	N - 83° - W	円形	0.81 × 0.74	38	平坦	緩斜	自然		本跡→SD268
6007	I6b8	N - 18° - E	楕円形	0.60 × 0.46	18	平坦	緩斜	自然		SI3030.SF20 → 本跡
6008	I6a9	N - 35° - W	楕円形	0.75 × 0.42	30	平坦	外傾	自然		SI3029 →本跡→ SD268

(4) 溝跡

今回の調査で、時期や性格ともに不明な溝跡 34 条を確認した。以下、土層断面図と土層解説、一覧表を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

第 221 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

第 222 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック多量
- 7 にぶい褐色 粘土ブロック多量

第 229 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 明褐色 ローム粒子多量

第 246 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量 (3より締め強い)

第 247 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第 248 号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第 249 号溝跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量 (2より締め強い)
- 7 暗褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量

第 259 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第 260 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 261 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第 265 号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

第 269 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子微量

第 270 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 271 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第 272 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第 273 号溝跡土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第 281 号溝跡土層解説

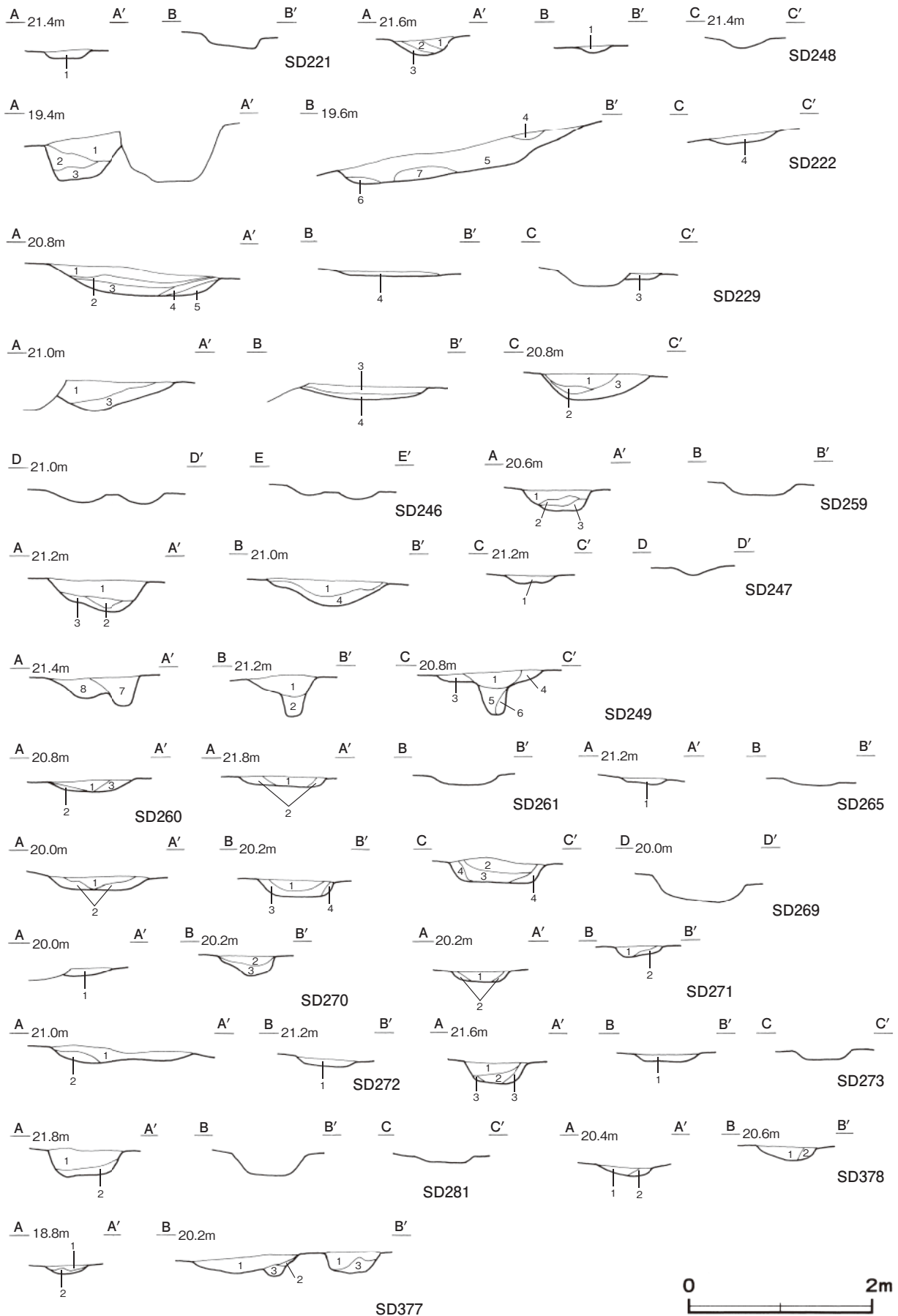
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 377 号溝跡土層解説

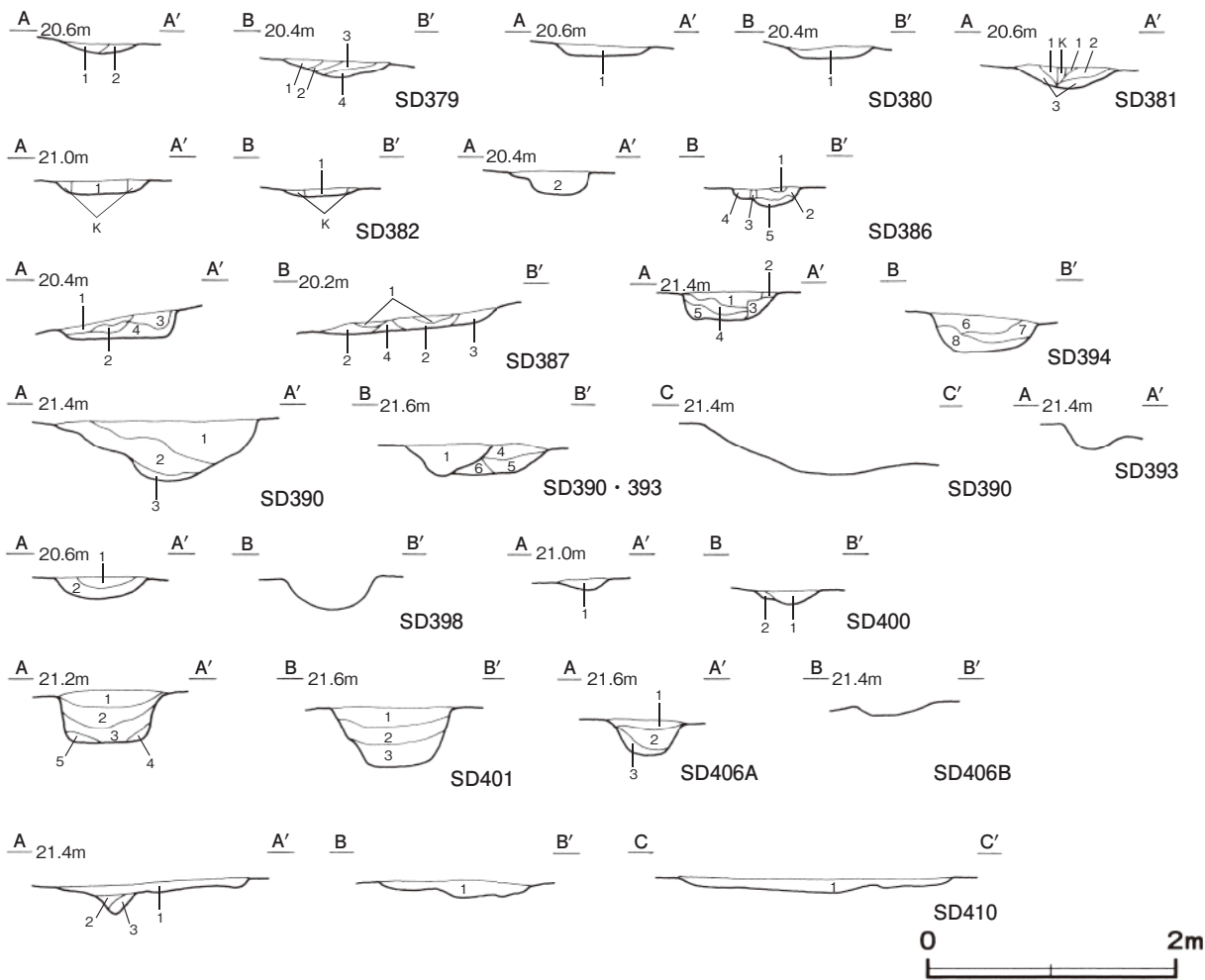
- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第 378 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量



第 359 図 その他の溝跡実測図 (1)



第 360 図 その他の溝跡実測図 (2)

第 379 号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第 380 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第 381 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 382 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 386 号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量 (1より粘性弱い)
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量 (3よりやや暗い)

第 387 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 390 号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第 393 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第 394 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量
- 2 褐灰色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐灰色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量

第 398 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 400 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 401 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 極 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 極 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 406 A 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第 410 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

表 30 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模				断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
221	G9d9~G9f9	N - 4° - E	直線	5.3	0.34 ~ 0.58	0.25 ~ 0.45	8 ~ 10	浅い U字状	緩斜	自然	瓦質土器片	
222	F9i8~G9b5	N - 41° - E	ほぼ直線	(18.5)	0.60 ~ 2.42	0.38 ~ 1.56	8 ~ 44	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SD218 中世カ
229	G7b5~G7e0	N - 64° - W	ほぼ直線	[23.1]	1.05 ~ 2.13	0.75 ~ 1.40	4 ~ 28	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 土師質土器	SI2357, SK3169・ 3175 →本跡→ SD260, SK3183
246	F7i5~G7c3 G7c3~G7f8	N - 60° - W N - 34° - E	L字状	(43.9)	0.90 ~ 1.33	0.10 ~ 0.32	8 ~ 28	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 土師質土器, 砥石	SK3211~3213・3225 →本跡→SD247・260
247	G7c2~G7f3	N - 37° - E N - 55° - W	L字状	(20.0)	0.47 ~ 1.12	0.20 ~ 0.30	8 ~ 33	U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SD246, SK3164・ 3230 →本跡
248	G6g8~H7b4	N - 50° - W	直線	(32.1)	0.32 ~ 0.80	0.12 ~ 0.32	10 ~ 17	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI2359・2362・ 2373・3018 →本跡
249	G7g8~H7d4 H7d9~H6a9	N - 130° - E N - 35° - E	L字状	(55.6)	0.49 ~ 1.22	0.10 ~ 0.38	30 ~ 46	U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁器片	SI2374・2375・2379・ 2380, SB315, SK3171・ 3172 →本跡
259	G7h8~G7i0	N - 66° - W	直線	8.25	0.60 ~ 0.90	0.40 ~ 0.78	14 ~ 21	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片	SK3246 →本跡→ SI2492, SK3184・3197
260	G7c5	N - 45° - E	直線	4.65	0.46 ~ 1.20	0.20 ~ 0.50	12	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片	SK3179, SD229・246 →本跡→SK3178
261	I6f5~I6g4	N - 33° - E	直線	(4.74)	0.59 ~ 0.95	0.48 ~ 0.84	10 ~ 13	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片	SI2471・2474 → 本跡
265	G7d2~G7d3	N - 72° - W	弧状	3.73	0.51 ~ 0.62	0.29 ~ 0.37	5 ~ 10	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SK3218 →本跡
269	G8b4~G8i1	N - 21° - E	直線	(32.0)	0.70 ~ 1.10	0.30 ~ 0.70	12 ~ 21	逆台形	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片	SI2492, SD270 → 本跡
270	G8d1~G8e3	N - 70° - W	直線	(9.11)	0.56 ~ 0.80	0.26 ~ 0.40	9 ~ 21	逆台形	緩斜	自然	土師器片	本跡→SD269
271	G7a8~G7c8	N - 4° - W	直線	9.10	0.48 ~ 0.70	0.29 ~ 0.46	7 ~ 11	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片	
272	G7j8~H7b7	N - 40° - E	ほぼ直線	8.15	0.46 ~ 0.80	0.35 ~ 0.60	23 ~ 30	U字状	緩斜	自然	土師器片	SI2491, SK3239・ 3249 →本跡
273	H6d0~H6i8	N - 28° - E	直線	23.20	0.42 ~ 0.89	0.22 ~ 0.67	5 ~ 21	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片	SI2397・2497~ 2499・2553, SB316・ 317 →本跡
281	J4c0~J5h3	N - 70° - W N - 10° - W	屈曲	27.50	0.54 ~ 0.90	0.29 ~ 0.70	8 ~ 30	U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片	SI2973, SB527, SK3660・ 3661 →本跡→SK3297・ 3659 PG48 新旧不明
377	F7d1~F6h8	N - 25° - E	直線	(22.40)	0.40 ~ 1.10	0.11 ~ 0.42	10 ~ 20	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 不明鉄製品	SK5569 →本跡
378	F6g3~G6a8	N - 46° - W	直線	(19.0)	0.44 ~ 0.78	0.12 ~ 0.32	10 ~ 16	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片	本跡→SD379
379	F6h3~G6c9	N - 44° - W	直線	(32.0)	0.42 ~ 0.78	0.18 ~ 0.41	8 ~ 15	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SK3014, SD378 →本跡 SA34 新旧不明
380	F6j1~G6c6	N - 58° - W	直線	(26.60)	0.43 ~ 1.00	0.23 ~ 0.70	4 ~ 10	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 陶器片, 磁器片, 不明鉄製品	SI3012 →本跡
381	G5a9~G6c2	N - 52° - W	直線	17.53	0.46 ~ 0.90	0.23 ~ 0.46	26	浅い U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SA35・36 →本跡
382	H5a2~H4b0	N - 41° - E	直線	10.86	0.43 ~ 0.70	0.23 ~ 0.48	5 ~ 10	浅い U字状	緩斜	自然		
386	F6g0~F6h9	N - 42° - E	直線	7.70	0.44 ~ 0.64	0.11 ~ 0.28	18 ~ 20	浅い U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 釘	本跡→SK5569
387	G5b8~G5d6	N - 30° - E	直線	12.72	0.53 ~ 1.56	0.10 ~ 1.14	8 ~ 21	浅い U字状	緩斜	人為	土師器片	本跡→SK5627
390	I4b3~J4b3	N - 10° - E	直線	(44.70)	0.60 ~ 1.90	0.20 ~ 0.70	20 ~ 36	U字状	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器片, 支脚, 砥石	SD406A →本跡→ SD393・408
393	I4h2~J4a2	N - 5° - W	直線	(14.50)	0.40 ~ 0.75	0.20 ~ 0.30	18	浅い U字状	外傾	人為	土師器片, 須恵器片	SD390 →本跡→ SD408
394	H4i4~H4j9	N - 86° - W	直線	(18.48)	0.70 ~ 0.92	0.30 ~ 0.50	22 ~ 28	U字状	緩斜	自然	土師器片	SK5592 →本跡→ SA38・39 中・近世カ
398	K3h7~K3i6	N - 15° - E N - 72° - W	コ字状	17.20	0.40 ~ 0.80	0.30 ~ 0.50	20	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片, 土師質土器片	SB514, SK5631 → 本跡
400	J3j0~K3a9	N - 59° - E	直線	(7.36)	0.42 ~ 0.62	0.12 ~ 0.20	10	浅い U字状	緩斜	自然	土師器片	SD403 →本跡

番号	位置	方向	形状	規 模				断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
401	I4a4 ~ I4c4	N - 22° - W	直線	(10.06)	0.90 ~ 1.10	0.40 ~ 0.57	84	U字状	緩斜	自然	土師器片	
406A	H4j3 ~ J4a3	N - 5° - E	直線	(46.20)	0.50 ~ 0.86	0.20 ~ 0.50	20	U字状	緩斜	人為		SD406B → 本跡 → SD390, SD408
406B	I4d3 ~ I4f3	N - 0°	直線	(6.30)	0.50 ~ 0.70	0.10 ~ 0.22	8	浅いU字状	緩斜	-		本跡 → SD267・406A
410	J4b1 ~ J4e1	N - 5° - E	直線	9.14	1.10 ~ 1.52	0.38 ~ 0.70	10	U字状	緩斜	人為	土師器片	本跡 → SK5654, SD408

(5) ピット群

今回の調査で、時期や性格ともに不明のピット群 14 か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

第 44 号ピット群 (第 361 図)

調査区南部の I 6i3 ~ J 6d5 区にかけての東西 24 m, 南北 24 m の範囲から、60 か所のピットを確認した。標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。第 2984 号住居跡, 第 528・529 号掘立柱建物跡, 第 5892 号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。また, 分布範囲内に第 5891 号土坑があるが, 直接的な重複はなく, 新旧関係は不明である。平面形は長径 26 ~ 73 cm, 短径 24 ~ 70 cm の円形または楕円形で, 深さは 7 ~ 88 cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片 31 点 (坏 14, 甕 17) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

表 30 第 44 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	短軸 (径)	深さ		
1	I6i3	円形	60	×	58	72	25	J6a5	円形	30	×	28	15
2	I6i3	楕円形	73	×	54	88	26	J6a5	楕円形	49	×	40	44
3	I6i4	楕円形	55	×	50	40	27	J6a5	楕円形	60	×	52	30
4	I6j4	円形	52	×	50	23	28	J6a6	楕円形	52	×	44	27
5	I6j4	楕円形	48	×	38	40	29	J6a6	楕円形	54	×	36	14
6	I6i4	円形	52	×	51	49	30	J6a6	円形	52	×	50	50
7	I6i5	円形	50	×	47	66	31	J6b6	楕円形	45	×	38	27
8	I6h7	円形	49	×	47	47	32	I6j7	円形	54	×	50	41
9	I6j6	楕円形	70	×	52	44	33	J6a7	楕円形	46	×	36	32
10	I6j7	円形	60	×	60	11	34	J6a7	楕円形	48	×	40	16
11	I6i7	楕円形	62	×	55	10	35	J6a8	円形	49	×	46	23
12	I6i8	円形	72	×	68	30	36	J6a8	円形	72	×	70	22
13	I6j8	楕円形	50	×	41	26	37	J6a8	円形	50	×	46	42
14	I6j9	円形	61	×	58	44	38	J6b5	楕円形	48	×	42	27
15	I6j8	楕円形	62	×	53	26	39	J6b5	楕円形	58	×	50	56
16	I6j9	円形	70	×	68	46	40	J6b5	円形	68	×	62	24
17	J6a3	楕円形	48	×	40	28	41	J6c4	楕円形	62	×	54	41
18	J6a3	楕円形	49	×	40	7	42	J6c5	円形	52	×	50	49
19	J6a4	楕円形	50	×	44	22	43	J6c5	楕円形	36	×	31	20
20	J6a4	楕円形	50	×	40	25	44	J6b6	楕円形	32	×	28	15
21	J6a5	楕円形	48	×	41	55	45	J6c4	楕円形	59	×	50	66
22	J6a5	楕円形	36	×	22	7	46	J6d4	円形	46	×	42	40
23	J6a5	円形	50	×	48	62	47	J6c4	円形	30	×	30	39
24	J6a5	円形	50	×	48	19	48	J6c4	円形	50	×	46	35

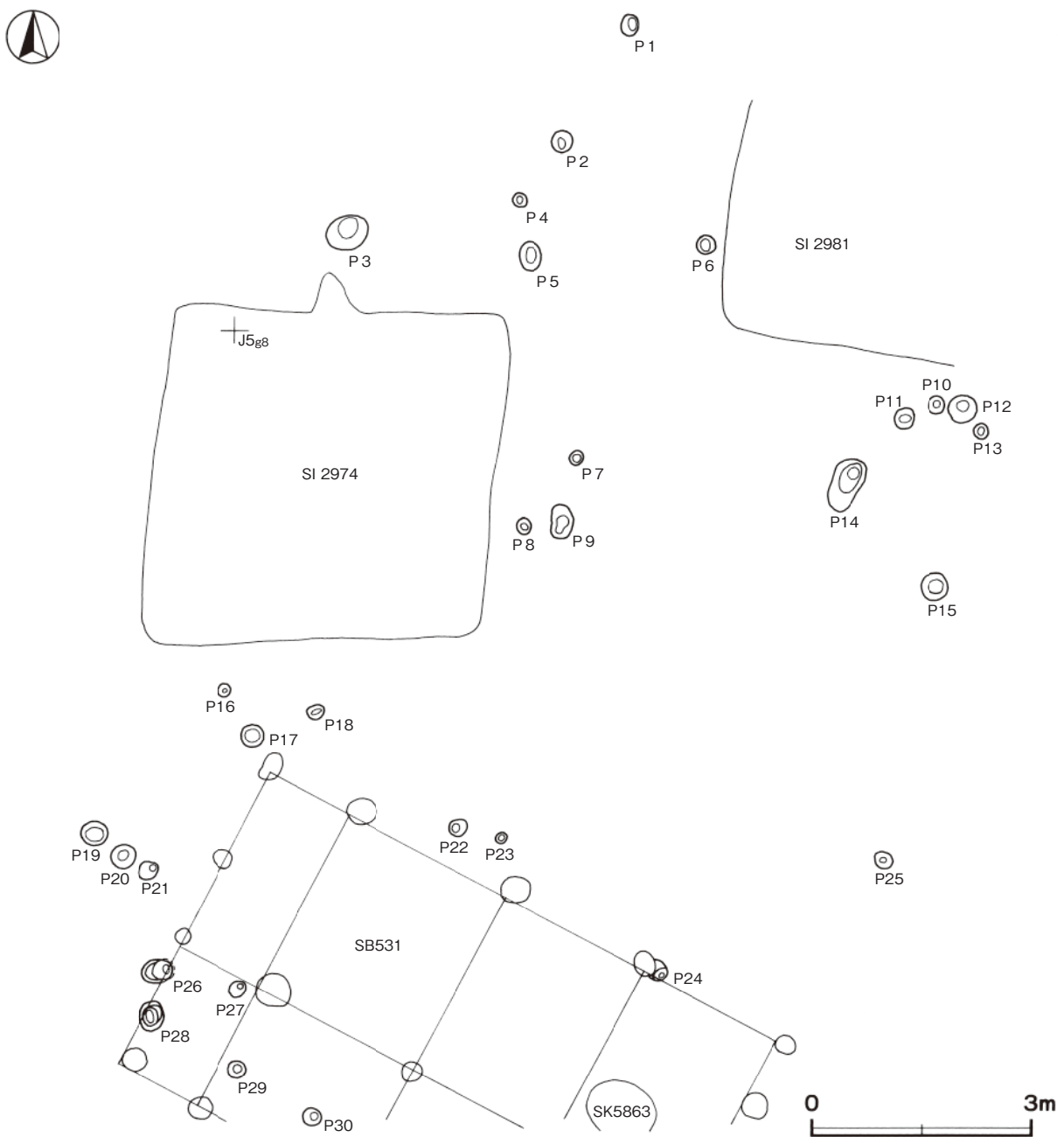


第 361 図 第 44 号ピット群実測図

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
49	J6c4	円形	26	×	24	19	55	J6c5	楕円形	58	×	50	58
50	J6d4	楕円形	40	×	36	40	56	J6c5	円形	56	×	54	63
51	J6c4	円形	52	×	50	50	57	J6d5	楕円形	46	×	36	27
52	J6d4	楕円形	42	×	34	16	58	J6c6	円形	48	×	44	41
53	J6d4	楕円形	50	×	40	26	59	J6c6	楕円形	52	×	28	20
54	J6c5	円形	48	×	46	12	60	J6c6	楕円形	42	×	28	64

第45号ピット群 (第362図)

調査区南部の J 5 e8 ~ J 5 i9 区にかけての東西 13 m, 南北 17 m の範囲から, 30 か所のピットを確認した。



第 362 図 第 45 号ピット群実測図

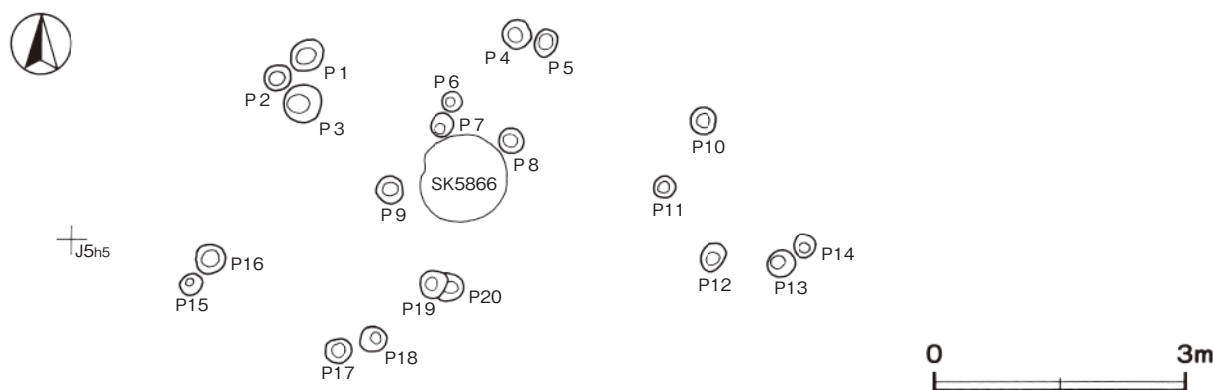
標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。P 24 が第 531 号掘立柱建物の P 12 に掘り込まれている。分布範囲内に第 2974・2981 号住居跡，第 5863 号土坑があるが，直接的な重複はなく，新旧関係は不明である。平面形は長径 18～74cm，短径 18～44cm の円形または楕円形で，深さは 12～62cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片 1 点（坏），須恵器片 1 点（甕），土師質土器片 1 点（内耳鍋）が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

表 31 第 45 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
1	J5e9	楕円形	32 × 24	27	16	J5h7	楕円形	22 × 18	16		
2	J5f9	円形	30 × 28	49	17	J5h8	楕円形	36 × 32	37		
3	J5f8	楕円形	56 × 44	38	18	J5h8	円形	26 × 24	46		
4	J5f8	円形	21 × 21	27	19	J5h7	楕円形	38 × 34	21		
5	J5f8	楕円形	41 × 18	12	20	J5h7	楕円形	36 × 30	27		
6	J5f9	円形	28 × 26	43	21	J5h7	円形	28 × 26	39		
7	J5g9	楕円形	20 × 18	29	22	J5h8	楕円形	28 × 24	34		
8	J5g8	楕円形	22 × 20	23	23	J5h8	楕円形	18 × 16	40		
9	J5g9	楕円形	48 × 28	37	24	J5i9	楕円形	31 × 20	24		
10	J5g0	円形	26 × 24	42	25	J5h0	円形	26 × 24	23		
11	J5g0	楕円形	22 × 20	44	26	J5i7	楕円形	42 × 36	18		
12	J5g0	円形	28 × 26	62	27	J5i8	円形	26 × 24	47		
13	J5g0	楕円形	20 × 18	28	28	J5i7	楕円形	41 × 32	34		
14	J5g0	楕円形	74 × 42	26	29	J5i8	円形	22 × 22	36		
15	J5g0	楕円形	32 × 28	41	30	J5i8	楕円形	29 × 26	48		

第 46 号ピット群 (第 363 図)

調査区南部の J 5g5～J 5h7 区にかけての東西 10 m，南北 5 m の範囲から，20 か所のピットを確認した。標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。分布範囲内に第 5866 号土坑があるが，直接的な重複はなく，新旧関係は不明である。平面形は長径 24～50cm，短径 24～48cm の円形または楕円形で，深さは 5～49cm である。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物がなく，性格・時期ともに不明である。



第 363 図 第 46 号ピット群実測図

表 32 第 46 号ピット群ピット計測表

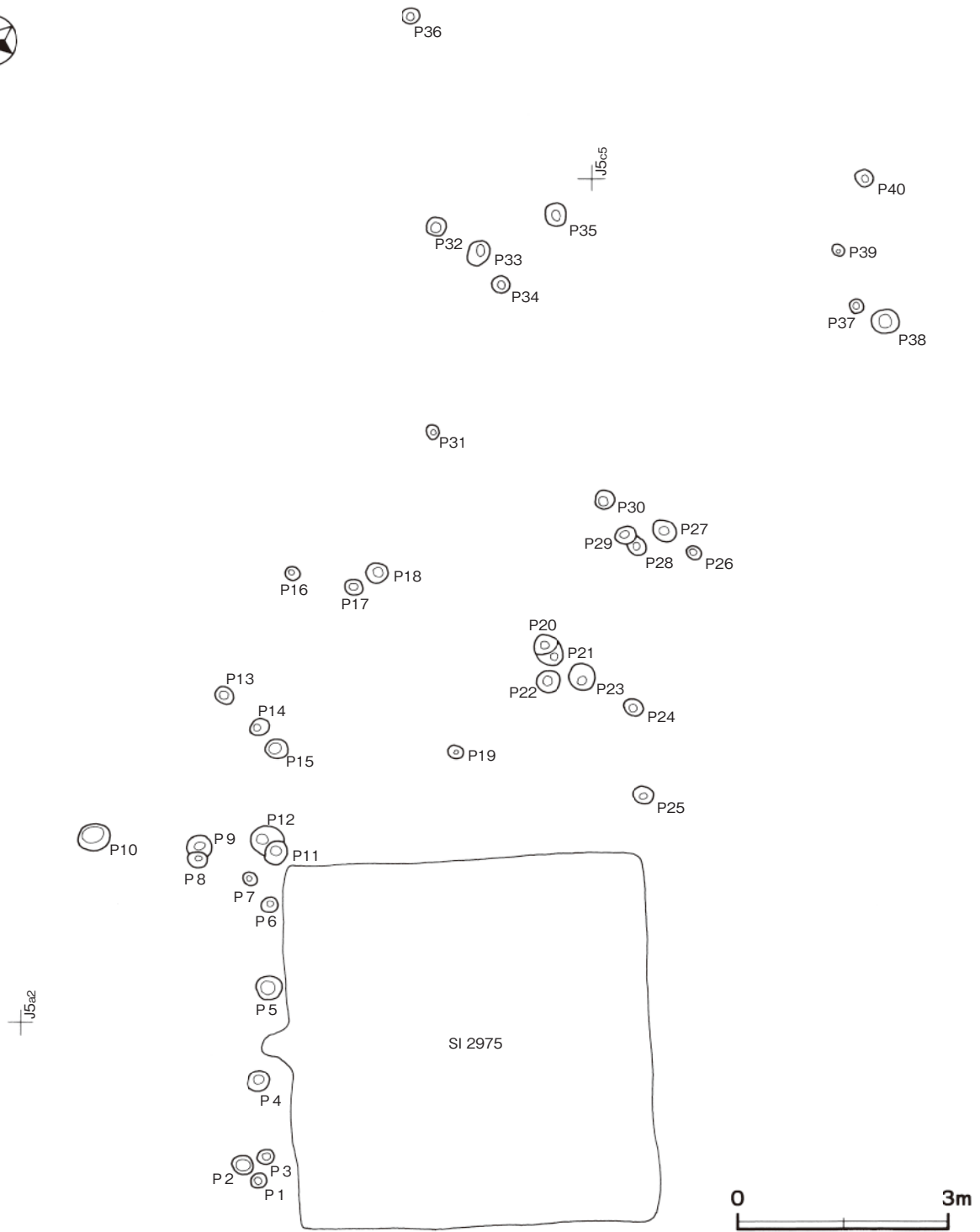
ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
1	J5g5	楕円形	44 × 38	24	11	J5g6	円形	26 × 26	22		
2	J5g5	楕円形	36 × 32	27	12	J5h6	楕円形	36 × 30	24		
3	J5g5	円形	50 × 48	18	13	J5h7	円形	34 × 32	38		
4	J5g6	楕円形	38 × 32	29	14	J5g7	円形	30 × 28	12		
5	J5g6	楕円形	33 × 28	14	15	J5h5	楕円形	32 × 28	24		
6	J5g6	円形	24 × 24	5	16	J5h5	円形	40 × 38	14		
7	J5g6	楕円形	31 × 28	30	17	J5h5	楕円形	38 × 30	14		
8	J5g6	楕円形	31 × 28	31	18	J5h5	円形	34 × 32	26		
9	J5g5	円形	34 × 34	17	19	J5h6	円形	36 × 34	49		
10	J5g6	楕円形	36 × 32	25	20	J5h6	[楕円形]	32 × (22)	6		

第 47 号ピット群 (第 364 図)

調査区南部の J 5 a1 ~ J 5 d4 区にかけての東西 17 m, 南北 12 m の範囲から, 40 か所のピットを確認した。標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。分布範囲内に第 2975 号住居跡があるが, 直接的な重複はなく, 新旧関係は不明である。平面形は長径 20 ~ 50cm, 短径 18 ~ 40cm の円形または楕円形で, 深さは 12 ~ 64cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく, 性格・時期ともに不明である。

表 33 第 47 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
1	J5a1	円形	22 × 22	38	21	J5b3	[楕円形]	40 × (20)	28		
2	J5a1	円形	24 × 22	28	22	J5b3	楕円形	38 × 30	34		
3	J5a1	楕円形	32 × 28	46	23	J5b3	楕円形	40 × 32	24		
4	J5a1	円形	32 × 30	27	24	J5c3	楕円形	30 × 26	18		
5	J5a2	楕円形	38 × 34	47	25	J5c2	円形	26 × 24	12		
6	J5a2	楕円形	26 × 22	17	26	J5c3	楕円形	22 × 20	14		
7	J5a2	楕円形	22 × 20	13	27	J5c3	円形	34 × 32	20		
8	J5a2	楕円形	30 × 22	32	28	J5c3	[円形]	26 × (24)	16		
9	J5a2	[楕円形]	34 × (26)	31	29	J5c3	円形	32 × 30	31		
10	J5a2	楕円形	50 × 40	64	30	J5c3	円形	30 × 28	34		
11	J5a2	楕円形	40 × 32	59	31	J5b4	楕円形	20 × 18	22		
12	J5a2	[楕円形]	40 × (28)	58	32	J5b4	円形	28 × 26	36		
13	J5a3	円形	30 × 28	24	33	J5b4	楕円形	38 × 30	38		
14	J5a3	楕円形	30 × 22	19	34	J5b4	楕円形	22 × 20	15		
15	J5a2	円形	30 × 30	32	35	J5b4	楕円形	34 × 30	18		
16	J5a3	楕円形	22 × 20	31	36	J5b5	楕円形	26 × 20	35		
17	J5b3	円形	26 × 24	37	37	J5c4	楕円形	22 × 20	30		
18	J5b3	楕円形	34 × 28	18	38	J5d4	楕円形	40 × 36	23		
19	J5b2	円形	20 × 20	20	39	J5c4	楕円形	20 × 18	15		
20	J5b3	楕円形	38 × 30	37	40	J5c4	円形	26 × 24	18		

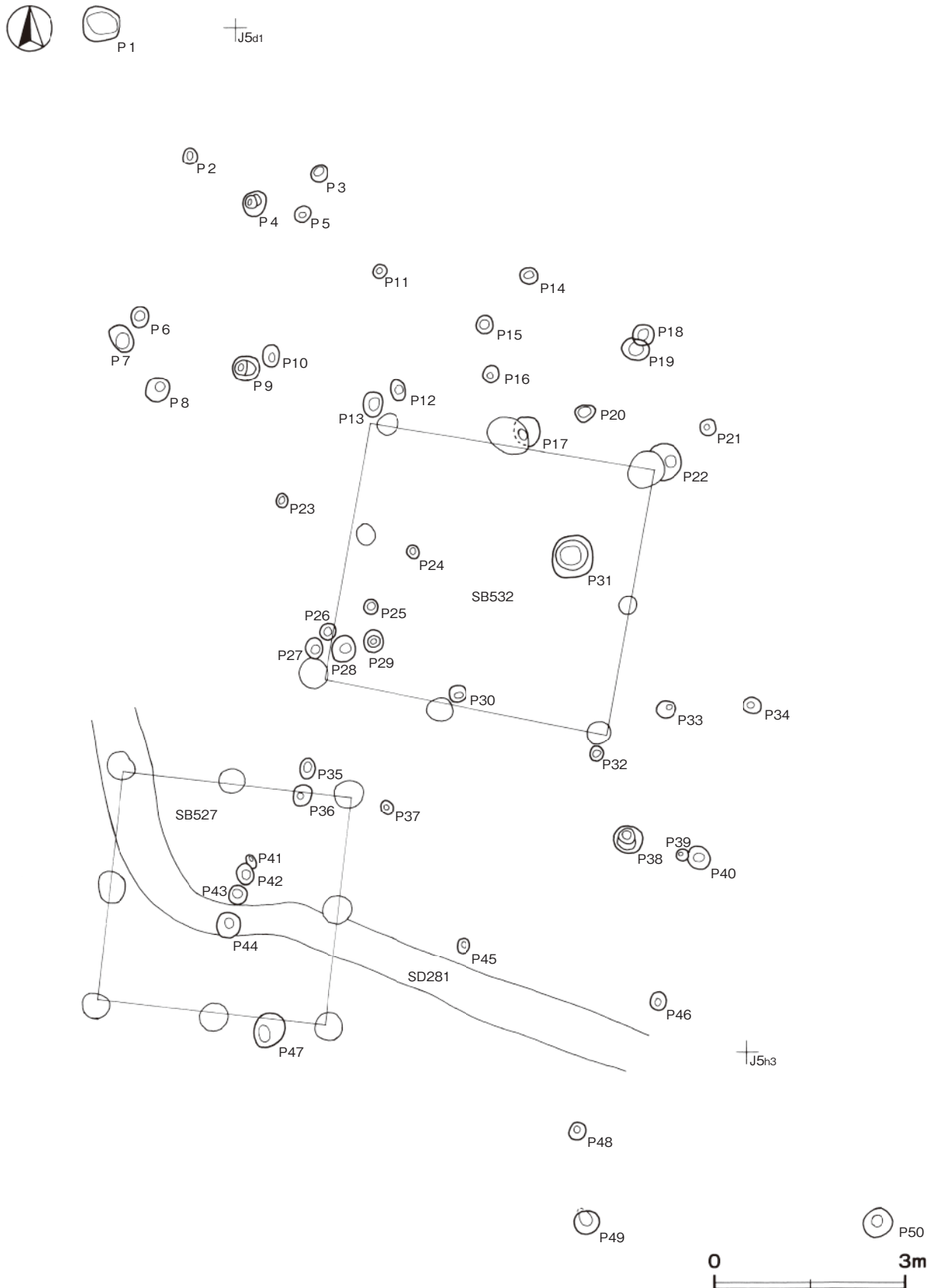


第 364 図 第 47 号ピット群実測図

第 48 号ピット群 (第 365 図)

調査区南部の J 4 d0 ~ J 5 h3 区にかけての東西 11 m, 南北 20 m の範囲から, 50 か所のピットを確認した。標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。P 17・P 22 が第 532 号掘立柱建物の P 1・P 8 に掘り込まれている。また, 分布範囲内に第 527 号掘立柱建物跡, 第 281 号溝跡があるが, 直接的な重複はなく, 新旧関係は不明である。平面形は長径 22 ~ 70cm, 短径 18 ~ 64cm の円形または楕円形で, 深さは 10 ~ 59cm である。

分布状況から建物跡の想定はできない。覆土中から土師器片 8 点（坏 2，甕 6），土師質土器片 5 点（小皿 1，内耳鍋 4）が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。



第 365 図 第 48 号ピット群実測図

表 34 第 48 号ピット群ピット計測表

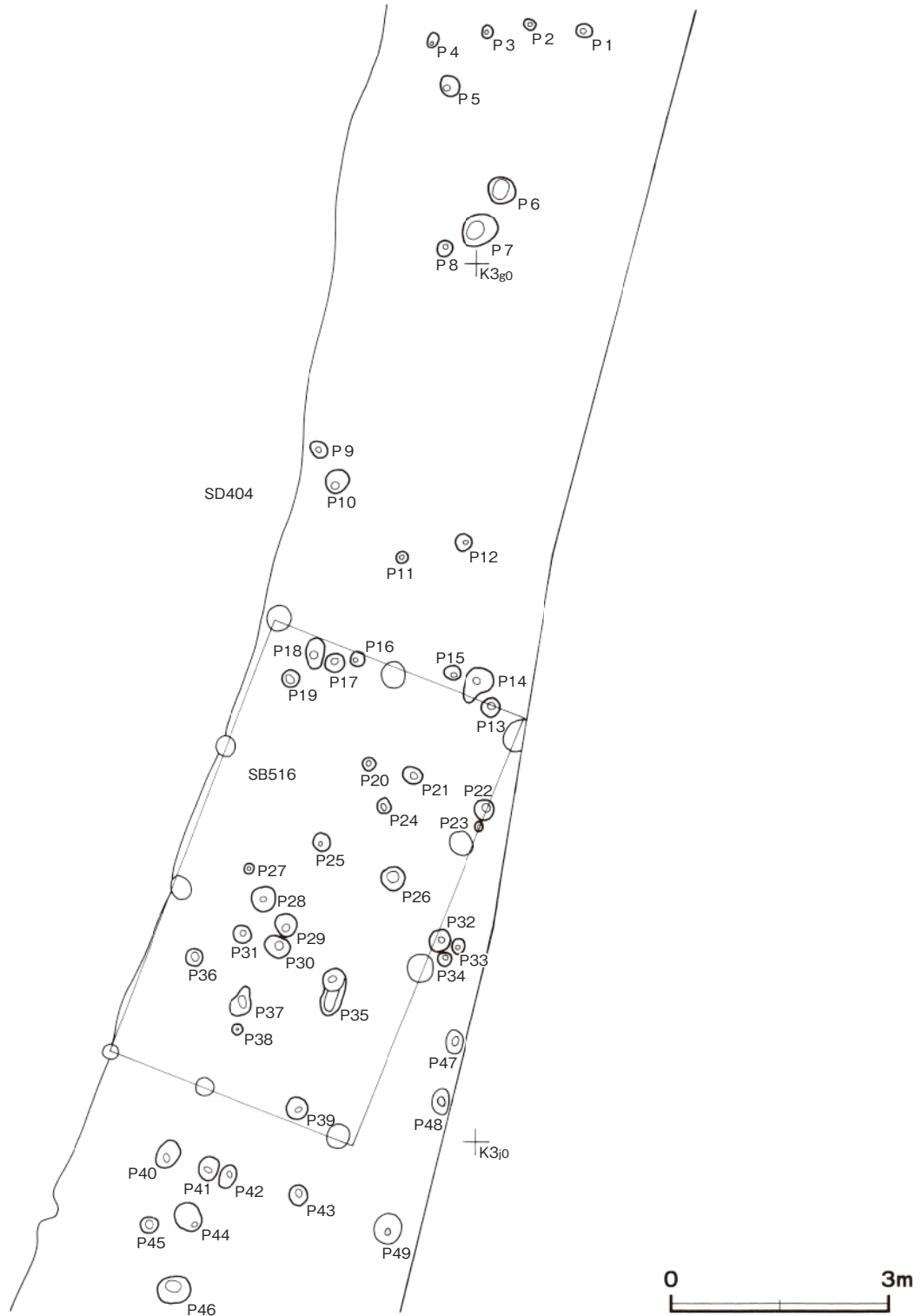
ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	J5c0	楕円形	61	×	55	37	26	J5f1	円形	32	×	30	17
2	J5d0	円形	23	×	23	16	27	J5f1	円形	32	×	30	30
3	J5d1	楕円形	30	×	24	13	28	J5f1	楕円形	46	×	40	45
4	J5d1	楕円形	41	×	29	27	29	J5f1	楕円形	38	×	30	45
5	J5d1	楕円形	30	×	21	21	30	J5f1	円形	30	×	28	25
6	J5e0	楕円形	33	×	29	26	31	J5f2	円形	70	×	64	36
7	J5e0	楕円形	49	×	32	24	32	J5f2	楕円形	26	×	22	18
8	J5e0	円形	43	×	40	42	33	J5f2	楕円形	30	×	26	24
9	J5e1	楕円形	48	×	41	33	34	J5f3	楕円形	34	×	30	38
10	J5e1	円形	32	×	22	26	35	J5f1	楕円形	34	×	24	25
11	J5d1	円形	22	×	21	16	36	J5f1	楕円形	38	×	30	46
12	J5e1	楕円形	39	×	24	35	37	J5g1	楕円形	37	×	24	18
13	J5e1	楕円形	42	×	30	28	38	J5g2	楕円形	48	×	38	30
14	J5d2	円形	30	×	28	14	39	J5g2	楕円形	28	×	20	17
15	J5e1	円形	30	×	30	14	40	J5g2	楕円形	40	×	(32)	17
16	J5e1	円形	30	×	28	30	41	J5g1	楕円形	28	×	(18)	20
17	J5e2	楕円形	50	×	43	28	42	J5g1	楕円形	36	×	30	39
18	J5e2	楕円形	34	×	22	18	43	J5g1	円形	30	×	28	20
19	J5e2	楕円形	42	×	32	17	44	J5g0	円形	42	×	40	59
20	J5e2	楕円形	34	×	28	10	45	J5g1	楕円形	24	×	20	29
21	J5e2	楕円形	28	×	20	28	46	J5g2	円形	28	×	26	46
22	J5e2	[楕円形]	58	×	(34)	26	47	J5g1	楕円形	56	×	50	17
23	J5e1	楕円形	28	×	18	14	48	J5h2	楕円形	30	×	26	48
24	J5f1	楕円形	22	×	20	21	49	J5h2	円形	40	×	38	51
25	J5f1	楕円形	26	×	22	16	50	J5h3	円形	50	×	46	30

第 49 号ピット群 (第 366 図)

調査区南西部の K 3f9 ~ K 3j9 区にかけての東西 6 m, 南北 18 m の範囲から, 49 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。分布範囲に第 516 号掘立柱建物跡があるが, 直接的な重複はなく, 新旧関係は不明である。平面形は長径 14 ~ 70cm, 短径 12 ~ 40cm の円形または楕円形で, 深さは 6 ~ 58cm である。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物がなく, 性格・時期ともに不明である。

表 35 第 49 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	K3f0	楕円形	22	×	20	15	7	K3f0	楕円形	52	×	40	27
2	K3f0	楕円形	18	×	16	6	8	K3f9	楕円形	22	×	20	25
3	K3f0	楕円形	20	×	16	27	9	K3g9	楕円形	26	×	21	11
4	K3f9	楕円形	24	×	18	23	10	K3g9	円形	30	×	30	47
5	K3f9	楕円形	30	×	26	24	11	K3g9	円形	20	×	20	25
6	K3f0	円形	40	×	38	31	12	K3g9	楕円形	26	×	22	33



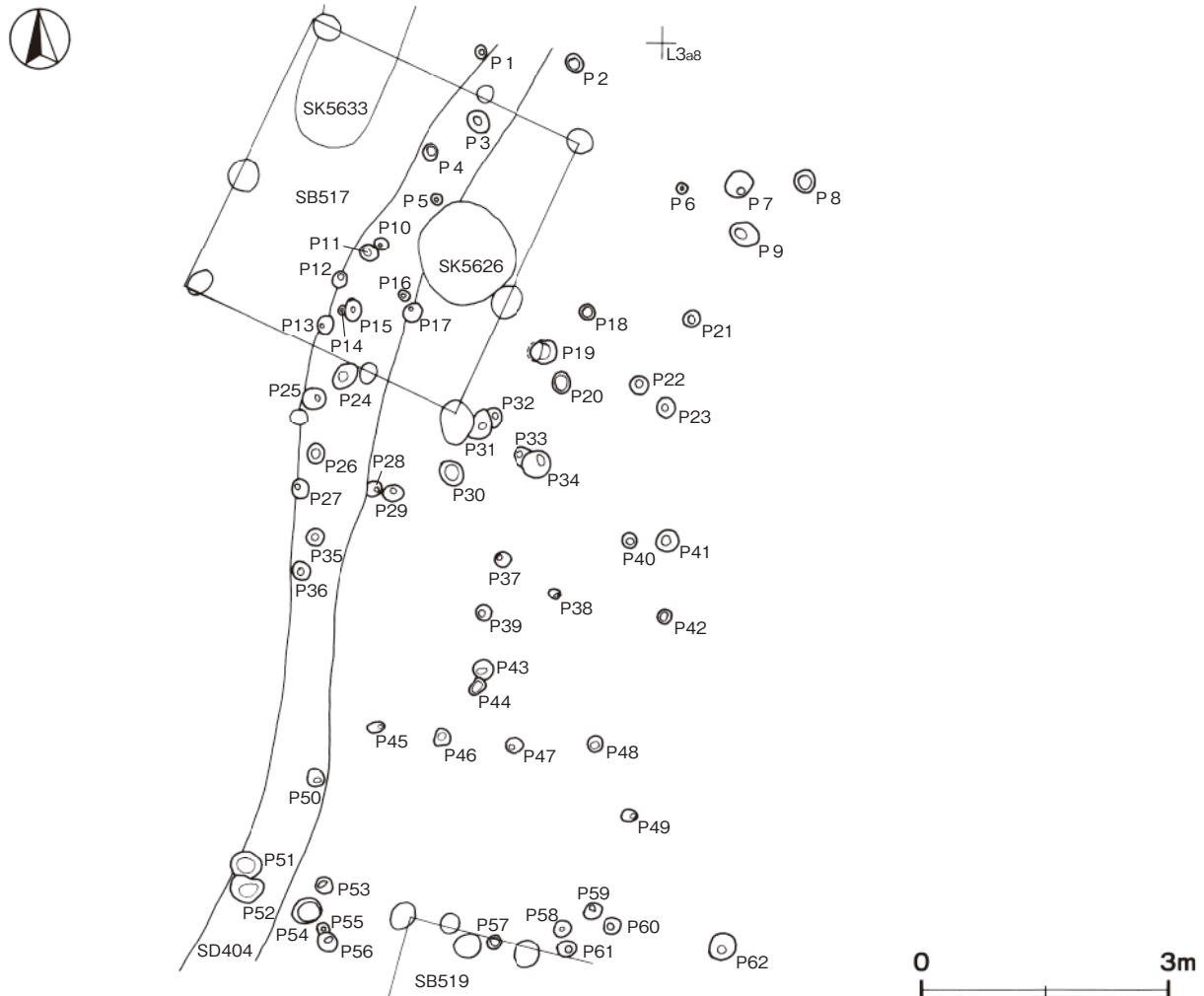
第 366 図 第 49 号ピット群実測図

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
13	K3h0	楕円形	38	×	26	33	17	K3h9	円形	30	×	28	29
14	K3h9	楕円形	54	×	32	44	18	K3h9	楕円形	46	×	26	34
15	K3h9	楕円形	22	×	18	35	19	K3h9	円形	26	×	26	26
16	K3h9	楕円形	24	×	18	29	20	K3h9	楕円形	22	×	20	11

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
21	K3h9	円形	28 × 26	29	36	K3i9	円形	24 × 22	18		
22	K3h0	円形	30 × 28	29	37	K3i9	楕円形	36 × 28	29		
23	K3h0	楕円形	14 × 12	8	38	K3i9	円形	18 × 18	13		
24	K3h9	楕円形	22 × 20	30	39	K3i9	楕円形	34 × 30	21		
25	K3h9	楕円形	30 × 24	21	40	K3j8	楕円形	40 × 32	32		
26	K3i9	円形	34 × 32	31	41	K3j9	楕円形	34 × 30	30		
27	K3i9	円形	15 × 15	0	42	K3j9	楕円形	34 × 24	34		
28	K3i9	楕円形	36 × 30	27	43	K3j9	楕円形	30 × 24	25		
29	K3i9	円形	32 × 30	33	44	K3j9	楕円形	42 × 34	58		
30	K3i9	楕円形	40 × 30	28	45	K3j8	楕円形	28 × 24	28		
31	K3i9	楕円形	30 × 26	30	46	K3j8	楕円形	46 × 34	24		
32	K3i9	円形	30 × 28	37	47	K3i9	楕円形	33 × 23	32		
33	K3i9	楕円形	22 × 20	22	48	K3i9	楕円形	32 × 20	22		
34	K3i9	円形	20 × 20	20	49	K3j9	楕円形	43 × 39	38		
35	K3i9	楕円形	70 × 18	30							

第 50 号ピット群 (第 367 図)

調査区南西部の L 3 a7 ~ L 3 c8 区にかけての東西 7 m, 南北 12 m の範囲から, 62 か所のピットを確認した。



第 367 図 第 50 号ピット群実測図

標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 31 と第 517 号掘立柱建物跡の P 4, 第 404 号溝跡が重複しているが, 新旧関係は不明である。分布範囲内に第 519 号掘立柱建物跡, 第 5626 号土坑があるが, 直接的な重複はなく, 新旧関係は不明である。平面形は長径 14 ~ 42cm, 短径 12 ~ 34cm の円形または楕円形で, 深さは 4 ~ 49cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。覆土中から土師質土器片 1 点 (小皿) が出土しているが, 細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

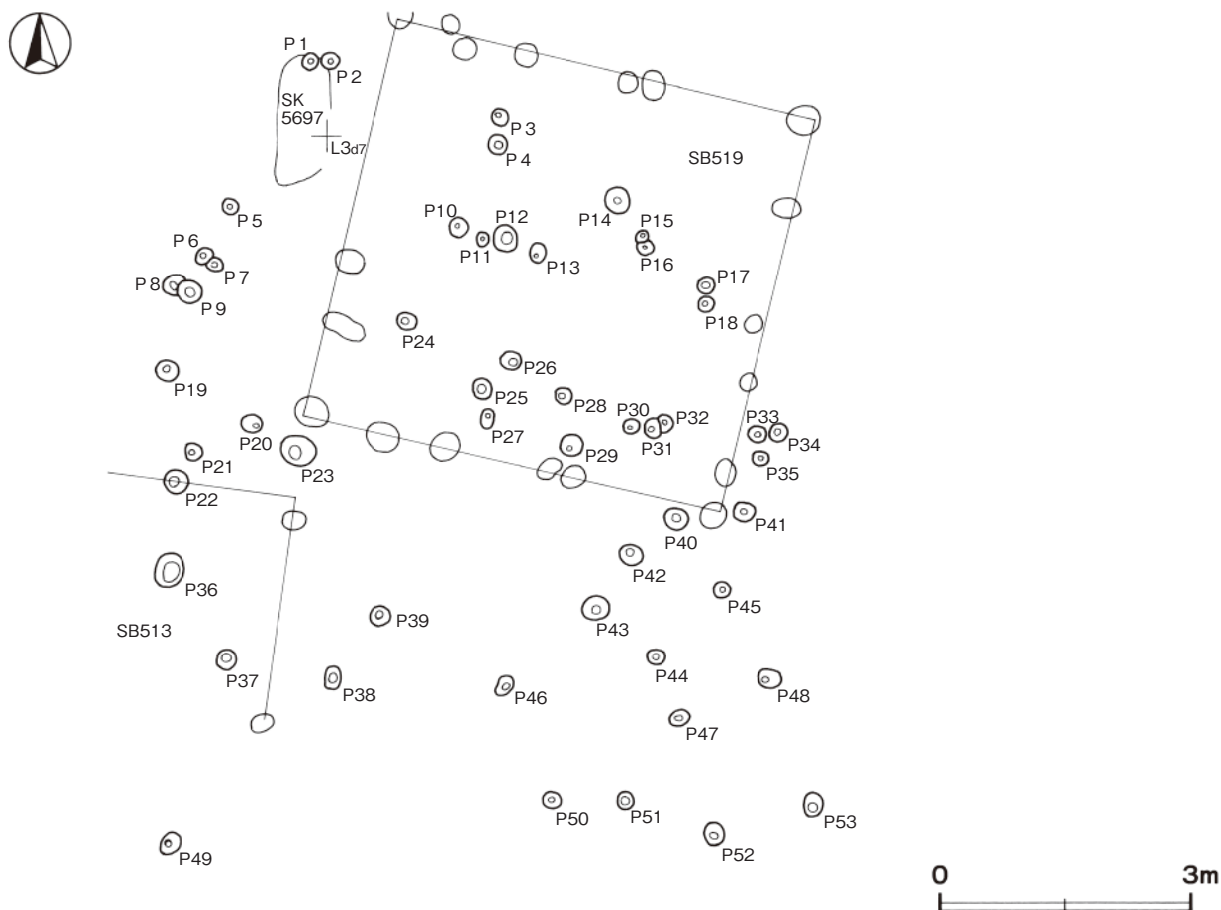
表 36 第 50 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	L3a7	楕円形	18	×	14	8	32	L3b7	[楕円形]	28	×	(14)	8
2	L3a7	楕円形	26	×	22	25	33	L3b7	[楕円形]	22	×	(16)	18
3	L3a7	楕円形	32	×	24	15	34	L3b7	円形	36	×	34	24
4	L3a7	楕円形	22	×	20	16	35	L3b6	円形	24	×	22	13
5	L3a7	楕円形	16	×	14	11	36	L3b6	円形	24	×	22	10
6	L3a8	楕円形	14	×	12	28	37	L3b7	円形	20	×	18	18
7	L3a8	楕円形	38	×	32	23	38	L3b7	楕円形	16	×	14	13
8	L3a8	円形	24	×	22	25	39	L3b7	楕円形	20	×	18	19
9	L3a8	楕円形	38	×	26	33	40	L3b7	楕円形	20	×	18	27
10	L3a7	楕円形	18	×	16	13	41	L3b8	円形	28	×	26	26
11	L3a7	楕円形	24	×	21	7	42	L3b8	楕円形	20	×	18	39
12	L3a7	円形	20	×	20	49	43	L3b7	円形	26	×	26	16
13	L3a6	楕円形	24	×	16	15	44	L3b7	楕円形	26	×	18	10
14	L3a7	楕円形	14	×	10	25	45	L3c7	楕円形	25	×	16	21
15	L3a7	楕円形	30	×	18	25	46	L3c7	楕円形	22	×	20	19
16	L3a7	楕円形	18	×	14	10	47	L3c7	円形	22	×	22	27
17	L3a7	楕円形	28	×	22	22	48	L3c7	楕円形	20	×	18	30
18	L3a7	円形	18	×	18	22	49	L3c7	楕円形	22	×	16	24
19	L3a7	円形	34	×	32	28	50	L3c6	楕円形	22	×	20	17
20	L3b7	楕円形	38	×	20	23	51	L3c6	楕円形	38	×	28	33
21	L3a8	楕円形	22	×	20	25	52	L3c6	楕円形	42	×	30	22
22	L3b7	円形	22	×	21	33	53	L3c6	円形	22	×	22	25
23	L3b8	楕円形	24	×	20	19	54	L3c6	楕円形	39	×	30	49
24	L3b7	楕円形	36	×	26	25	55	L3c6	[楕円形]	17	×	(10)	4
25	L3b6	円形	28	×	26	17	56	L3c6	円形	24	×	22	10
26	L3b6	楕円形	22	×	18	27	57	L3c7	楕円形	18	×	16	11
27	L3b6	円形	24	×	22	29	58	L3c7	円形	22	×	22	23
28	L3b7	[楕円形]	20	×	(18)	14	59	L3c7	円形	22	×	22	27
29	L3b7	楕円形	26	×	20	18	60	L3c7	円形	22	×	22	25
30	L3b7	楕円形	32	×	28	28	61	L3c7	円形	26	×	24	18
31	L3b7	[楕円形]	30	×	(24)	22	62	L3c8	円形	26	×	24	33

第 51 号ピット群 (第 368 図)

調査区南西部の L 3c6 ~ L 3f8 区にかけての東西 8 m, 南北 10 m の範囲から, 53 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 1・P 2 が第 5697 号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。また分布範囲内に第 513・519 号掘立柱建物跡があるが, 直接的な重複ではなく, 新旧関係は不明

である。平面形は長径 15～44cm，短径 14～34cmの円形または楕円形で，深さは 9～47cmである。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師質土器片 3 点（小皿 2，内耳鍋 1）が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。



第 368 図 第 51 号ピット群実測図

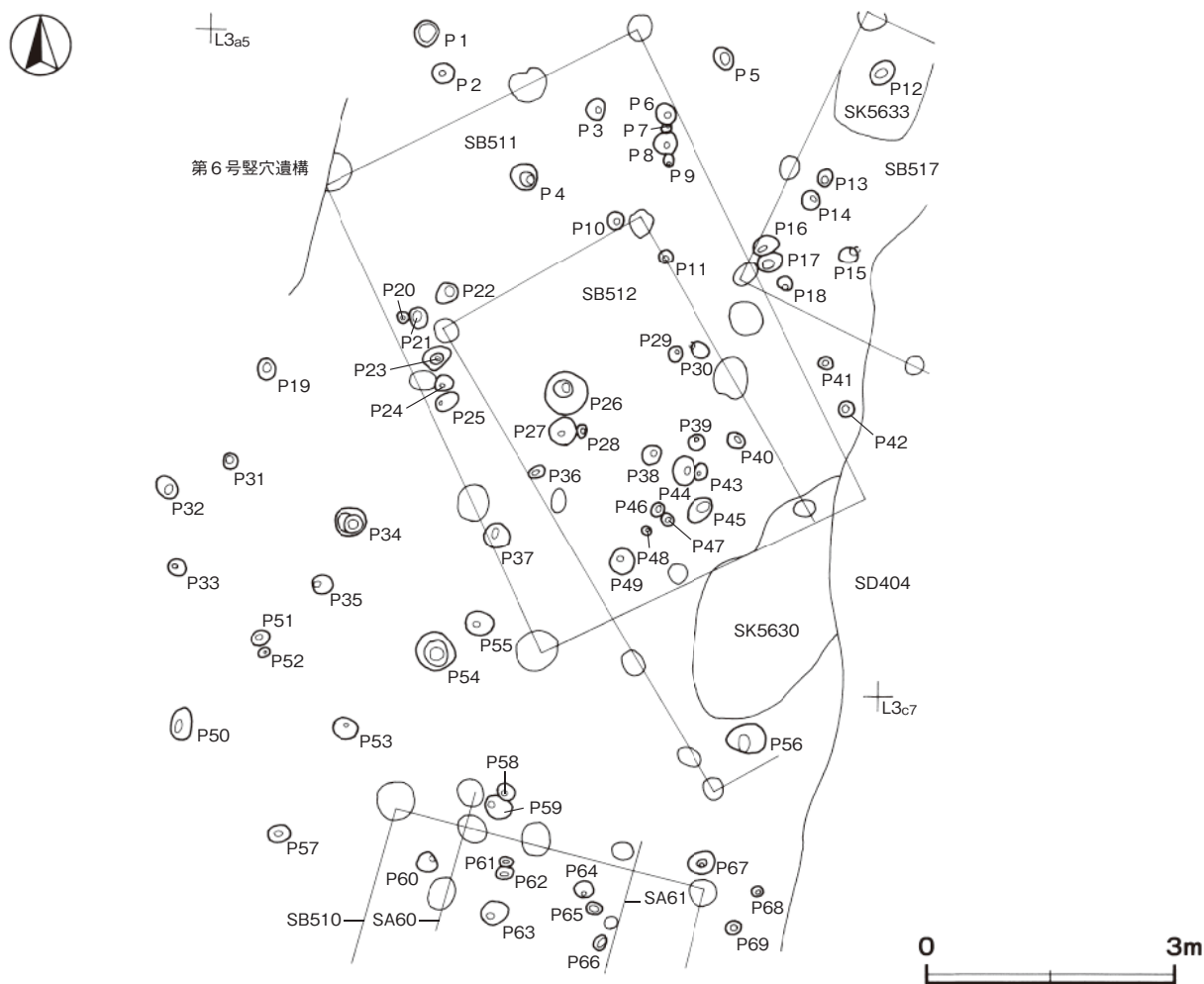
表 37 第 51 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	短軸 (径)	深さ		
1	L3c6	楕円形	24	×	18	10	15	L3d7	円形	18	×	18	22
2	L3c7	楕円形	24	×	18	10	16	L3d7	[楕円形]	20	×	(16)	14
3	L3c7	楕円形	20	×	18	20	17	L3d8	楕円形	22	×	20	37
4	L3d7	円形	22	×	22	24	18	L3d8	楕円形	22	×	20	14
5	L3d6	楕円形	20	×	18	10	19	L3d6	楕円形	30	×	26	24
6	L3d6	[楕円形]	22	×	(18)	6	20	L3d6	楕円形	22	×	20	42
7	L3d6	楕円形	20	×	18	13	21	L3d6	楕円形	20	×	18	26
8	L3d6	[円形]	26	×	(24)	15	22	L3e6	円形	30	×	30	10
9	L3d6	楕円形	34	×	30	38	23	L3d6	楕円形	44	×	34	47
10	L3d7	楕円形	26	×	22	14	24	L3d7	楕円形	26	×	22	22
11	L3d7	円形	15	×	15	14	25	L3d7	楕円形	28	×	22	24
12	L3d7	円形	32	×	30	23	26	L3d7	円形	26	×	24	28
13	L3d7	楕円形	25	×	18	15	27	L3d7	楕円形	24	×	14	17
14	L3d7	円形	30	×	30	30	28	L3d7	楕円形	20	×	18	16

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
29	L3d7	円形	30 × 28	33	42	L3e7	楕円形	24 × 18	23		
30	L3d7	楕円形	20 × 20	30	43	L3e7	楕円形	22 × 18	30		
31	L3d7	楕円形	24 × 20	15	44	L3e7	楕円形	24 × 20	11		
32	L3d8	(楕円形)	22 × (18)	14	45	L3e8	円形	20 × 20	22		
33	L3d8	楕円形	26 × 22	17	46	L3e7	楕円形	30 × 20	24		
34	L3d8	楕円形	28 × 24	22	47	L3e8	円形	20 × 20	17		
35	L3d8	楕円形	22 × 18	21	48	L3e8	円形	24 × 24	26		
36	L3e6	楕円形	42 × 34	37	49	L3f6	楕円形	30 × 24	15		
37	L3e6	円形	26 × 26	42	50	L3e7	楕円形	20 × 18	35		
38	L3e7	楕円形	28 × 18	15	51	L3e7	円形	22 × 22	14		
39	L3e7	楕円形	28 × 22	15	52	L3f8	楕円形	28 × 24	23		
40	L3e8	円形	26 × 24	30	53	L3e8	楕円形	30 × 24	40		
41	L3e8	楕円形	26 × 20	9							

第 52 号ピット群 (第 369 図)

調査区南西部の L 3 a5 ~ L 3 c6 区にかけての東西 10 m, 南北 12 m の範囲から 69 か所のピットを確認した。



第 369 図 第 52 号ピット群実測図

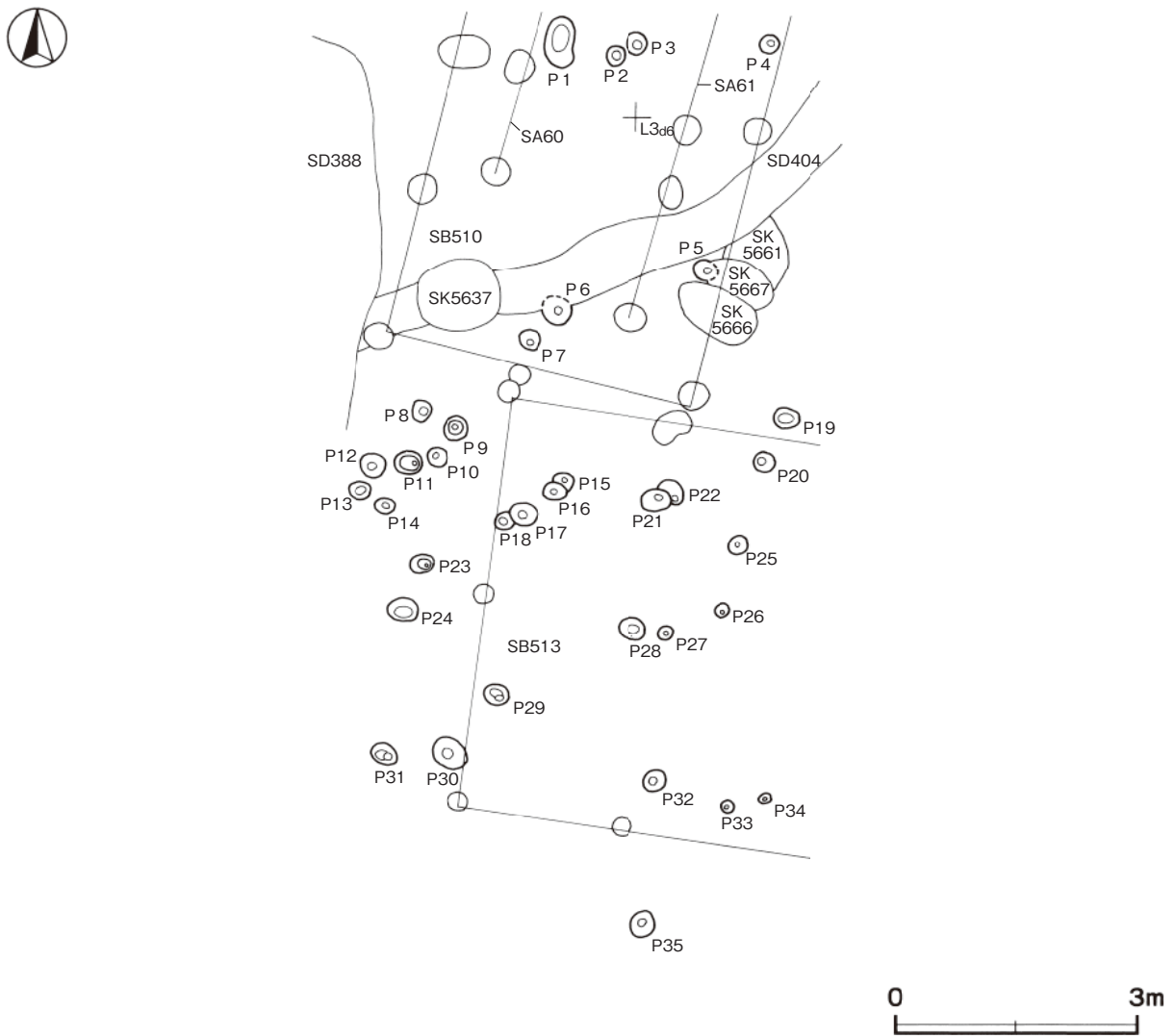
標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 12 が第 5633 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また分布範囲内に第 510～512・517 号掘立柱建物跡、第 60・61 号杭列跡、第 404 号溝跡、第 5630 号土坑があるが、直接的な重複はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 12～50cm、短径 8～50cm の円形または楕円形で、深さは 9～57cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片 2 点（坏、甕）、土師質土器片 2 点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

表 38 第 52 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	L3a5	円形	22	×	22	27	36	L3b5	楕円形	20	×	14	20
2	L3a5	楕円形	26	×	22	26	37	L3b5	楕円形	32	×	20	37
3	L3a6	円形	24	×	22	28	38	L3b6	楕円形	28	×	24	23
4	L3a5	円形	34	×	32	55	39	L3b6	楕円形	28	×	20	34
5	L3a6	楕円形	32	×	26	30	40	L3b6	楕円形	22	×	20	21
6	L3a6	楕円形	26	×	22	42	41	L3b6	楕円形	20	×	18	28
7	L3a6	楕円形	14	×	8	20	42	L3b6	楕円形	22	×	20	23
8	L3a6	円形	30	×	28	40	43	L3b6	楕円形	20	×	16	42
9	L3a6	円形	12	×	12	19	44	L3b6	楕円形	34	×	28	43
10	L3a6	楕円形	22	×	18	23	45	L3b6	楕円形	38	×	24	22
11	L3a6	楕円形	20	×	16	27	46	L3b6	楕円形	14	×	12	23
12	L3a7	楕円形	34	×	18	23	47	L3b6	円形	14	×	14	20
13	L3a6	円形	20	×	20	24	48	L3b6	楕円形	12	×	8	15
14	L3a6	円形	24	×	22	26	49	L3b6	円形	30	×	28	35
15	L3a6	楕円形	24	×	20	57	50	L3c4	楕円形	40	×	26	26
16	L3a6	楕円形	34	×	22	38	51	L3b5	楕円形	24	×	18	14
17	L3a6	楕円形	32	×	24	51	52	L3b5	楕円形	18	×	10	14
18	L3a6	楕円形	20	×	18	21	53	L3c5	楕円形	32	×	24	34
19	L3b5	楕円形	30	×	22	20	54	L3b5	円形	50	×	46	44
20	L3a5	円形	14	×	14	22	55	L3b5	楕円形	36	×	28	39
21	L3a5	楕円形	28	×	22	23	56	L3c6	楕円形	46	×	38	51
22	L3a5	楕円形	30	×	24	26	57	L3c5	楕円形	28	×	20	16
23	L3a5	楕円形	36	×	26	31	58	L3c5	楕円形	22	×	18	35
24	L3b5	楕円形	22	×	20	19	59	L3c5	楕円形	34	×	28	45
25	L3b5	楕円形	30	×	20	27	60	L3c5	楕円形	28	×	24	37
26	L3b6	円形	50	×	50	46	61	L3c5	楕円形	16	×	12	17
27	L3b6	楕円形	36	×	30	41	62	L3c5	楕円形	20	×	14	22
28	L3b6	楕円形	18	×	12	22	63	L3c5	円形	30	×	28	26
29	L3a6	円形	20	×	20	30	64	L3c6	楕円形	24	×	20	28
30	L3a6	楕円形	22	×	20	53	65	L3c6	楕円形	20	×	16	13
31	L3b5	楕円形	20	×	18	25	66	L3c6	楕円形	20	×	12	9
32	L3b4	楕円形	32	×	26	22	67	L3c6	円形	30	×	28	31
33	L3b4	円形	20	×	20	23	68	L3c6	楕円形	14	×	12	17
34	L3b5	楕円形	40	×	32	26	69	L3c6	楕円形	20	×	18	11
35	L3b5	楕円形	28	×	22	26							

第 53 号ピット群 (第 370 図)

調査区南西部の L 3 c5 ~ L 3 f6 区にかけての東西 6 m, 南北 12 m の範囲から 35 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 5 は第 5667 号土坑と、P 6 は第 404 号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。また、分布範囲内に第 510・513 号掘立柱建物跡、第 5637・5661・5666 号土坑、第 60・61 号杭列跡があるが、直接的な重複はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径 16 ~ 62cm, 短径 14 ~ 38cm の円形または楕円形で、深さは 7 ~ 39cm である。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。



第 370 図 第 53 号ピット群実測図

表 39 第 53 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	L3c5	楕円形	62	×	37	31	19	L3d6	楕円形	26	×	20	30
2	L3c5	楕円形	28	×	23	27	20	L3e6	円形	21	×	21	21
3	L3c5	円形	28	×	28	24	21	L3e6	円形	32	×	30	30
4	L3c6	円形	20	×	20	19	22	L3e6	楕円形	34	×	26	39
5	L3d6	楕円形	26	×	20	30	23	L3e5	楕円形	32	×	28	17
6	L3d5	円形	29	×	28	32	24	L3e5	楕円形	38	×	28	20
7	L3d5	円形	21	×	21	20	25	L3e6	円形	28	×	26	28
8	L3d5	楕円形	20	×	16	16	26	L3e6	楕円形	20	×	18	12
9	L3d5	楕円形	26	×	22	25	27	L3e6	楕円形	20	×	18	11
10	L3e5	円形	19	×	18	19	28	L3e5	楕円形	36	×	26	23
11	L3e5	楕円形	26	×	22	33	29	L3e5	楕円形	32	×	28	35
12	L3e5	円形	24	×	22	27	30	L3e5	楕円形	48	×	38	30
13	L3e5	楕円形	22	×	18	13	31	L3f6	楕円形	36	×	22	20
14	L3e5	楕円形	20	×	18	14	32	L3f6	円形	32	×	30	36
15	L3e5	[楕円形]	20	×	(16)	11	33	L3f6	円形	16	×	16	11
16	L3e5	楕円形	20	×	18	9	34	L3f6	楕円形	17	×	14	32
17	L3e5	楕円形	26	×	21	19	35	L3f6	楕円形	38	×	28	36
18	L3e5	[楕円形]	20	×	(17)	7							

第 54 号ピット群 (第 371 図)

調査区南西部の K 3 c5 ~ K 3 j4 区にかけての東西 8 m, 南北 28 m の範囲から 74 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。P 20 が第 405 号溝跡を掘り込んでいる。P 38・P 50 が第 520 号掘立柱建物跡の P 2・P 11 と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は長径 16 ~ 70cm, 短径 16 ~ 46cm の円形または楕円形で、深さは 7 ~ 50cm である。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から土師器片 2 点 (甕), 須恵器片 1 点 (甕) が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。性格・時期ともに不明である。

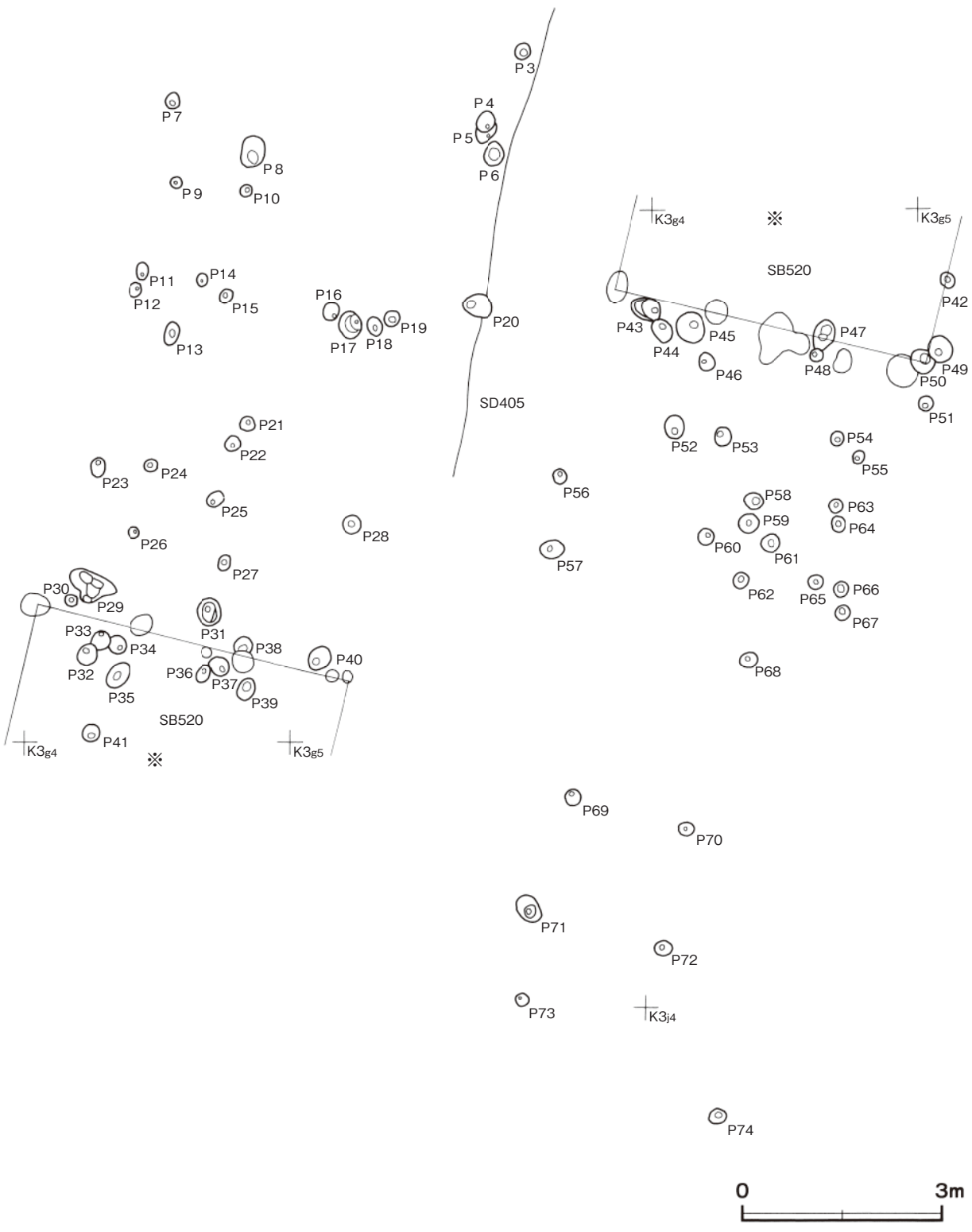
表 40 第 54 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	K3c5	楕円形	40	×	30	17	12	K3e4	楕円形	20	×	18	28
2	K3c5	楕円形	50	×	44	16	13	K3e4	楕円形	40	×	22	36
3	K3d5	円形	26	×	24	29	14	K3e4	楕円形	20	×	16	14
4	K3d5	円形	32	×	30	40	15	K3e4	楕円形	28	×	18	16
5	K3d5	[楕円形]	34	×	(18)	39	16	K3e5	楕円形	28	×	24	32
6	K3d5	楕円形	48	×	30	14	17	K3e5	楕円形	40	×	32	19
7	K3d4	楕円形	30	×	20	25	18	K3e5	楕円形	30	×	20	32
8	K3d4	楕円形	50	×	36	36	19	K3e5	円形	24	×	22	37
9	K3d4	楕円形	18	×	16	13	20	K3e5	楕円形	44	×	38	29
10	K3d4	円形	16	×	16	10	21	K3e4	楕円形	20	×	18	27
11	K3e4	楕円形	28	×	18	25	22	K3e4	楕円形	22	×	20	14



P1 P2

K3d5



第 371 図 第 54 号ピット群実測図

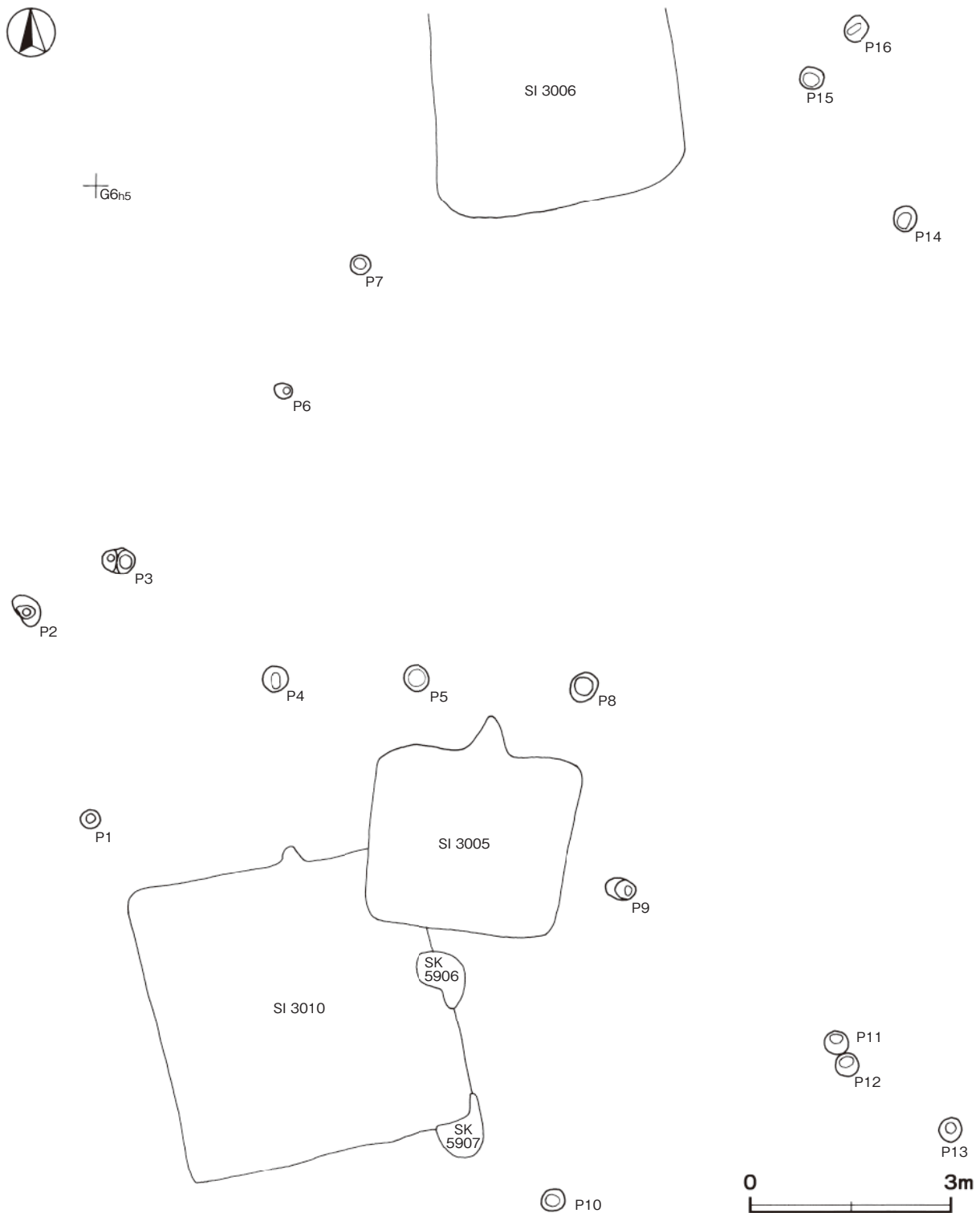
ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
23	K3e4	楕円形	28	×	18	28	49	K3g5	円形	40	×	40	43
24	K3e4	楕円形	20	×	16	7	50	K3g5	(楕円形)	40	×	(30)	27
25	K3f4	楕円形	26	×	20	31	51	K3g5	円形	20	×	20	26
26	K3f4	円形	18	×	18	21	52	K3g4	楕円形	32	×	26	28
27	K3f4	楕円形	22	×	20	24	53	K3g4	円形	26	×	26	13
28	K3f5	円形	24	×	24	26	54	K3g4	楕円形	22	×	20	8
29	K3f4	楕円形	70	×	46	60	55	K3g4	円形	20	×	20	17
30	K3f4	円形	20	×	20	17	56	K3g3	楕円形	22	×	20	16
31	K3f4	楕円形	40	×	36	46	57	K3h3	楕円形	40	×	30	17
32	K3f4	円形	30	×	30	19	58	K3h4	円形	26	×	24	10
33	K3f4	楕円形	28	×	22	43	59	K3h4	円形	30	×	30	28
34	K3f4	楕円形	30	×	24	34	60	K3h4	楕円形	22	×	20	39
35	K3f4	楕円形	46	×	30	41	61	K3h4	円形	28	×	28	29
36	K3f4	楕円形	28	×	22	25	62	K3h4	円形	22	×	22	37
37	K3f4	楕円形	34	×	28	23	63	K3h4	楕円形	20	×	18	17
38	K3f4	楕円形	28	×	18	15	64	K3h4	楕円形	22	×	20	18
39	K3f4	楕円形	36	×	24	28	65	K3h4	円形	22	×	22	16
40	K3f5	楕円形	40	×	30	31	66	K3h4	円形	24	×	24	20
41	K3f4	楕円形	26	×	22	29	67	K3h4	円形	22	×	22	23
42	K3g5	楕円形	26	×	22	22	68	K3h4	楕円形	30	×	24	43
43	K3g3	楕円形	48	×	36	50	69	K3i3	円形	22	×	22	41
44	K3g4	楕円形	40	×	28	34	70	K3i4	楕円形	20	×	20	26
45	K3g4	円形	46	×	42	48	71	K3i3	楕円形	48	×	22	14
46	K3g4	楕円形	26	×	20	30	72	K3i4	円形	26	×	24	13
47	K3g4	楕円形	48	×	22	36	73	K3i3	楕円形	20	×	18	18
48	K3g4	楕円形	24	×	18	21	74	K3i4	楕円形	26	×	22	12

第55号ピット群 (第372図)

調査区北部のG 6 g7～H 6 a8区にかけての東西14m, 南北18mの範囲から、16か所のピットを確認した。標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。分布範囲内に第3005・3006・3010号住居跡、第5906・5907号土坑があるが、直接的な重複関係はなく、新旧関係は不明である。平面形は長径27～50cm, 短径21～39cmの円形または楕円形で、深さは16～52cmである。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく、性格・時期ともに不明である。

表41 第55号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長軸 (径)	×	短軸 (径)				深さ	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	G6j5	円形	29	×	28	29	9	G6j6	楕円形	44	×	32	48
2	G6i4	楕円形	50	×	31	45	10	H6a6	円形	35	×	34	52
3	G6i5	楕円形	47	×	38	34	11	H6a7	円形	35	×	34	36
4	G6i5	円形	40	×	38	48	12	H6a7	円形	34	×	33	39
5	G6i6	楕円形	40	×	35	36	13	H6a8	楕円形	36	×	32	49
6	G6h5	楕円形	27	×	21	16	14	G6h8	楕円形	36	×	31	35
7	G6h5	円形	30	×	30	40	15	G6g7	楕円形	35	×	29	50
8	G6i6	楕円形	46	×	39	41	16	G6g7	楕円形	39	×	34	47

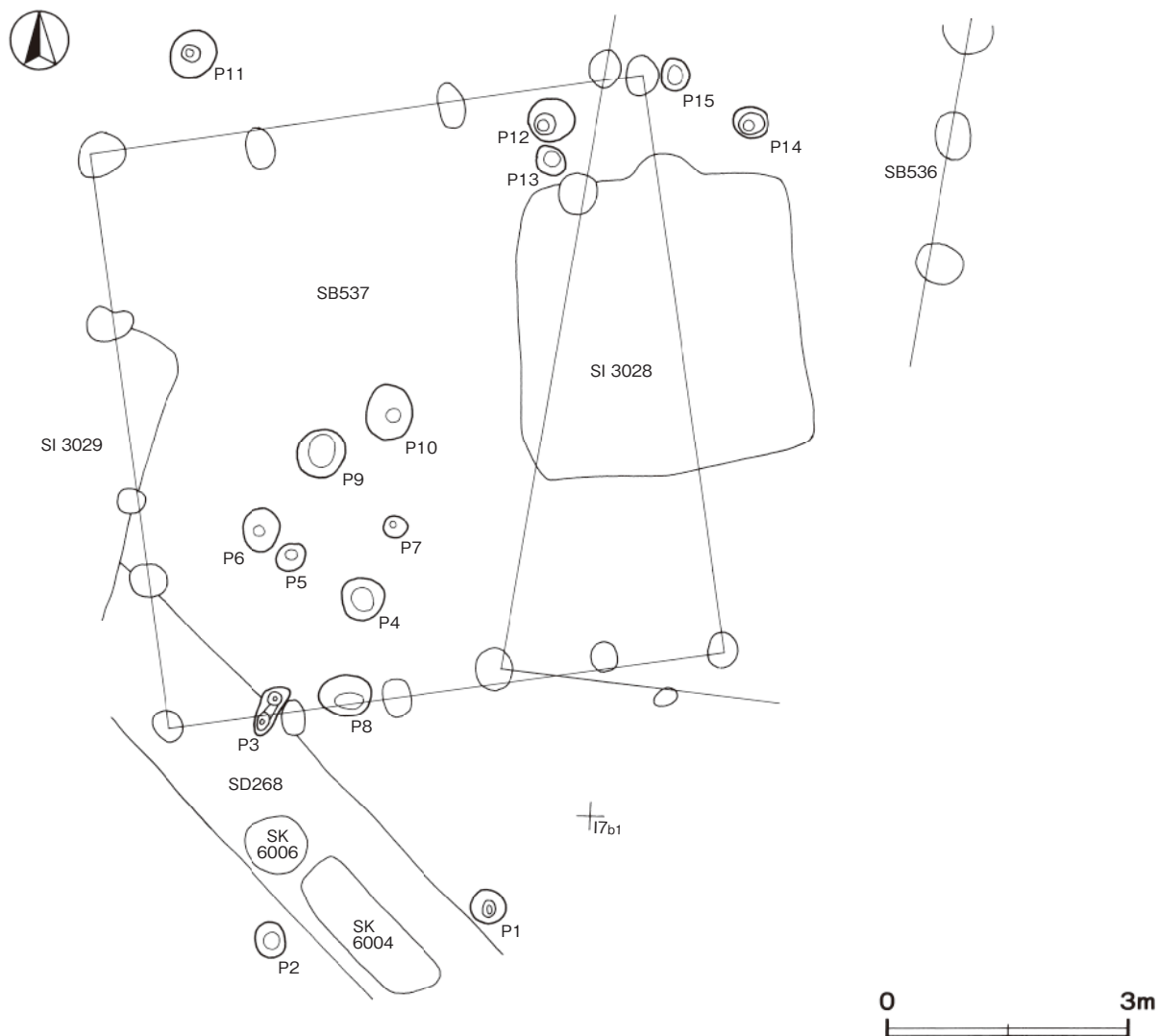


第 372 図 第 55 号ピット群実測図

第 56 号ピット群 (第 373 図)

調査区中央部の H 6 i9 ~ I 6 b0 区にかけての東西 8 m, 南北 12 m の範囲から, 15 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。分布範囲内に第 3028 号住居跡, 第 536・537 号掘立柱建物跡, 第 6004・6006 号土坑, 第 268 号溝跡があるが, 直接的な重複関係はなく, 新旧関係は不明である。平面形は

長径 30～71cm, 短径 25～60cmの円形または楕円形で, 深さは 18～65cmである。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく, 性格・時期ともに不明である。



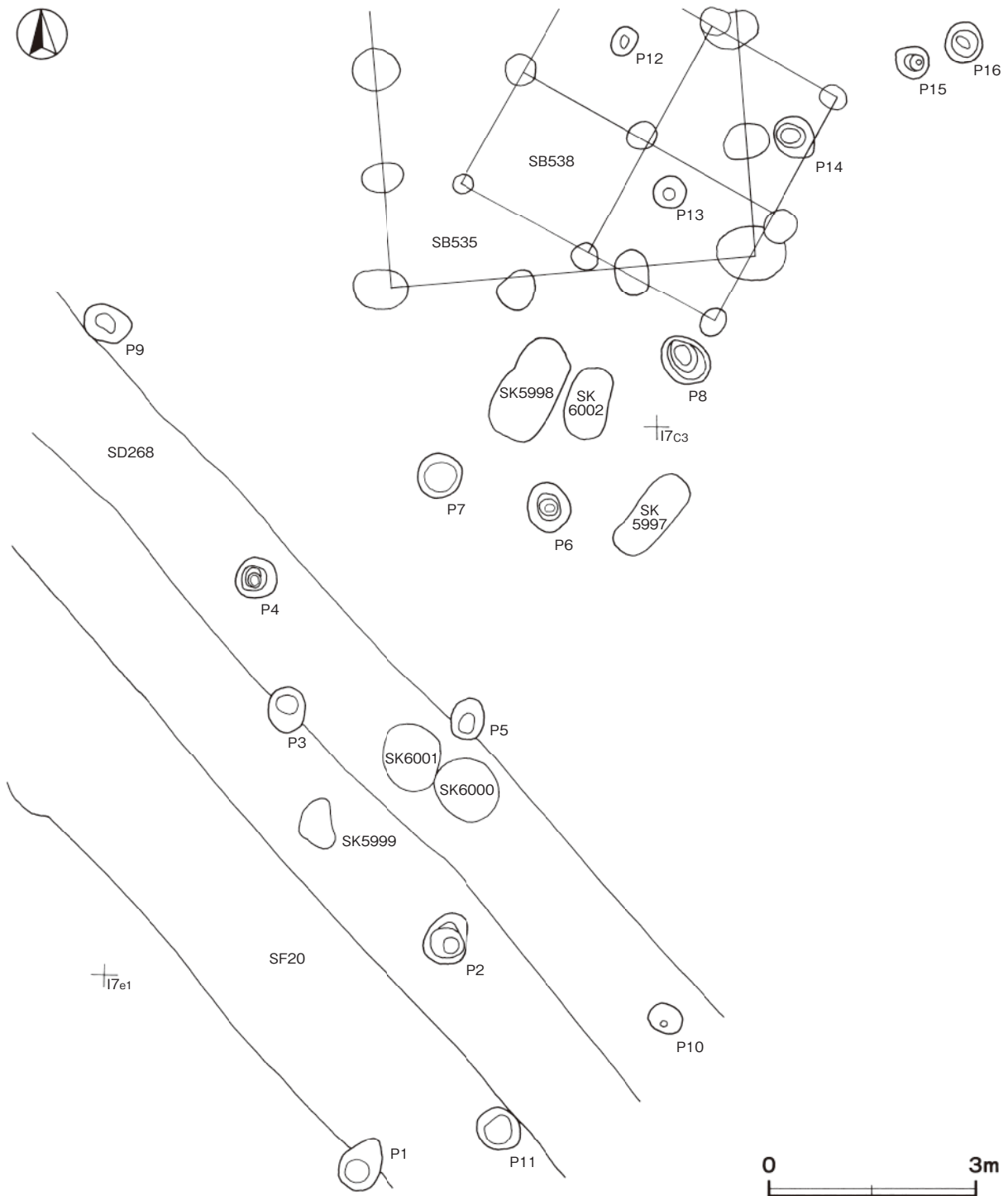
第 373 図 第 56 号ピット群実測図

表 42 第 56 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
1	I6b0	円形	46 × 43	31	9	H6j0	楕円形	63 × 56	19		
2	I6b0	楕円形	45 × 39	25	10	H6j0	楕円形	68 × 60	30		
3	I6a9	不整楕円形	71 × 29	36	11	H6i9	楕円形	62 × 54	33		
4	I6a0	円形	55 × 53	32	12	H6i0	楕円形	58 × 52	65		
5	I6a0	楕円形	39 × 35	53	13	H6i0	円形	40 × 37	18		
6	I6a9	楕円形	54 × 47	38	14	H7i1	楕円形	43 × 38	53		
7	I6a0	楕円形	30 × 25	21	15	H7i1	楕円形	44 × 33	24		
8	I6a0	楕円形	67 × 49	20							

第 57 号ピット群 (第 374 図)

調査区中央部の I 7 a3 ~ I 7 e3 区にかけての東西 13 m, 南北 18 m の範囲から, 16 か所のピットを確認した。標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。第 20 号道路跡を掘り込んでいる。また, 分布範囲内に第 535・538 号掘立柱建物跡, 第 5997・5998・6000 ~ 6002 号土坑, 第 268 号溝跡があるが, 直接的な重複関係はなく, 新旧関係は不明である。平面形は長径 46 ~ 80cm, 短径 39 ~ 66cm の円形または楕円形で, 深さは 18 ~ 87cm である。分布状況から建物跡の想定はできない。出土遺物がなく, 性格・時期ともに不明である。



第 374 図 第 57 号ピット群実測図

表 43 第 57 号ピット群ピット計測表

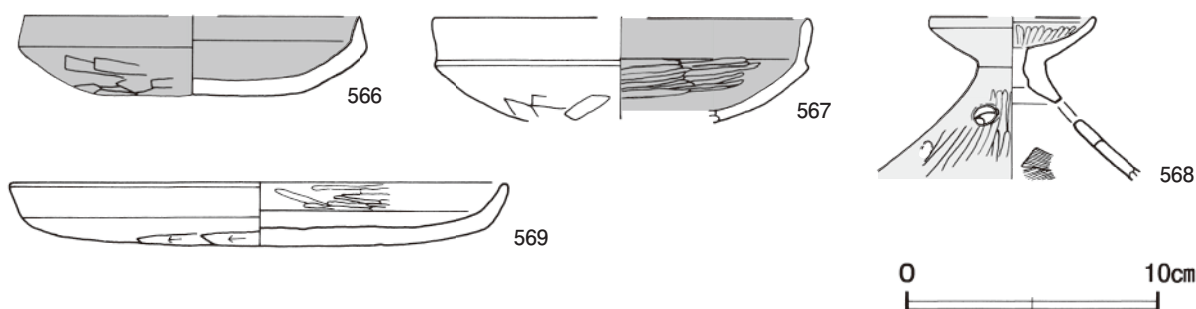
ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	長軸 (径) × 短軸 (径)				深さ		
1	I7e1	楕円形	80 × 59	83	9	I7b1	楕円形	70 × 55	29		
2	I7d2	楕円形	74 × 63	82	10	I7e3	楕円形	48 × 43	87		
3	I7d1	楕円形	63 × 54	28	11	I7e2	楕円形	65 × 56	29		
4	I7c1	円形	60 × 55	75	12	I7a2	楕円形	46 × 39	18		
5	I7d2	楕円形	60 × 48	23	13	I7b3	円形	45 × 45	35		
6	I7c2	楕円形	73 × 66	70	14	I7a3	楕円形	68 × 56	37		
7	I7c2	円形	65 × 61	63	15	I7a3	楕円形	52 × 47	42		
8	I7b3	楕円形	79 × 65	30	16	I7a4	楕円形	60 × 52	32		

表 44 その他のピット群一覧表

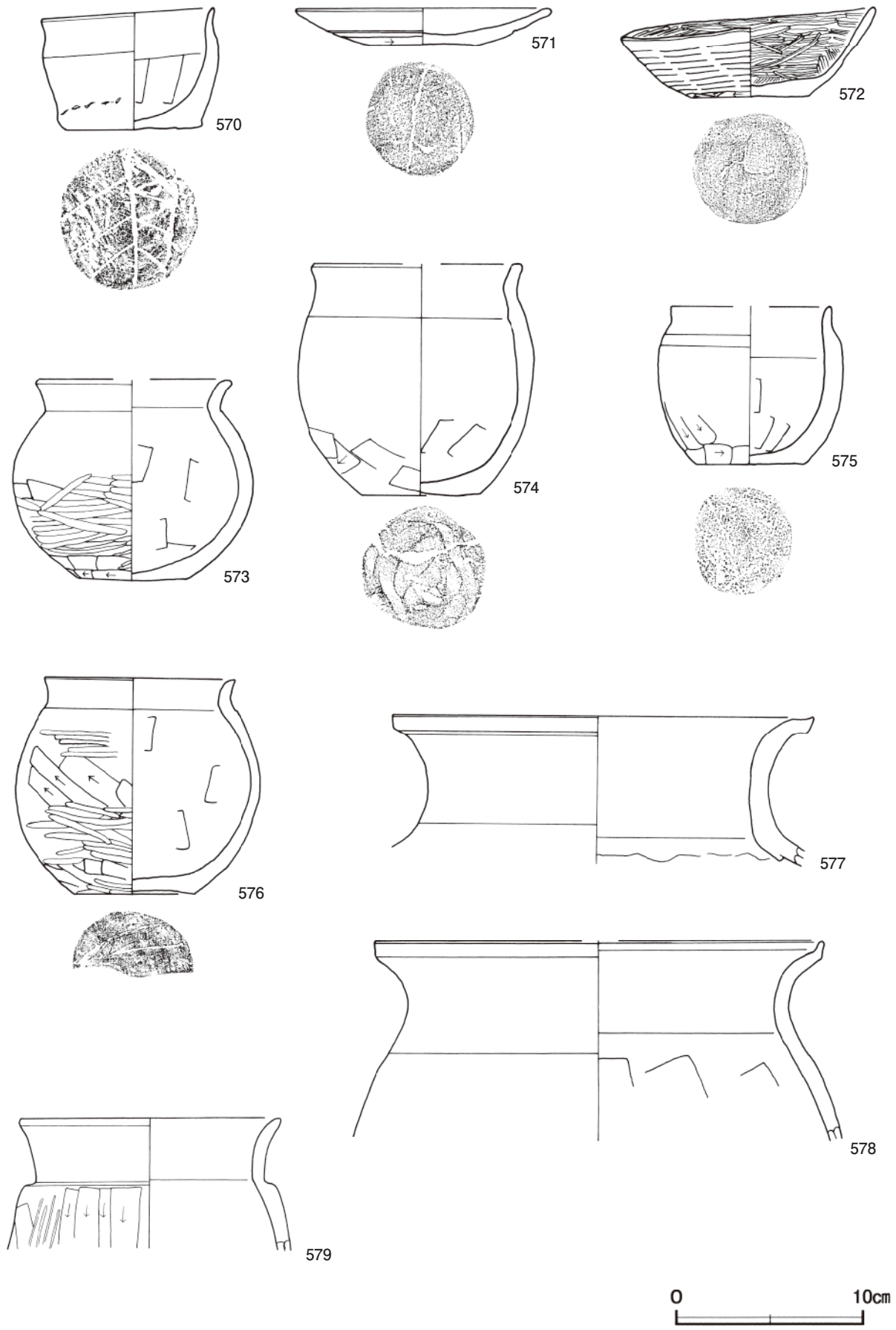
番号	位置	柱 穴					主な出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
		柱穴数	平面形	長径 (軸)	短径 (軸)	深さ (cm)		
44	I 6 i3 ~ J 6 d5	60	円形・楕円形	26 ~ 73	24 ~ 70	7 ~ 88	土師器片	SI2984,SB528・529,SK5891・5892 新旧不明
45	J 5 e8 ~ J 5 i9	30	円形・楕円形	18 ~ 74	18 ~ 44	12 ~ 62	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片	SB531 → 本跡 SI2974・2981,SK5863 新旧不明
46	J 5 g5 ~ J 5 h7	20	円形・楕円形	24 ~ 50	24 ~ 48	5 ~ 49		SK5866 新旧不明
47	J 5 a1 ~ J 5 d4	40	円形・楕円形	20 ~ 50	18 ~ 40	12 ~ 64		SI2975 新旧不明
48	J 4 d0 ~ J 5 h3	50	円形・楕円形	22 ~ 70	18 ~ 64	10 ~ 59	土師器片, 土師質土器片	本跡 → SB532 SB527,SD281 新旧不明
49	K 3 f9 ~ K 3 j9	49	円形・楕円形	14 ~ 70	12 ~ 40	6 ~ 58		SB516 新旧不明
50	L 3 a7 ~ L 3 c8	62	円形・楕円形	14 ~ 42	12 ~ 34	4 ~ 49	土師質土器片	SB517・519,SK5626, SD404 新旧不明
51	L 3 c6 ~ L 3 f8	53	円形・楕円形	15 ~ 44	14 ~ 34	9 ~ 47	土師質土器片	SB513・519,SK5697 新旧不明
52	L 3 a5 ~ L 3 c6	69	円形・楕円形	12 ~ 50	8 ~ 50	9 ~ 57	土師器片, 土師質土器片	SB510~SB512・517,SK5630・ 5633,SD404,SA60・61 新旧不明
53	L 3 c5 ~ L 3 f6	35	円形・楕円形	16 ~ 62	14 ~ 38	7 ~ 39		SB510・513,SK5637・ 5661・5666・5667,SD404, SA60・61 新旧不明
54	K 3 c5 ~ K 3 j4	74	円形・楕円形	16 ~ 70	16 ~ 46	7 ~ 50	土師器片, 須恵器片	SD405 → 本跡 SB520 新旧不明
55	G 6 g7 ~ H 6 a8	16	円形・楕円形	27 ~ 50	21 ~ 39	16 ~ 52		SI3005・3006・3010, SK5906・5907 新旧不明
56	H 6 i9 ~ I 6 b0	15	円形・楕円形	30 ~ 71	25 ~ 60	18 ~ 65		SI3028,SB536・537,SD268, SK6004・6006 新旧不明
57	I 7 a3 ~ I 7 e3	16	円形・楕円形	46 ~ 80	39 ~ 66	18 ~ 87		SF20 → 本跡 SB535・538,SK5997・5998・ 6000 ~ 6002,SD268 新旧不明

(6) 遺構外出土遺物 (第 375 ~ 381 図)

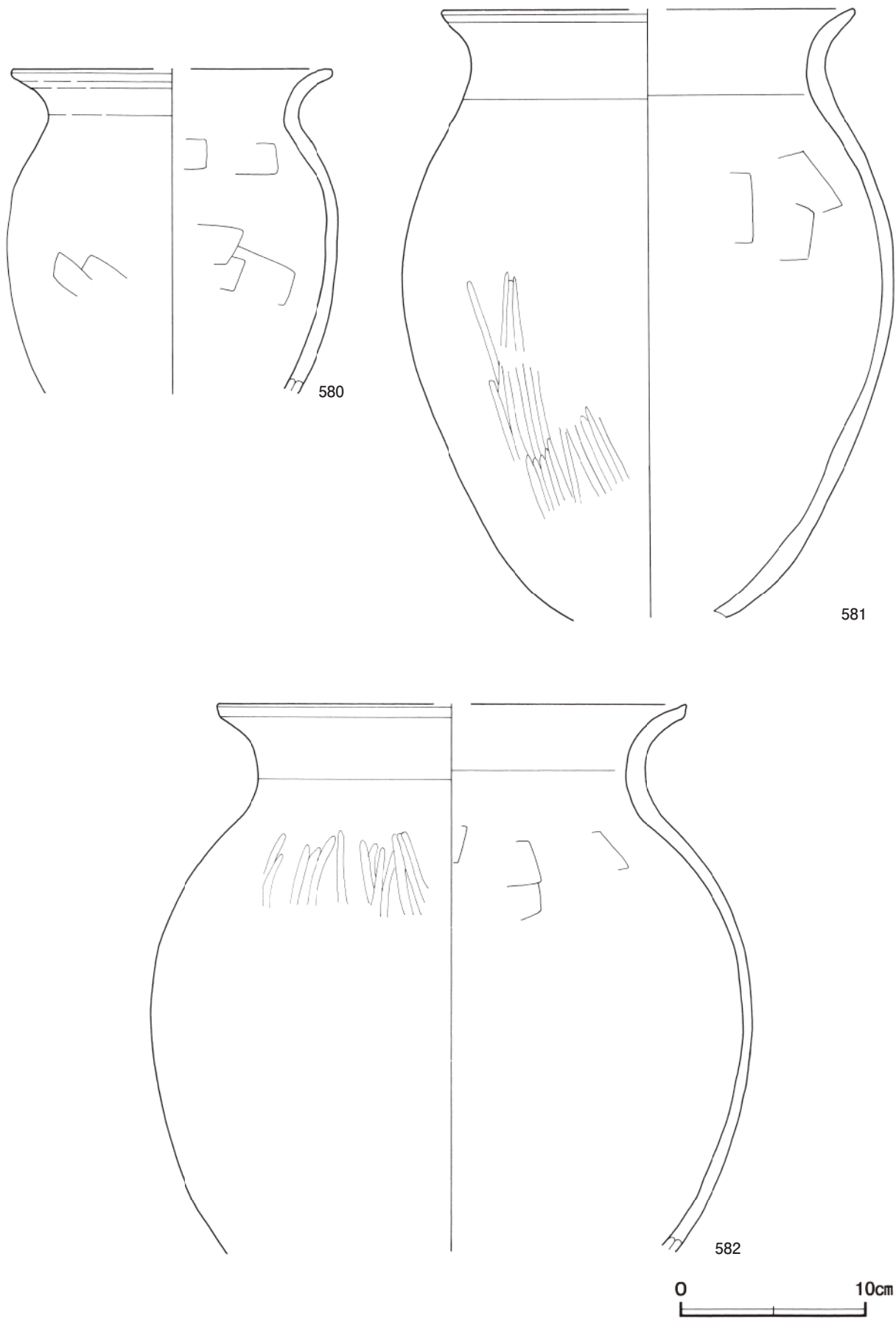
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



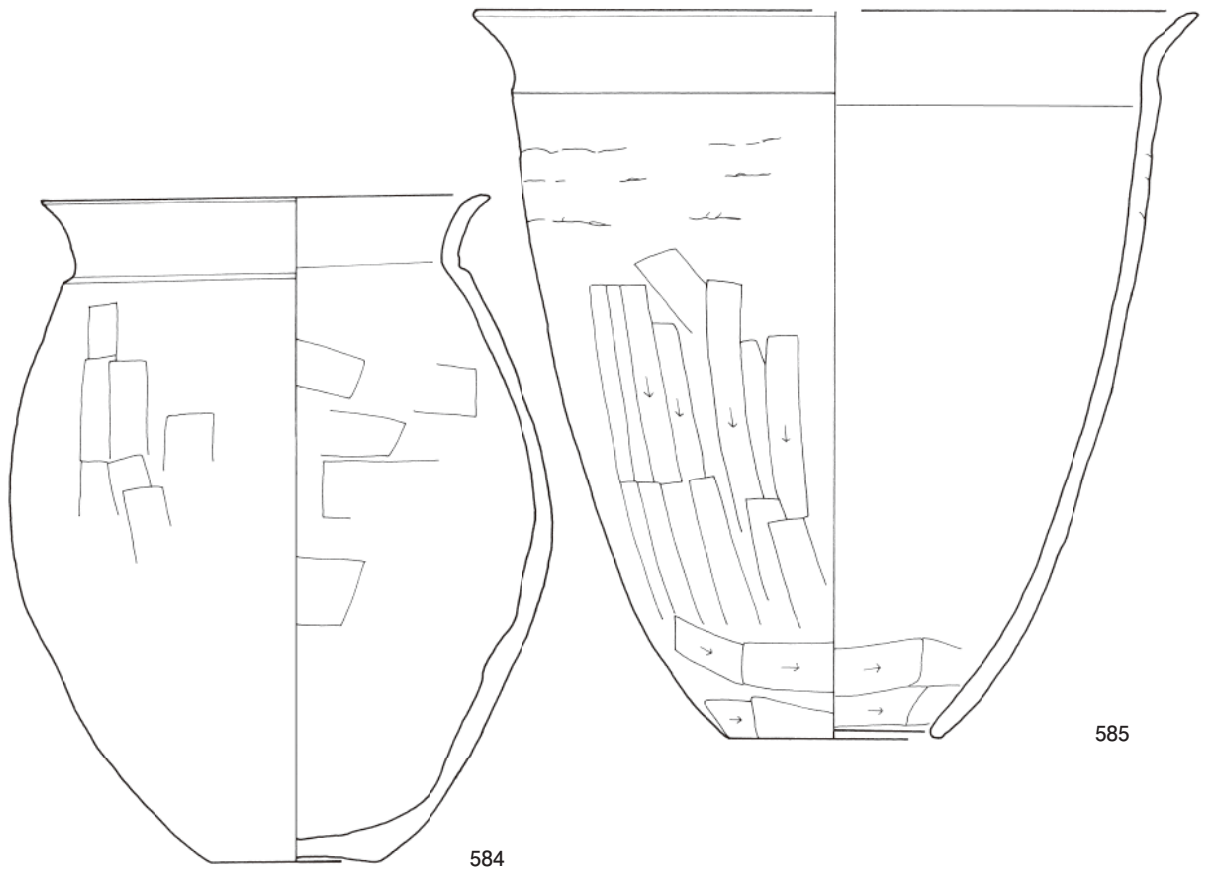
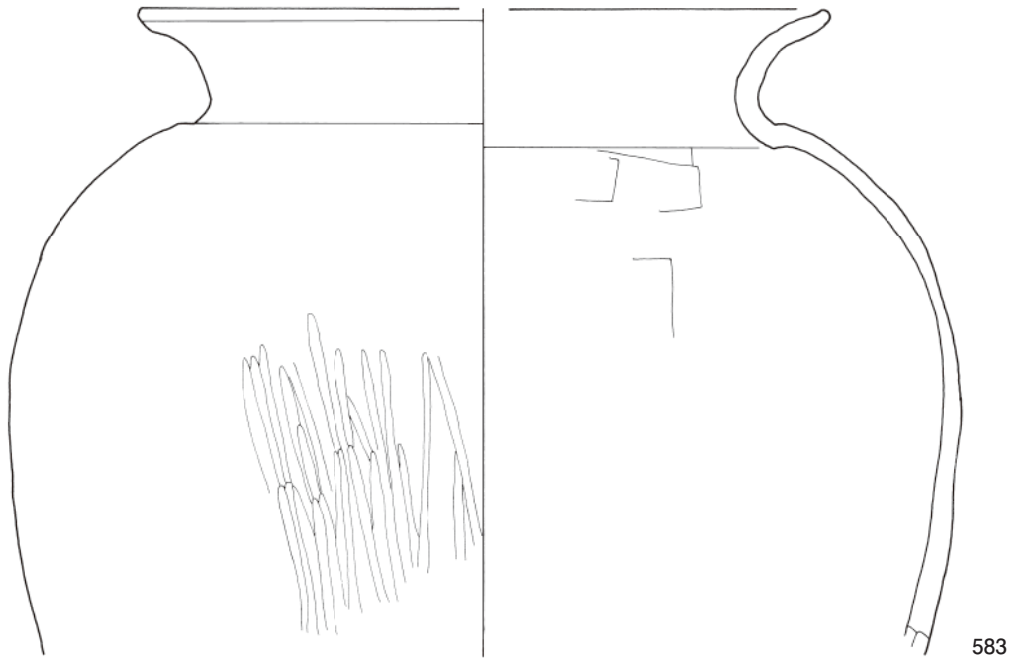
第 375 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



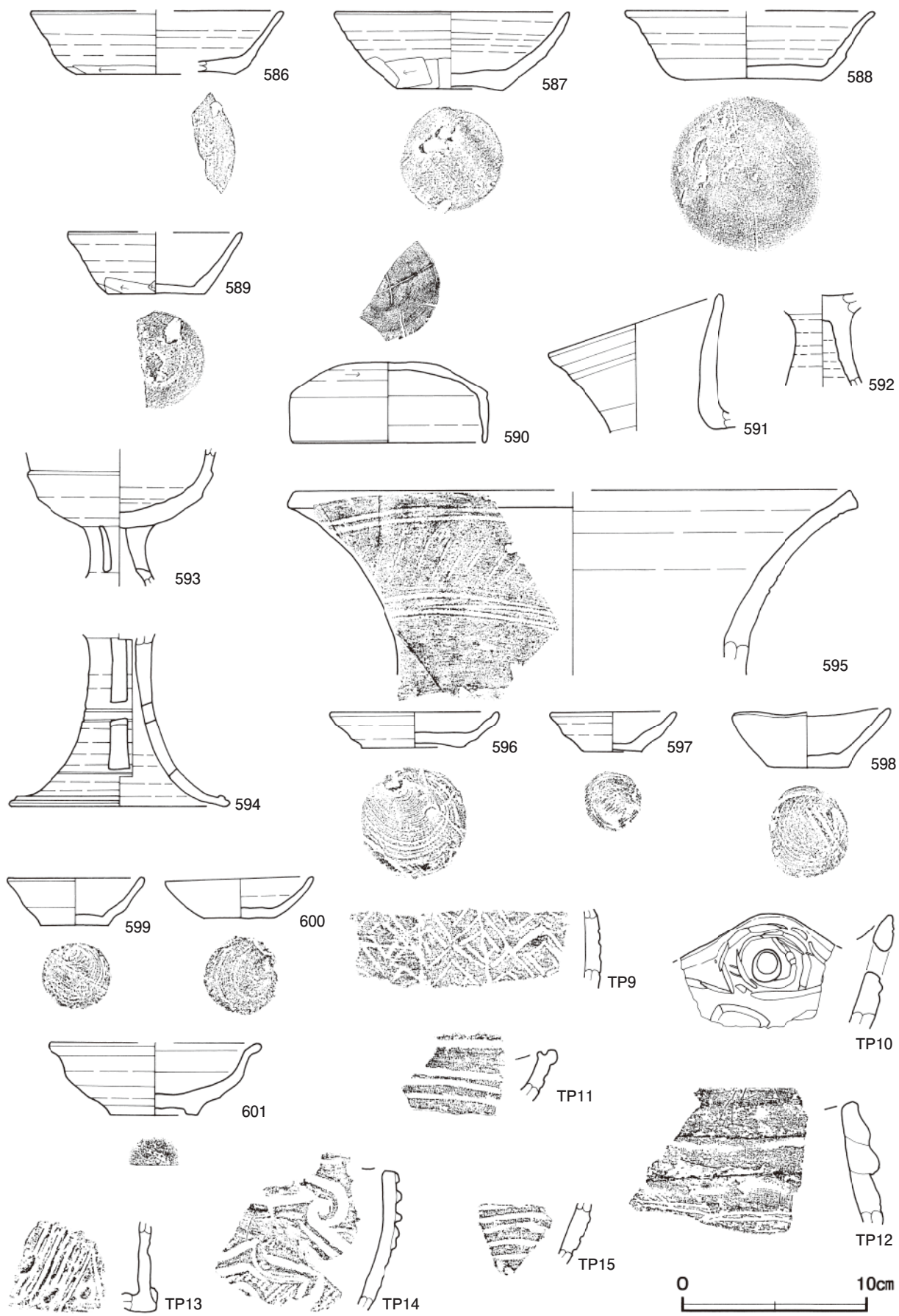
第 376 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



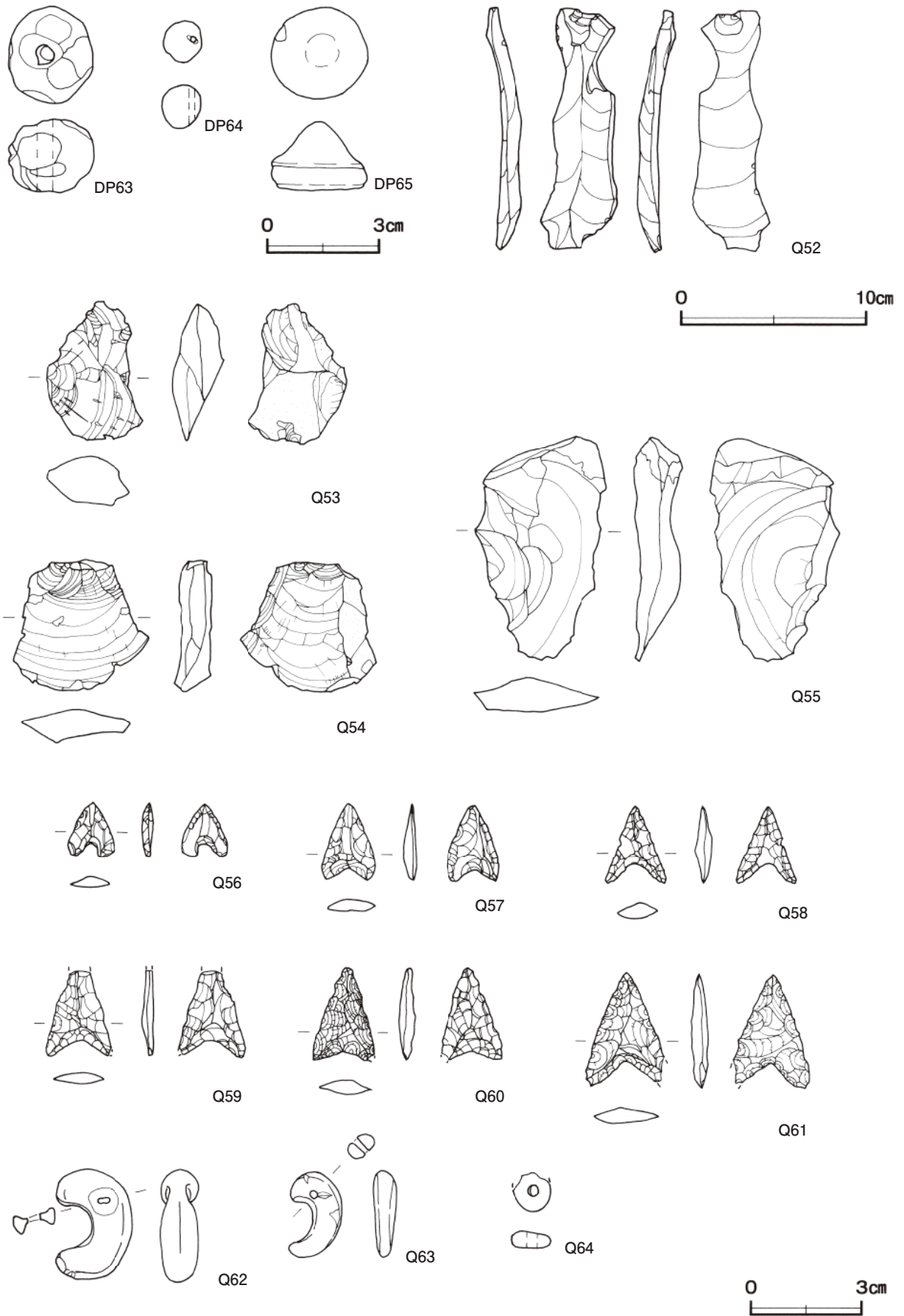
第 377 図 遺構外出土遺物実測図 (3)



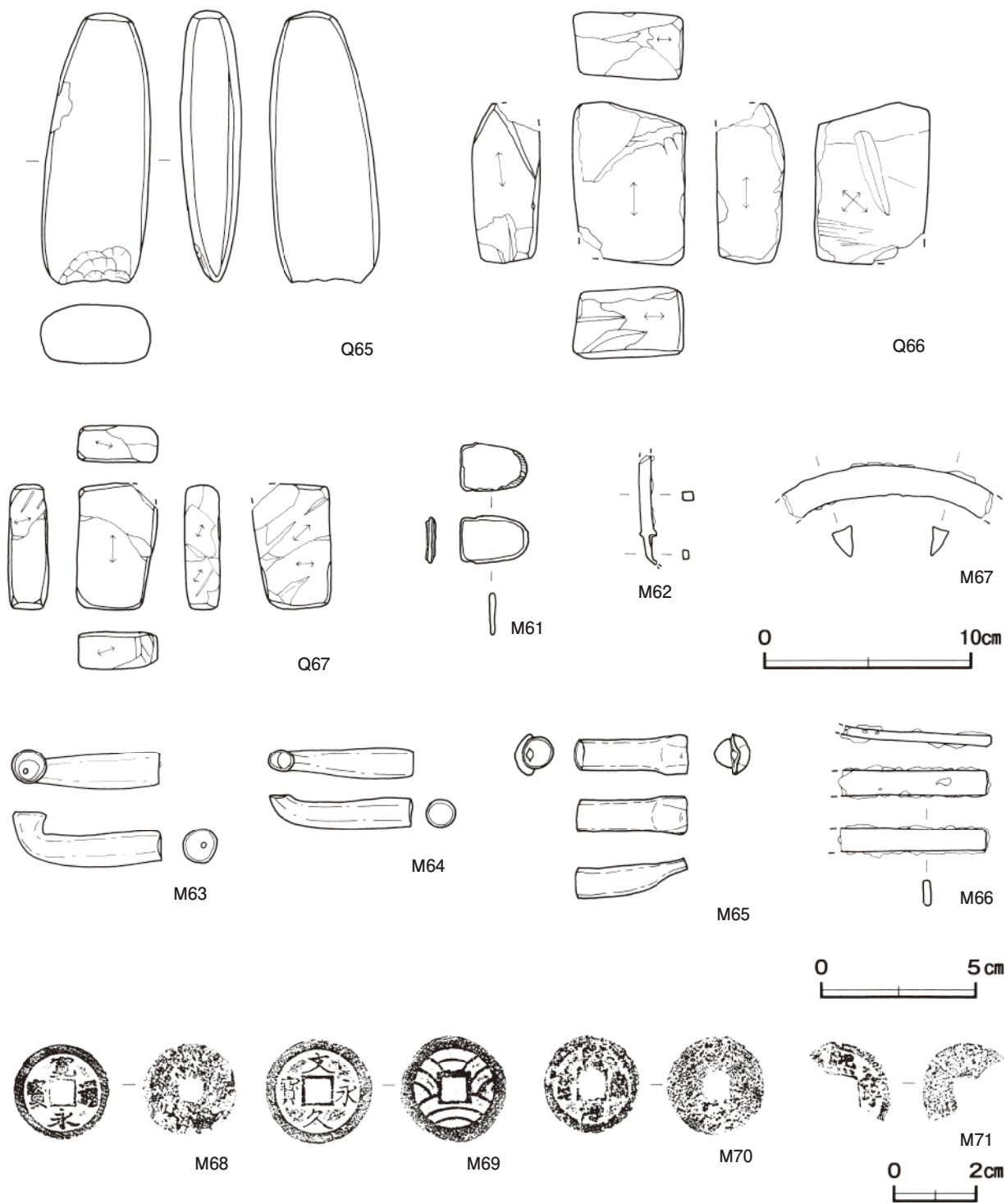
第 378 図 遺構外出土遺物実測図 (4)



第 379 図 遺構外出土遺物実測図 (5)



第 380 図 遺構外出土遺物実測図 (6)



第 381 図 遺構外出土遺物実測図 (7)

遺構外出土遺物観察表 (第 375 ~ 381 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
566	土師器	坏	[13.4]	3.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面横ナデ	SD266 覆土中	30%
567	土師器	坏	[15.0]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	SD266 覆土中	30%
568	土師器	器台	[6.6]	(6.5)	-	長石・石英・ 黒色粒子	赤褐	普通	受け部外・内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ磨き 内面ハケ目調整 孔有り (3か所残存)	SI2366 覆土中	40%
569	土師器	皿	19.7	2.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部~ 底部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	表土	80%
570	土師器	鉢	9.2	6.6	7.4	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	UP77 覆土中	95% PL84

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
571	土師器	皿	13.4	2.0	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	表土	90% PL84
572	土師器	坏	13.7	4.7	6.1	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 内面ヘラ磨き	表土	100% PL84
573	土師器	小形甕	[10.0]	10.8	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	表土	40%
574	土師器	小形甕	[11.0]	12.4	6.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 体部内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	SD263 覆土中	50% PL82
575	土師器	小形甕	[8.4]	8.5	5.4~5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	SD263 覆土中	50% PL82
576	土師器	小形甕	9.9	11.7	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	SD266 覆土中	70%
577	土師器	甕	22.5	(7.9)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	SD263 覆土中	10%
578	土師器	甕	[24.0]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	SD266 覆土中	5%
579	土師器	甕	13.9	(7.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 一部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	SD263 覆土中	20%
580	土師器	甕	[17.2]	(17.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	SD263 覆土中	40%
581	土師器	甕	[22.3]	(32.9)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	SD266 覆土中	40%
582	土師器	甕	[25.2]	(29.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	SD263 覆土中	30%
583	土師器	甕	[27.4]	(25.8)	-	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	SD266 覆土中	30%
584	土師器	甕	17.7	26.8	6.7	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	SD266 覆土中	60%
585	土師器	甕	[28.6]	29.0	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 体部下端外・内面ヘラ削り	SD266 覆土中	40%
586	須恵器	坏	[13.6]	3.4	[8.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 外・内面に火擦痕	表土	20%
587	須恵器	坏	12.5	4.2	5.6	長石・石英	灰黄	普通	体部中～下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	表土	80%
588	須恵器	坏	[13.5]	3.7	8.1	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部多方向のヘラ削り	表土	70%
589	須恵器	坏	[9.2]	3.3	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	表土	50%
590	須恵器	坏蓋	[10.4]	4.4	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り 天井部にヘラ記号「×」	表土	40%
591	須恵器	平瓶	9.8	(8.0)	-	長石・雲母	暗灰	普通	ロクロナデ	SI2981 覆土中	5% PL84
592	須恵器	高坏	-	(5.1)	-	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	表土	5%
593	須恵器	高坏	-	(7.4)	-	長石・石英	暗オリーブ灰	普通	ロクロナデ 脚部透かし3か所	SD263 覆土中	40%
594	須恵器	高坏	-	(9.4)	11.6	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 脚部透かし4か所	SD266 覆土中	40% PL84
595	須恵器	甕	[30.1]	(10.0)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部に描文 補修孔あり	表土	5%
596	土師質土器	小皿	9.0	2.0	5.7	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	表土	100% PL84
597	土師質土器	小皿	6.7	2.2	3.1	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	表土	100% PL84
598	土師質土器	小皿	8.7	3.2	4.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	表土	90% PL84
599	土師質土器	小皿	7.2	2.6	3.8	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	PG48 P1 覆土中	100%
600	土師質土器	小皿	8.1	2.2	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	PG50 P1 覆土中	50%
601	陶器	碗	[11.4]	3.9	[4.7]	精良	灰	普通	体部外・内面施釉	SE164 覆土中	50% PL86 唐津カ

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線による菱形文	表土	前期後葉
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部に文様帯	SI3002 覆土中	後期初頭
TP11	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ヘラ磨き	SI2456 覆土中	晩期中葉
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部折り返し状 体部櫛歯状工具による条線文	SI2453 覆土中	後期初頭
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	集合沈線の上にボタン状貼付文	表土	前期後葉
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	撚糸文上に隆帯・隆帯脇沈線文で渦巻き文	SD405 覆土中	PL84
TP15	縄文土器	浅鉢	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	TP11 と同一カ	SI2456 覆土中	晩期中葉

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP63	土玉	2.7	2.2	0.5	11.3	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	SD405 覆土中	
DP64	土玉	1.2	1.1	0.15	1.42	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	表土	PL84
DP65	不明	2.5	1.8	-	8.45	長石・石英	ナデ	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 52	石刃	13.1	4.2	2.0	48.7	頁岩	縦長剥片	SI2311 覆土中	
Q 53	剥片	3.7	2.6	1.4	9.2	黒曜石	裏面に風化剥離痕	SI2997 覆土中	
Q 54	剥片	3.6	3.7	1.0	10.7	黒曜石	裏面に風化剥離痕	SK2327 覆土中	
Q 55	剥片	6.1	3.5	1.3	21.7	瑪瑙	上部に原石面	SI3014 覆土中	
Q 56	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.6	チャート	裏面に素材剥離面残す	表土	PL85
Q 57	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.9	チャート	裏面に素材剥離面残す	表土	PL85
Q 58	石鏃	2.1	1.7	0.5	0.7	チャート	凹基鏃	SI3002 覆土中	
Q 59	石鏃	(2.3)	1.8	0.3	(1.0)	チャート	先端部欠損	SF106 覆土中	PL85
Q 60	石鏃	2.5	(1.7)	0.4	(1.3)	チャート	端部一部欠損	表土	
Q 61	石鏃	3.1	(2.1)	0.5	(2.0)	チャート	端部一部欠損	SI2389 覆土中	
Q 62	勾玉	3.0	2.0	1.0	7.3	凝灰岩	孔径 0.3cm 両面穿孔 2回穿孔	表土	PL85
Q 63	勾玉	2.3	1.3	0.6	2.8	凝灰岩	孔径 0.15cm 両面穿孔	SD405 覆土中	PL85
Q 65	磨製石斧	13.2	5.3	2.9	348	花崗岩	下端部敲打による剥離 表面に敲打痕	表土	PL85
Q 66	砥石	7.9	5.5	3.3	(235)	凝灰岩	砥面 6面 擦痕	表土	PL85
Q 67	砥石	6.1	(3.8)	1.8	(65.0)	砂岩	砥面 6面	表土	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 64	白玉	1.05	0.5	0.3	(0.6)	凝灰岩	両面穿孔	表土	PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 61	鈍尾	3.3	2.3	0.5	7.4	銅	板状 一端は半円形	SD268 覆土中	PL85
M 62	鏃	(5.3)	0.9	0.4	(5.45)	鉄	断面長方形 両端部欠損	SE169 覆土中	PL85
M 63	煙管	4.8	1.8	1.1	8.5	銅	雁首部 火皿径 1.1cm	SI3014 覆土中	PL85
M 64	煙管	4.7	(1.1)	1.0	6.2	銅	雁首部 火皿部分欠損	SI3013 覆土中	PL85
M 65	煙管	3.8	1.4	1.3	6.9	銅	吸口部	SI2977 覆土中	
M 66	不明	(4.8)	0.8	0.3	(7.9)	鉄	断面長方形 左端部緩やかに湾曲	SI3013 覆土中	PL85
M 67	不明	(10.2)	(1.5)	0.1~1.0	(44.0)	鉄	断面三角形 緩やかに湾曲	SE152 覆土中	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 68	銭貨	2.4	0.5	0.1	0.51	銅	古寛永通寶 初鑄 1636年	SI2498 覆土中	
M 69	銭貨	2.7	0.5	0.11	3.2	銅	文久永寶 初鑄 1863年 裏面に波形文様	表土	PL85
M 70	銭貨	2.5	0.5	0.12	3.3	銅	紹聖元寶 初鑄 1094年	表土	PL85
M 71	銭貨	2.6	(0.7)	0.11	(0.7)	銅	熙寧通寶 初鑄 1068年	PG52 P1 覆土中	

第5節 ま と め

1 はじめに

鳥名熊の山遺跡は、平成7年度から調査を実施し、これまでに『茨城県教育財団文化財報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328集¹⁾の13冊の報告書を刊行している。今年度は、遺跡南部に位置する12区の平成20年度調査分、西部に位置する15区の平成16（『茨城県教育財団文化財報告』第291集²⁾（以下、『第291集』と略す）で一部報告）・18・19・20年度調査分について整理を行った。今回の報告分までの調査総面積は237,225㎡である。これまでに確認した主な遺構は、住居跡2,385軒、竪穴遺構6基、掘立柱建物跡378棟、井戸跡172基、地下式坑78基、火葬土坑35基、墓坑77基、堀跡・溝跡292条、道路跡20条、水田跡2か所などである。当遺跡は、古墳時代（4世紀）から平安時代（11世紀）にかけての集落跡が中心であり、律令期の「河内郡嶋名郷」との関連が指摘されている。また、中世以降も堀や溝による区画や墓域、水田跡などが確認されており、連綿と集落が営まれてきたことが窺える。各時代毎のあり方については、これまでの報告で詳細に述べられているので、ここでは今年度整理を行った12・15区について、15区においては『第291集』での整理内容と合わせて、主な時代についての事実関係を記述する。

なお、時期区分に関しては、既往の成果との整合性を保つため、『第190集』³⁾で示された土器の変遷に基づき、第1期を4世紀、第2期を5世紀、第3～5期を6世紀、第6～8期を7世紀、第9～11期を8世紀、第12～14期を9世紀、第15～18期を10・11世紀とする。

2 12区

12区は一部未調査区域と平成22・23年度調査分を除き、平成14・15年度に調査された部分については『第214・236・291集』において報告されている。本報告では、平成20年度の調査で確認された遺構について記述する。確認できた遺構は、溝跡9条、杭列跡3列、土坑19基、ピット群3か所である。

明確な時期を特定できた溝跡は、第491号溝跡の1条だけで、その他は15・16世紀以前の中世が5条、16世紀以降と考えられるものが3条である。『第291集』で報告されている第1・2号水田跡に繋がる痕跡は確認できなかったが、溝が機能していた時期は、水稻耕作が行われていたとする15世紀後半から16世紀と同時期か、またはその前後と考えられる。今回確認された溝跡は、水稻耕作に関わり機能していたものと想定される。

3 15区（表45）

(1) 古墳時代（第382～384図）

当時代の遺構は、標高20～21mの台地平坦部を中心に住居跡134軒、竪穴遺構5基、土坑3基を確認している。各時期毎の住居跡の内訳は次の通りである。

古墳時代前期の第1期は10軒の住居跡が該当する。いずれも調査区の北部からだけ確認され、それらのうち6軒が4世紀中葉と考えられる。第3008号住居跡が床面積53.9㎡と最も大形で、次いで第2493号住居跡が30.3㎡であり、その他の4軒は17㎡前後である。また、6軒中3軒が焼失住居であり、住居廃絶に伴う儀礼的な行為が行われていたものと考えられる。第3008号住居跡から出土した炭化材は、端部

に加工痕があるみかん割り材と板状材であり、いずれもコナラ属コナラ節である（付章2参照）。4世紀後葉では北西部から床面積20㎡ほどの住居跡2軒を確認しただけである。

中期の第2期は2軒の住居跡が該当し、5世紀後葉と5世紀代とする住居跡をそれぞれ1軒ずつ確認しただけである。いずれも床面積15㎡ほどの小形の住居跡である。

古墳時代後期は当調査区の中心的な時期であり、6世紀中葉の第4期が13軒、6世紀後葉の第5期が48軒、7世紀前葉の第6期が41軒、7世紀中葉の第7期が22軒、7世紀後葉の第8期が2軒となっている。

第3期に該当する遺構は、当調査区で確認されておらず、東谷田川を望む東部の台地上で住居跡7軒が確認されているだけである。

第4期は、『第291集』で報告されているように、床面積が90㎡を超える第2487号住居跡が調査区の中央部西寄り確認されており、当期の中心的な役割を担った有力者層の居宅と考えられる。床面積が30㎡を超える大形の住居跡は6軒確認され、第2323・2340号住居跡からは、いずれも刀子が出土しているほか、竈や貯蔵穴、出入口施設周辺の床面から多数の土師器が出土していることが既に報告されている。さらに西部に位置する第2872号住居跡からは、鉄鏃3点と鎌1点も出土している。また、第2491号住居跡からは、竈の覆土中やコーナー部の覆土中から土製の勾玉2点と小玉5点、滑石製白玉1点が出土している。

第5期は、第4期と同様に床面積が90㎡を超える大形の第2981号住居跡が、南部から確認されている。大形住居を核として、複数の中小の住居からなる集団構成が認められ、住居数は48軒と急激に増加している。床面積が30㎡を超える大形の住居跡数も18軒となる。また、19㎡以下の横長長方形の第2336号住居跡のような小形住居も見られる。主な出土遺物としては、第2572号住居跡からは、土玉15点、土製勾玉13点、鏡形模造品3点、鋤先形土製品1点が竈の東側からまとまって出土している。鋤先形土製品は、これまでの調査で6点がいずれも竈周辺から出土している。前回の報告でも第2387号住居跡の竈周辺から土製勾玉2点、土製小玉1点、土玉2点、滑石製と蛇紋岩製の白玉各1点が出土していることが報告されていることから、竈構築や地鎮に関わる祭祀行為が推測できる。

第6期は、41軒が確認されており、第4・5期と同様に床面積が90㎡を超える大形の住居跡を核として複数の中小の住居跡からなる集団構成が認められる。床面積が30㎡を越える大形の住居跡数は、14軒とやや減少する。『第291集』でも北西部の7軒の住居跡から鉄器が出土しており、その高い保有率が報告されている。第5期の第2981号住居跡からも、刀子3点、鏃1点、鎌1点、小札1点が出土している。

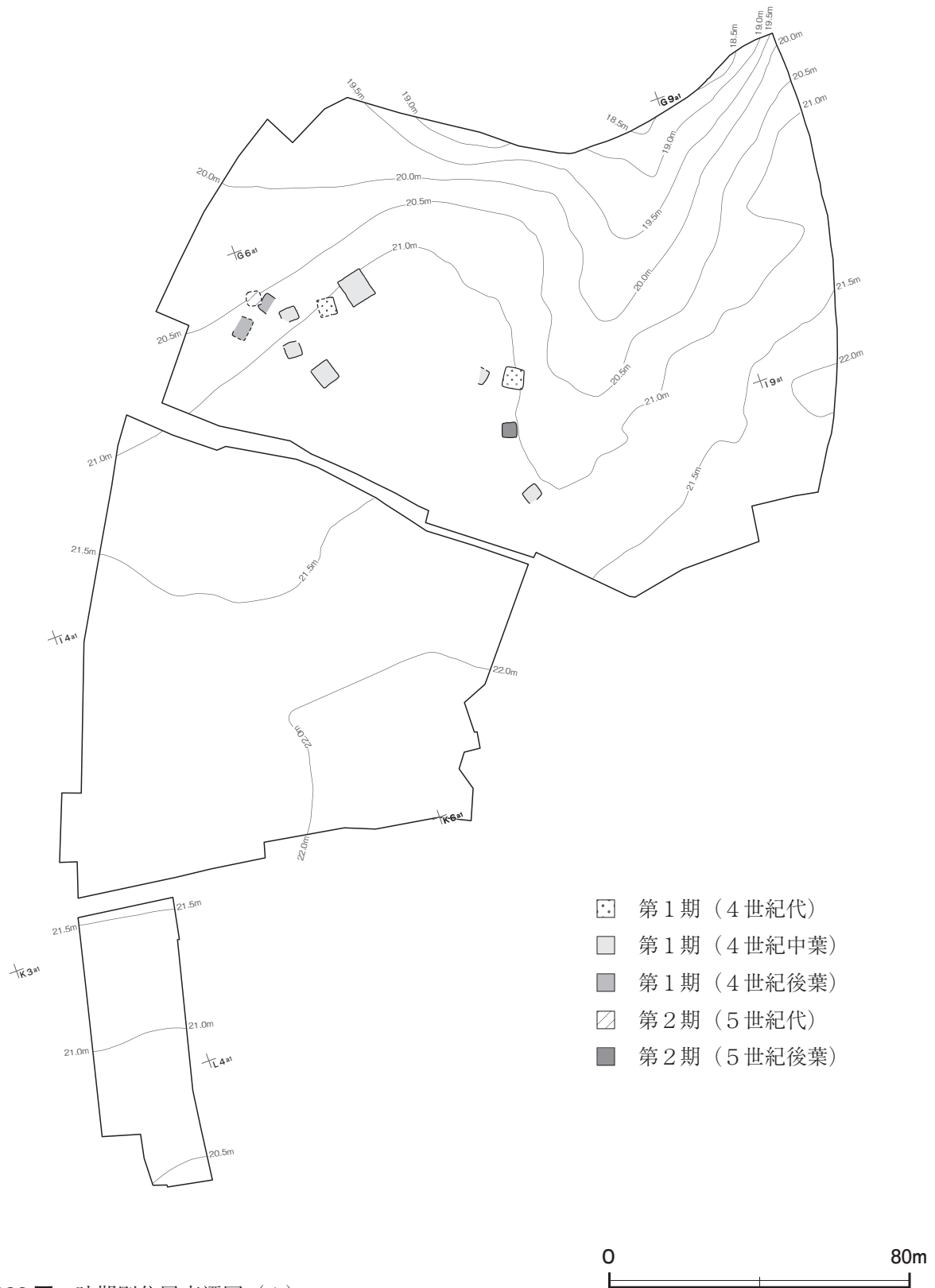
第7期は北西部、中央部、東部の3か所で、中小の住居跡からなる集団構成が認められる。出土遺物は、大形住居から耳環、刀子、鎌、釘などが出土しており、集団の有力層による鉄器の集中的な所有を示唆し

表 45 時期別住居規模一覧表

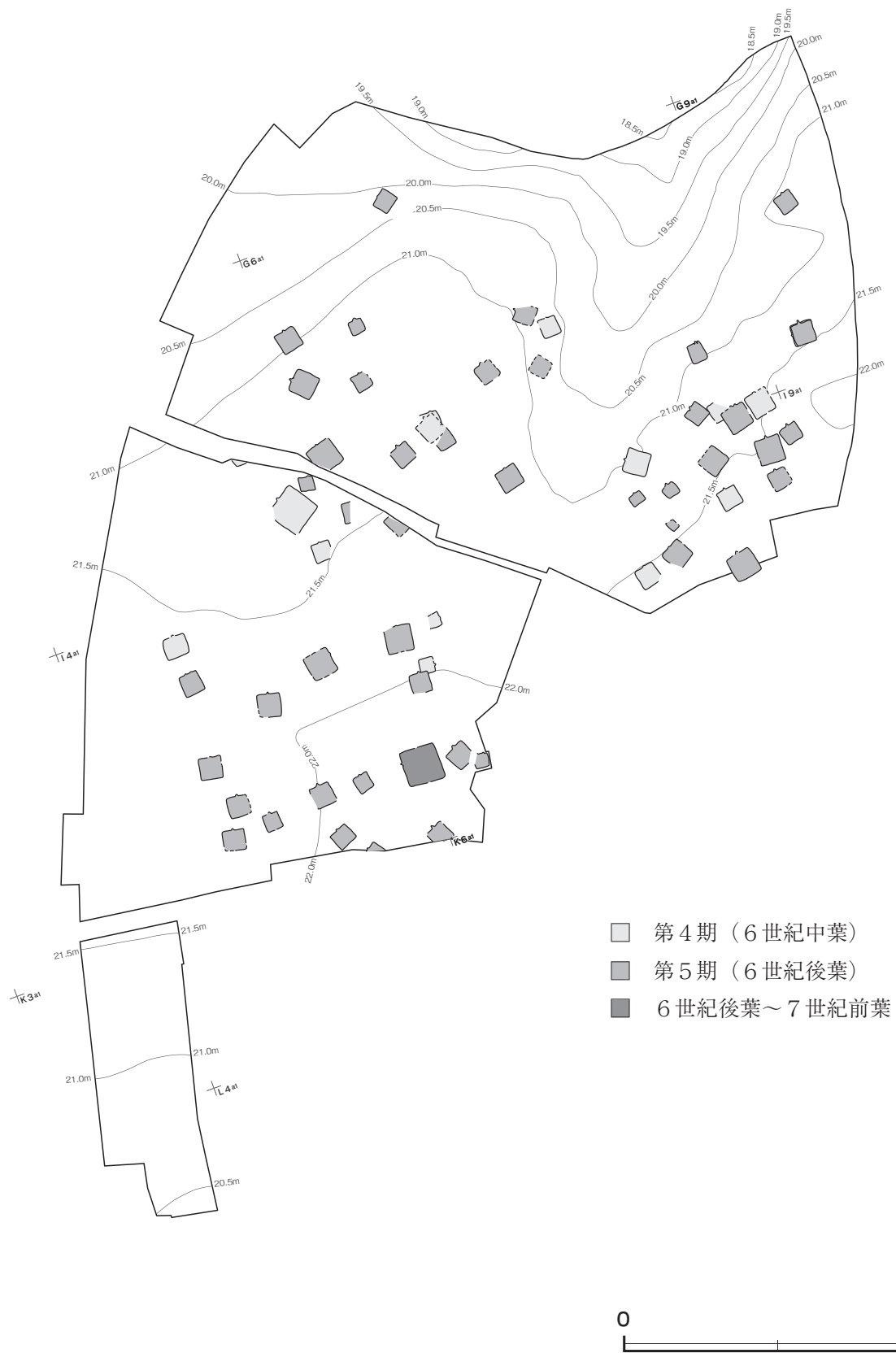
面積	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	総計(軒)
1～9㎡				1	1	2	2		1	1		2	2	1	1	2	1	1	18
10～19㎡	3	2		1	9	5	11	1	6	5	4	4	10	5	4				70
20～29㎡	3			3	12	10	3	1	5	1	2	1	1						42
30～39㎡	2			6	10	8	1		1										28
40～49㎡					6	4	2												12
50～59㎡	1				2	2													5
60～69㎡																			
70～79㎡																			
80～89㎡																			
90～99㎡				1	1	1													3
平均面積(㎡)	25.5	15.2	-	33.6	28.6	31.2	19.4	16.5	19.3	14.4	17.6	14.6	14.2	12.3	13.5	8.6	7.6	8.0	178

ている。

第8期は、住居跡2軒が西部で確認されているだけである。



第382図 時期別住居変遷図(1)



第 383 図 時期別住居変遷図 (2)



第 384 図 時期別住居変遷図 (3)

(2) 奈良時代 (第 385 図)

8世紀代は、標高 21～22 mの台地平坦部から竪穴住居跡 30 軒、掘立柱建物跡 3 棟が確認されている。時期別には、8世紀前葉の第 9 期が住居跡 13 軒、8世紀中葉の第 10 期が住居跡 7 軒と掘立柱建物跡 2 棟、8世紀後葉の第 11 期が住居跡 10 軒と掘立柱建物跡 1 棟となっている。住居跡は、主軸方向が真北から西へわずかに振れるものが主体である。第 9～11 期の住居跡と掘立柱建物跡は、調査区中央部の西寄りに分布し、北東部と南西部からは確認されていない。第 9 期の住居跡の規模は、床面積 31.5㎡の第 2999 号住居跡が最大で、床面積 20～29㎡が 5 軒、床面積 10～19㎡が 6 軒である。第 10 期の住居跡は、中央部の中心部に集中して確認されている。規模は、床面積 20.1㎡が最大で、10～19㎡が 5 軒、9.2㎡が 1 軒である。第 11 期の住居跡は、床面積 24㎡前後が 2 軒、10～19㎡が 4 軒である。住居跡の規模は、第 9 期から第 11 期にかけて縮小化する傾向が見られる。掘立柱建物跡は、『第 291 集』で報告されているだけで、桁行方向が住居跡の主軸方向とほぼ同一で、構造は 3 間×2 間または 2 間×2 間の側柱建物である。出土遺物は、第 317 号掘立柱建物跡からは、「□達丸」と刻書された土師器甕片が出土している。

(3) 平安時代 (第 386・387 図)

当時代の遺構は、標高 21～22 mの台地平坦部から住居跡 40 軒、掘立柱建物跡 1 棟、井戸跡 1 基、墓坑 2 基、土坑 5 基が確認されている。時期別には、9世紀前葉の第 12 期が住居跡 6 軒と掘立柱建物跡 1 棟、第 13 期以降は住居跡だけで構成され、9世紀中葉の第 13 期が 13 軒、9世紀後葉の第 14 期が 7 軒、10世紀前半の第 15 期が 5 軒、10世紀後半の第 16 期が 2 軒、11世紀前半の第 17 期が 2 軒、11世紀後半の第 18 期が 1 軒となっている。第 12 期は、第 319 号掘立柱建物跡を取り囲むように 6 件の住居跡が確認されている。第 14 期には再び東部にも住居跡が出現し、第 16 期以降には居住域は東側へ移動し、西部では住居跡が認められなくなる。

住居跡の規模は、第 12 期から第 15 期まで床面積 10～19㎡が中心で、第 16 期～第 18 期になると 8㎡前後のものだけしか認められず、さらに規模の縮小化が進んでいる。また、主軸方向は真北からわずかに東を向くようになり、第 16 期以降は東竈のものも見られるようになる。出土遺物は、西部の住居跡から灰釉陶器長頸瓶が出土しているほか、鉄製品や墨書土器などが多数出土している。鉄製品は、刀子、鏃、斧、釘などで、集団が移動する第 15 期まで、高い保有率を維持している。また、第 3028 号住居跡からは、銅製の鉸具も出土している。墨書土器は、『第 291 集』で報告された「大」、「大□ (大土カ)」、「ナ」、「丕」、「□ (万カ)・万」、「小栗」、「小□・□ (方カ)」、「家」のほかに、第 148 号井戸跡から、「川カ」、「□家」、「空カ房」も出土している。こうした鉄製品や墨書土器の状況から、今回の調査区域は、集団内でも優位な立場にある集団の居住地である可能性がある。

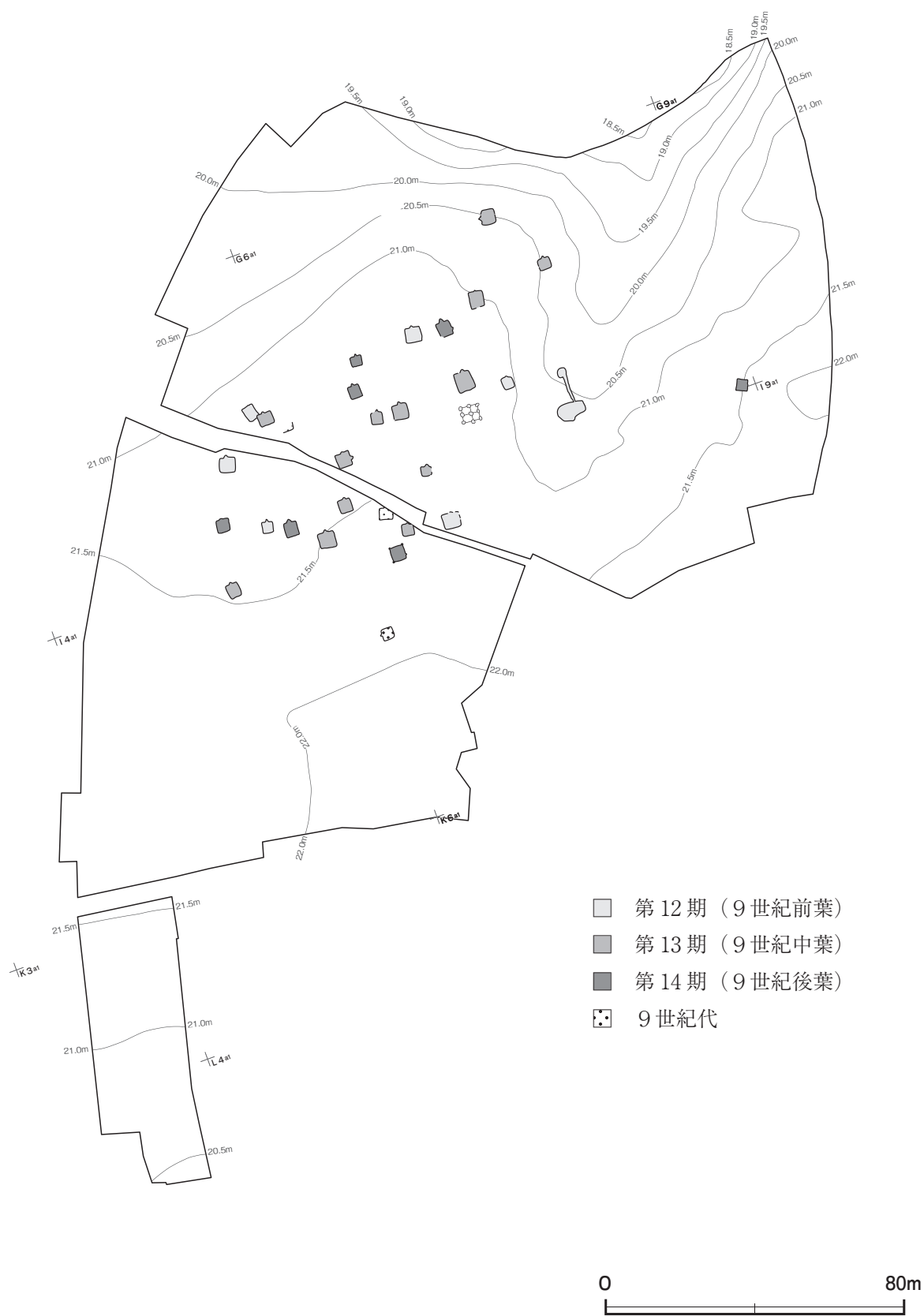
(4) 中世・近世 (第 388 図)

竪穴遺構 1 基、方形竪穴遺構 8 基、掘立柱建物跡 13 棟、井戸跡 31 基、地下式坑 5 基、火葬土坑 2 基、墓坑 7 基、土坑 31 基、道路跡 2 条、溝跡 24 条、杭列跡 22 列を確認している。掘立柱建物跡は、出土遺物が乏しいため、詳細な時期や性格については明確でない。しかし、その分布は、調査区の中央部から南西部にかけて、中世前半と考えられる第 225 号溝跡と第 264 号溝跡を結んだ延長線上の南側にみられる。また、コの字状に確認された第 267 号溝跡は、第 321・527・531・532 号掘立柱建物跡などを含む建物群を区画していたものと考えられる。中央部には第 527・532 号掘立柱建物跡、その東へ約 10 mに第 531 号

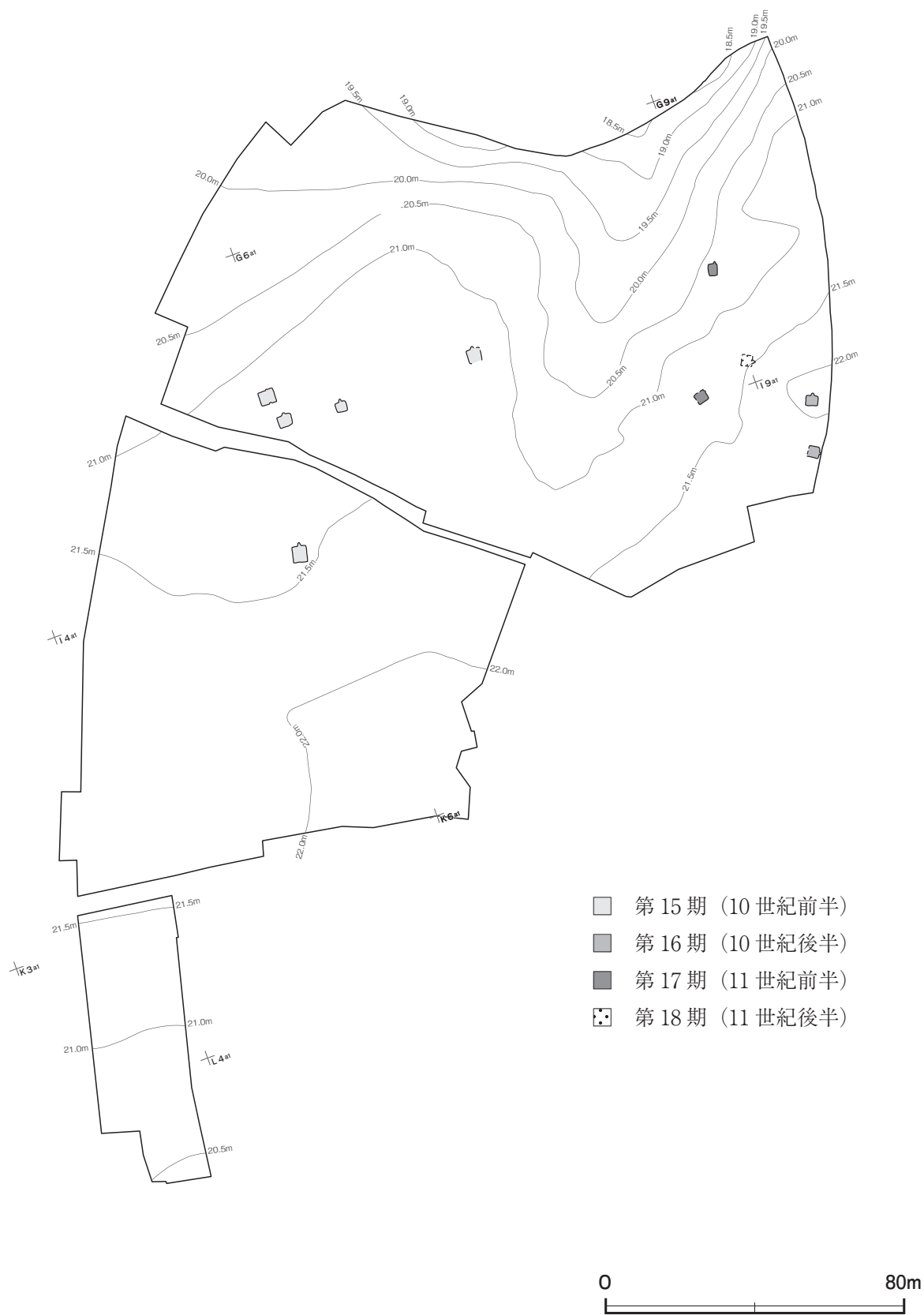


- 第9期（8世紀前葉）
- 第10期（8世紀中葉）
- 第11期（8世紀後葉）

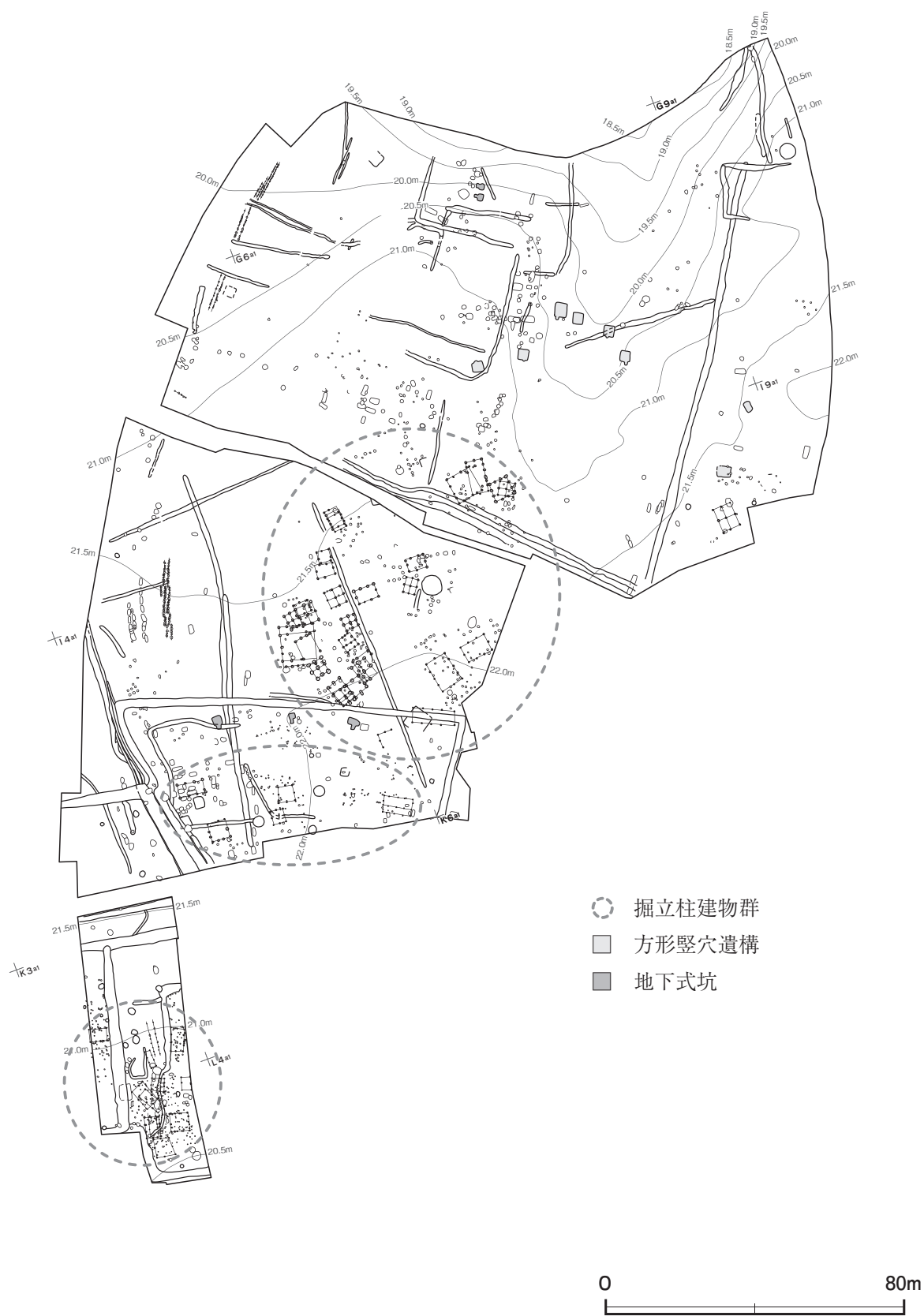
第 385 図 時期別住居変遷図（4）



第 386 図 時期別住居変遷図 (5)



第 387 図 時期別住居変遷図 (6)



第 388 図 中世・近世の遺構配置図

掘立柱建物跡，西へ約 10 m に第 532 号掘立柱建物跡が確認されており，軸は多少ずれるものの整然と配置されている。さらに調査区の南西部では，16 世紀以降に比定できる溝跡も確認されている。しかし，南西部の溝跡は，東西端ともに調査区域外に延びているため，一部が確認できただけである。出土遺物は，第 403 ～ 408 号溝跡から土師質土器の小皿，内耳鍋，播鉢等が溝跡の覆土中から投棄された状態で多量に出土している。

8 基の方形竪穴遺構については，『第 291 集』で報告されているだけであるが，すべてが調査区の北東部で確認されている。第 74・75 号地下式坑は，北部の台地縁辺部で，火葬土坑 2 基と第 144 号井戸跡とともに，約 10 m 四方の中で集中して確認されている。当区域は，葬送儀礼を行う区域，墓域と推察される。時期を明確にする遺物が出土していないことから，詳細は不明である。第 76 ～ 78 号地下式坑は，南部で東西方向に 16 ～ 20 m の間隔で並び，いずれも玄室が北側に確認されている。

調査区の南側約 150 m には「妙徳寺」が所在しており，『谷田部の歴史』⁴⁾によると永仁 5 年（1297）に一遍上人の弟子，一阿了向が道場として開基したものとされている。今回の調査で関連施設と考えられる建物跡や墓域などの土地利用の様子的一端を垣間見ることができたが，さらに調査区南側の様相が確認されることで，寺域の明確な様相が解明されていくものと考えられる。

3 おわりに

以上，12・15 区の調査結果について述べてきたが，確認できた遺構数に多少はあるものの集落の変遷等については大きな差異を見出すことができなかった。ただし，15 区では，古墳時代後期に床面積が 90m²を超える超大形住居跡を核とする集団構成が 3 時期にわたって確認され，地縁関係による継続的な集落が営まれていたものと想定される。また，奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物跡は，奈良時代で 1 棟，平安時代で 3 棟しか確認していない。このことから，当該期は居住域として利用されていたものと考えられる。さらに，中世以降については，溝や板塀などで区画された中に建物群や埋葬にかかわる遺構が存在し，「妙徳寺」と関連した土地利用の一端が確認されつつある。今後の調査・整理事業の中から，中世から近世にかけて寺を中心にした土地利用の在り方が明らかにされていくものと考えられる。

註

- 1) 新井聡他「(仮称) 鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 120 集 1997 年 3 月
- 小島敏他「(仮称) 鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 133 集 1998 年 3 月
- 吉原作平他「(仮称) 鳥名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 149 集 1999 年 3 月
- 矢ノ倉正男他「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 166 集 2000 年 3 月
- 藤田哲也他「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 174 集 2001 年 3 月
- 稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 190 集 2002 年 3 月
- 稲田義弘他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 214 集 2004 年 3 月
- 松本直人他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 236 集 2005 年 3 月

- 田中幸夫他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 2006年3月
- 酒井雄一他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIII」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 酒井雄一他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第291集 2008年3月
- 早川麗司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第322集 2009年3月
- 小澤重雄「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVII」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第328集 2010年3月
- 2) 酒井雄一他「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第291集 2008年3月
- 3) 稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VII」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 4) 谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 谷田部町教育委員会 1975年9月

参考文献

- ・ 檜村宣行「鈴鏡形土製模造品についての一考察」『施壇林の考古学－大竹憲治還暦記念論集』 大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会 2011年11月
- ・ 永井久美弘『新版 中世出土銭の分類図版』 高志書院 2002年4月
- ・ 川村満博「つくば市小泉館跡出土の非ロクロ成形かわらけについて」『研究ノート』9号 茨城県教育財団 2000年6月
- ・ 川村満博「茨城県南部を中心に見た12世紀後半～15世紀のロクロ成形かわらけについて」『研究ノート』12号 茨城県教育財団 2000年6月
- ・ 白田 正子「茨城県における中世末から近世にかけての土師質内耳土器について」『研究ノート』7号 茨城県教育財団 1998年6月
- ・ 狭川真一『日本の中世墓』 高志書院 2009年3月
- ・ 畑大介『研究集会報告集4』「ムラ研究の方法－遺跡・遺物から何を読み取るか」 岩田書院 2002年11月

付 章 1

島名熊の山遺跡第 160 号井戸跡出土木製品の樹種同定

(株) 吉田生物研究所

1 はじめに

島名熊の山遺跡は、つくば市島名地内に所在する遺跡である。ここでは、中世の第 160 号井戸跡から出土した木製品 1 点の樹種同定結果を報告する。

2 試料

試料は茨城県つくば市島名熊の山遺跡から出土した食事具 1 点である。

3 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

4 結果

樹種同定結果（広葉樹 1 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. *Prinus* Loudon syn. *Diversipilosae*, *Dentatae*)

(表 1, 写真 1)

環孔材である。木口では大道管（ $\sim 380 \mu\text{m}$ ）が年輪界にそって 1～3 列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは 2～3 個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

- ・ 島地謙 伊東隆夫『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版 1988 年
- ・ 島地謙 伊東隆夫『図説木材組織』地球社 1982 年
- ・ 伊東隆夫『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V』京都大学木質科学研究所 1999 年
- ・ 北村四郎 村田 源『原色日本植物図鑑木本編 I・II』保育社 1979 年
- ・ 深澤和三『樹体の解剖』海青社 1997 年
- ・ 奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇』1985 年
- ・ 奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇』1993 年

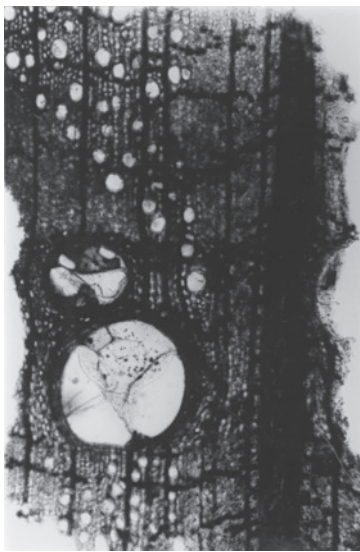
◆使用顕微鏡◆

Nikon

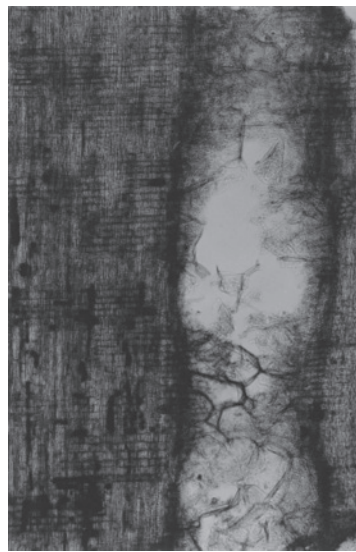
MICROFLEX UFX-DX Type 115

表1 島名熊の山遺跡出土木製品同定結果

No.	品名	樹種
1	杓文	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



木口×40



柁目×40



板目×40

写真1 第160号井戸跡出土木製品の電子顕微鏡写真

付 章 2

島名熊の山遺跡第 3008 号住居跡出土炭化材の樹種同定

(株) パレオ・ラボ 藤根 久

1 はじめに

島名熊の山遺跡は、つくば市島名地内に所在する遺跡である。ここでは、5 世紀代の焼失住居跡出土炭化材 3 点の樹種同定を行った。これら炭化材は、大型で端部に加工痕のあるみかん割り材や板状の柵目材など建築材と思われる木材である。

2 方法

同定は、炭化材の 3 方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製 JSM-5900LV 型）で観察と写真撮影を行った。

3 結果

樹種を同定した結果、いずれもコナラ属コナラ節の木材であることが判った。対象とした炭化材は大型の炭化材であることから（試料No.47 が最大幅約 10cm, 試料No.50 が最大幅約 7cm）、建築部材である可能性が高く、この住居跡はコナラ属コナラ節の木材に限定して使用した可能性が考えられる。

表 2 島名熊の山遺跡出土炭化材同定結果

試料 No.	遺構	備考	採取日	木取り	樹種
47	SI3008	TSK-19-15	070511	大型材（端部に加工痕、みかん割り材）	コナラ属コナラ節
50	SI3008	TSK-19-15	070516	大型の板状材（柵目材）	コナラ属コナラ節
51	SI3008	TSK-19-15	070516	不明	コナラ属コナラ節

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の 3 方向の組織写真を提示した。

コナラ属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科（写真 2 1a-1c (No.47)）

年輪の始めに大型の道管が配列し、晩材部は薄壁で孔口は角形の小型管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、道管の穿孔は単一で、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと集合放射組織がある。

コナラ属コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は乾燥すると割れや狂いが出やすいが硬く丈夫である。

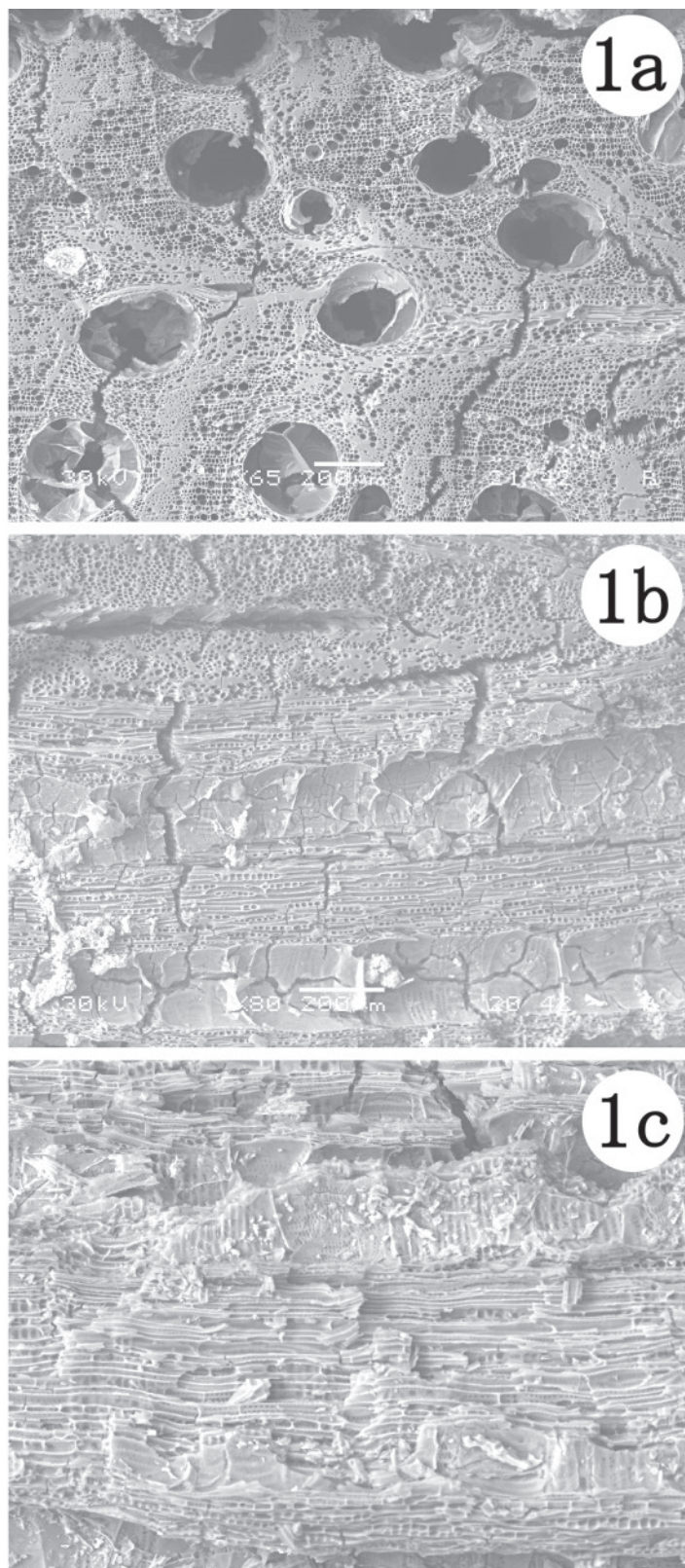


写真2 第3008号住居跡№.47炭化材の電子顕微鏡写真

1 a コナラ節 (横断面), 1 b 同 (接線断面), 1 c 同 (放射断面)

付 章 3

島名熊の山遺跡出土の動物遺存体について

西本 豊弘

1 はじめに

島名熊の山遺跡の中世・近世の土坑と溝跡から、人骨と馬骨が出土した。それらについての観察所見を述べる。

2 第5856号土坑出土の人骨

第5856号土坑からヒトの下顎骨1点と右側上腕骨1点が出土した。下顎骨には、本来左右の第1・第2切歯・犬歯・第2小白歯が食率していたとみられ、それらの歯槽部の窪みが認められた。歯そのものは失われていた。左右の第1・2・3大臼歯歯生前に歯周症により失われたと思われる、それらの歯槽部は骨により充填されていた。下顎骨体は大きい骨の緻密質は薄く栄養不良であったと思われる。歯が前歯のみであり、十分なたんぱく質が摂取できなかったのであろう。これらの所見から老齢個体と推測される。上腕骨は、骨幹部のみであり細く華奢である。このことからおそらく女性であろう。以上の所見から、この墓には老年女性が埋葬されていたと推測される。

表3 島名熊の山遺跡出土の人骨観察表

遺構名	遺物番号	部 位	L R	残存部位	年 齢	備 考
SK5856	4	下顎骨		破片		一部下顎骨に接合
	5	下顎骨	L	歯は脱落	老年	5と6は接合
	6	下顎骨	R	歯は脱落	老年	
		頭蓋骨		破片	老年	
7	上腕骨	R	骨幹部	老年	骨体細く、まっすぐ	

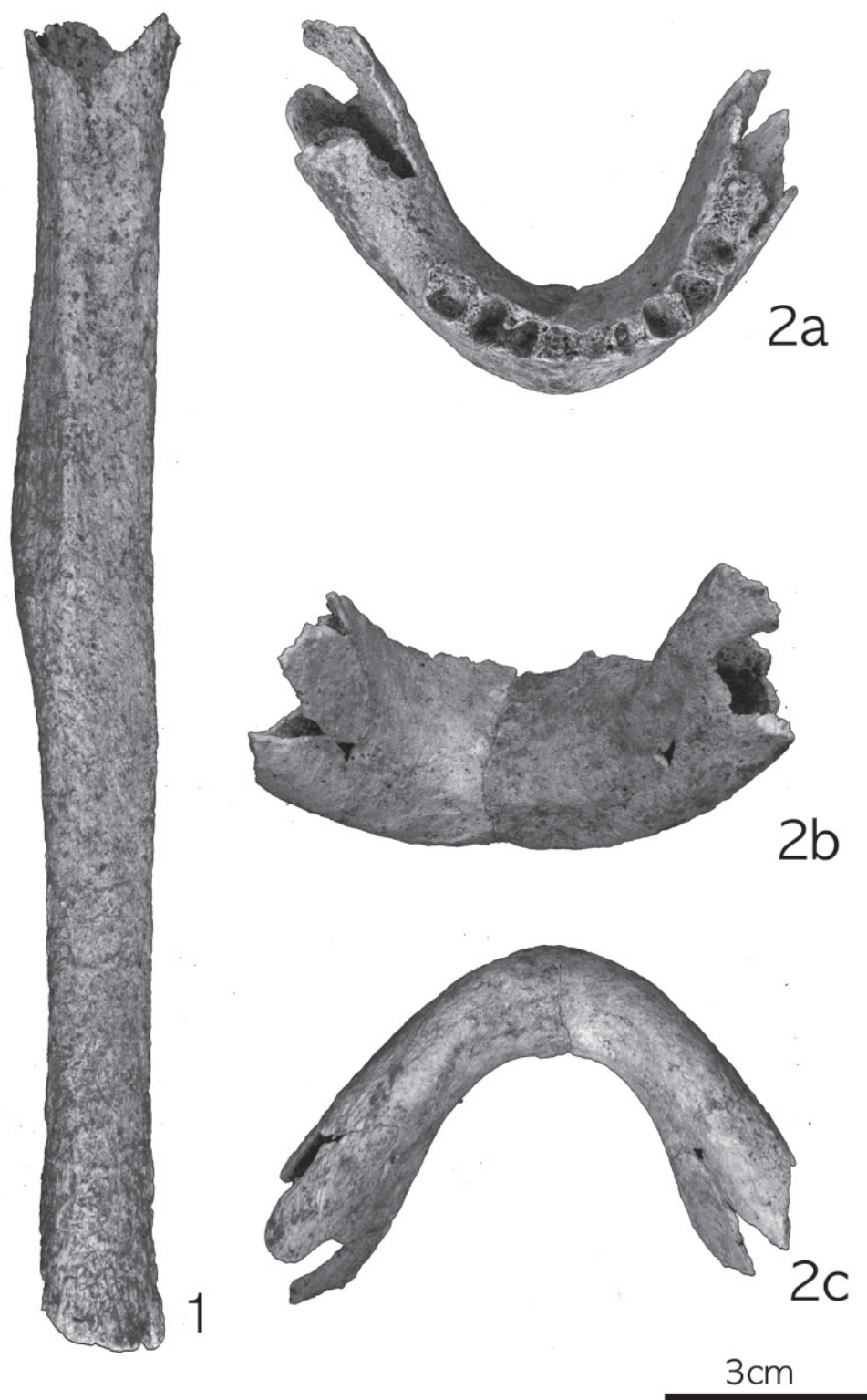


写真3 第5856号土坑出土の人骨（1右側上腕骨，2下顎骨）

3 土坑・溝跡出土のウマについて

鳥名熊の山遺跡のいくつかの遺構からウマの骨が出土した。それらの内容は表に示した通りである。第408号溝跡出土のウマは右側下顎歯のみであり、かなり摩耗が進んでいることから10歳以上であろう。第5618号土坑出土のウマは頭部のみである。犬歯をもつことから雄獣であり、歯根部の長さ（表では高さとして記載）から推測すると7歳～8歳程度である。歯の大きさは特に大きくもなく、体高125cm程度の普通の大きさのウマであろう。第5656号土坑出土のウマは左側の中手骨と手根骨、中足骨の破片のみである。成獣であり、体高100cm余りの小型のウマであろう。

表4 鳥名熊の山遺跡出土のウマの骨観察表

遺構名	遺物番号	部位	L R	残存部位	年齢	備考
SD 408	12	下顎歯	R	P 3 4 M 1 2 3	壮～老	
SK 5618	1	上顎歯	R	M 1	成獣	
	2	上顎歯	R	M 1 破片		No. 1に接合
	3	下顎歯	R	M 3		No. 11に接合
	4	上顎歯	R	M 3 破片		No. 6に接合
	5	上顎歯	R	M 2		
	6	上顎歯	R	M 3		
	7	上顎歯	R	P 4		
	8	上顎歯	R	P 3		
	9	上顎歯	R	P 2		
	10	不明		破片		側頭部岩様部カ
	11	頭蓋骨 (上顎骨)	L R	I 1 2 3 C P 2 3 4 M 1 2 3 I 1 2 3 C		
	12	下顎骨	R	I 1 2 3 C P 2 3 4 M 1 2		
SK 5656	7	中足骨		骨幹部	成獣	
	8	橈側手根骨	L	一部破損	成獣	
		手根骨?		破片	成獣	
9	中手骨	L	遠位端破損	成獣	第2中手骨癒着, 第4中手骨一部あり	

※ I : 切歯 C : 犬歯 P : 前臼歯 M : 後臼歯

表5 ウマの歯の計測値

遺構名	歯種	遺物番号	長さ	中央部	前幅	後幅	高さ
S D 408	右下顎歯 P 3	12	-			13.8	21.6
	右下顎歯 P 4	12	24.1		15.2	14.6	29.1
	右下顎歯 M 1	12	22.3		14.0	13.1	28.0 ±
	右下顎歯 M 2	12	23.2		12.6	12.1	38.0 ±
S K 5618	右上顎歯 P 2	9	35.9	22.3			36.9
	右上顎歯 P 3	8	26.4	25.5			40.3
	右上顎歯 P 4	7	26.3	25.4			45.8
	右上顎歯 M 1	1	23.0	24.8			41.1
	右上顎歯 M 2	5	23.7	24.0			47.9
	右上顎歯 M 3	6		21.0			50.5
	右下顎歯 P 2	12	32.4		14.1		-
	右下顎歯 P 3	12	26.4		15.7	15.0	-
	右下顎歯 P 4	12	26.2		15.6	14.7	-
	右下顎歯 M 1	12	24.0		12.5		-
	右下顎歯 M 2	12	24.1		12.6	13.0	51.4
	右下顎歯 M 3	3	29.5		13.0		60.1

※ I：切歯 C：犬歯 P：前臼歯 M：後臼歯

※ 高さは歯の咬合面から歯根基部までの長さ

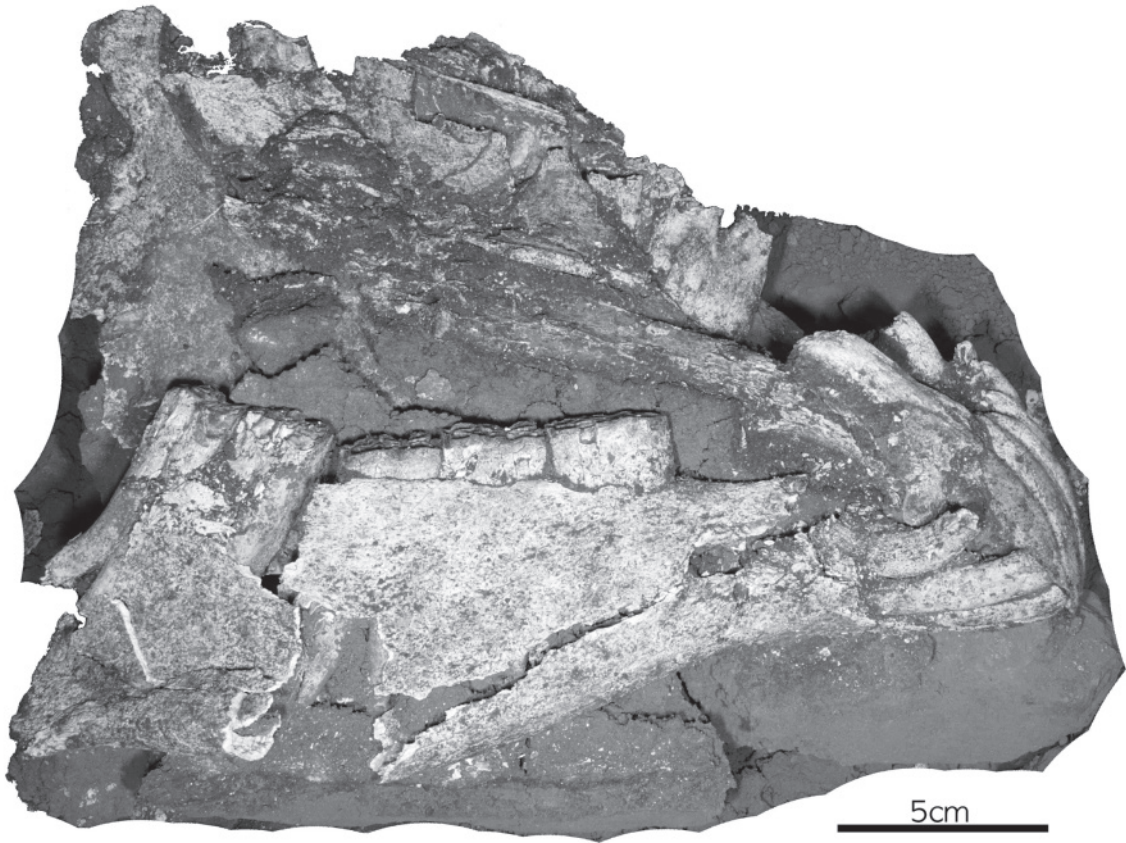


写真4 第5618号土坑出土のウマ頭部（上が頭蓋骨，下が下顎骨，右側が前方）

写 真 图 版



第2572号住居跡出土土製品



12区全景 (北西から)



12区 完掘状況 (南西から)

PL2



第57～59号杭列跡
完掘狀況



第6494号土坑
遺物出土狀況
(杭)



第6524号土坑
遺物出土狀況



15区中央部・東部 完掘状況



15区南部 完掘状況

PL4



15区北部 完掘状況



15区中央部 完掘状況

第2368号住居跡
遺物出土狀況



第2368号住居跡
竈完掘狀況



第2368号住居跡
完掘狀況



PL6



第2470号住居跡
竈完掘状況



第2470号住居跡
完掘状況
(平成16年度調査)



第2470号住居跡
完掘状況
(平成18年度調査)

第2474号住居跡
遺物出土狀況



第2474号住居跡
完掘狀況



第2488号住居跡
遺物出土狀況



PL8



第2488号住居跡
竈完掘状況



第2488号住居跡
完掘状況



第2493号住居跡
完掘状況

第2551号住居跡
竈完掘状況



第2551号住居跡
完掘状況



第2552号住居跡
遺物出土状況



PL10



第2552号住居跡
竈完掘状況



第2552号住居跡
完掘状況



第2555号住居跡
竈完掘状況

第2555号住居跡
完掘狀況



第2862号住居跡
遺物出土狀況



第2862号住居跡
遺物出土狀況



PL12



第2862号住居跡
完掘状況



第2863号住居跡
遺物出土状況



第2863号住居跡
完掘状況

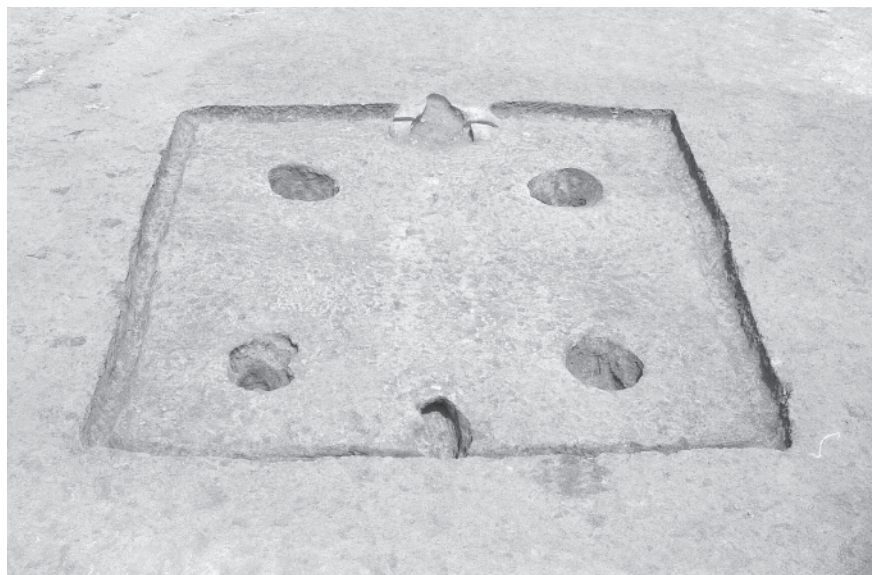
第2864号住居跡
完掘狀況



第2867号住居跡
遺物出土狀況



第2867号住居跡
完掘狀況



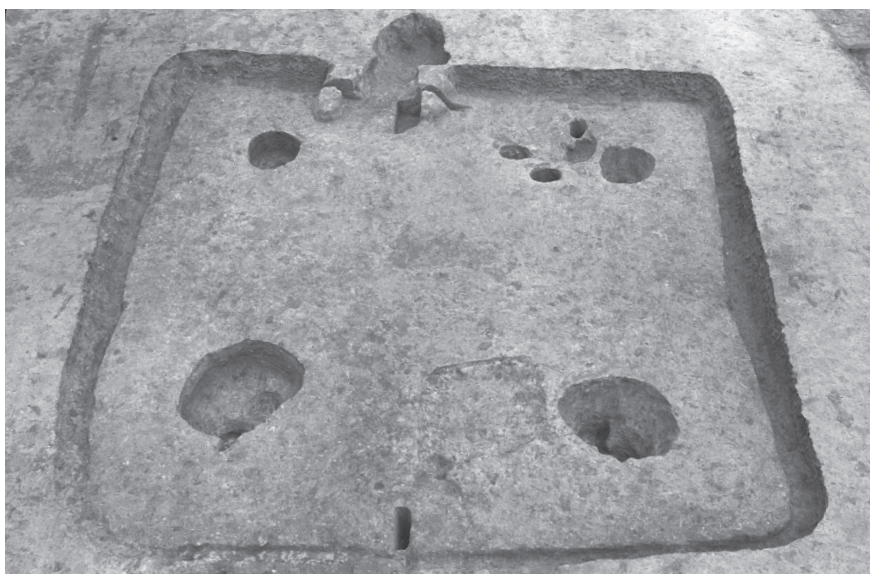
PL14



第2873号住居跡
遺物出土状況



第2873号住居跡
遺物出土状況



第2873号住居跡
完掘状況

第2973号住居跡
完掘狀況



第2975号住居跡
遺物出土狀況



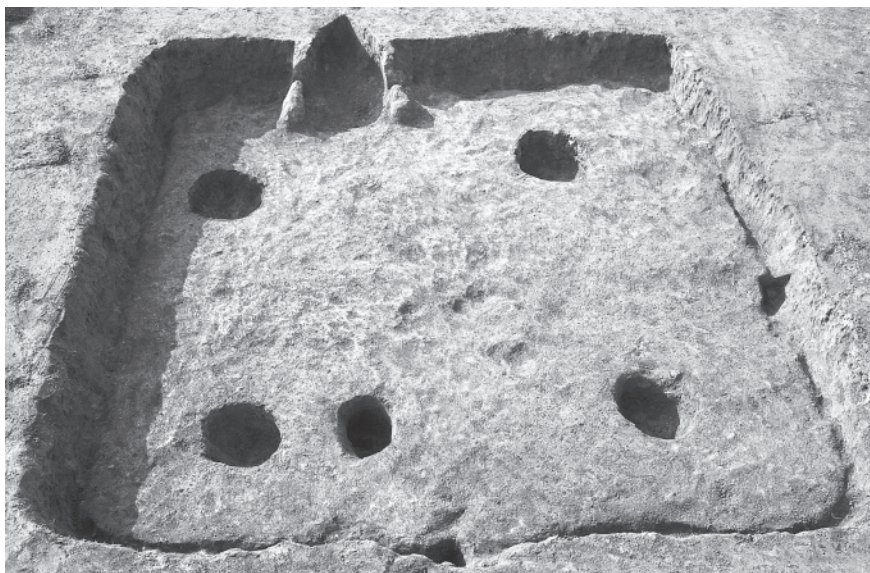
第2975号住居跡
竈遺物出土狀況



PL16



第2975号住居跡
完掘状況



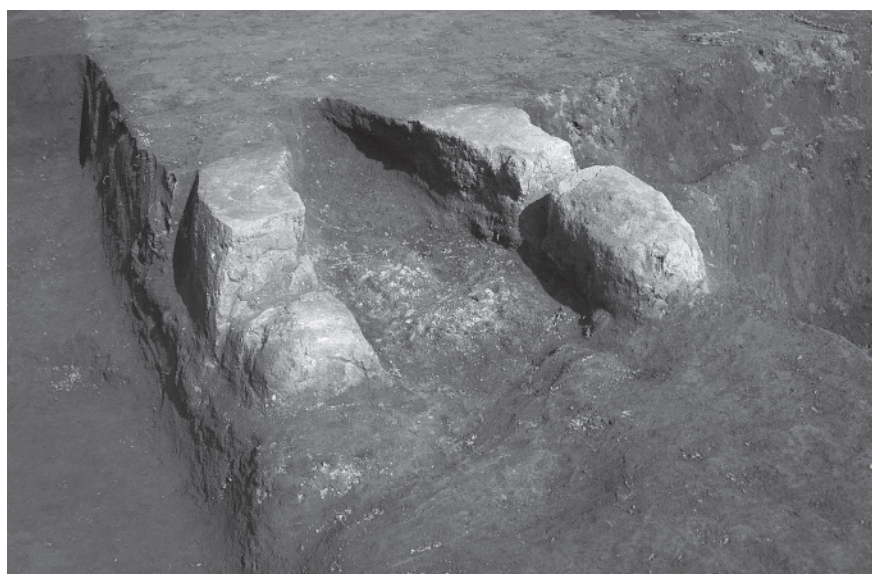
第2976 A号住居跡
完掘状況



第2977号住居跡
完掘状況



第2978号住居跡
遺物出土狀況



第2978号住居跡
竈完掘狀況



第2978号住居跡
完掘狀況



第2979号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第2979号住居跡
完掘状況



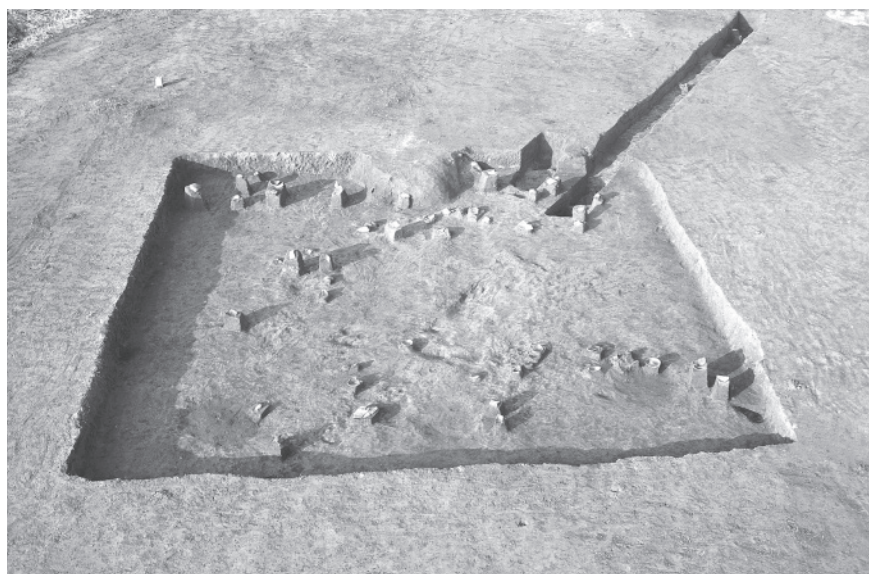
第2980号住居跡
竈遺物出土状況



第2980号住居跡
完掘状況



第2981号住居跡
完掘状況



第2982号住居跡
遺物出土状況

PL20



第2982号住居跡
遺物出土状況



第2982号住居跡
完掘状況

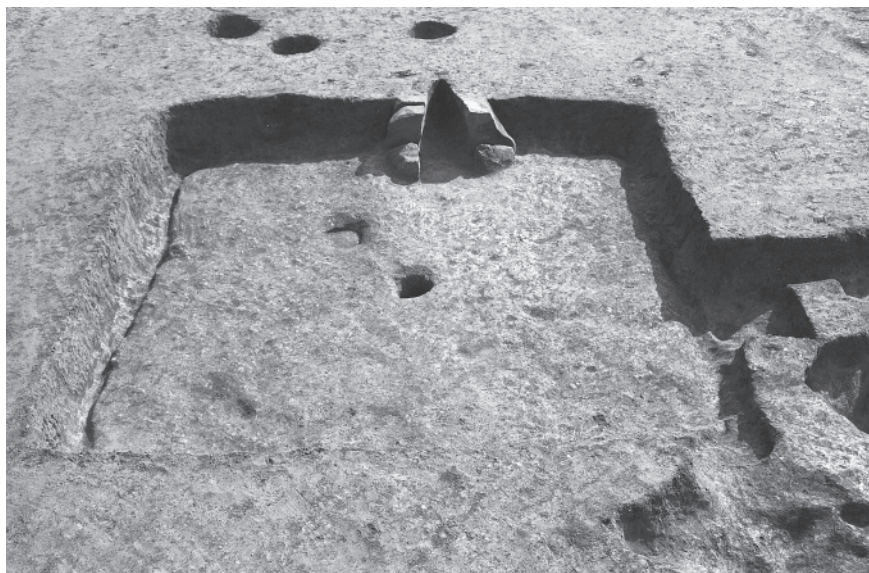


第2983号住居跡
竈遺物出土状況

第2983号住居跡
完掘狀況



第2984号住居跡
完掘狀況



第2986号住居跡
遺物出土狀況



PL22



第2986号住居跡
竈遺物出土状況



第2986号住居跡
完掘状況



第2989号住居跡
竈完掘状況



第2989号住居跡
完掘狀況



第2997号住居跡
遺物出土狀況



第2997号住居跡
完掘狀況

PL24



第3002号住居跡
竈完掘状況



第3002号住居跡
完掘状況

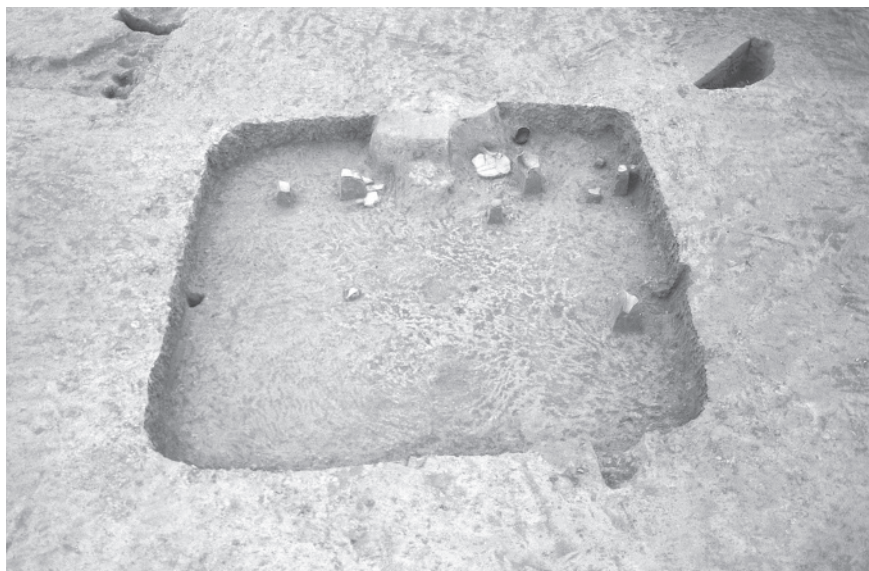


第3003号住居跡
遺物出土状況

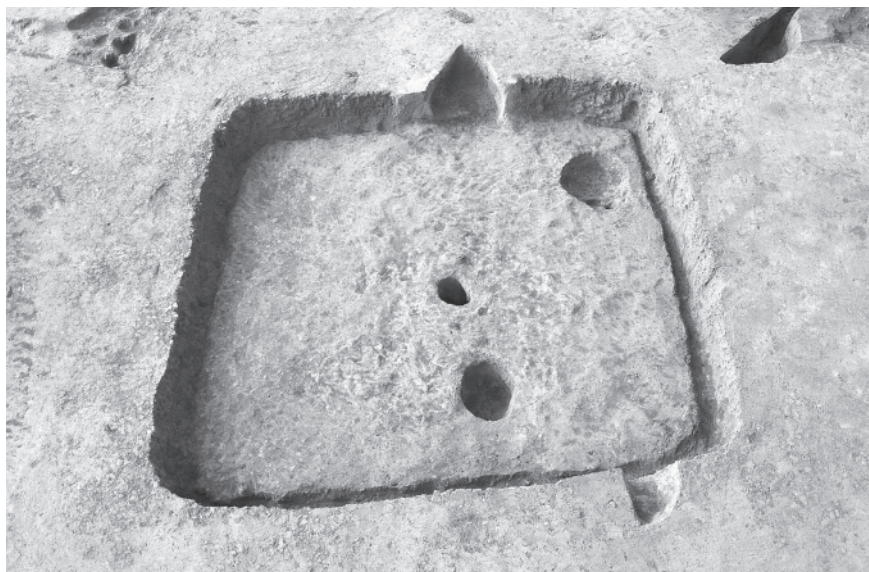
第3004号住居跡
掘方完掘狀況



第3006号住居跡
遺物出土狀況



第3006号住居跡
完掘狀況



PL26



第3007号住居跡
遺物出土状況



第3007号住居跡
完掘状況



第3008号住居跡
完掘状況

第3009号住居跡
遺物出土状況



第3009号住居跡
遺物出土状況



第3009号住居跡
完掘状況





第3010号住居跡
竈完掘状況



第3010号住居跡
完掘状況



第3011号住居跡
遺物出土状況

第3011号住居跡
竈完掘状況



第3011号住居跡
完掘状況



第3012号住居跡
完掘状況



PL30



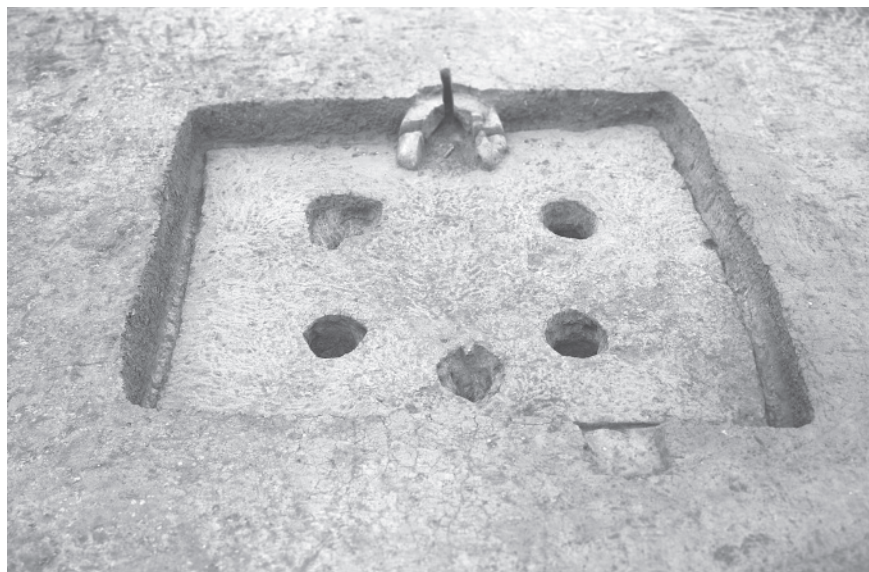
第3013号住居跡
遺物出土状況



第3013号住居跡
遺物出土状況



第3013号住居跡
竈遺物出土状況



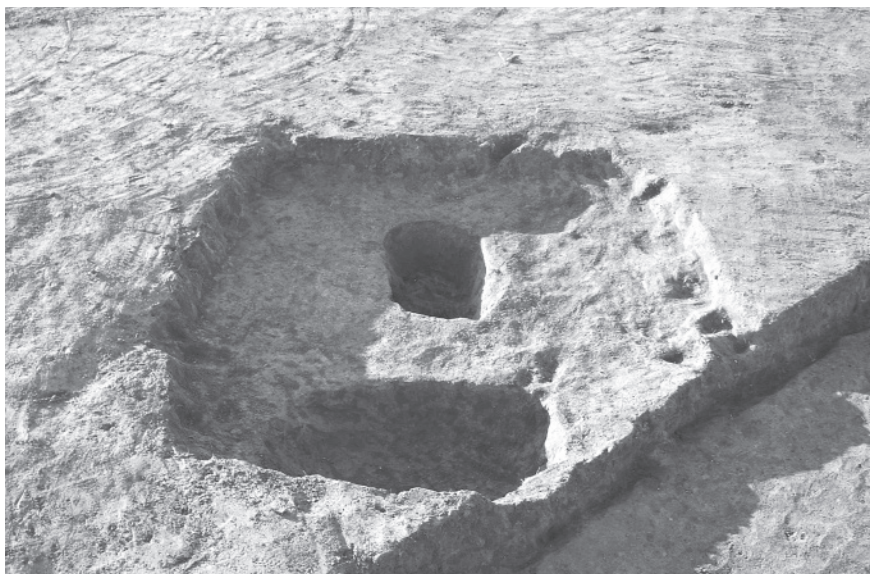
第3013号住居跡
完掘狀況



第3014号住居跡
遺物出土狀況



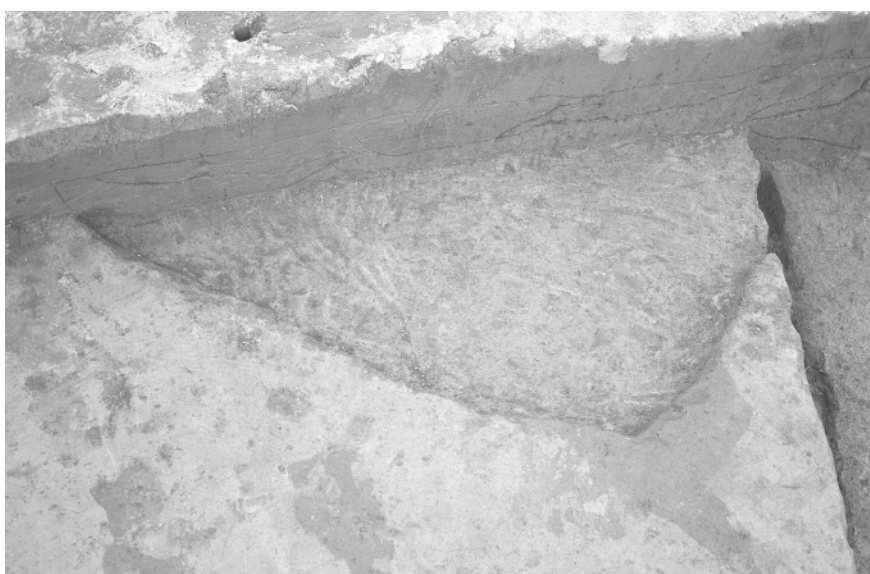
第3014号住居跡
完掘狀況



第 1 号 豎 穴 遺 構
完 掘 状 況

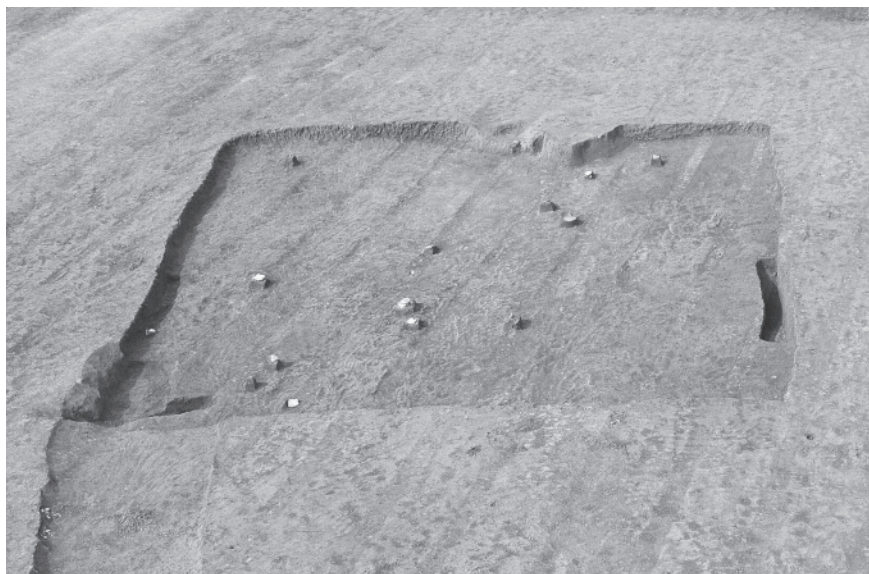


第 2 号 豎 穴 遺 構
掘 方 完 掘 状 況



第 4 号 豎 穴 遺 構
完 掘 状 況

第2868号住居跡
遺物出土狀況



第2868号住居跡
完掘狀況



第2869号住居跡
完掘狀況



PL34



第2869号住居跡
掘方完掘状況



第2974号住居跡
遺物出土状況



第2974号住居跡
完掘状況

第3016号住居跡
完掘狀況



第3019号住居跡
遺物出土狀況



第3019号住居跡
完掘狀況



PL36



第2554号住居跡
竈遺物出土状況

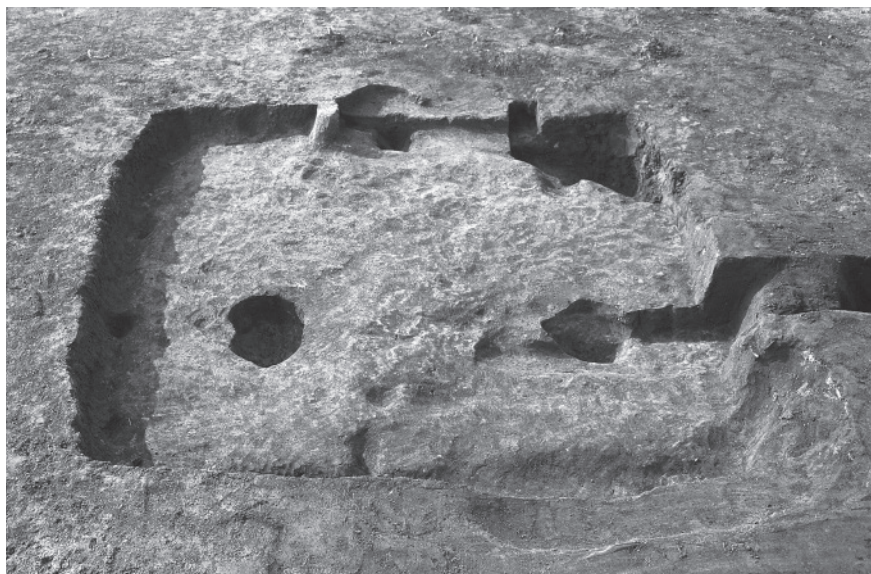


第2554号住居跡
完掘状況

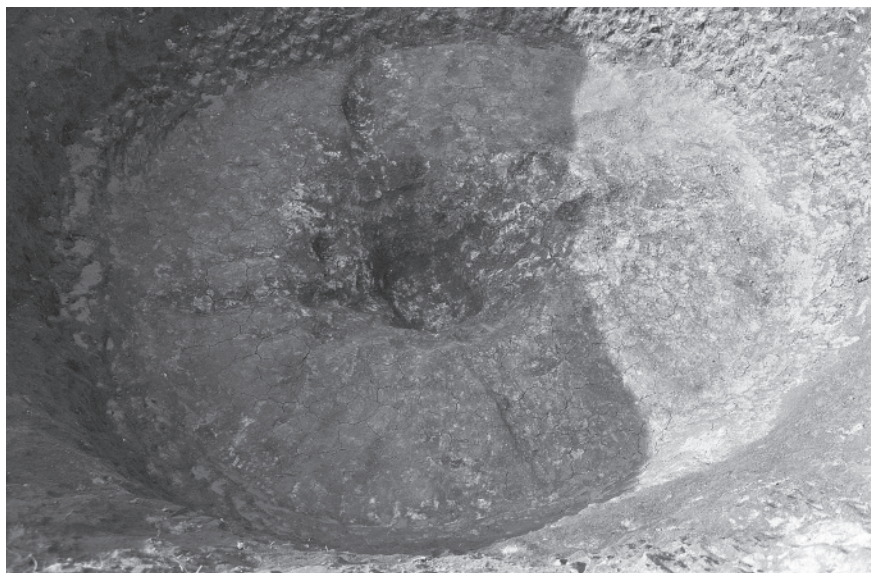


第2990号住居跡
遺物出土状況

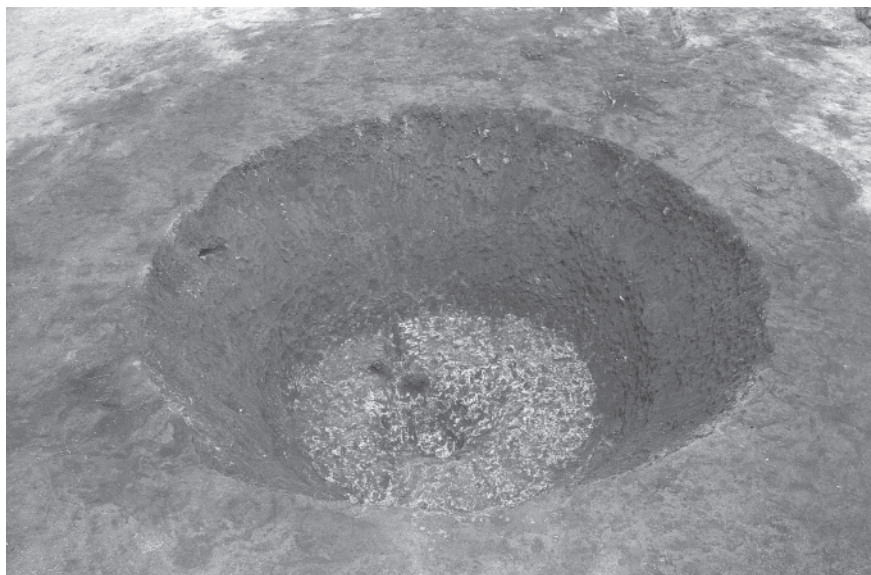
第2990号住居跡
完掘状況



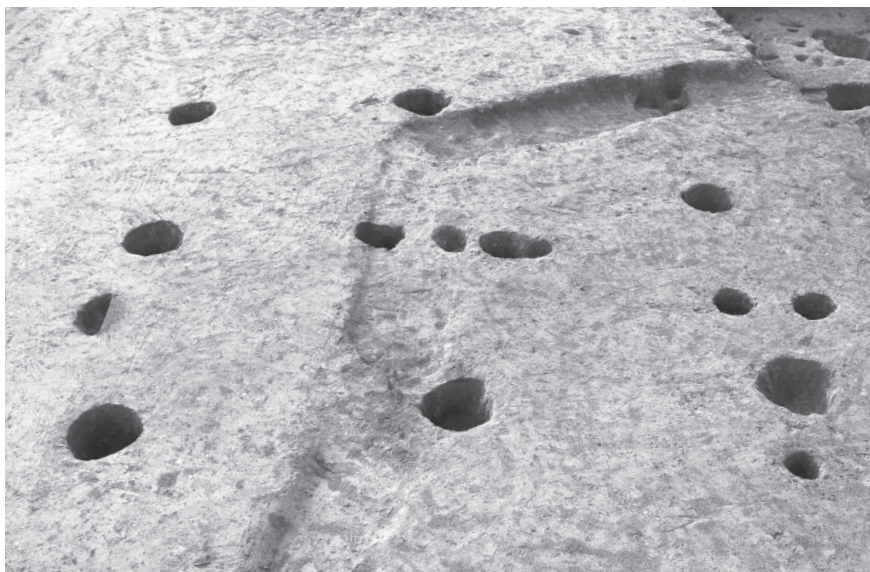
第3074号土坑
完掘状況



第3074号土坑
完掘状況



PL38



第527号掘立柱建物跡
完掘状況



第74号地下式坑
完掘状況



第75号地下式坑
完掘状況

第77号地下式坑
完掘状况



第78号地下式坑
完掘状况



第148号井戸跡
完掘状况



PL40



第150号井戸跡
完掘状況



第170号井戸跡
完掘状況



第171号井戸跡
完掘状況

第 267 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 402 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



第 404 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



PL42



第 5618 号 土 坑
馬 骨 出 土 状 况



第3270号土坑(墓坑)
人 骨 出 土 状 况



第3277号土坑(墓坑)
人 骨 出 土 状 况

第3658号土坑(墓坑)
第 3278 号 土 坑
完 掘 状 况



第 3 号 杭 列 群
完 掘 状 况



PL44



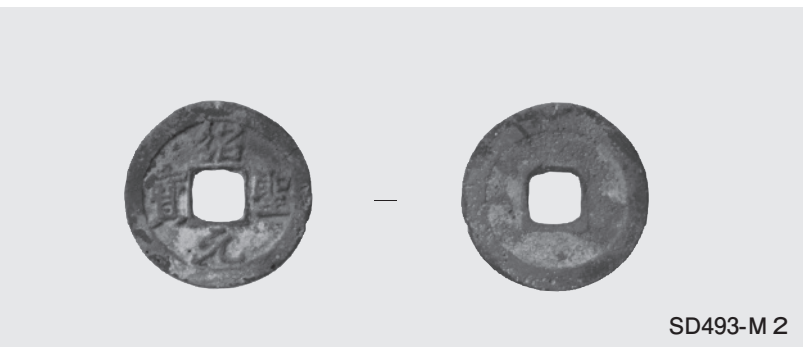
第519号掘立柱建物跡
完掘状況



第377・386号溝跡
完掘状況



第378・379号溝跡
完掘状況



12区出土土器，石器（砥石），金属製品（煙管），錢貨，木製品（杭）

PL46



12区遺構外出土土器，木製品（杭，漆器片）



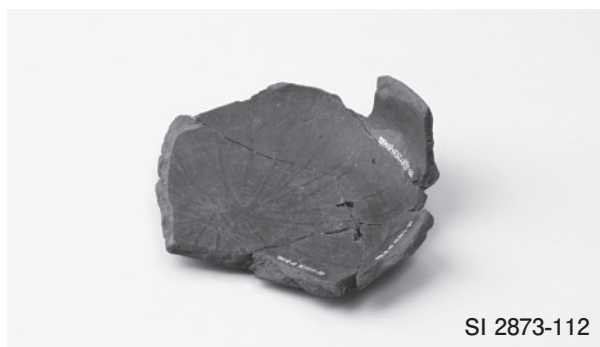
第2368号住居跡出土土器





PL50





PL52



第2863・2867・2873・2975・2977・2981号住居跡出土土器



PL54

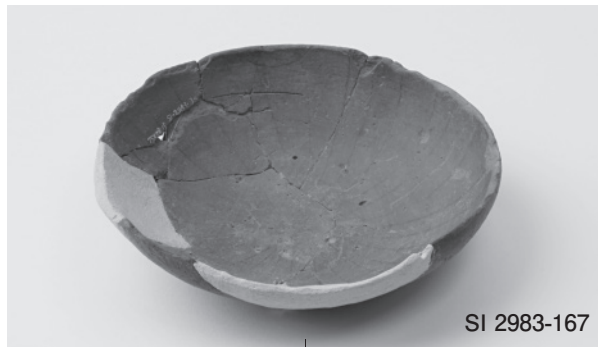


第2975号住居跡出土土器



第2975・2978・2985号住居跡出土土器

PL56



第2982·2983·2985·2986·2987号住居跡出土土器







PL60



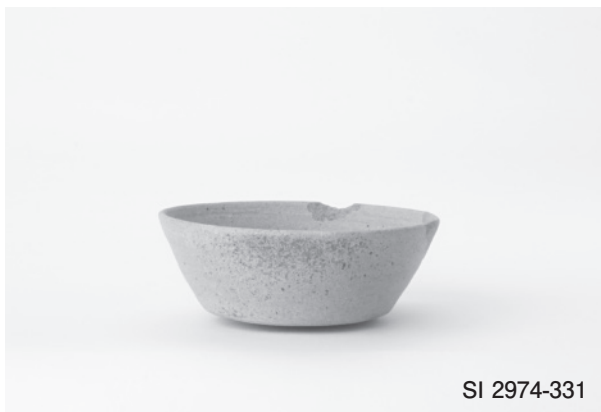
第3011・3013号住居跡出土土器



PL62



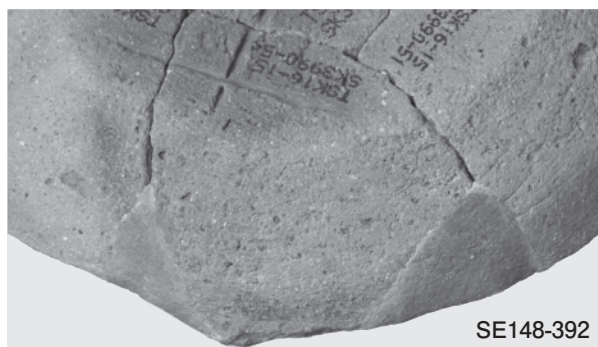
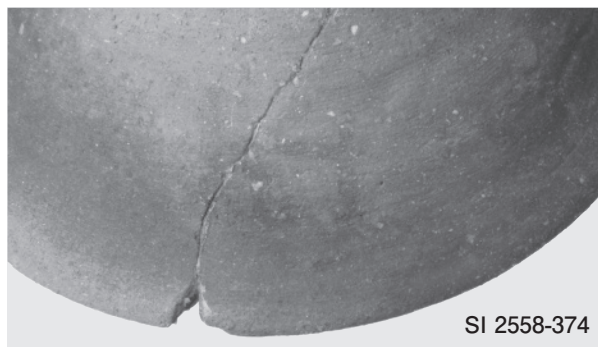
第3012・3013号住居跡，第3号竖穴遺構出土土器



PL64

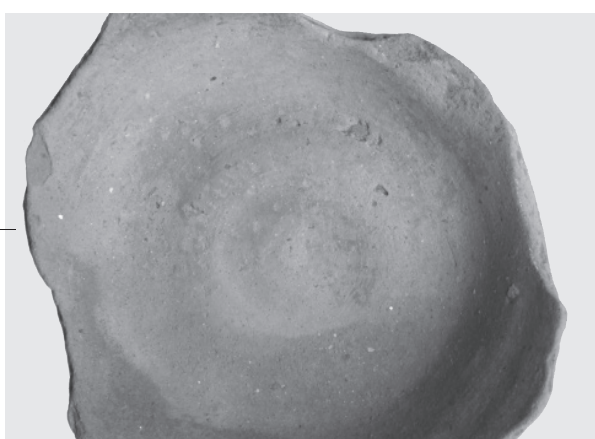
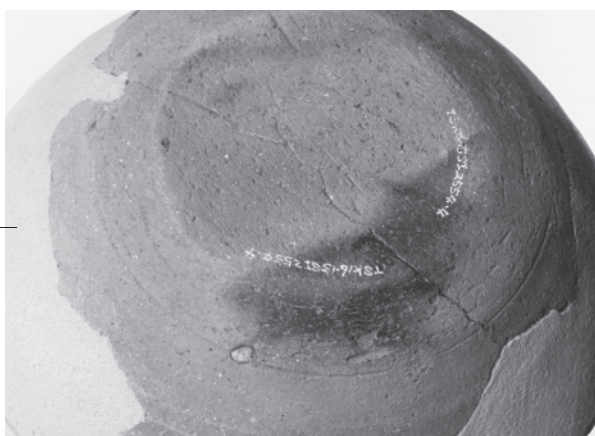


第2554 · 2558 · 2995 · 3005 · 3030号住居跡，第3798号土坑出土土器



第2558号住居跡，第148号井戸跡出土土器，墨書土器

PL66



第2554号住居跡，第148号井戸跡出土墨書土器



第5670号土坑，第278·399·403·405号沟迹出土土器

PL68



第3078·5687号土坑，第218·277·402·403·405·408号沟迹出土土器

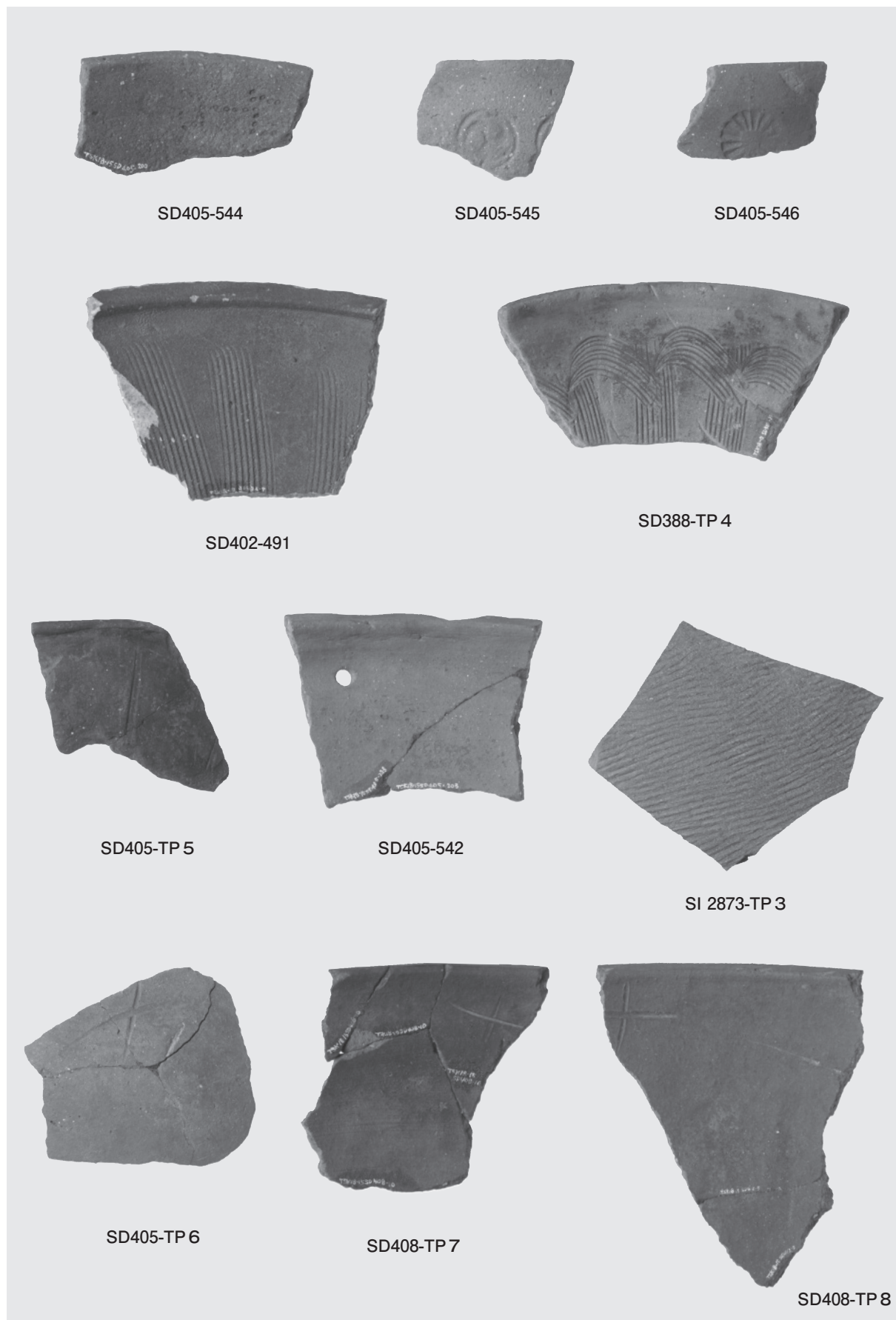


PL70



第403~405号溝跡出土土器





第2873号住居跡，第388・402・405・408号溝跡出土土器



SI 2572-DP 5



SI 2572-DP 6



SI 2572-DP 7



SI 2572-DP 8



SI 2572-DP 9



SI 2572-DP 10



SI 2572-DP 11



SI 2572-DP 12



SI 2572-DP 13



SI 2572-DP 14



SI 3011-DP 54



SI 3012-DP 55



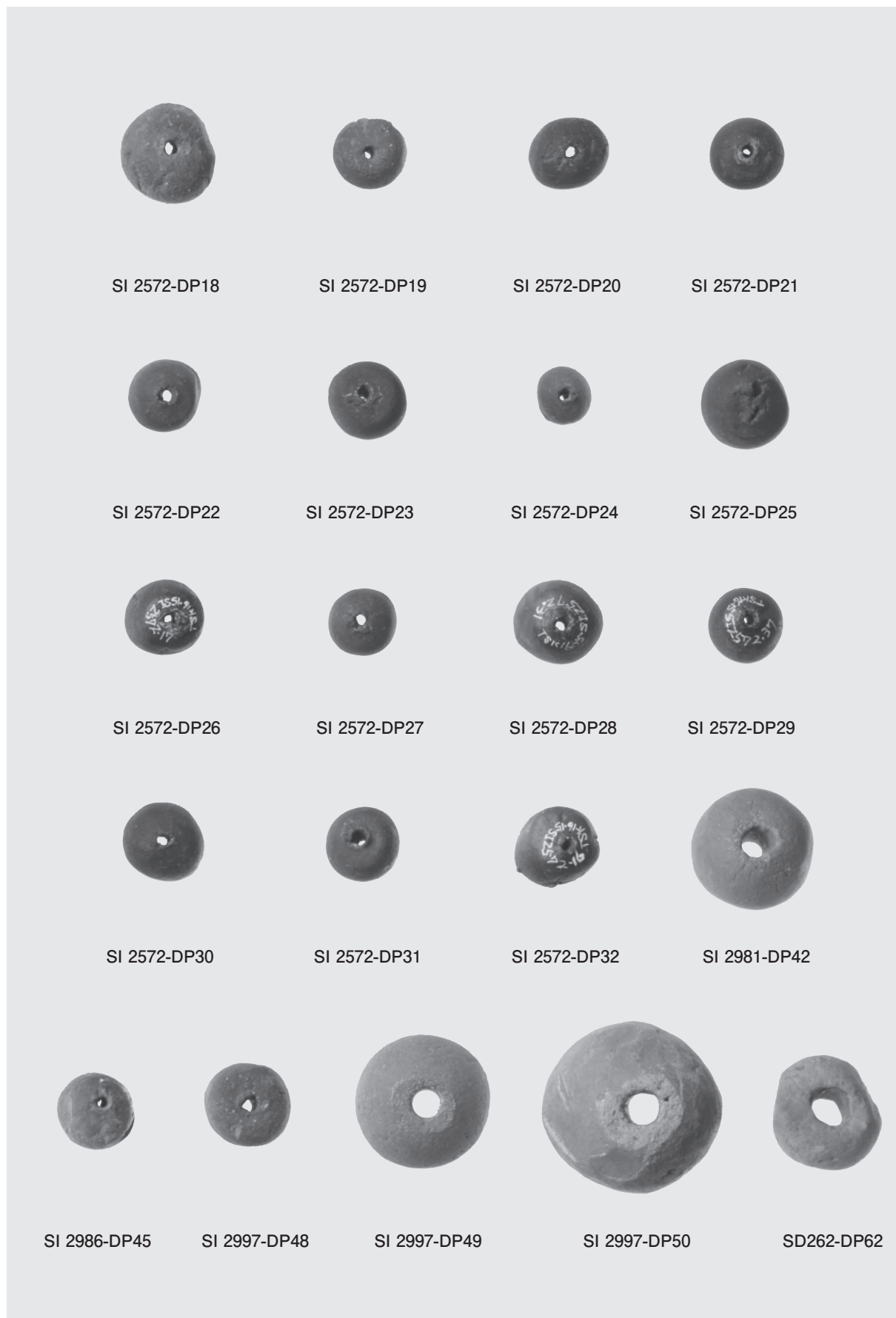
SI 2572-DP 15



SI 2572-DP 16



SI 2572-DP 17





出土土製品（紡錘車，管状土錘，鋤先形土製品，鏡形模造品，支脚）

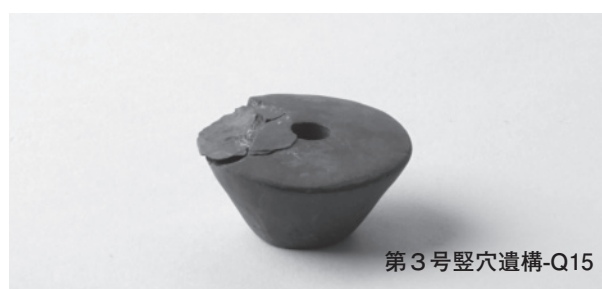
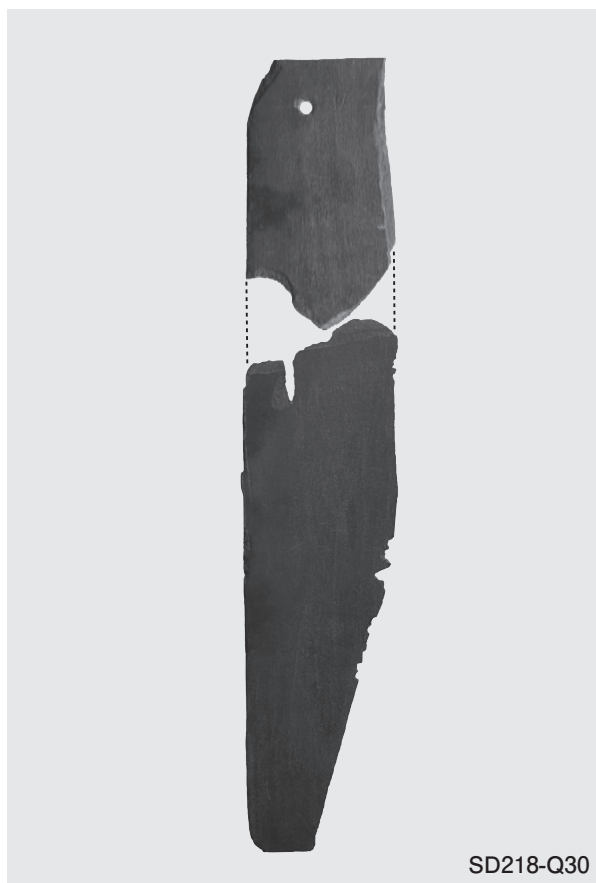
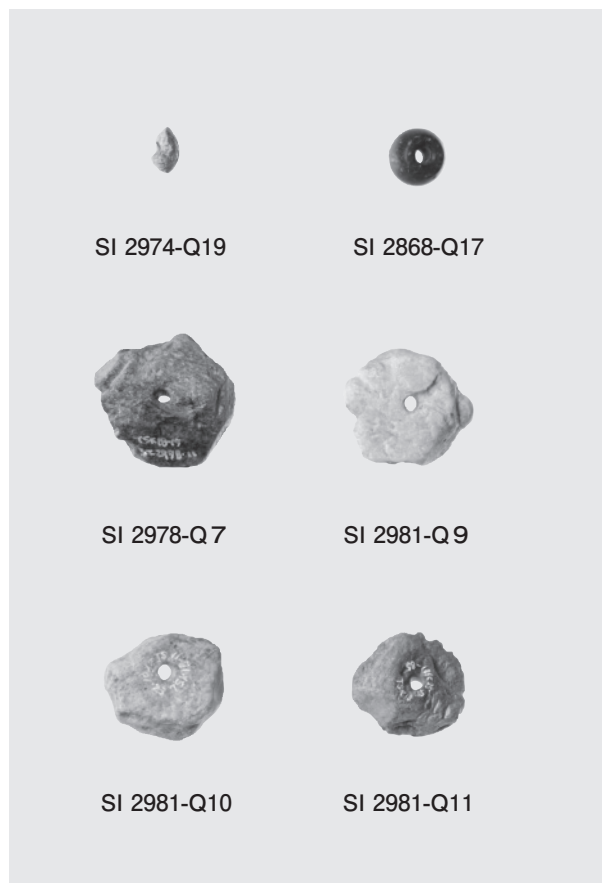
PL76



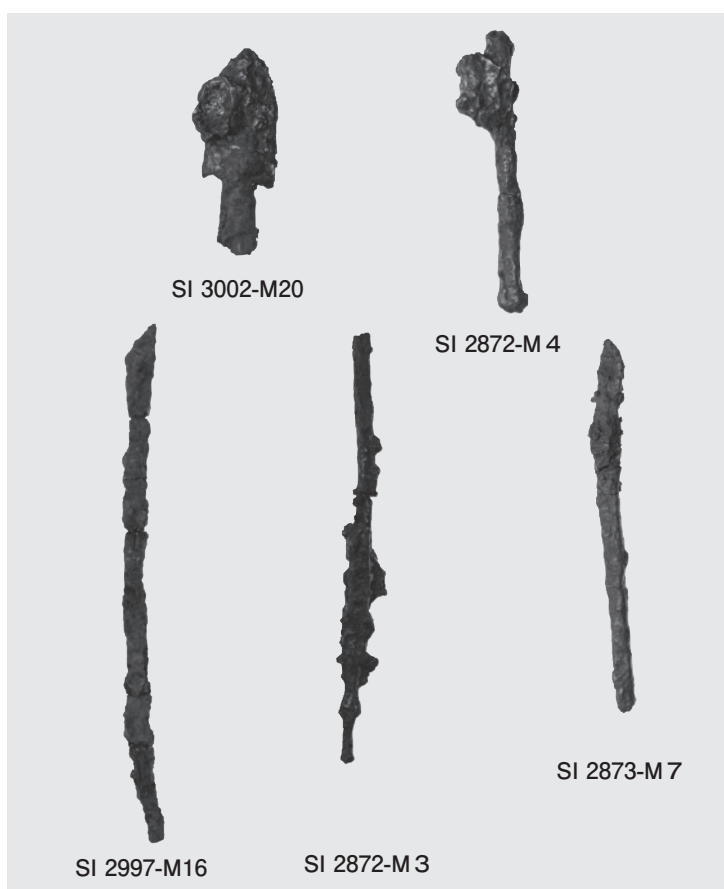
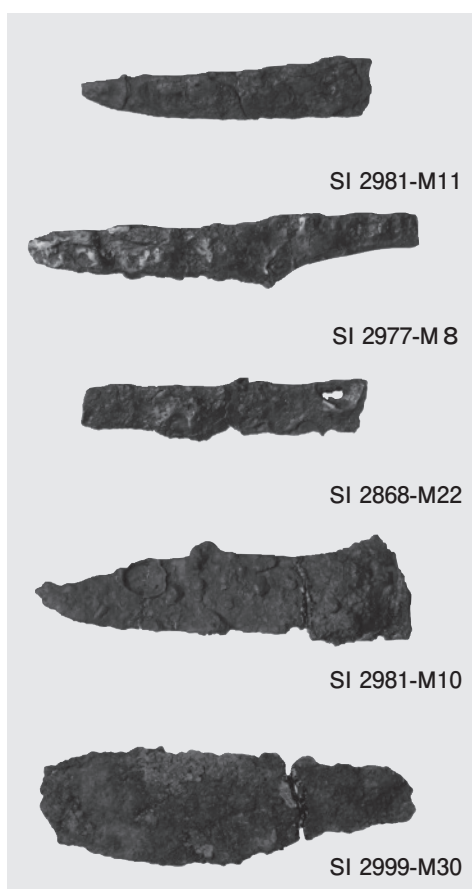
出土石器 (砥石)



出土石器（磨石，石臼），石製品（硯，宝篋印塔）

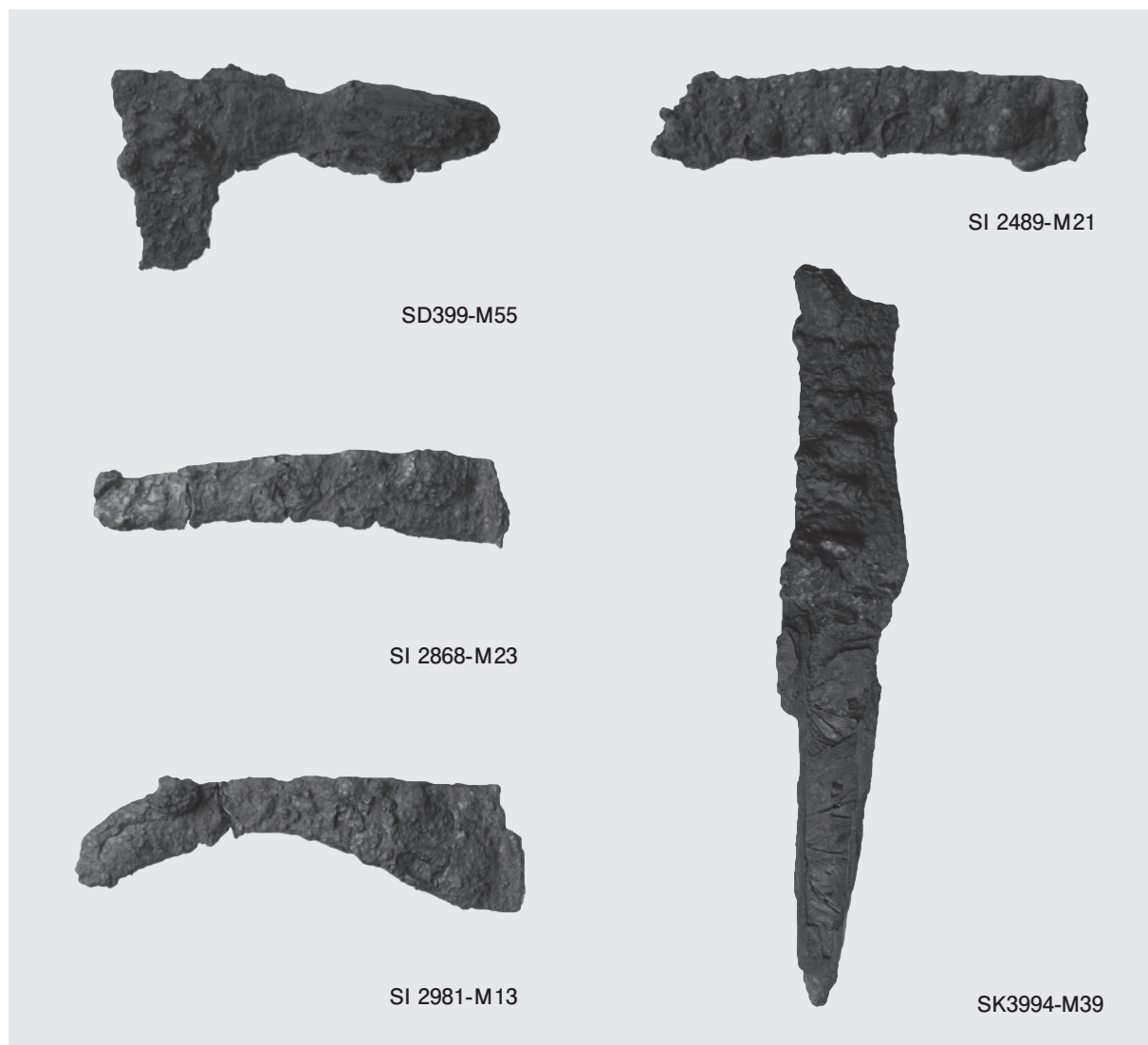


出土石製品（小玉，白玉，石板，砥石，紡錘車，紡錘車未製品）

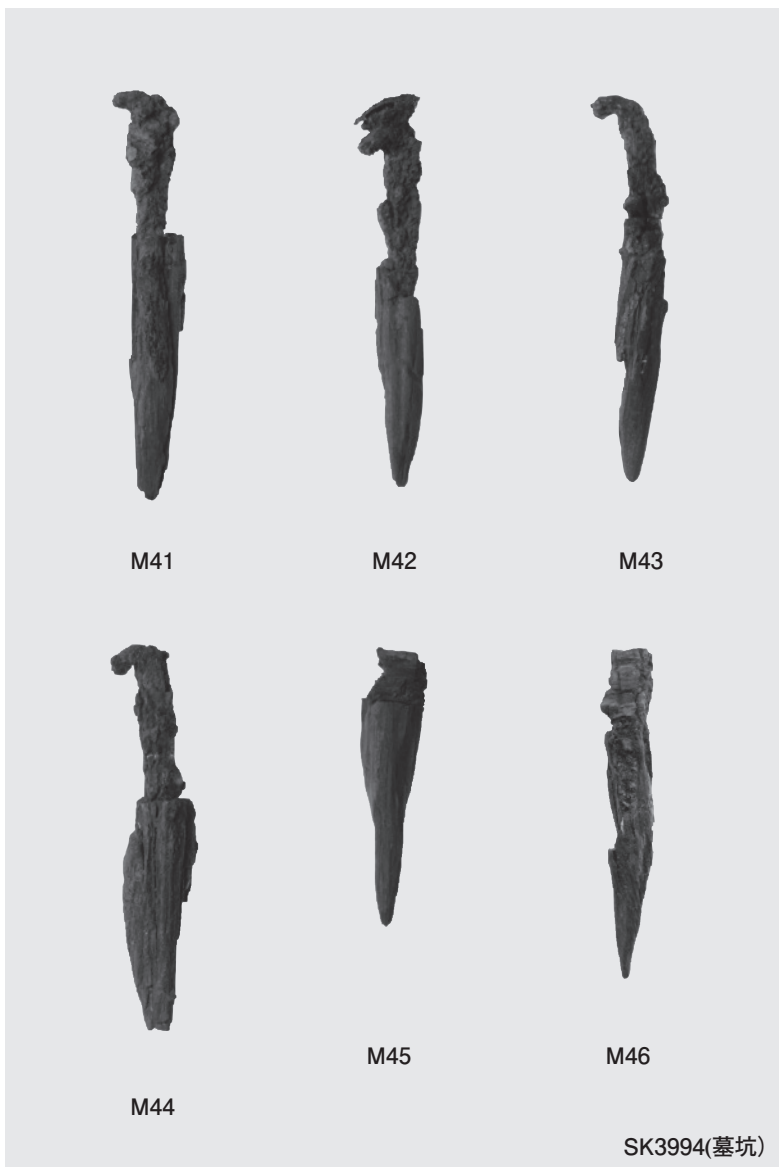


出土金属製品（刀子，鏃）

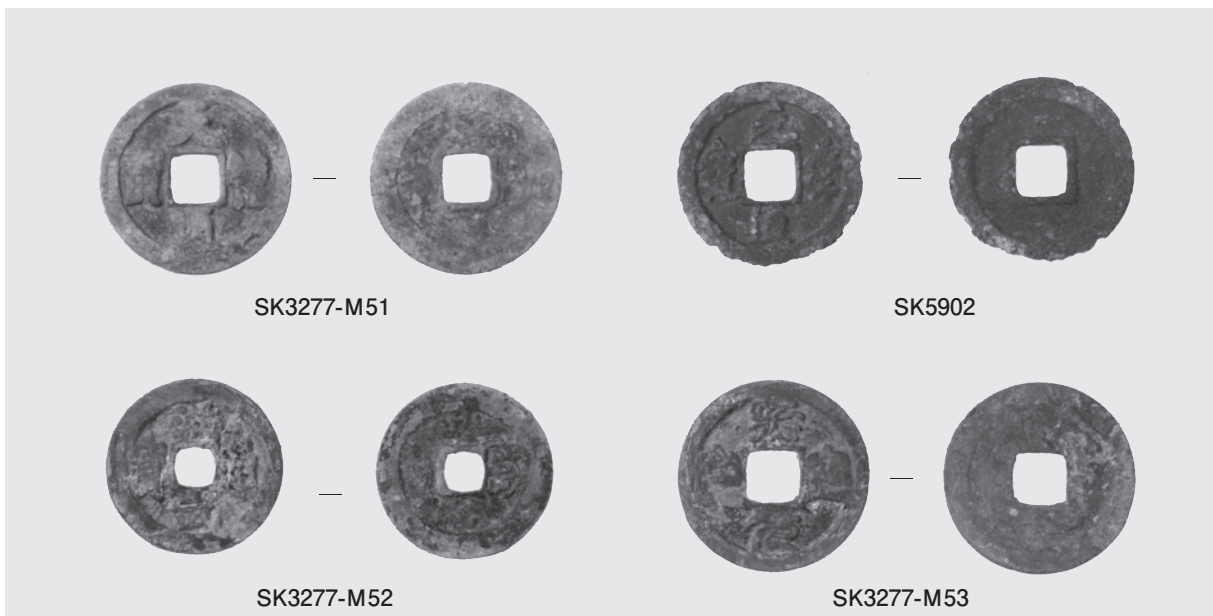
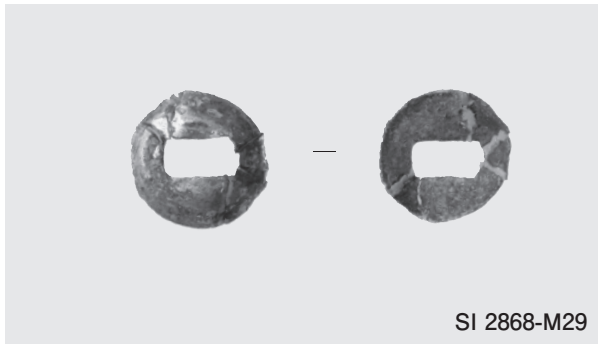
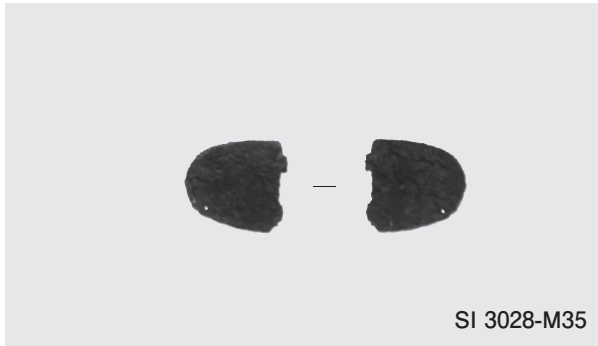
PL80



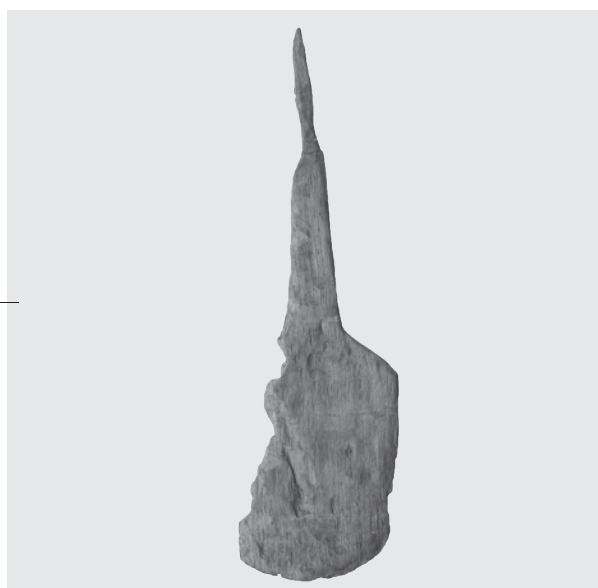
出土金属製品（鎌，包丁，短剣，小札）



出土金属製品（釘，門，鉸具，鍍金具）

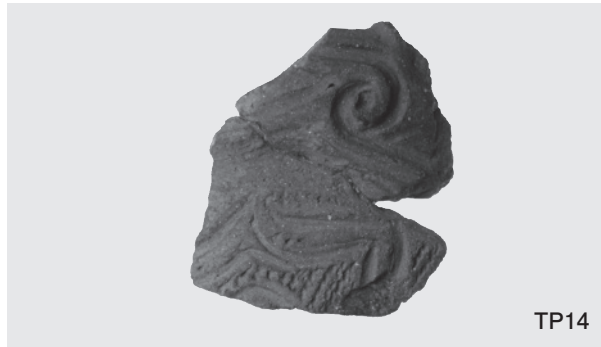


出土金属製品（鉸具，座金具カ，耳環），銭貨，ガラス製品（白玉），15区遺構外出土土器

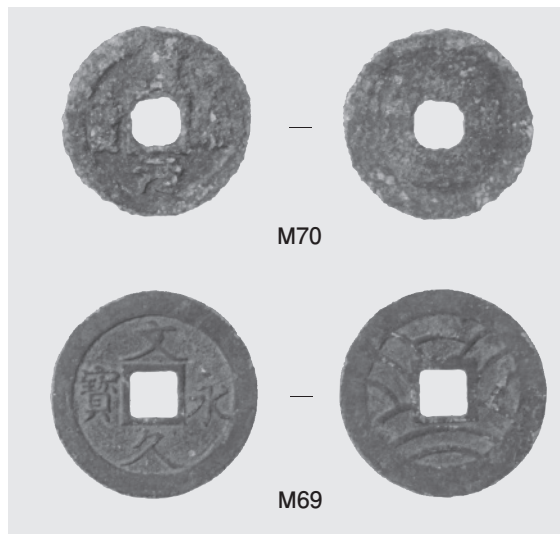
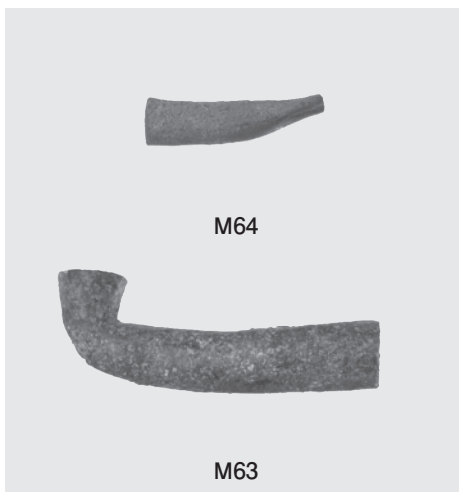
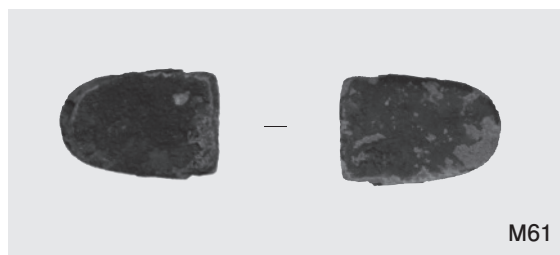
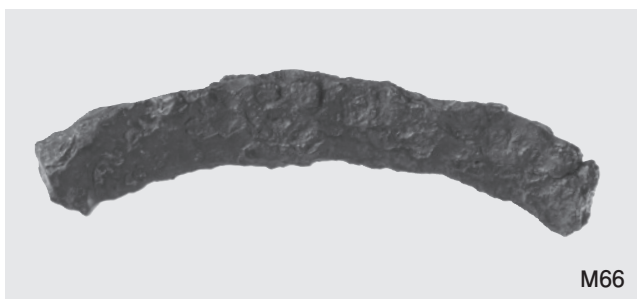
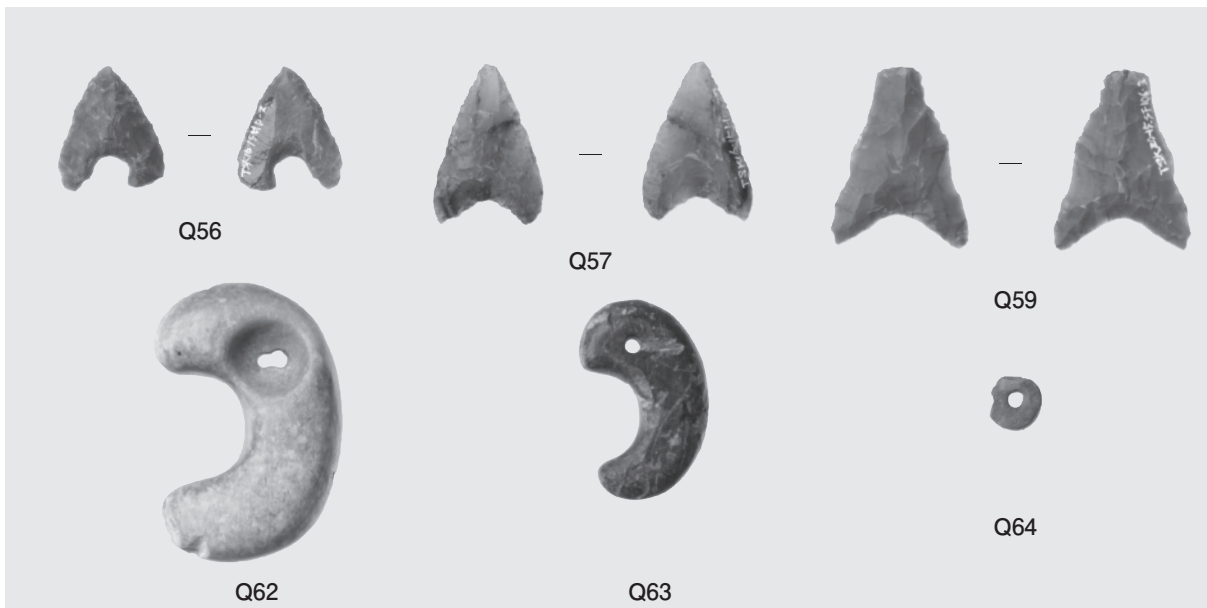


出土木製品（蓋カ、板材、杓子）

PL84



15区遺構外出土土器, 土製品 (土玉)



15区遺構外出土石器（砥石），石製品（勾玉，白玉，石鏃，磨製石斧），金屬製品（煙管，鈍尾，鏃，不明鉄製品），錢貨

PL86



第2557号住居跡，第388・402・405号溝跡，第6524号土坑，15区遺構外出土陶器

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	鳥名熊の山遺跡							
副書名	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第360集							
著者名	仲村浩一郎 坂本勝彦 江原美奈子							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
鳥名熊の山 遺跡 (12区)	茨城県つくば市鳥名字 香取前1899の1番地ほか	08220 214	36度 3分 34秒 (36度 3分 46秒)	140度 3分 40秒 (140度 3分 28秒)	13 ~ 14m	20080901 ~ 20081130	851㎡	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査
鳥名熊の山 遺跡 (15区)	茨城県つくば市鳥名字 中代1190番地ほか	08220 214	36度 3分 46秒 (36度 3分 58秒)	140度 3分 31秒 (140度 3分 19秒)	20 ~ 22m	20040601 ~ 20050331 20060401 ~ 20060630 20070101 ~ 20070331 20070401 ~ 20070930 20080401 ~ 20080731	18,760㎡ 7,517㎡ 1,952㎡ 2,350㎡ 323㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
鳥名熊の山 遺跡 (12区)	集落跡	中世	溝跡 9条		土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢)、陶器(碗・皿・甕)、木製品(杭)、銭貨		杭列跡等の柱材の基部が残存していた。	
	不明		土坑 杭列跡 ピット群 3列 3か所		土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢・火鉢)、陶器(香炉)、木製品(漆器・杭)			
鳥名熊の山 遺跡 (15区)	集落跡	古墳	竪穴住居跡 60軒 竪穴遺構 5基 土坑 3基		土師器、須恵器、土製品(勾玉・土玉・紡錘車・鋤先形土製品・鏡形模造品)、石器・石製品(砥石・勾玉・白玉)、金属製品(刀子・鎌・鎌・釘・小札・鉄滓・耳環)、ガラス製品(白玉)		古墳時代の住居跡群からは提瓶や短頸壺などの須恵器が相当数出土した。	
	奈良		竪穴住居跡 11軒		土師器、須恵器、石器・石製品(砥石・小玉・紡錘車)、金属製品(刀子・鎌・鎌・釘・小札・座金具・鉸具)			
	平安		竪穴住居跡 10軒 井戸跡 1基 墓坑 2基 土坑 5基 溝跡 1条		土師器、須恵器、灰釉陶器(碗・瓶類)土製品(紡錘車)、石器・石製品(砥石・紡錘車)金属製品(短剣・刀子・鎌・鎌・釘・環状金具・門)			
	中世・近世		竪穴遺構 1基 掘立柱建物跡 13棟 井戸跡 31基 地下式坑 5基 火葬土坑 2基 墓坑 7基 土坑 31基 道路跡 2条 溝跡 24条 杭列跡 22列		土師質土器(小皿・香炉・内耳鍋・播鉢・火鉢)、陶器(小杯・天目茶碗・碗・皿・香炉)、磁器(小杯)、石器・石製品(砥石・五輪塔・石臼・茶臼・宝篋印塔・石板・硯)、木製品(杓子・杭)鉄製品(刀子)、銭貨			
	不明		竪穴住居跡 2軒 掘立柱建物跡 8棟 土坑 625基 溝跡 34条 ピット群 14か所		土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢)、陶器(碗・皿)、磁器(碗)、鉄製品(鍔金具)			
要約	過去の調査結果を含めると、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡約2385軒、掘立柱建物跡約378棟が確認されている県内最大級の集落跡である。今年度報告の調査区は、台地の北西部と南部縁辺部で、古墳時代から平安時代の集落跡のほか、中世から近世にかけての掘立柱建物跡や区画溝が確認されている。							

印刷仕様

編集 OS Microsoft Windows 7
Home Premium ServicePack3
編集 Adobe Indesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
図面類 EPSON ES-10000G
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷 印刷所へは、Adobe Indesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第360集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

下巻

平成24（2012）年 3月14日 印刷

平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社 あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505